

一般国道
3号 筑紫野バイパス関係埋蔵文化財調査報告 第4集

以来尺遺跡 I

中巻

福岡県筑紫野市大字筑紫所在遺跡の調査

1997

福岡県教育委員会

一般国道
3号 筑紫野バイパス関係埋蔵文化財調査報告 第4集

以^い来^{らい}尺^{じゃく}遺跡 I

中 卷

福岡県筑紫野市大字筑紫所在遺跡の調査

1997

福岡県教育委員会

(2) 掘立柱建物跡

本遺跡の掘立柱建物跡については、弥生時代から中世に属するものまで様々ある。しかし、弥生時代の竪穴住居跡等に切られている掘立柱建物跡についてはその埋土が暗褐色土でほぼ統一されているのに対し、弥生時代の遺構を切る掘立柱建物跡のいくつかには灰褐色粘質土が埋土となっている。この灰褐色粘質土を埋土とする柱穴からは中近世の遺物が出土した例もあり、したがって、遺物の出土が少量で年代の決定が困難な掘立柱建物跡でも、埋土によってある程度の年代的位置づけが可能であることが調査時点で確認された。(水ノ江)

1号掘立柱建物跡 (図版82 第166図)

1号掘立柱建物跡は丘陵平坦部調査区の中央東端に位置し、この調査区を東西に横断する市道の付替え部分で検出された。18・19号竪穴住居跡の床面下において検出された柱穴も存在することから、少なくともそれらに先行して建てられたものであることだけは間違いない。2号掘立柱建物跡とも先後関係を有するが、2号建物跡も19号住居跡に切られており、どちらが先行するのかわかり不明。梁行4.3cm、桁行2.6cmの1×2間の建物跡で、柱穴の深さはほぼ50cmに統一される。柱痕が確認されたものはなかった。図示できる遺物は2点だけである。

遺物 (第185図1・2) 1は柱3出土の甕の口縁部、2は柱1出土の小型高坏の脚部で外面にハケ目が窺える。(水ノ江)

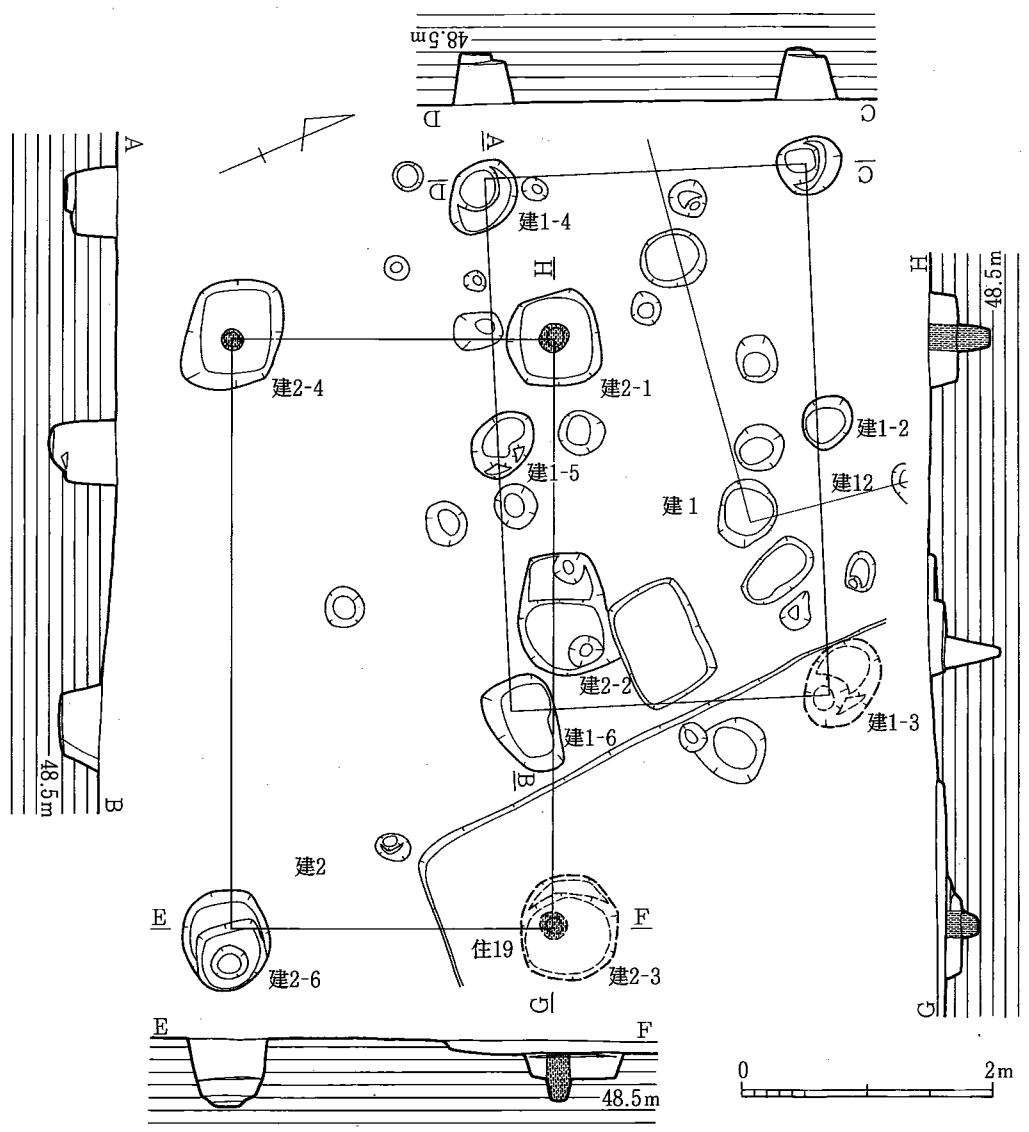
2号掘立柱建物跡 (図版82 第166図)

2号掘立柱建物跡は丘陵平坦部調査区の中央東端に位置し、この調査区を東西に横断する市道の付替え部分で検出された。19号竪穴住居跡の床面下において検出された柱穴も存在することから、少なくともそれらに先行して建てられたものであることだけは間違いない。1号掘立柱建物跡とも先後関係を有するが、1号建物跡も19号住居跡に切られており、どちらが先行するのかわかり不明。梁行5.0cm、桁行2.6cmの建物跡で、当初は1×2間を想定していたが、中央北側の柱穴は他とプランが異なり、またこれに対応する柱穴が南側で確認できなかったことから、かなり横に長い1×1間の建物跡という認識に至った。柱穴の掘形は一辺70~80cmの比較的大きな隅丸方形で、深さはおよそ55cmに統一される。確認された柱痕はいずれも径20cm。図示できる遺物は4点である。

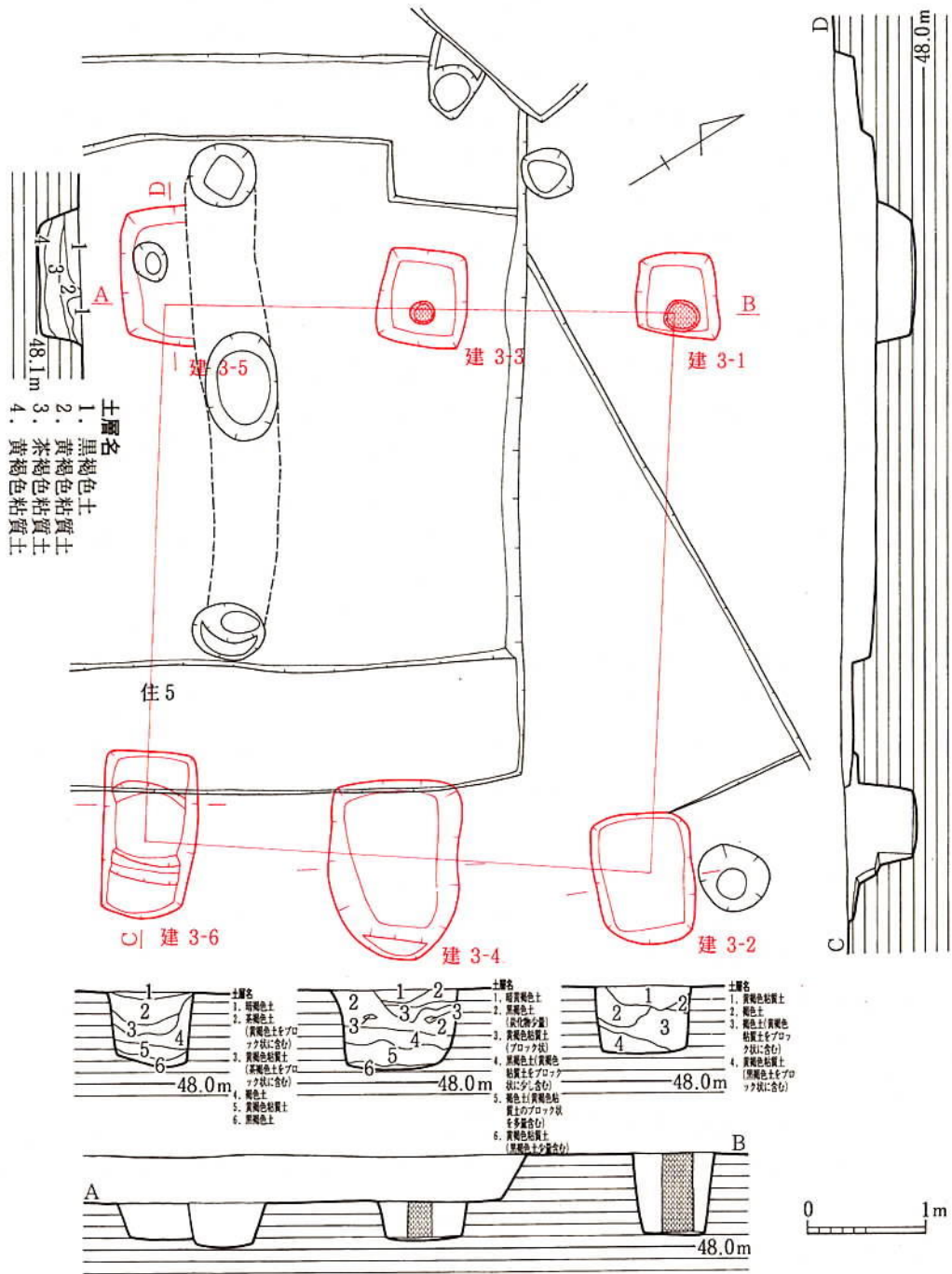
遺物 (第185図3~6) 3・5は柱3から、4・6は柱4からの出土。いずれも摩滅が著しく調整は不明だが、5・6の器台脚部は二次加熱により変色している。

3号掘立柱建物跡 (図版82・83 第167図)

3号掘立柱建物跡は丘陵平坦部調査区の中央部に位置し、この調査区を東西に横断する市道の付替え部分で検出された。8号竪穴住居跡は切るが、弥生時代の5号住居跡には大きく切られる。梁行4.8cm、桁行4.3cmの1×2間の建物跡で、柱穴の平面プランについてはおよそ120~150×80~100cmの長方形を呈するものと、80×70cm程度のほぼ正方形に近いものに分か



第166図 1・2号掘立柱建物跡実測図 (1/60)



第167図 3号掘立柱建物跡実測図 (1/60)

れるが、深さは約70cmに統一される。正方形の掘形についても、柱6のようにもともとは長方形で2段のものが削平されて1段の正方形になってしまった可能性がある。柱痕が確認された柱1は径25cm、柱3は径20cmを測る。遺物は6点の土器を図示した。

遺物（第185図7～12）全体的に摩滅が著しく調整不明。7・9は柱2から、10・12は柱4から、8・11は柱5からの出土。7は復元口径23cmの壺口縁部で、内外面にハケが施される。8は頸部の突帯文。9は胴部の突帯文で刻み目が施される。10は復元口径23cmの甕で調整不明。11の底部に二次加熱の痕跡は窺えない。12は高坏坏部。（水ノ江）

4号掘立柱建物跡（図版84 第168図）

4号掘立柱建物跡は丘陵平坦部調査区の北西部に位置するが、他の遺構との切り合い関係はない。ただし、10号掘立柱建物跡とは近接して長軸がほぼ90度振っていることから、あるいはそれと関連性を有している可能性がある。梁行5.2cm、桁行4.0cmの1×2間の建物跡で、柱穴の掘形は一辺120～150cm程度の隅丸方形あるいは不定の円形になるが、深さについては55～60cmにほぼ統一される。柱1～3のように、柱痕が確認されたものは径20～25cmと掘形の割には小さい。このうち柱1・3の底面には、柱痕の検出された部分だけ若干窪んでいる。遺物は比較的多く出土したが、いずれも小破片で摩滅も著しく、調整が判別できるものはほとんどない。

遺物（第185図13～22）14・15・17・19は柱1から、16・20は柱2から、13・22は柱4から、18は柱5から、21は柱6からの出土。13は壺の口縁部で、16・17は甕の口縁部。14は頸部の、15は胴の突帯文。21は支脚の脚部で二次加熱による変色が見られる。22は手捏ね土器の完形品で、外面はかなり乾いた段階にナデが施される。口径7.3cm、器高4.3cm。（水ノ江）

7号掘立柱建物跡（図版82 第169図）

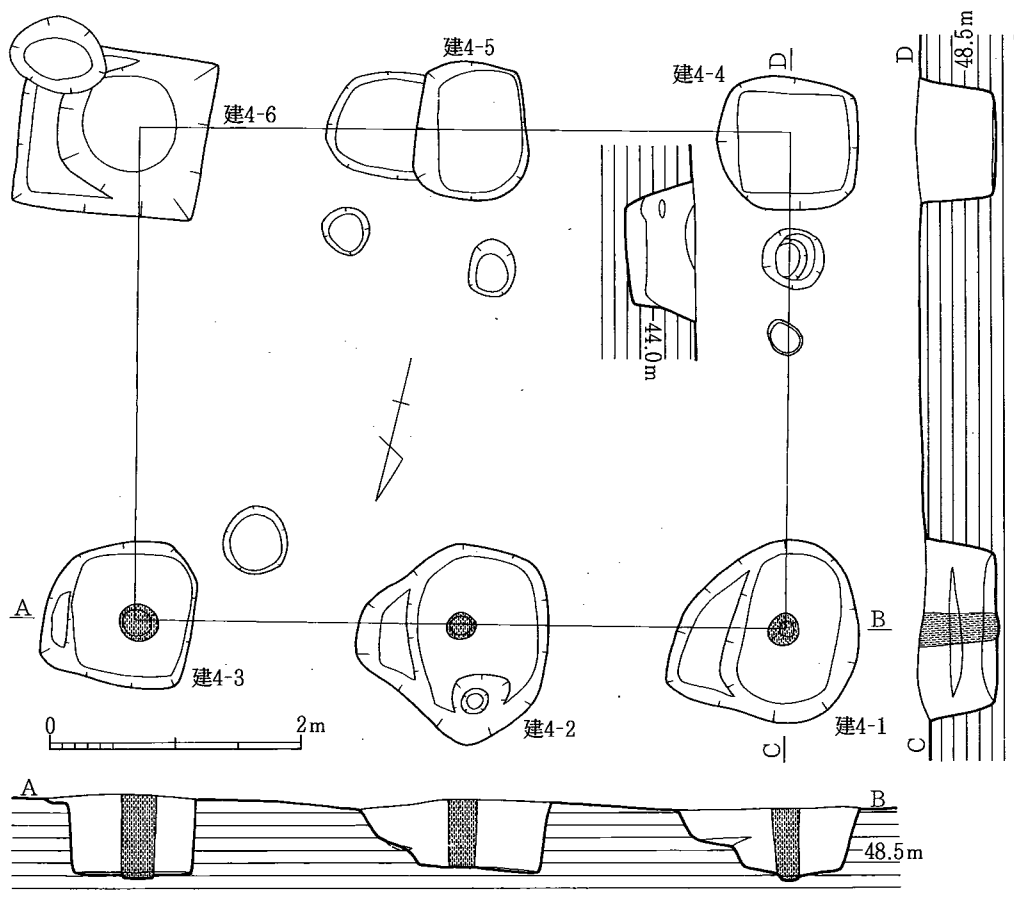
調査区西北端に位置し、西側の大半が調査区外にあり、北側も斜面の崩落のため失われている。10・23号掘立柱建物跡と同じく、階段状テラスのつく掘り形である。しかし、柱2と柱4とは階段状テラスのつく方向が異なっており、柱痕も検出されなかったのも、やはり抜き取り穴の掘り形の一端であろう。また、柱3は他の3つよりも小さく、この掘立柱建物跡に伴わない可能性もあるものの、ピットの少ない場所であり、他の3つの柱穴と同じ深さのものがないので、掘り形の形状や規模が類似する23号掘立柱建物跡と同じ構造を持つ掘立柱建物跡として復元した。規模は不明であるが、柱1～4の辺を梁とすると梁行5mとなり、10号掘立柱建物跡のそれと一致する。掘立柱建物跡の規模が1×2間であったとしても、桁行が6mの大型掘立柱建物跡に復元される。実測できる遺物が出土しておらず、時期は不明である。（秦）

8号掘立柱建物跡 (第169図)

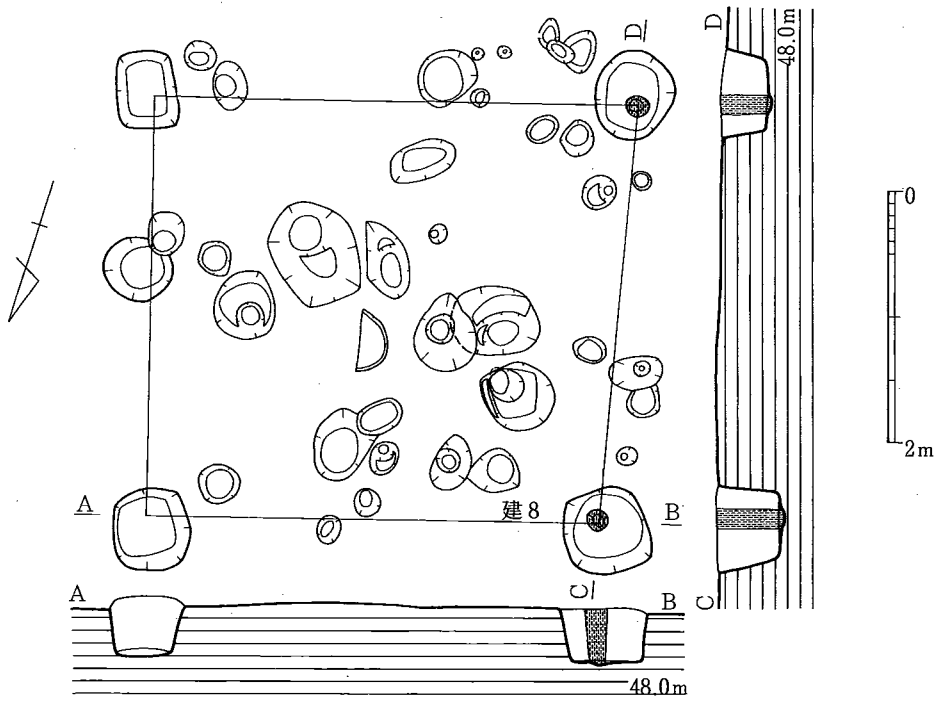
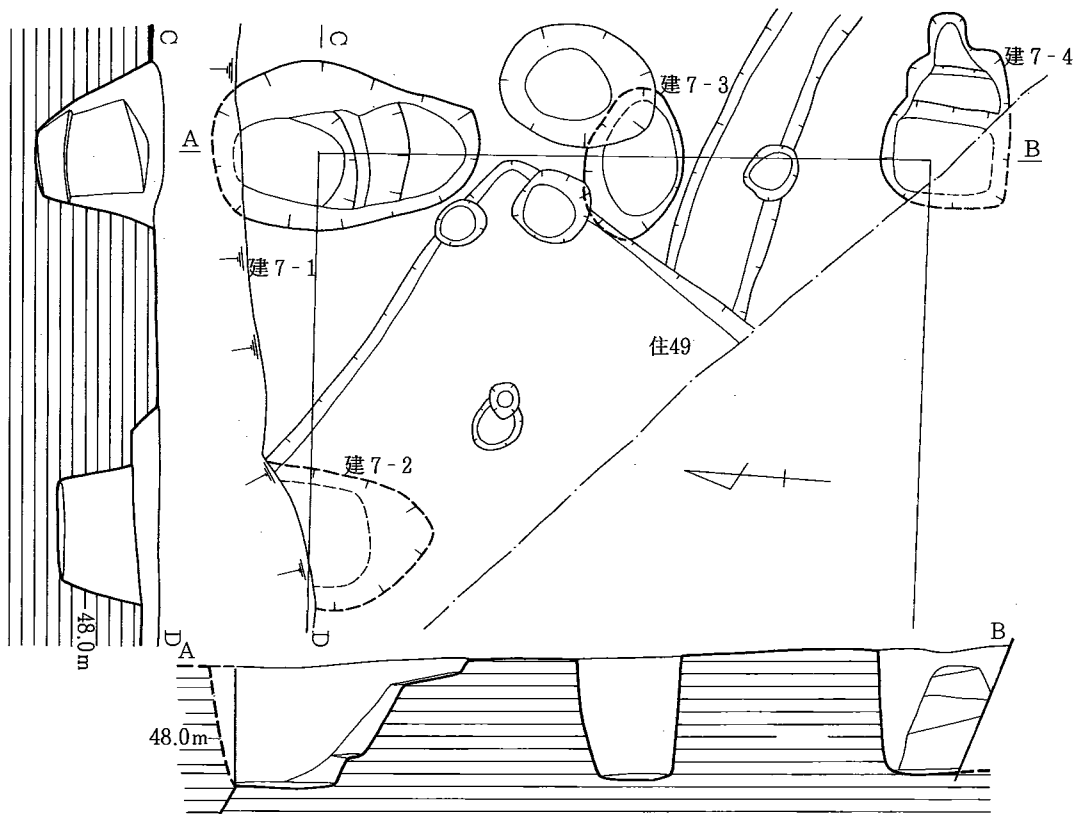
平坦面中央北側の掘立柱建物跡の密集地帯に位置する、梁行5.15m、桁行3.5~3.83mの1×1間の掘立柱建物跡である。柱穴は一辺47~67cmの略方形プランを呈し、深さは残りのよいもので50cmを測る。柱痕は検出されたもので、径15~18cmである。実測できる遺物が出土しておらず、時期は不明だが、81号竪穴住居跡を切るもので、それ以降である。 (秦)

9号掘立柱建物跡 (図版83 第170図)

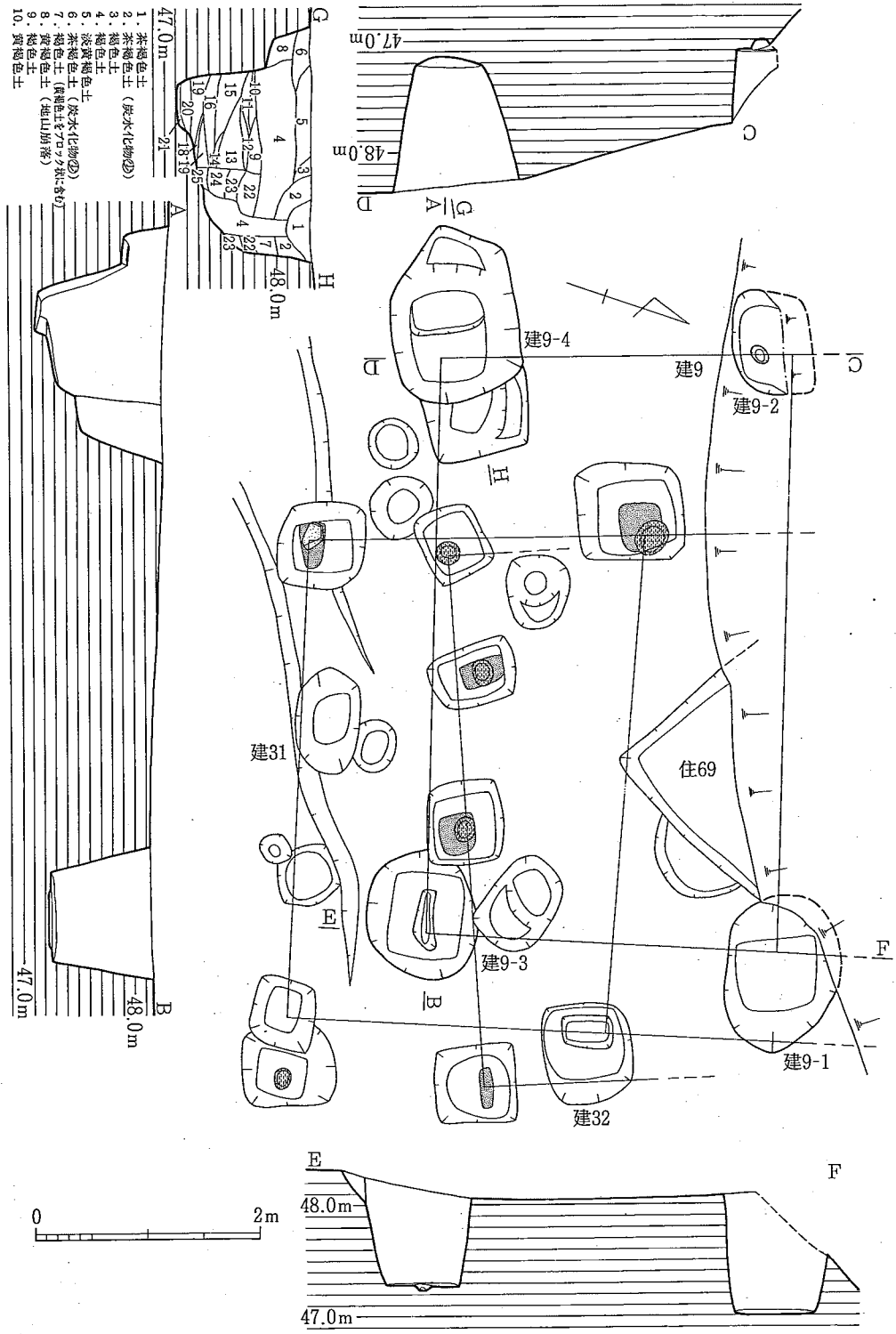
平坦面中央北側の掘立柱建物跡の密集地帯に位置し、54号竪穴住居跡・32号掘立柱建物跡に切られる。梁行3.15m、桁行5.15mの1×1間の掘立柱建物跡を復元したが、梁と桁が逆で、北側斜面の崩落のため半分を失われた1×2間の掘立柱建物跡の可能性もある。後者の場合、梁行5.15m、桁行6.2mとなり、4号掘立柱建物跡の規模とほぼ一致する。柱穴は小さいもので



第168図 4号掘立柱建物跡実測図 (1/60)



第169图 7·8号掘立柱建筑物迹实测图 (1/60)



第170图 9号掘立柱建物跡实测图 (1/60)

95×115cm、大きいもので113×160cmの方形プランで他の柱穴よりやや大きく、深さも残りのよいもので90cmと深い。柱4は西側に小さなテラスがあり、そのテラスの部分だけ方形プランから突出している。土層を見ると、テラスの高さで堆積状況が変化しているので、抜き取り穴の一端と考えたい。柱穴底面には礎板の沈み込んだ痕跡と思われるものがあり、柱3では、長さ55cm、幅15cmの板状のものが、底面中央に建物主軸と同方向に検出され、柱4では底面西寄りに長さ65cm、幅37cmの板状の痕跡が、建物主軸と垂直方向に検出された。

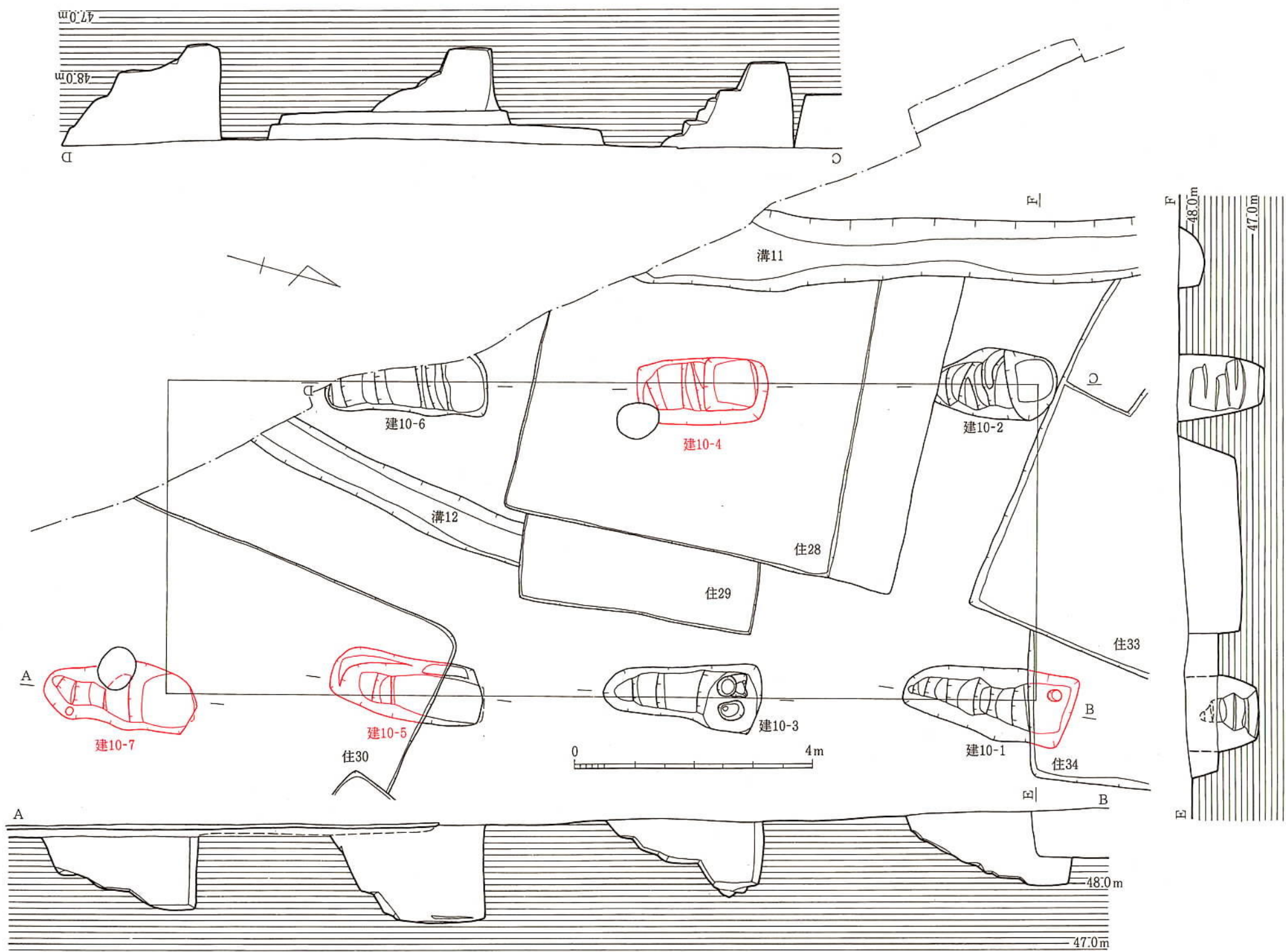
遺物(第185図23～25) 23は大甕の口縁部で、24は小型の甕か短頸壺の口縁部、25は小型甕の底部だろう。(秦)

10号掘立柱建物跡 (図版86・87 第171図)

10号掘立柱建物跡は丘陵平坦部調査区の北西部に位置し、弥生時代の28～30・34・35号竪穴住居跡や1号土坑に切られる。梁行14.5cm、桁行5.3cmの1×3間になるが、西方向へもう1間分存在する可能性もあったので調査区ぎりぎりまで拡張したところ、それらしい掘形は確認できなかった。しかし、多少西側へ掘形がずれていることも想定され、2×3間以上の建物跡である可能性も完全には捨てきれない。当初は、その大きさから土坑として掘り進めたため柱痕の検出は行わなかった。しかし、途中で掘立柱建物跡という認識に至ってからは積極的に柱痕の検出を試みたが、やはり確認できなかった。掘形の長軸は220～295cm、短軸は105～115cmとかなり長い楕円形あるいは長方形で、深さは130～160cmになる。注目すべきは、すべて南側に3～6段の階段状テラスが付くことである。従来、このような形態の柱穴の場合、大きな柱を立てるために柱をこの階段部に斜めに寝かせて建てるものと考えられているが、本遺跡内の17・34号竪穴住居跡や23号掘立柱建物跡の状況から、柱の抜き取りに際してできたものとするのが妥当であろう。柱痕が確認できなかったのもそのためであろうし、17・34号竪穴住居跡の床面で見られた土饅頭が認められないのも、掘立柱建物跡という構造のためであろう。なお、本建物跡からは遺物の出土がまったくなく年代の決定が難しいが、竪穴住居跡すべてに切られていることから、少なくとも弥生時代後期後半以前に属することは間違いない。埋土についても、版築状の層の体積は見られず、地山の黄褐色土に近い暗褐色土が全体で3～5層程度に大きく分かれるだけであり、あるいは柱抜き取り後に掘削した土をそのまま埋め戻したものとも考えられる。(水ノ江)

11号掘立柱建物跡 (図版86・87 第172図)

平坦面中央東側の掘立柱建物跡の密集地帯に位置し、87号竪穴住居跡を切り、64号竪穴住居跡に切られている。梁行2.70m、桁行4.25mの1×1間の掘立柱建物跡だが、西にもう1間延びる可能性がある。しかし、溝と住居に切られており、明確でないのでここではこの規模に復



第171图 10号掘立柱建物跡実测图 (1/80)

元した。柱穴は一辺70～85cm前後の略方形プランを呈し、深さは残りのよいもので55cmあり、柱痕は検出されたもので、径20cmを測る。柱穴底面からは礎板の沈み込んだ痕跡と思われるものが検出された。柱1・2では、長さ40cm、幅33cm前後の板状のものが、柱穴底面中央に掘立柱建物跡主軸と垂直方向に検出された。その中央に柱根の沈み込みが位置しているため、柱根の底に横木を組み合わせたものと考えられる。柱3では、長さ57cm、幅22cmの板状の痕跡が、底面中央に掘立柱建物跡主軸と同方向に検出されている。柱4では長さ33cm、幅30cmの板状の痕跡が、底面中央で柱穴の辺に平行に位置している。柱2・4では柱痕がちょうど板状の痕跡の上に位置しているため礎板と考えられる。また、柱4では土層断面に礎板と思われるバンド状の層の上に柱痕が乗っている状況が確認された。

遺物（第185図27～31）26は複合口縁壺の口縁部、27は壺の肩部、28・29は胴部、30は底部である。（秦）

12号掘立柱建物跡（第172図）

平坦面中央東側の掘立柱建物跡の密集地帯に位置する、梁行3.1m前後、桁行4.55mの1×2間の掘立柱建物跡である。柱穴は一辺50～70cm前後の略方形プランを呈し、深さは残りのよいもので55cmを測る。柱2は掘形が2段になっているが、最深部で他の柱穴の底面の深さと一致する。柱痕は検出されたもので径15cmを測る。実測できる遺物がなく、時期は不明だが、18号竪穴住居跡に切られるので、それ以前である。また、近接する1・2号掘立柱建物跡とは、規模や主軸がほぼ等しいことから建て替えの可能性がある。（秦）

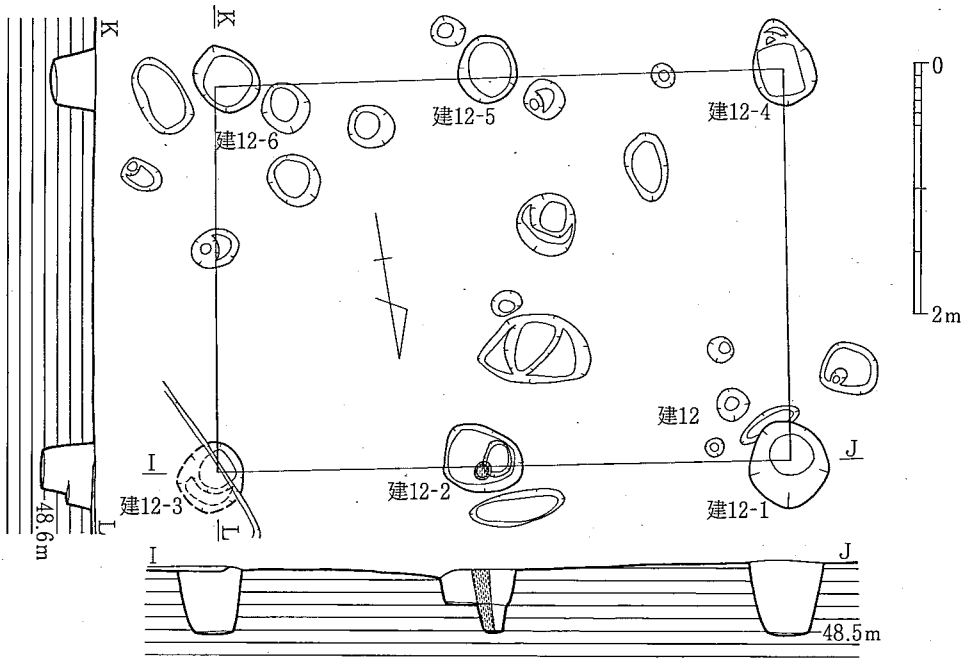
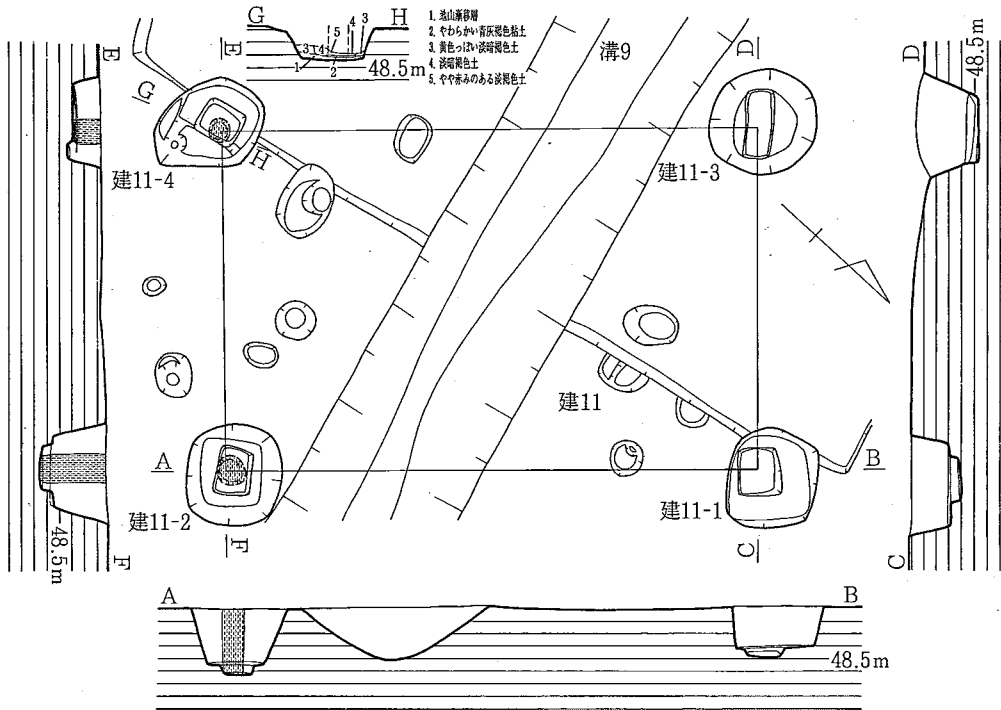
13号掘立柱建物跡（図版86 第173図）

平坦面中央東側の掘立柱建物跡の密集地帯に位置し、34号掘立柱建物跡を切る。梁行2.85～3.0m、桁行3.75～3.90mの1×2間の掘立柱建物跡で、柱穴は一辺70～80cm前後の略方形プランを呈し、深さは残りのよいもので50cmを測る。段をもつ掘形があるが、抜き取り時のものではなく、柱痕はすべての柱穴から検出されている。その径は比較的大きく、20cm前後を測る。

遺物（第185図31～35）32は小型甕の口縁部で、31は壺の胴部、33は甕の底部、34・35は鼓形支脚の裾部で、2次焼成による赤変が見える。（秦）

14号掘立柱建物跡（図版88 第174図）

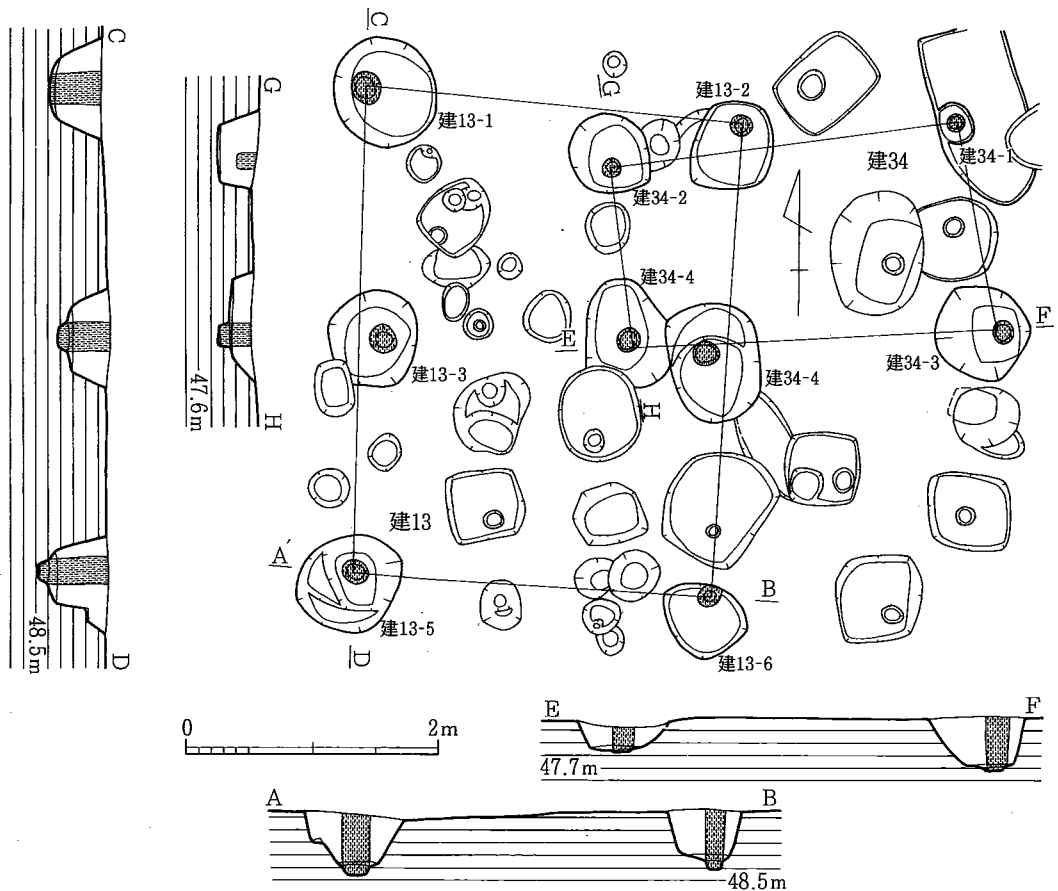
平坦面北東側の掘立柱建物跡の密集地帯に位置し、75号竪穴住居跡と94号竪穴住居跡を切る。梁行3.5～3.8m、桁行4.85～5.2mの1×2間のやや大きめの掘立柱建物跡で、柱穴は小さいもので70×90cm、大きいもので100×130cm前後の略方形プランを呈し、深さは残りのよいもので80cm前後を測る。柱痕は柱6を除いて検出されており、径15～25cm前後を測る。柱3は階段状



第172図 11・12号掘立柱建物跡実測図 (1/60)

テラスが西側につくが、テラスの幅が柱穴短辺とほぼ同じで、平面方形で平坦であり、かつ、柱痕も検出されているので、抜き取り穴の一端ではなく、建築時のものと思われる。柱2・4の柱穴底面からは、礎板の沈み込んだ痕跡と思われるものが検出された。柱2のものは長さが30cm以上、幅は20cmの板状で、柱根の沈み込みはその中央に位置すると思われる。これは、柱の下に横木をかませる構造を想定される。柱4のものは、長さ50cm、幅7cmの棒状の痕跡で、その両脇にそれより短いものがある。これは、前述したものに材を加えて補強したものと思われる。また、明確に検出されなかったが、柱1の底面がL字状になっているのも、礎板の痕跡であった可能性がある。柱2の上面で焼土が検出されており、柱の抜き取り痕がないことから、本掘立柱建物跡は焼失した可能性が高い。

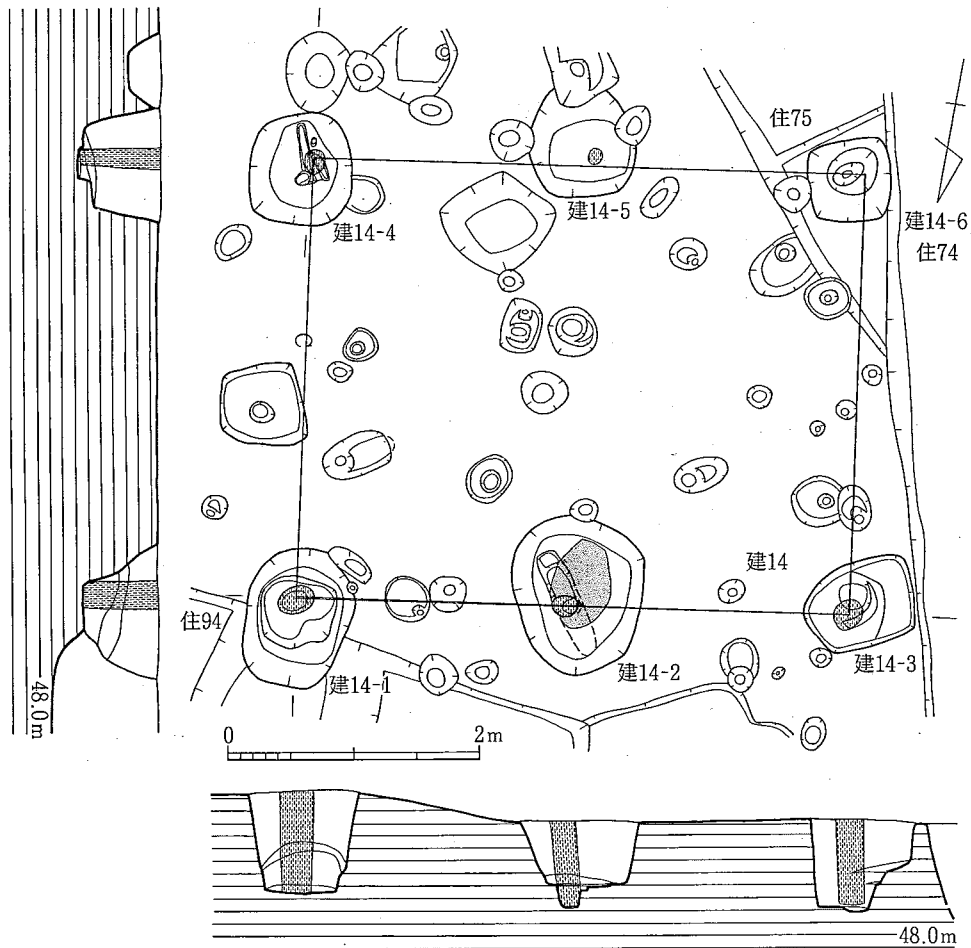
遺物 (第185図36~39) 36は小型甕の口縁部、37は底部、38は中型甕の口縁部、39は高杯の杯部である。 (秦)



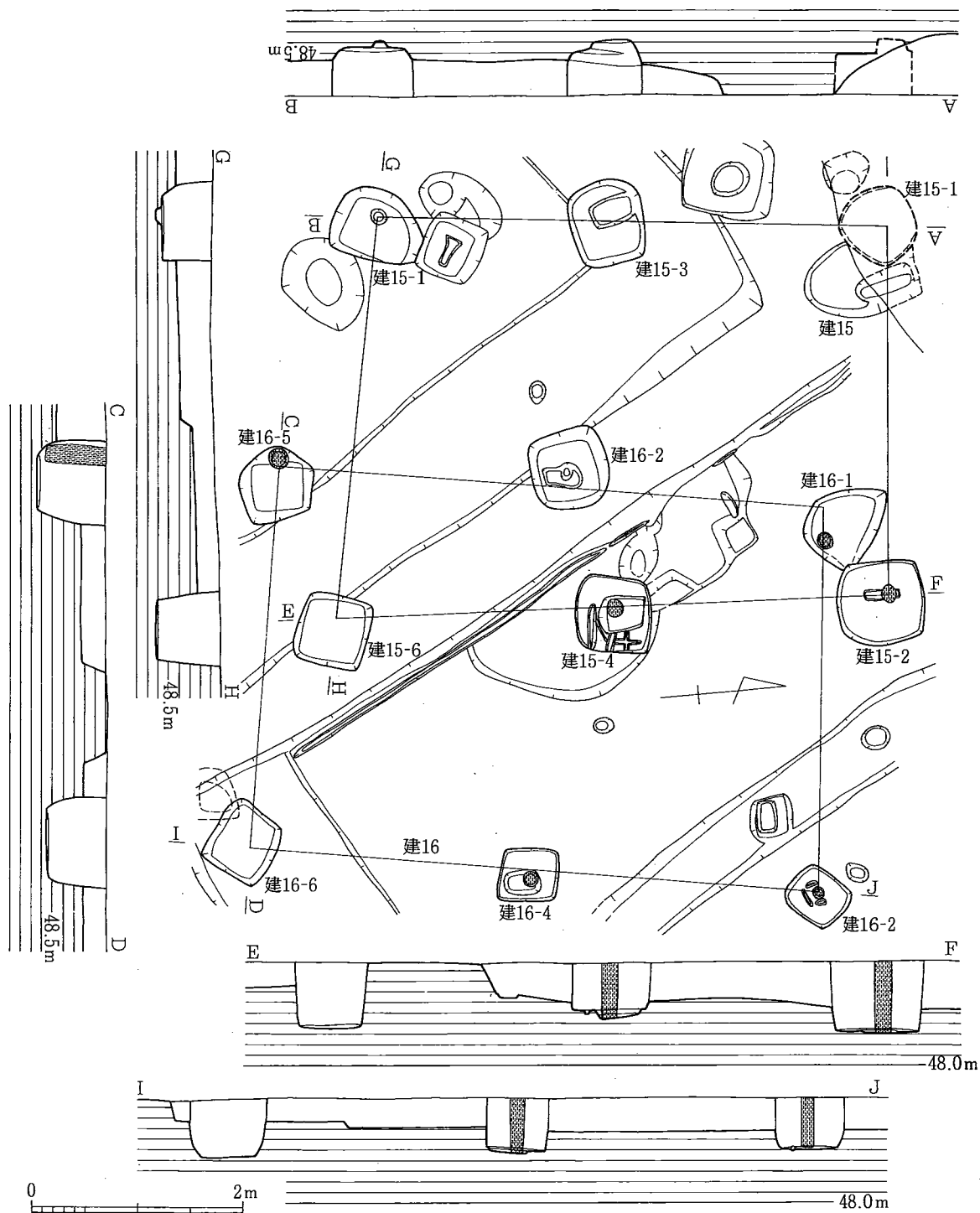
第173図 13・34号掘立柱建物跡実測図 (1/60)

15号掘立柱建物跡 (図版89 第175図)

平坦面中央東側の掘立柱建物跡の密集地帯に位置する。梁行3.5~3.8m、桁行4.85~5.2mの1×2間の掘立柱建物跡で、柱穴は一辺70~80cm前後の略方形プランを呈し、深さは残りのよいもので60cmを測る。柱痕は検出されたもので、径20cm前後を測る。柱穴底面には礎板の沈み込んだ痕跡と思われるものがある。柱2では、長さ33cm、幅9cmの板状のものが、柱穴底面中央に掘立柱建物跡主軸と同方向に検出され、その中央に柱の沈み込みが位置しているので、柱の底に横木を組み合わせたものと考えられる。柱3では、長さ45cm、幅27cmの板状の痕跡が、底面西北寄りに、掘立柱建物跡主軸からやや振れた方向で検出された。柱4では長さ42cm、幅34cmの板状の痕跡が、底面中央に、掘立柱建物跡主軸と同方向に検出されている。その東側には5本の幅5~7cmの棒状の痕跡が、板状の痕跡に切られて検出されており、1本は平行に、



第174図 14号掘立柱建物跡実測図 (1/60)



第175图 15·16号掘立柱建物跡实测图 (1/60)

3本は垂直に、もう1本は垂直を意図してずれたものであろう。これらは礎板の下に格子状に棒を置いたものと考えられる。柱痕はちょうど板状の痕跡の上に位置している。本掘立柱建物跡は16号掘立柱建物跡に切られているが、この掘立柱建物跡とは規模がほぼ等しく、主軸方向の振れがわずかであることから、16号掘立柱建物跡の建て替えと考えられる。実測できる遺物が出土しておらず、時期は不明だが、22号掘立柱建物跡・14・17号竪穴住居跡を切っていることから、弥生集落の末期のものと思われる。(秦)

16号掘立柱建物跡 (図版89 第175図)

平坦面中央東側の掘立柱建物跡の密集地帯に位置する、梁行3.65m、桁行5.2~5.42mの1×2間の掘立柱建物跡で、柱穴は一辺75cm前後の方形プランを呈し、深さは残りのよいもので60cmを測る。柱痕は検出されたもので、径65cm前後を測る。柱穴底面からは礎板の沈み込んだ痕跡と思われるものがある。柱2では、長さ10~20cm前後、幅5cm前後の棒状の痕跡が、柱穴の辺と平行にコの字に検出され、その中央に柱痕が位置しているので、棒状のものを井形に組んだ上に、礎板を置いたものと考えられる。柱3では、長さ36cm、幅17cmの板状のものが底面中央に、掘立柱建物跡主軸と同方向に検出された。その痕跡の中央に柱根の沈み込みがあるので、柱根の底に横木を組み合わせるものと考えられる。柱4では、長さ35cm、幅24cmの板状の痕跡が、底面中央に掘立柱建物跡主軸と同方向に検出されている。これも同様に、痕跡の中央に柱根の沈み込みがあるので、柱の底に横木を組み合わせるものと考えられる。本掘立柱建物跡は、15号掘立柱建物跡を切っているが、この掘立柱建物跡とは規模がほぼ等しく、主軸方向の振れがわずかであることから、15号掘立柱建物跡を建て替えたものと考えられる。

実測できる遺物が出土しておらず時期は不明だが、14・17号竪穴住居跡を切っていることから、弥生集落の末期のものと思われる。(秦)

17号掘立柱建物跡 (第176図)

平坦面北東隅の掘立柱建物跡の密集地帯に位置する、梁行2.15m、桁行2.65mの1×2間の掘立柱建物跡であるが、1034号掘立柱建物跡を構成する柱穴まで本掘立柱建物跡のものと考えると、北にもう1間延びる。柱穴は一辺60~70cm前後の略方形プランを呈し、深さは残りのよいもので40cmを測る。柱1・2は、83号竪穴住居跡を切っているが、床面からしか確認できなかった。柱痕は検出されたもので、径は12~15cmを測る。柱1の底面からは、礎板の沈み込んだ痕跡と思われるものがあり、長さ33cm、幅25cmの板状の痕跡が、底面中央に柱穴の辺と平行に検出された。

実測できる遺物が出土しておらず時期は不明だが、83号竪穴住居跡を切るのものでそれ以降である。(秦)

18号掘立柱建物跡 (図版90 第176図)

平坦面北東部の掘立柱建物跡の密集地帯に位置する、梁行2.83～3.20m、桁行3.55mの1×1間の掘立柱建物跡である。柱穴は平面略方形を呈し、一辺55～80cm前後とばらつきがあるが、底面の規模は一致している、深さは残りのよいもので60cm、柱痕は径15cm前後である。柱穴底面からは、礎板の沈み込んだ痕跡と思われるものが検出された。柱1では、底面中央に柱穴の辺と平行に、一辺30cmの略方形のものが検出され、柱痕はその上に位置する。柱3には、底面中央に長さ15cm、幅10cmの板状のものをL字状に組み合わせた痕跡があり、柱の沈み込みはその交点に位置している。これは、礎板を重ねた所に柱を据えたものと考えられる。

実測できる遺物が出土しておらず、時期は不明だが、92号竪穴住居跡を切るなのでそれ以降である。 (秦)

19号掘立柱建物跡 (図版91 第176図)

平坦面北東部の掘立柱建物跡の密集地帯に位置するため、明確には検出されなかった。柱穴の深さはほぼ等しいが、平面プランが楕円形で、この地区の他の掘立柱建物跡と異なるので確実性に欠けるが、ここでは梁行2.3～2.65m、桁行2.95～3.2mの1×1間の掘立柱建物跡を復元した。柱穴は一辺45～60cm前後の略方形プランを呈し、深さは残りのよいもので50cmを測る。柱痕は検出されたもので、径15cmを測る。柱1の底面からは、礎板の沈み込んだ痕跡と思われるものがあり、長さ30cm、幅25cmの板状の痕跡が底面中央に、柱穴の辺と平行に検出された。柱の沈み込みはその上に位置しているため、板状の痕跡は礎板と考えられる。

実測できる遺物が出土しておらず、時期は不明。 (秦)

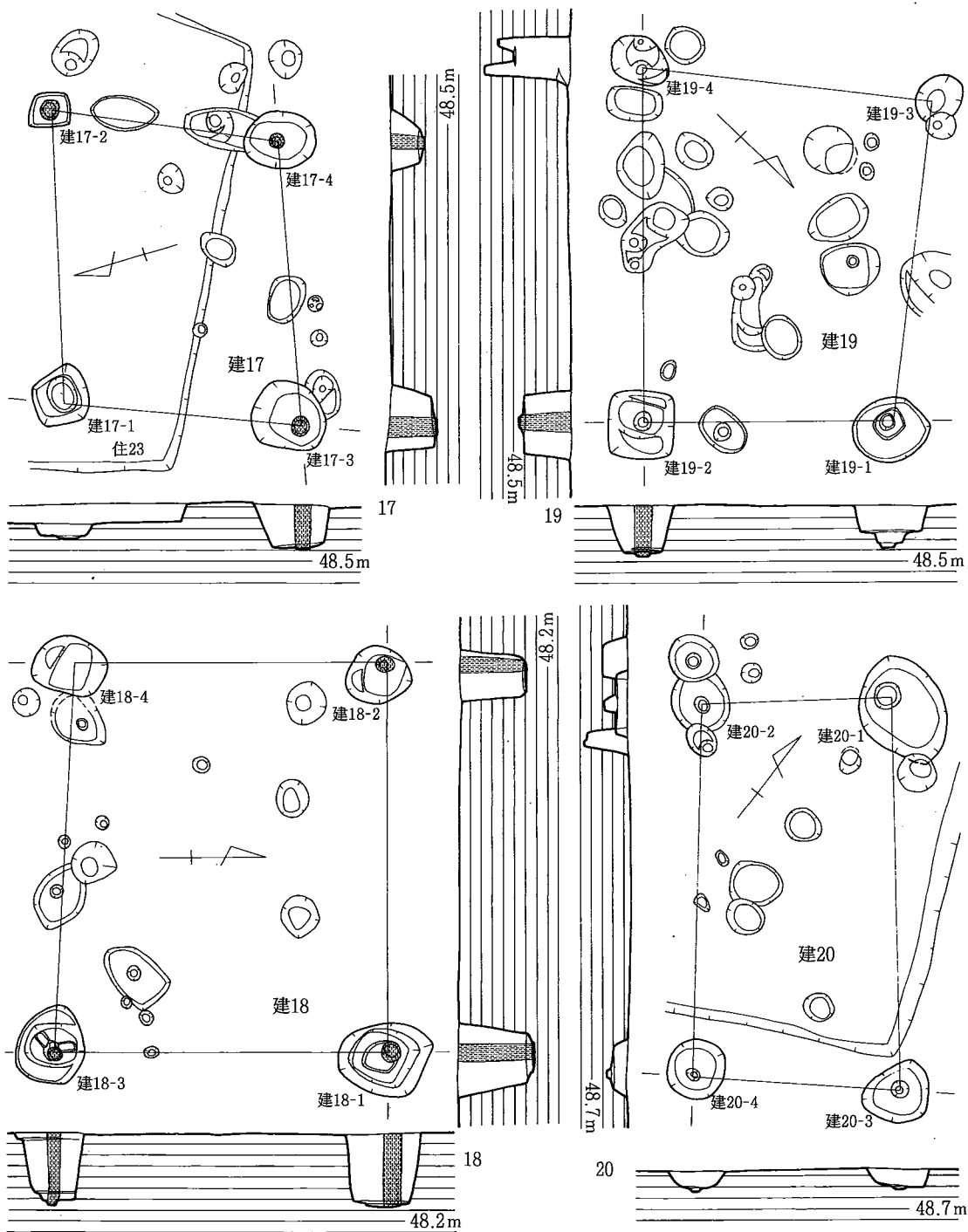
20号掘立柱建物跡 (第176図)

平坦面北東部の掘立柱建物跡の密集地帯に位置するため、明確には検出されなかった。他の掘立柱建物跡の柱穴より浅く、柱穴の平面プランも不整円形なので確実性に欠ける。ここでは梁行1.75～1.90m、桁行3.4～3.6mの1×1間の掘立柱建物跡を復元したが、もう1間西に延びる可能性をもつ。柱穴は径55cm前後で、深さは15cm前後を測る。柱痕は検出されなかったが、柱穴底面からは柱の沈み込んだ痕跡があり、その径で17～25cmある。

実測できる遺物が出土しておらず、時期は不明であるが、92号竪穴住居跡を切るため、それ以降である。 (秦)

21号掘立柱建物跡 (図版92 第178図)

平坦面北部の中央に位置し、9号溝と77号竪穴住居跡に切られている。梁行3.16m、桁行5.2mの1×2間で、柱穴は小さいもので一辺48cm、大きいもので85×55cmの方形を呈し、深さは



第176图 17~20号掘立柱建物跡实测图 (1/60)

残りのよいもので57cmを測る。柱3から6は南側にテラスをもつが、柱3・4はこのテラスの端部に柱痕が位置しており、柱6の南側でほぼ同規模のピットと切り合っていることから、わずかに南にずらした掘立柱建物跡が重なっている可能性もある。ここでは、テラスのつく方向が一致しており、柱穴短辺とほぼ同じ幅なので、建築段階のものと考えたい。柱痕は検出されたもので、径15～20cmを測る。

実測できる遺物が出土しておらず時期は不明だが、77号竪穴住居跡に切られているのでそれ以前である。 (秦)

22号掘立柱建物跡 (図版92 第179図)

平坦面中央東側の掘立柱建物跡の密集地帯に位置し、9号溝に切られ、15号掘立柱建物跡を切る。梁行3.16～3.23m、桁行5.35～5.42mの1×2間で、柱穴の平面プランは75×100cm前後の方形を呈し、深さは残りのよいもので70cmを測る。柱2は24号掘立柱建物跡の柱穴との切り合いのためか、短辺が広がっている。柱3・6は14・15号竪穴住居跡を切っているが、床面でしか確認できなかったため、上面での法量は不明である。柱痕の径は20～22cmを測る。柱穴底面からは礎板の沈み込んだ痕跡と思われるものが検出されている。柱1では、長さ45cm、幅15cm前後のものが2つ、柱穴短辺と平行に並んで検出され、東側の痕跡には、切り合いは確認できなかったものの、これと垂直方向にもう一本重なっていたと思われるものの端部が出ている。板状のものを2本並べた上に礎板を垂直方向に重ねていたと推測される。柱の沈み込みは、前者の上にあるが北端に寄っているので、むしろ掘立柱建物跡主軸と平行する後者の中央に位置していたと考えたい。柱2には、底面中央に、一辺30センチの方形の痕跡があり、柱の沈み込みにしては大きすぎるので、礎板と考えた。柱3では他のものと異なり、粘土を礎板として用いている。底面中央に、長さ30cm、幅10～20cm、高さ7cm程の板状の粘土を、掘立柱建物跡主軸方向と平行に敷いている。柱4でも、痕跡の一部が検出されたが、中央部を切られているため構造は不明である。柱5では、底面北辺沿いに長さ50cm、幅20cmの板状の痕跡が掘立柱建物跡主軸と同方向に検出されている。柱6では、長さ40cm、幅15～20cmの板状の痕跡が、底面中央に掘立柱建物跡主軸と同方向に検出された。その大きさや柱穴内での位置、深さは柱3のものと酷似している。本掘立柱建物跡は24号掘立柱建物跡に切られているが、この掘立柱建物跡とは2つの柱穴がほぼ同じ位置にあり、主軸方向がほぼ90°振れていることから、本掘立柱建物跡の建て替えと考えられる。

遺物 (第186図、第32図32・33、第242図) 1は壺の胴部、2は短頸壺の口縁部、3は高杯の口縁部、4は高杯の脚部、5は杏形支脚、6は甕棺の口縁部であろう。柱1・4埋土中より石庖丁片 (第232図32・33) が、柱5の埋土から柱状片刃石斧の刃部 (第242図1) が出土している。 (秦)

23号掘立柱建物跡 (図版93～97 第177図)

平坦面中央に位置し、66・67・68・72・75号竪穴号竪穴住居跡の貼床下から検出されているので、切り合い関係は確実である。梁行5.75.82m、桁行8.5～8.82mの2×2間の掘立柱建物跡だが、中央の柱列は長軸方向も規模も異なり、掘立柱建物跡の平面プランの梁桁の比率も他の1×2間の掘立柱建物跡に近い長方形なので、中央の柱列を束柱とする1×2間の掘立柱建物跡と考えたい。

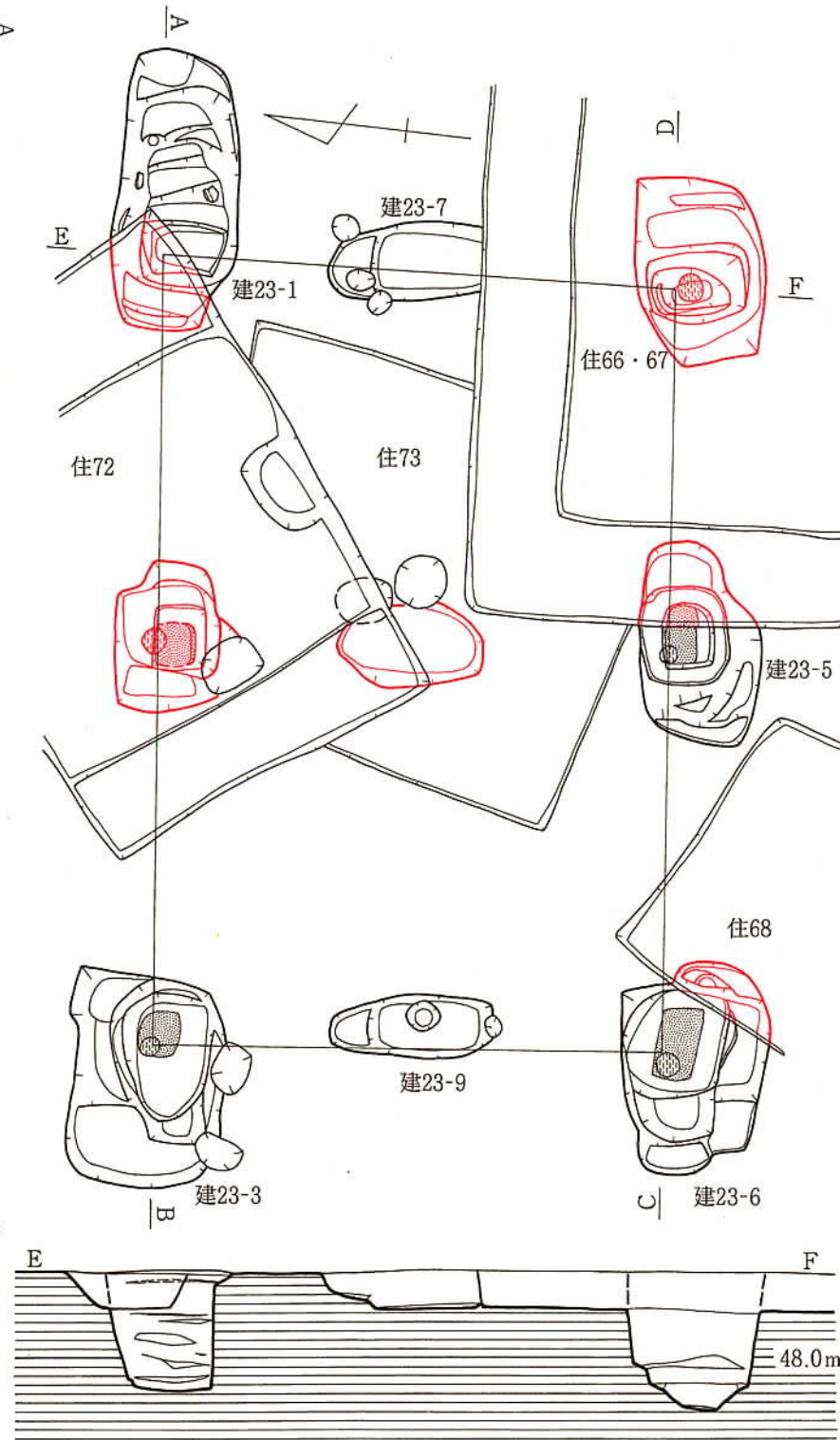
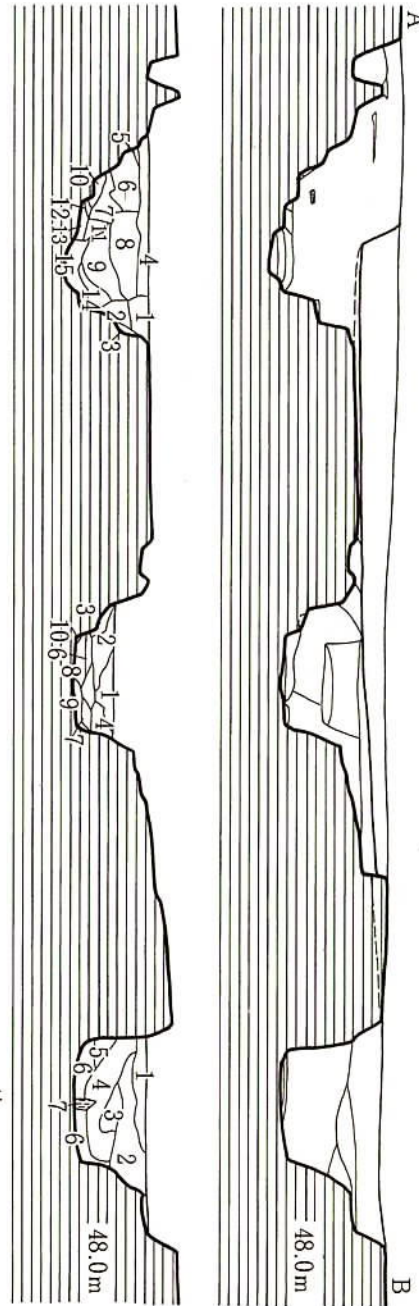
柱穴の平面形は小さいもので110×170cm、大きいもので132×310cmの略方形プランだが、このばらつきは階段状テラスが突出して不整形を呈するためであり、床面の大きさではほぼ一致している。この階段状テラスには、柱穴の短辺と平行にほぼ同じ長さにつくものと、長辺についていたり、方形プランから突出するなど多様である。両者を土層から観察すると、前者は建築段階のもので、後者は抜きとり時のものと考えられる。柱1では、西側テラスが前者、東側が後者で、西側テラスに伴う水平な堆積の土層を、東側のテラスに伴う土層が切っており、柱穴底面まで達していたため、柱痕は残っていなかった。柱2では、西側テラスが前者、東側の突出するテラスが後者で、後者のテラスの高さで、堆積状況が変化している。柱痕は土層断面にかからない位置で検出されており、径30cmを測る。柱3では、後者のテラスしかなく、検出された柱痕が、階段状テラスに伴う土層に切られている。この柱痕は径19cmで、先端が斜めになっており、階段状テラスに伴う土層内に及んでいる。これは、柱の抜き取りの際に、根元の部分を残して柱を切り落としたのち、埋め戻したためであろう。また、切り口は階段状テラス側に傾斜しているので、同方向に倒して抜き取ったと考えられる。柱4は、西側テラスが前者、東側が後者で、西側テラスに伴う水平な堆積の土層を東側のテラスに伴う土層が切っており、柱穴底面直上まで達している。柱痕は径35cmで、柱3と同様に、階段状テラスに伴う土層に切られており、上端は土層内に及んでいる。先端の傾斜は緩いが、やはり抜き取り側に傾いている。柱5・6は、後者のテラスしかなく、テラスの高さで土層が変化している。柱痕は床面直上で検出され、柱5は径21cm、柱6は断面でのみ確認されたので正確な数値はわからないが、径18cm以上であろう。このことから、建築時の階段状テラスは東側につき、抜き取り時のものは主に西側についたと考えられる。埋土も、西側階段状テラスに伴う土層は軟らかく遺物を含むが、床面直上の土層は硬く締まっていた。階段状テラスを抜き取り穴とすると、本来の柱穴の大きさは110×140cm程となる。深さは残りのよいもので130cmを測る。

柱穴底面には底面直上に方形の薄い粘土が検出されたが、その厚さは1cm程で、粘土を敷いていたとするには薄すぎることから、礎板の範囲に水分を受けて底面の地山が粘土化したものと考えたい。柱2では一辺45cm前後、柱3では長さ50cm、幅46cm、柱5では長さ74cm、幅39cm、柱6は不明確だが、長さ80cm、幅40cmのものが確認された。いずれの長軸方向も掘立柱建物跡主軸と同方向で、柱痕はその上に位置している。柱4では粘土が確認されず、不明確だが礎板

- 土層名
1. やや暗い暗褐色粘質土
 2. 暗褐色粘質土
 3. 〃
 4. 暗褐色粘質土
 5. 〃
 6. 明るい暗褐色土
 7. やや明るい暗褐色粘土
 8. やや明るい暗褐色土
 9. 黒褐色土
 10. にぶい暗褐色土層
 11. やや明るい暗褐色土
 12. 明るい暗褐色土
 13. にぶい暗褐色土
 14. やや明るい暗褐色土
 15. 黒褐色土

- 土層名
1. やや明るい暗褐色土層
 2. やや明るい暗褐色土層
 3. 暗褐色土層
 4. やや明るい暗褐色土層
 5. やや明るい暗褐色土層
 6. やや明るい暗褐色土層
 7. やや明るい暗褐色土層
 8. にぶい暗褐色土
 9. やや明るい暗褐色土
 10. 暗褐色土層

- 土層名
1. 暗褐色粘質土
 2. やや明るい、暗褐色粘質土
 3. 淡暗褐色粘質土
 4. 明るい暗褐色粘質土
 5. 暗褐色粘質土
 6. 淡暗褐色粘質土
 7. 暗褐色粘質土



- 土層名
1. やや明るい暗褐色粘質土層
 2. 暗褐色粘土層
 3. 黒褐色粘土層
 4. 淡暗褐色粘土層
 5. 暗褐色粘土層
 6. 暗黒褐色粘土層
 7. 暗褐色粘土層

- 土層名
1. 淡暗褐色粘土
 2. やや明るい暗褐色粘土
 3. やや明るい暗褐色粘土
 4. 淡暗褐色粘土
 5. やや暗い褐色粘土
 6. 暗褐色粘土

- 土層名
1. 暗褐色粘土
 2. 淡褐色粘土
 3. やや明るい粘土
 4. 〃
 5. 暗褐色粘土
 6. 淡暗褐色粘土
 7. 暗褐色粘土
 8. にぶい暗褐色粘土
 9. 〃
 10. 暗褐色粘土 (柱痕)

第177図 23号掘立柱建物跡実測図 (1/80)

の沈み込んだ痕跡と思われるものがあり、長さ60cm、幅30cmを測る。柱7から9は束柱で、70×180cm程の長方形を呈し、北側にテラスをもつ。柱9で柱の沈み込みがあり、その径で32cmを測る。深さは42cmと浅いためか、抜き取り痕は見られない。

遺物(第186図7～19、第232図32・33、第242図4)7は袋状口縁壺で、8～10は小型甕、11・12は中型甕の口縁部、13・14は短頸壺の口縁部、15は小型甕の底部で赤変している。16は底部、17・18は鼓形器台の裾部で赤変している。19は小型器種の底部。柱1からは石庖丁の完形品(第232図32)が、柱4からは石庖丁(第232図33)と粘板岩製紡錘車の残欠(第242図4)が出土している。(秦)

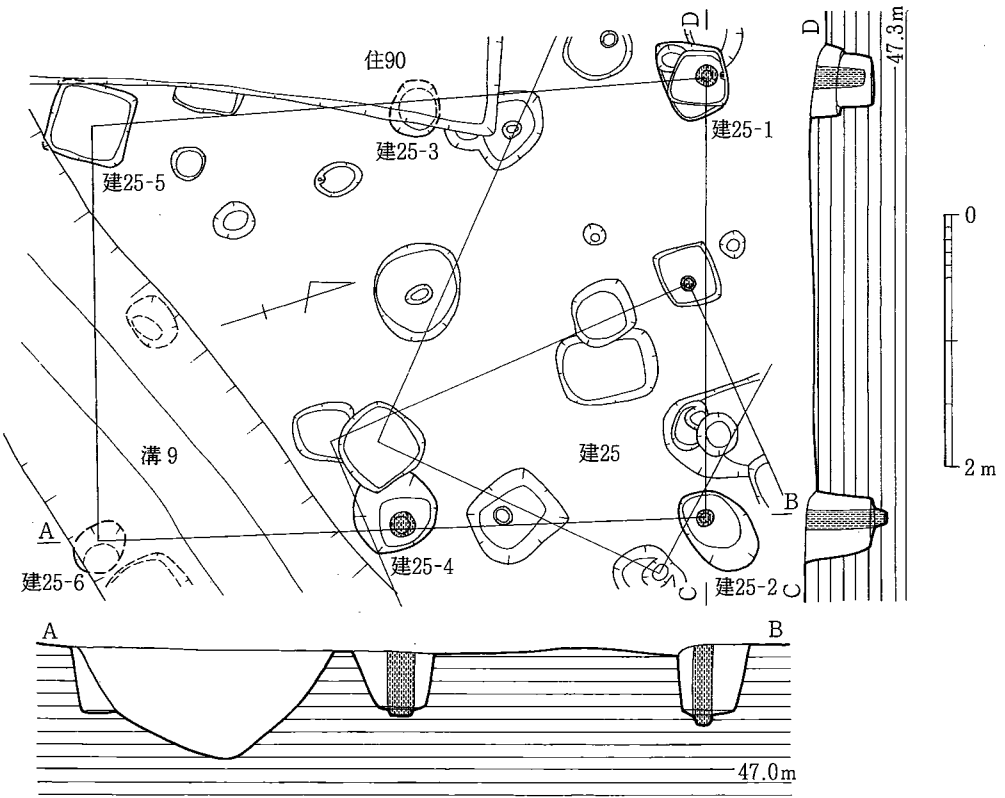
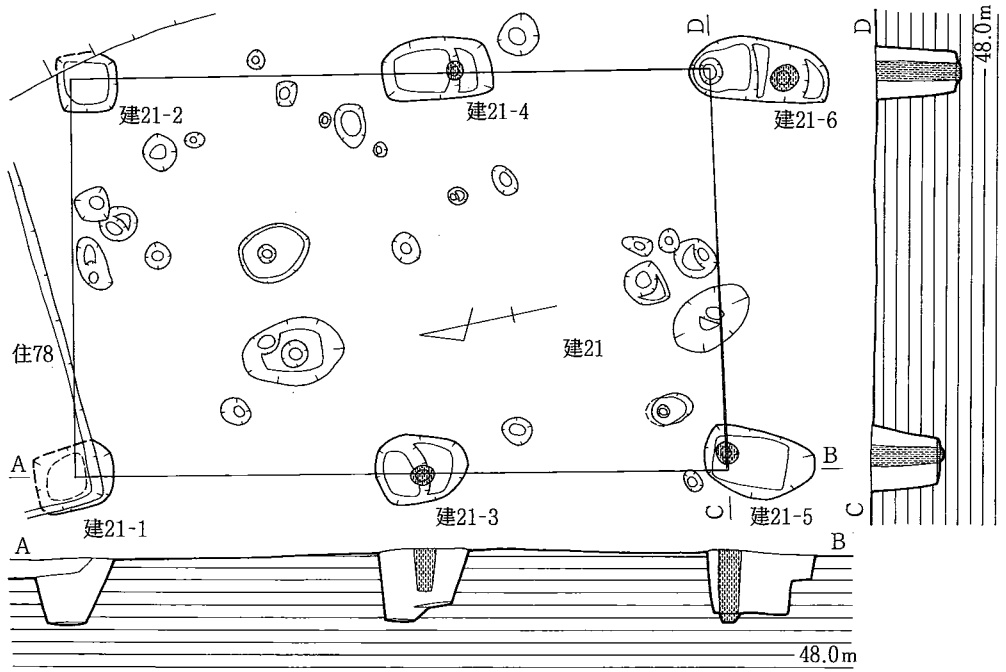
24号掘立柱建物跡 (図版92 第179図)

平坦面中央東側の掘立柱建物跡の密集地帯に位置する、梁行2.85m、桁行4.25～4.4mの1×2間の掘立柱建物跡である。柱穴は75～115cm前後の方形プランを呈し、深さは残りのよいもので100cmを測る。柱6は東壁が緩やかに立ち上がっているため、抜き取りの可能性はある。柱痕は検出されたもので径22cmを測る。柱穴底面からは礎板の沈み込んだ痕跡と思われるものが検出された。柱4では、長さ53cm、幅25cmの板状のものが柱穴の南半部に、柱穴短辺と平行に検出された。柱の沈み込みは、この中央に位置している。柱5では柱穴東半部に、柱の沈み込みを挟んで板状のものが2本、柱穴長辺と平行に並置されている。南側は長さ32cm、幅12cm、北側は長さ42cm、幅16cmと大きさが等しく、柱の沈み込みが2つの板状の痕跡のほぼ中央に位置していることから、2本の板の上にもう1本をH形に組んだ礎板が想定される。柱6は35×25cmの方形の板状の痕跡が柱穴底面の南西隅に、掘立柱建物跡主軸よりやや傾いて検出されている。これは、22号掘立柱建物跡柱2のものと同規模である。他の痕跡に比べて深いのは、掘りすぎのためであろう。本掘立柱建物跡は22号掘立柱建物跡を切っているが、この掘立柱建物跡とは2つの柱穴がほぼ同じ位置にあり、主軸方向がほぼ90°振れていることから、22号掘立柱建物跡の建て替えと考えられる。

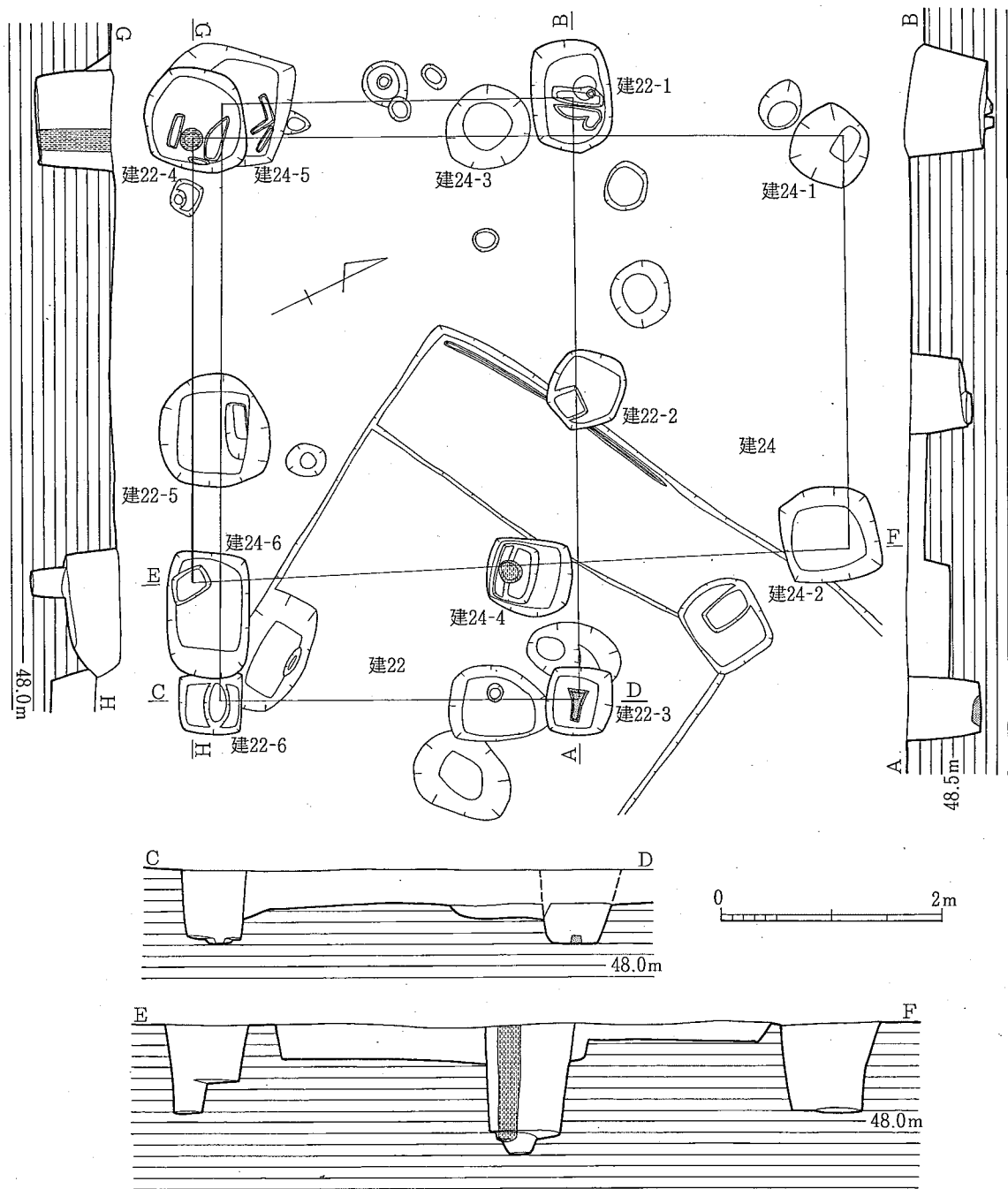
遺物は、柱1の埋土上位より鉄製鋤先片(第244図3)が出土しているほかは、実測できる遺物が出土しておらず、時期は不明であるものの、14・15号竪穴住居跡・90号竪穴住居跡を切ることで、弥生集落の末期のものと思われる。(秦)

25号掘立柱建物跡 (図版98 第178図)

平坦面中央東側の掘立柱建物跡の密集地帯に位置する、梁行3.27～3.46m、桁行4.85～4.92mの1×2間の掘立柱建物跡だが、柱3が90号竪穴住居跡に、柱6が9号溝に切られているので、確実性に欠ける。柱穴は一辺50～75cmの略方形プランで、深さも残りのよいもので52cmと深い。柱痕は検出されたもので径12～20cmを測る。実測できる遺物が出土しておらず、時期は不明だが、15号掘立柱建物跡・90号竪穴住居跡に切られるので、それ以前である。(秦)



第178图 21·25号掘立柱建物跡实测图 (1/60)



第179图 22·24号掘立柱建物跡実測图 (1/60)

26号掘立柱建物跡 (図版98 第180図)

平坦面中央に位置する、梁行3.5m、桁行6.22mの1×2間の掘立柱建物跡だが、柱1・2が9号溝に切られ、柱4・6が62号竪穴住居跡に切られているので、確実性に欠ける。柱穴は長辺120cm前後、短辺75～80cmと大きめの方形プランで、深さも残りのよいもので73cmと深い。柱3は北側にテラスをもつが、柱穴短辺に沿っているので、抜き取りではないと思われる。柱痕は検出されたもので径26cmを測る。この大きさから、柱1の底面の窪みは柱の沈み込みの可能性が高い。62・65号竪穴住居跡に切られる。柱5は27号掘立柱建物跡と切り合っているが、前後関係は不明である。

遺物(第186図20～25)20は小型甕の口縁部、21は中形甕の口縁部、22・23は甕の底部、24は小型壺の底部、25は杓形支脚である。(秦)

27号掘立柱建物跡 (図版99 第181図)

平坦面中央に位置し、9号溝に切られている。梁行1.96～2.23m、桁行3.9mの1×2間の掘立柱建物跡である。規模は、もう1間北に延びる可能性があるが、10号溝や62号竪穴住居跡に切られるため、確実性に欠ける。柱穴は55～85cm前後の略方形プランで、深さは23～55cmとややばらつきがある。柱2は10号溝に切られ、柱4は21号竪穴住居跡を切る所以、それらの平面プランは明確でない。柱痕は検出されたもので径16cmを測る。柱3の底面からは、礎板の沈み込んだ痕跡と思われるものがあり、長さ41cm、幅26cmの板状のものが柱穴の南半部に、柱穴短辺と平行に検出された。

遺物は実測できるものがなく、26号掘立柱建物跡との切り合いもわからなかったが、21号竪穴住居跡より新しく、62号竪穴住居跡より古いものである。(秦)

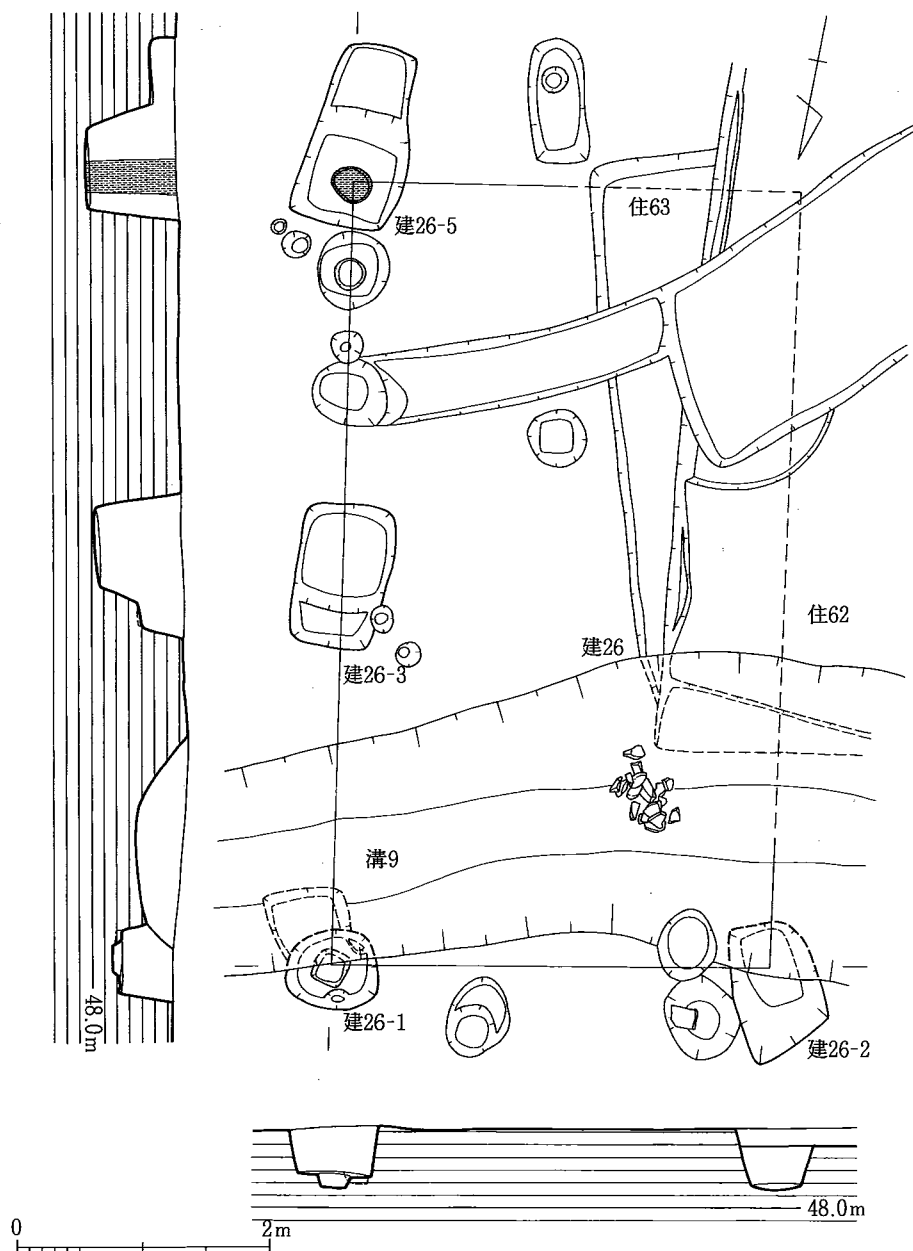
28号掘立柱建物跡 (第181図)

平坦面北東部の掘立柱建物跡の密集地帯に位置する、梁行4.36m、桁行6.26mの1×2間の掘立柱建物跡だが、柱穴は径42～72cmの不整円形プランで、深さも32～46cmとばらつきがあり、柱痕が掘り形の底面より深いものと、掘形内に収まるものが共存しているので、確実性に欠ける。また、柱6は74号竪穴住居跡に切られているので、1×1間の可能性もあるが、ここではこの規模で復元する。柱痕は検出されたもので径22～33cmを測る。実測できる遺物が出土しておらず、時期は不明だが、74号竪穴住居跡に切られているのでそれ以前であろう。(秦)

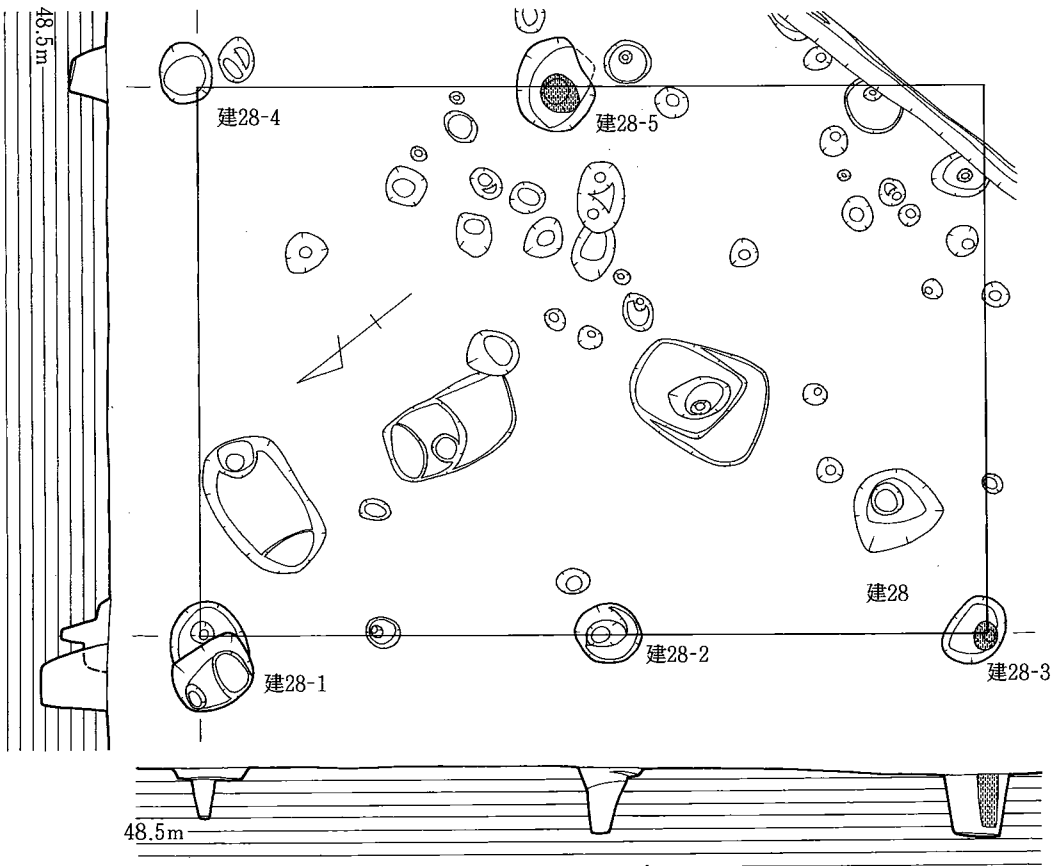
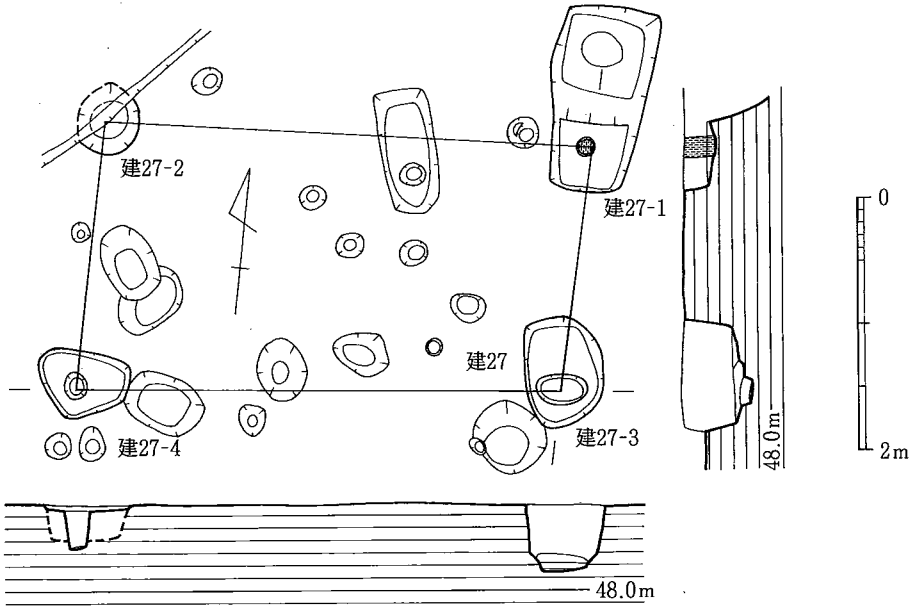
30号掘立柱建物跡 (図版100 第183図)

平坦面中央北側の掘立柱建物跡の密集地帯に位置する、梁行2.5～2.65m、桁行3.95～4.22mの1×2間の掘立柱建物跡である。柱穴は一辺55～85cmの略方形プランを呈し、深さは残りの

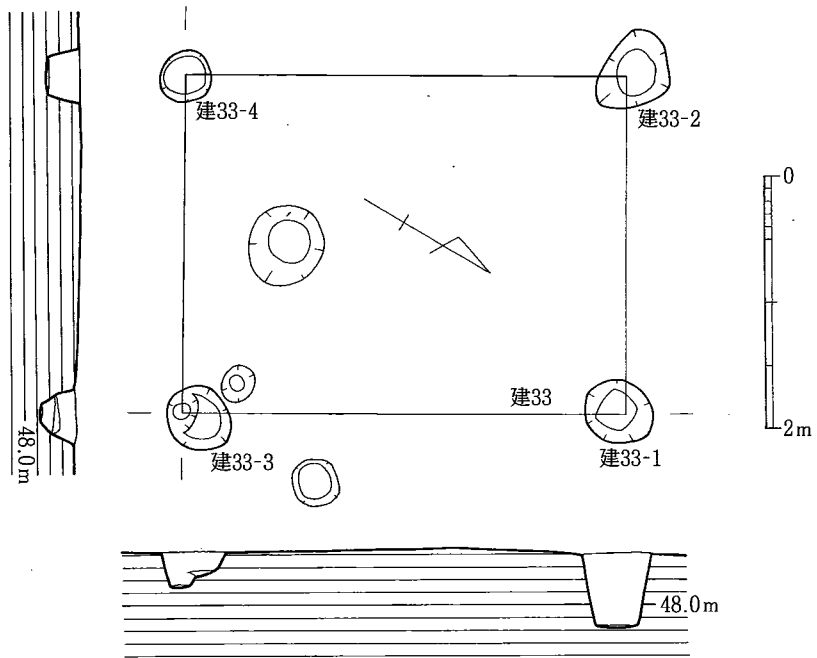
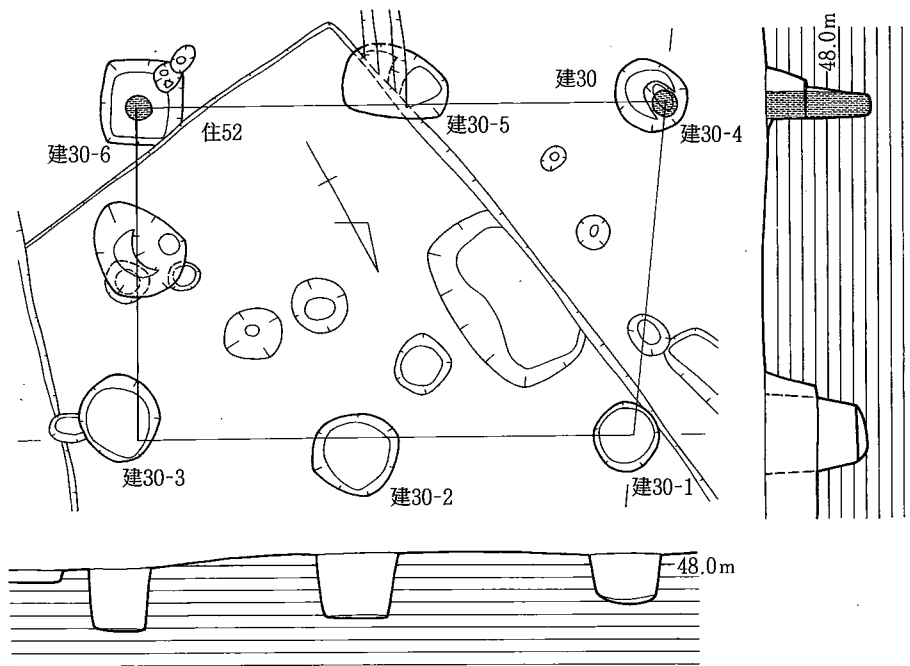
よいもので80cmを測る。柱痕は検出されたもので、径20cm前後を測る。実測できる遺物が出土しておらず、時期は不明だが、52号竪穴住居跡を切るので、それ以降である。 (秦)



第180図 26号掘立柱建物跡実測図 (1/60)



第181图 27·28号掘立柱建物跡実測図 (1/60)



第182图 30·33号掘立柱建筑物迹实测图 (1/60)

31号掘立柱建物跡 (図版100 第183図)

平坦面中央北側の掘立柱建物跡の密集地帯に位置し、54号竪穴住居跡を切る、梁行2.85～3.0m、桁行4.25mの1×1間の掘立柱建物跡だが、梁と桁が逆で、北側斜面に半分が失われた1×2間の掘立柱建物跡の可能性もある。後者の場合、桁行6mとなり、規模が4号掘立柱建物跡とほぼ一致する。柱穴は一辺80～95cmの方形プランで、深さは残りのよいもので62cmを測る。柱痕は検出されたもので、径25cm前後を測る。柱穴底面からは礎板の沈み込んだ痕跡と思われるものが検出された。柱1では、長さ42cm、幅38cmの板状のものが底面のほぼ中央に、柱穴短辺と平行に検出された。柱2では底面のほぼ中央に、長さ46cm、幅30cmの方形の板状のものがあった。柱3では、長さ40cm、幅22cm前後の方形の板状の痕跡が、柱穴底面の南側に、掘立柱建物跡主軸と同方向に検出されている。柱1の柱痕は、この痕跡の上に位置しているので、礎板と考えられる。本掘立柱建物跡は、近接する9号掘立柱建物跡とは主軸方向が等しく、柱間スパンもほぼ等しいので、建て替えたものと考えられる。32号掘立柱建物跡とは主軸方向がやや振れるが、ほぼ同じ位置に占地しているので、同様に建て替えの可能性はある。

遺物(第186図26～28)26は壺の胴部、27は高杯脚部、28は小型器種の底部である。(秦)

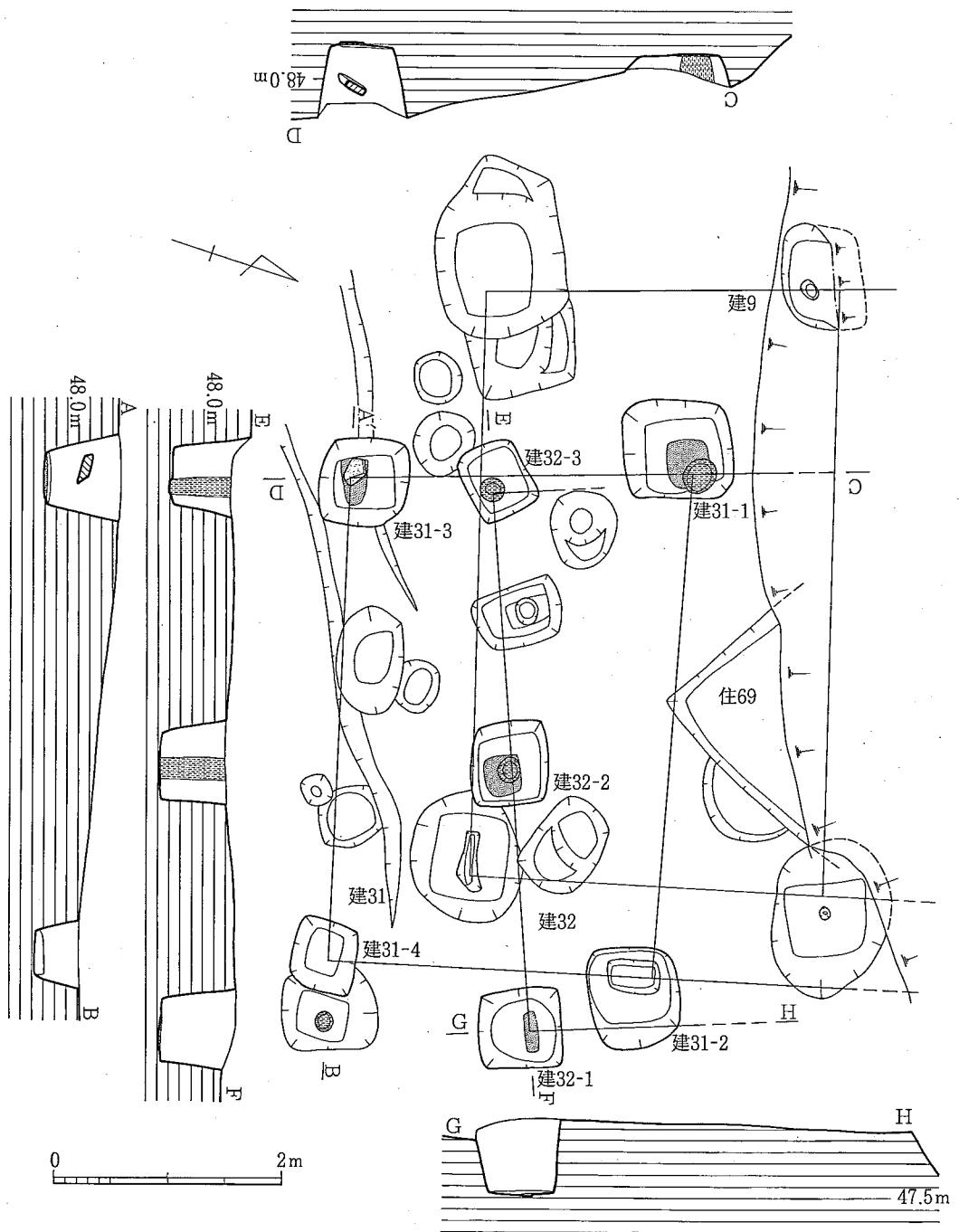
32号掘立柱建物跡 (図版100 第183図)

平坦面中央北側の掘立柱建物跡の密集地帯に位置するため不明確だが、梁行不明、桁行4.75mの1×1間の掘立柱建物跡を復元した。柱穴は一辺55～70cmの方形を呈し、深さは残りのよいもので65cmを測る。柱痕は、径20cm前後を測る。柱穴底面からは礎板の沈み込んだ痕跡と思われるものが検出された。柱1では、長さ35cm、幅12cmの板状のものが柱穴のほぼ中央に、掘立柱建物跡主軸と平行に検出された。柱2では柱穴のほぼ中央に、長さ36cm、幅30cmの方形の板状のものがあり、掘立柱建物跡主軸と同方向に検出されている。柱2の柱痕は、この痕跡の上に位置しているので、礎板と考えられる。実測できる遺物が出土しておらず、時期は不明だが、54号竪穴住居跡・9号掘立柱建物跡を切るなので、それ以降である。(秦)

33号掘立柱建物跡 (図版101 第182図)

平坦面中央北側の掘立柱建物跡の密集地帯に位置する、梁行2.67m、桁行3.53mの1×1間の掘立柱建物跡であるが、東にもう1間延びる可能性もある。柱穴は一辺30～60cmの不整形プランを呈し、深さは残りのよいもので57cmを測る。

遺物(第186図1～8、第242図9)1は複合口縁壺、2・3は中型甕の口縁部、4は甕棺の口縁部、5はの底部、6は甕の底部で2次焼成を受けており、赤変が見られる。7は長頸壺の頸部で、8は鼓形器台である。柱4の埋土から石弾(第242図9)が出土している。(秦)



第183图 31·32号掘立柱建物迹实测图 (1/60)

34号掘立柱建物跡（第173図）

平坦面中央東側の掘立柱建物跡密集地帯に位置する。柱穴の集中する地区なので明瞭に確認できなかったが、梁行1.50m前後、桁行2.80m前後の1×2間の掘立柱建物跡を復元した。柱穴は一辺55～75cmで、いずれも方形を呈し、深さは残りのよいもので40cmを測る。柱1は掘形が大きく、柱痕が検出されていないことから、抜き取りの可能性をもち、2段掘りの下段で、他の柱穴とほぼ同じ大きさになる。柱痕は、検出されたもので、径15cm前後を測る。

実測できる遺物が出土していませんが時期は不明だが、13号掘立柱建物跡に切られるので、それ以前と考えられる。（秦）

35号掘立柱建物跡（図版101 第184図）

平坦面中央東側の掘立柱建物跡の密集地帯に位置する。91・93号竪穴住居跡を切る梁行3.90～3.95m、桁行4.40～4.54mの1×2間の掘立柱建物跡で、柱穴は一辺65cm前後のものがある。いずれも方形プランを呈し、深さは残りのよいもので70cmを測る。柱5・6はやや不整形プランで、柱痕が検出されていないことから、抜き取りの可能性をもち、柱1は91号竪穴住居跡の支柱穴を切っているが、同竪穴住居跡床面で確認されたため、上面での法量は不明である。柱痕は、検出されたもので径16～20cmを測る。本掘立柱建物跡は、規模がほぼ同じで、焼失したと思われる35号掘立柱建物跡を切り、出土遺物の時期もほぼ同じであることから、35号掘立柱建物跡の建て替えの可能性が高い。

遺物（第187図9～12）9は複合口縁壺で、10は甕の口縁部、11・12は小型甕の底部で、2次焼成のため赤変している。（秦）

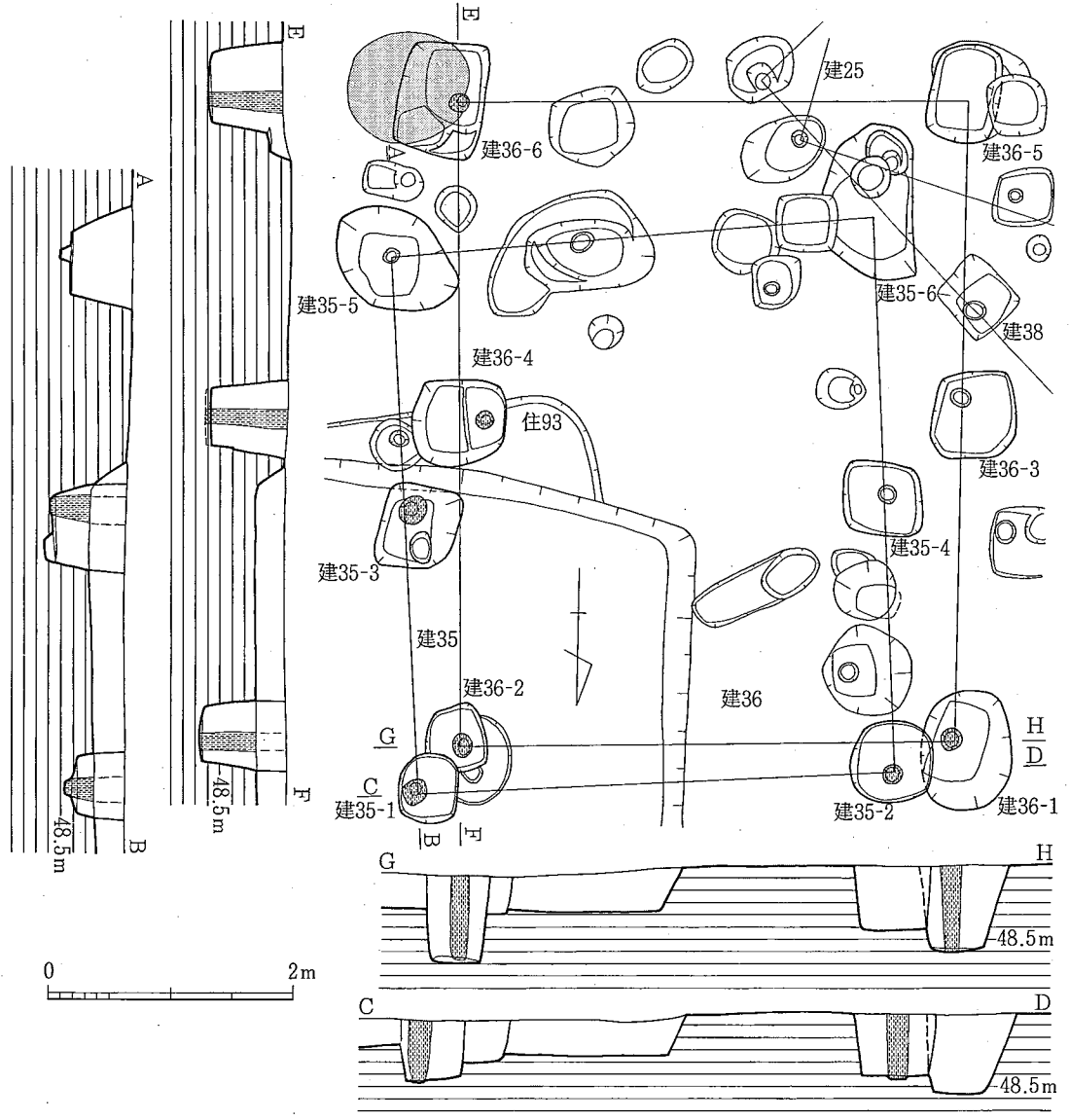
36号掘立柱建物跡（図版101 第184図）

平坦面中央東側の掘立柱建物跡の密集地帯に位置する。91・93号竪穴住居跡を切る梁行4.07～4.20m、桁行5.24～5.26mの1×2間の掘立柱建物跡で、柱穴は小さいもので57×80cm、大きいもので75×98cmで、いずれも方形プランを呈し、深さは残りのよいもので70cmを測る。ピット2は91号竪穴住居跡の支柱穴を切っているが、同竪穴住居跡床面で確認されたため、上面での法量は不明である。柱痕は検出されたものが多く、径15cm前後を測る。柱6の上面で焼土が検出されており、柱の抜き取り痕がないことから、本掘立柱建物跡は焼失した可能性がある。本掘立柱建物跡を切る35号掘立柱建物跡は規模がほぼ等しく、出土遺物の時期も近接していることから、本掘立柱建物跡焼失後の建て替えの可能性が高い。

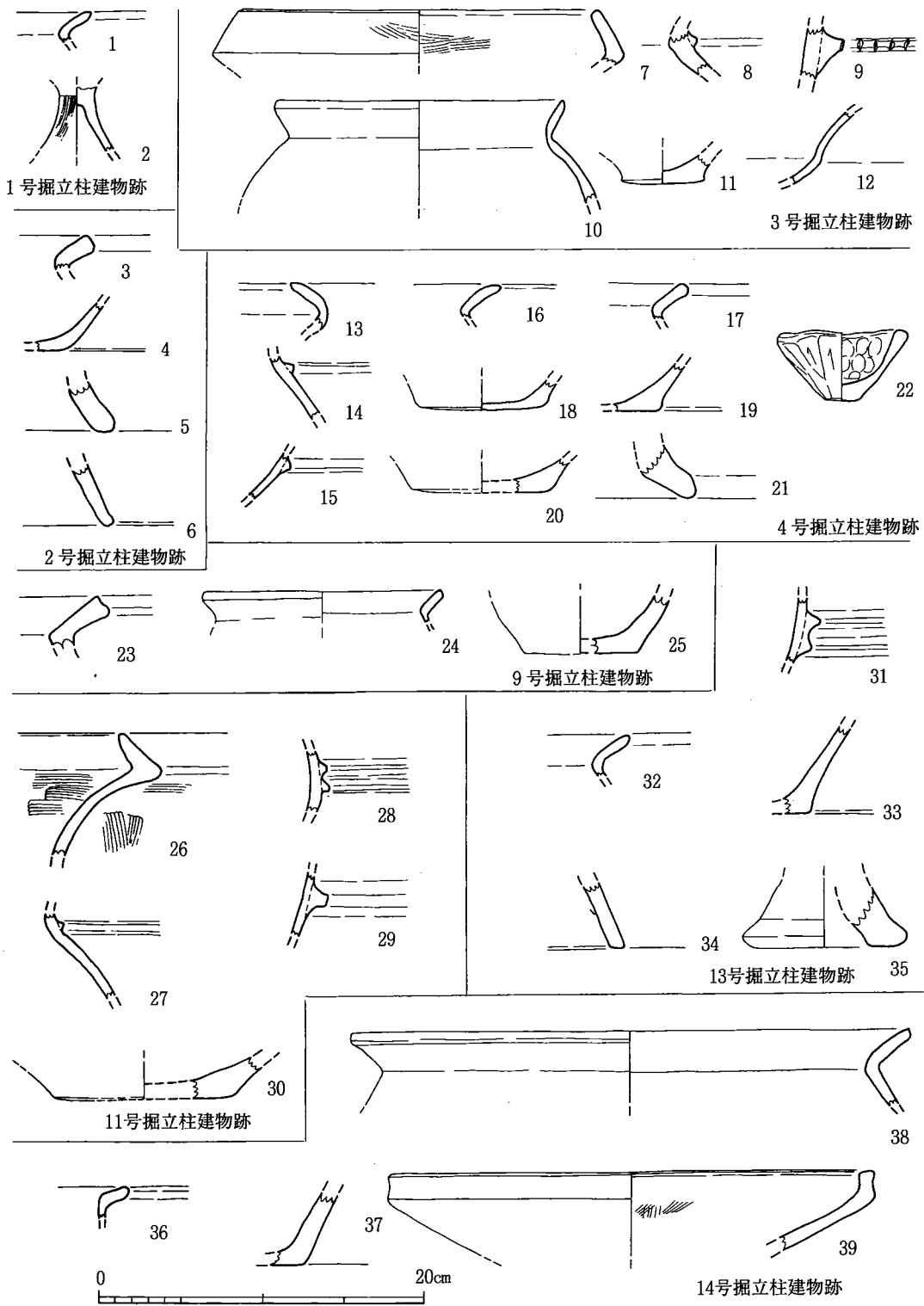
遺物（第187図13～16、第232図37）13は壺の肩部で、14・15は底部、16は鼓形器台の裾部だろう。柱6埋土から石庖丁の残欠（第232図37）が出土している。（秦）

37号掘立柱建物跡 (第188図)

平坦面中央東側の掘立柱建物跡密集地帯に位置する。9号溝に切られているため、残りが良くない。梁行2.78m、桁行3.60mの1×2間の掘立柱建物跡で、柱穴は一辺55cm前後の方形プランを呈し、深さは残りのよいもので52cmを測る。柱1には階段状の抜き取り穴があり、柱痕は抜き取り穴の及ばなかった深さで確認された。柱痕は確認できたもので、径13~18cmを測る。実測できる遺物が出土しておらず時期は不明だが、35号掘立柱建物跡を切り、38号掘立柱建物



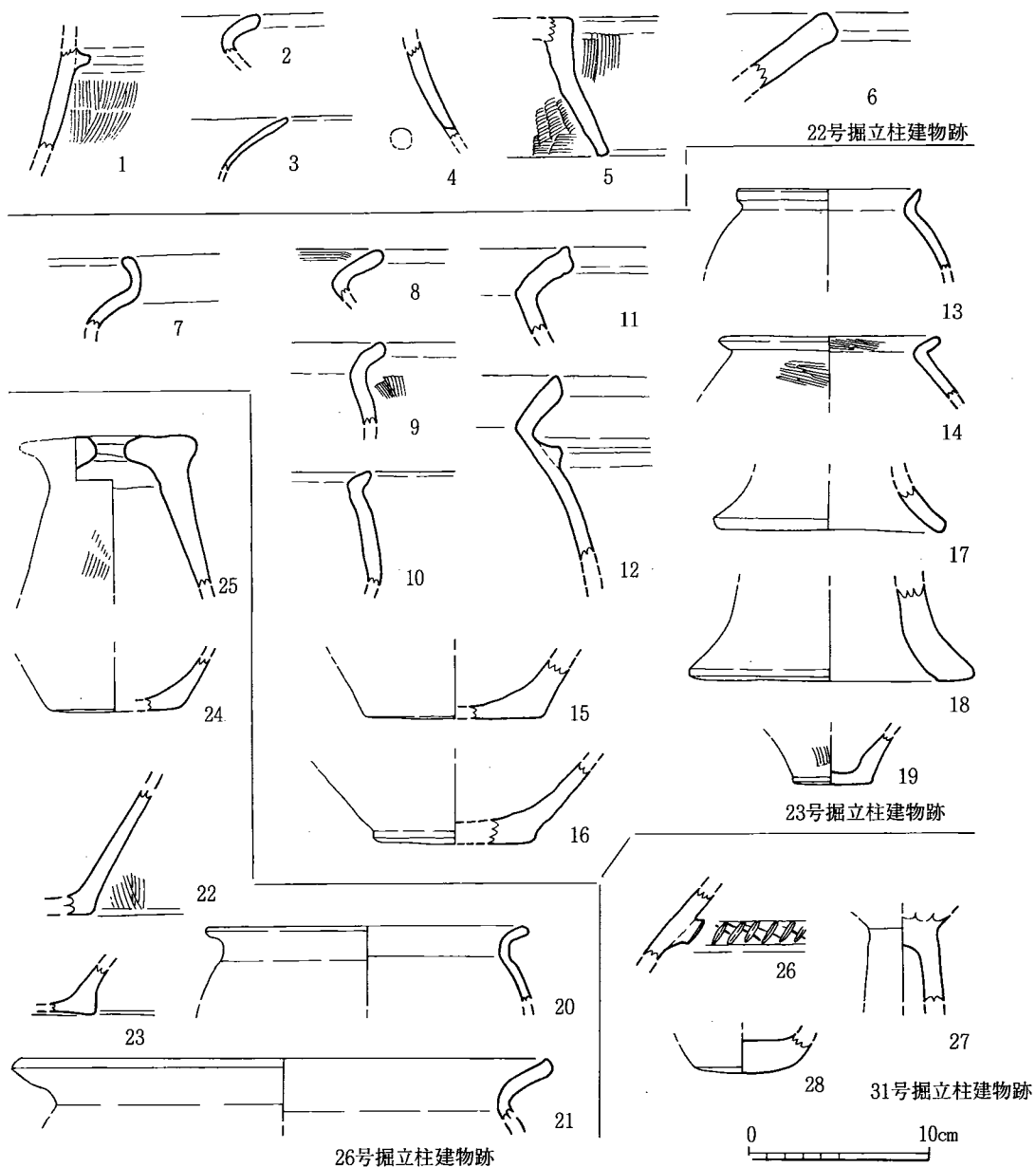
第184図 35・36号掘立柱建物跡実測図 (1/60)



第185图 1~14号掘立柱建物跡出土土器实测图 (1/4)

跡に切られるので、その間の時期の掘立柱建物跡と考えられる。

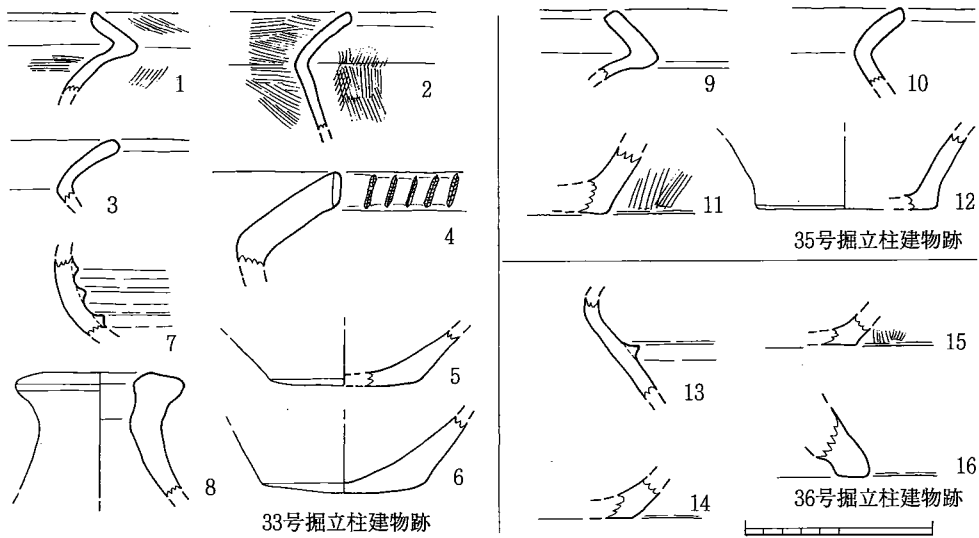
(秦)



第186図 22~31掘立柱建物跡出土土器実測図 (1/4)

38号掘立柱建物跡 (第188図)

平坦面中央東側の掘立柱建物跡密集地帯に位置する。9号溝に切られているため、残りが良くない。梁行3.17m、桁行4.82mの1×2間の掘立柱建物跡で、柱穴は一辺45cm前後の方形プランで、深さは残りのよいもので45cmを測る。柱1は掘り形が大きいが抜き取りではないと思われる。2段掘りの下段で、他の柱穴とほぼ同じ大きさになる。柱痕は確認できたもので、径12~16cmを測る。実測できる遺物が出土してなく時期は不明だが、37号掘立柱建物跡を切り、90号竪穴住居跡に切られるので、その間の時期の掘立柱建物跡と考えられる。 (秦)



第187図 33・35・36号掘立柱建物跡出土土器実測図 (1/4)

1001号掘立柱建物跡 (図版104 第189図 表50・51)

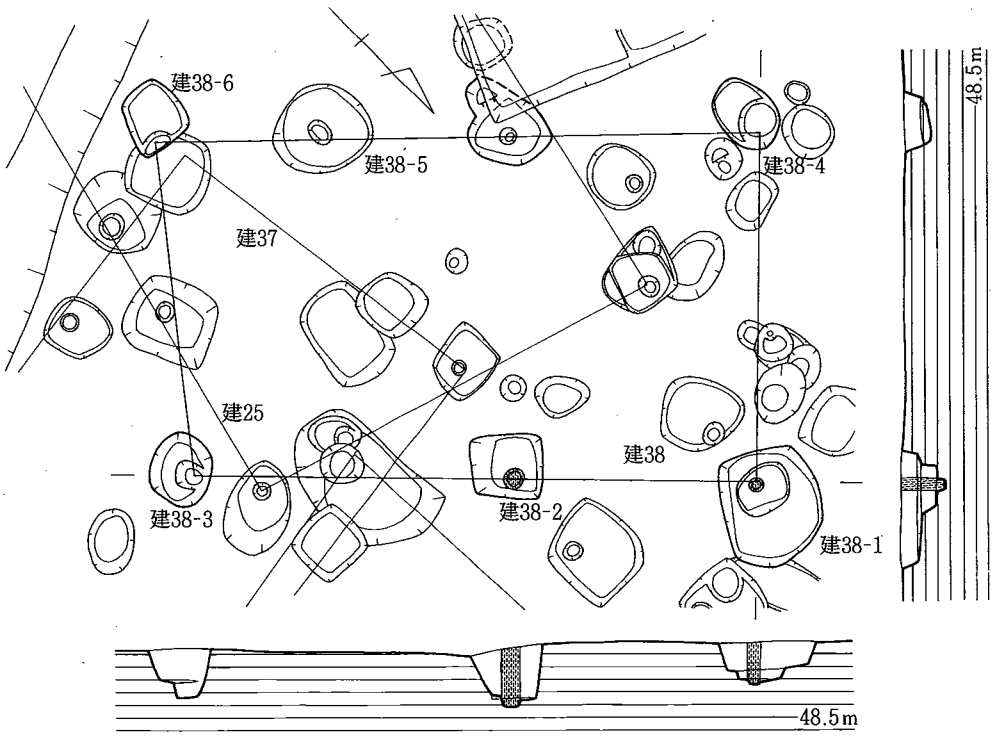
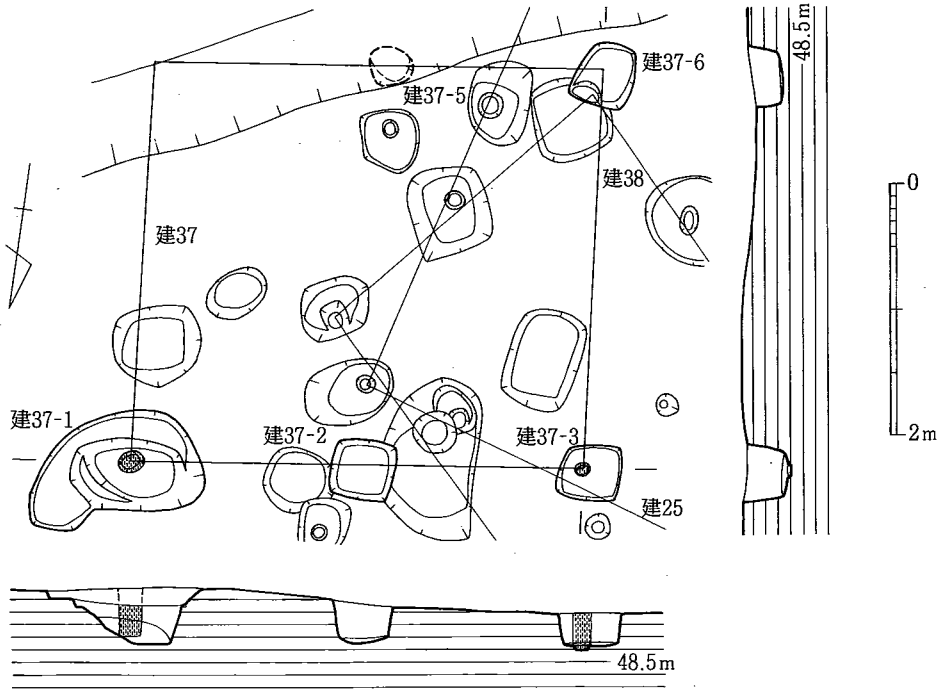
重複関係

建1001号は、建て替えが1回行われており、切り合いによる新・旧関係を旧→新で示すと、建1001号B→建1001号Aの順になる。

また、P3掘形と東側の住1001号西壁間は6cmと近接し、重複関係にあるが、直接に切り合わないため、新・古関係は不明である。

関連遺構

付図1に示すように、建1001号西面には、溝状遺構1001・1003号群が西-東方向に検出され、また、同様に土坑11・12・1001~1003号群が検出され、建1001号東面には住1001号・建1027号が出土し、同南面には建2011・住1046号群や住1462号が出土している。



第188图 37·38号掘立柱建物跡実測図 (1/60)

上記の溝状遺構・土壌群からは多量の祭祀行為に伴う土器群が出土し、住1001号には住居通有の中央土壌D11が配されておらず、建1027号周辺では3軒の住居以外の出土がなく、住1001号南面には近接する他の遺構もない。

また、建2011号・住1046号群や住1462号では後述するように集落内での特別な属性が指摘できる。

以上のことなどから、出土遺物の検討前のことではあるが、1間×2間（166cm×363cm）で近接棟持柱P21—P22を配す建1001号Aは、建1001号Bと共に、規模は超小型の建物ではあるが、以上の遺構群同様に集落内での特別な属性を有していることを強く示唆する。

1001号A建物

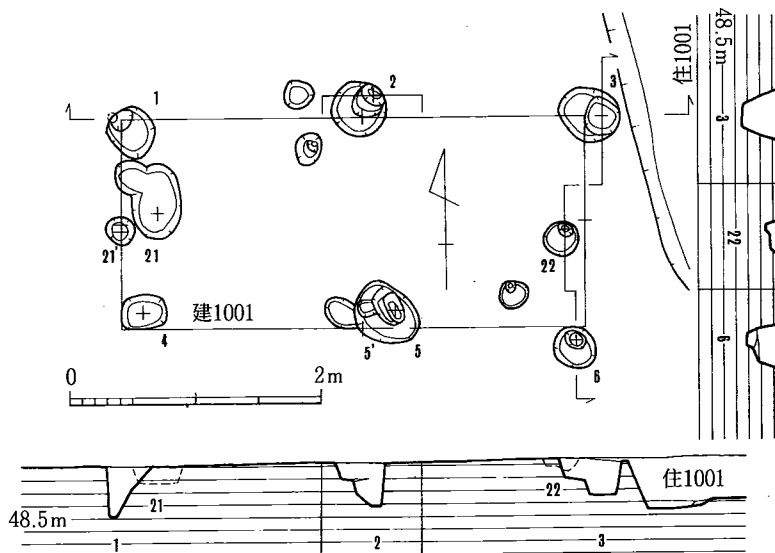
建物規模は、1間×2間（166cm×363cm、面積6.0㎡）で、西・東妻側柱筋内に近接棟持柱P21・22を配す。

梁間は、P1—P4間が154cm、P2—P5間が170cm、P3—P6間が178cmと順次大きくなる柱穴配置は意図的なものか。

1001号B建物

P21'を建1001号Bの棟持柱とするより、建1001号Aの棟持柱P21の掘形から、建1001号Bの東・西棟持柱は建1001号AのP21・22に重複するものとすべきか。

主柱P5'の柱痕を、建1001号AのP5掘形内で検出したことなどから、建1001号B→建1001



第189図 1001号A・B掘立柱建物跡実測図（1/60）

号Aへと建て替えられたものとした。

(馬田)

1002号掘立柱建物跡 (遺構に関しては来年度に報告)

遺物(第193図1～5)1は壺の肩部で、一条の三角形貼付け突帯を持つ。内外面はナデを施す。2は甕の口縁小片で、外面をナデる。3～5は底部片で、復元底径が順に7.8cm・11.6cm・8.4cm。すべて平底で、3は外面に粗いハケを施す。その他は内底にナデを僅かに確認できる程度で、摩滅が激しい。

(齋部)

1005号掘立柱建物跡 (遺構に関しては来年度に報告)

遺物(第193図6)平底の甕の底部片で復元底径は9.2cm、摩滅のため器面調整は不明。器壁がやや厚く、端部を僅かに欠く。

(齋部)

1008号掘立柱建物跡 (遺構に関しては来年度に報告)

遺物(第193図7・8)7は口縁部小片で内外面にナデを施す。8は底部小片で復元底径8.0cm。外面は摩滅のため調整不明であるが内面にはヨコナデが認められ、内底には黒色の付着物が見られる。

(齋部)

1009号掘立柱建物跡 (遺構に関しては来年度に報告)

遺物(第193図9)器台裾部の小片で、復元径12.2cm。摩滅のため器面調整不明。

(齋部)

1011号掘立柱建物跡 (図版105 第190図 表52)

重複関係は、建1012号で詳述。

建物規模は、1間×2間(250cm×463cm。面積11.6㎡)で、棟持柱を配さない。

なお、この建物に近接して、北桁行のP2～P3間でP7が出土した。

95cm×106cmの隅丸長方形の土壇状で、土壇内の西端と土壇外で柱穴様小ピットも出土した。

また、南桁行柱筋からP5が外に出ることや上記のことから、建1011号としたものは建物ではなく(P1～6の埋土は類似していたが)、床面まで削平された竪穴住居の、P7が北壁中央土壇D21、P7内柱穴様小ピットがDP211、P2・3・5・6が支柱穴11～14と考えるべきか。

(馬田)

1012号掘立柱建物跡 (図版105・106 第190図 表53)

建1012号群(建1011～1013号)の重複関係

建1012号は、後述することから、建て替えが1回行われており、切り合いによる新・旧関係

を旧→新で示すと、建1013号→建1012号となり、建1013号P10を住126が切ることから、古→新で示すと、建1013号→建1012号→住126号の順になる。

また、建1012・1013号の柱穴掘形と建1011号の掘形とは近接し、屋根構造を考慮すると、3棟は重複関係にあるが、新・古関係は不明である。

建1012号の建物規模は、1間×4間(335cm×749cm。面積25.1㎡)、建1013号の規模は1間×4間(378cm×681cm。面積25.8㎡)で、共に梁間1間×桁行4間、面積もほとんど一致する。

また、建1012号P6・7と建1013号P5・22は切り合うだけでなく、両者の主軸(建1012号主軸はN-86°-W、建1013号主軸はN-87°-E)は直交するに等しい。

加えて、建1012号の桁行柱間 a_2 平均187cmと建1013号柱間 b_2 平均189cmもほとんど一致し、共に隅柱を除く桁行柱を桁行柱筋外に配す。

以上のことなどから、建1012号→建1013号へと建て替えられたものと考えた。

なお、建1012号は妻側柱筋外に、近接棟持柱を配す。(馬田)

1013号掘立柱建物跡(図版105・106 第190図 表54)

重複関係と建物規模は、共に建1012号で詳述。(馬田)

1014号掘立柱建物跡(図版4 第191図 表55)

建1014号群(建1014・1020・1021号)の重複関係

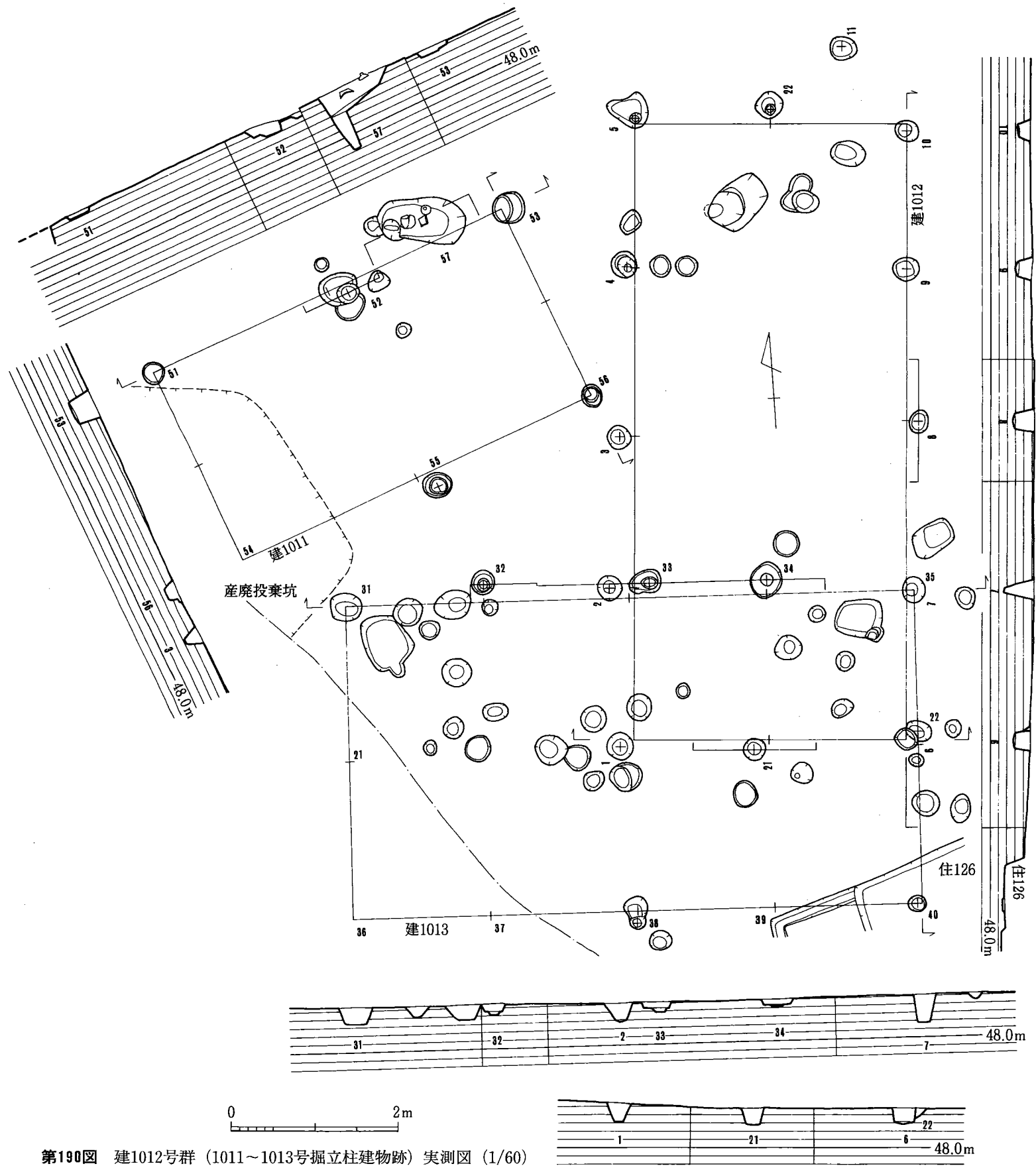
建1014・1020・1021号は重複関係にあり、建1014号のP2・11が建1020号のP21・45をそれぞれ切ることから、古→新で示すと、建1020号→建1014号となるが、両建物と建1021号との新・古関係は不明である。

また、建1014・1020号の各P1・P41は住2号に切られた状態であるが、建1014号P7-建1020号P43を結ぶ線以北は、建物の柱穴群の掘形としての検出ではなく、無数の柱穴様ピット群として前年度に調査・図示されたものであるため、新・古関係は不明である。

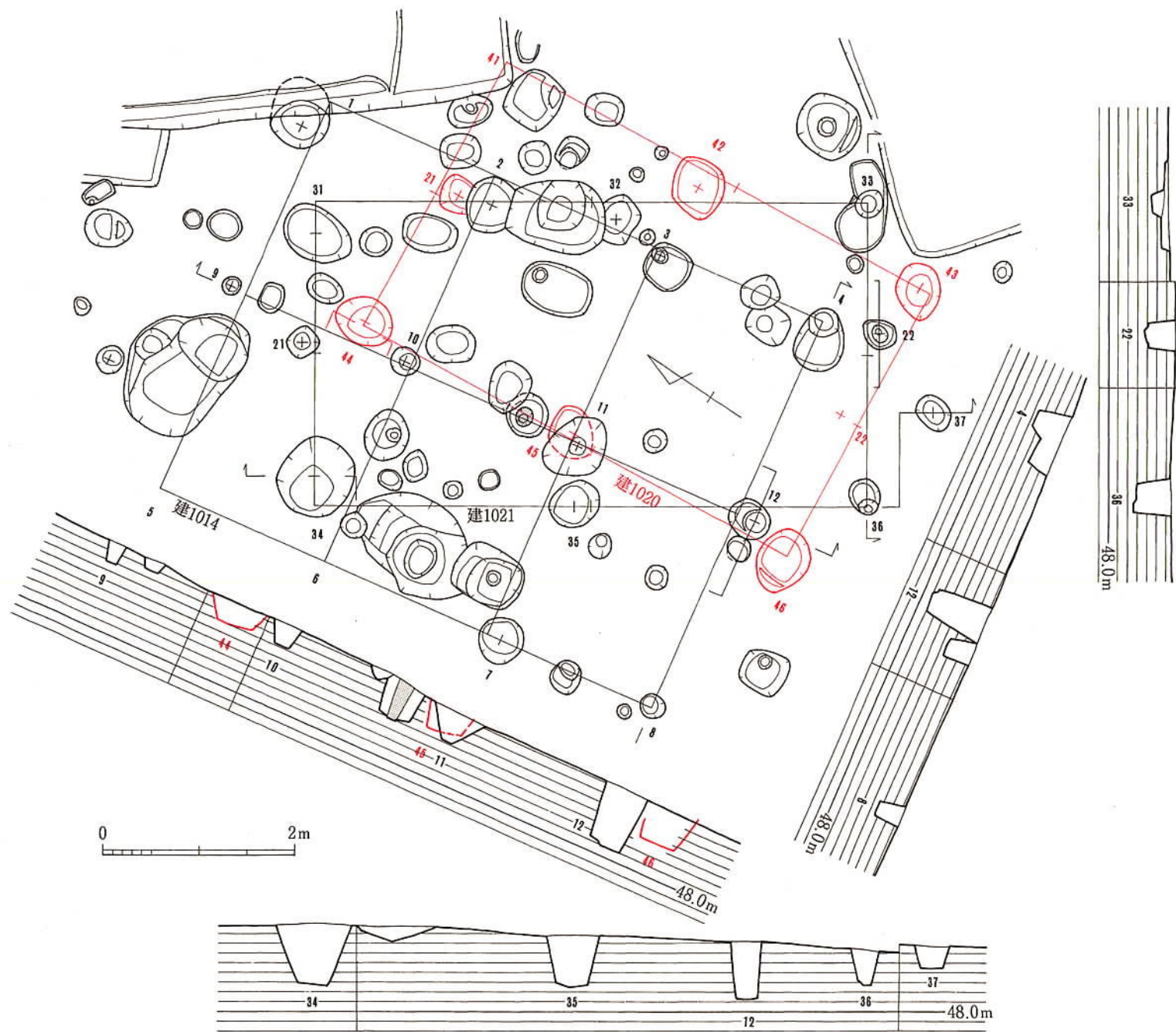
同様に、例えば、建1014号のP5-P9間の柱穴2個と大型掘形1個と、P6-P7間の柱穴2個と大型掘形1個とは、建1021号P34を中心として対峙することから、この柱穴計4個は建て替え後に、後世に削平・消滅した住居の各棟持柱穴で、建1021号P34はその住居の中央土壙と重複するものと考えられるが、新・古関係は不明である。

以上のように、建1014号群・南側の建1012号群の確認・検出から、これら無数の柱穴様ピット群のなかには、他にも建物・住居跡とすべき例もあると思われるが、前述の事由に因り、不明である。

建1014号の建物規模は、2間×2間(418cm×568cm。面積23.7㎡)で、切妻側柱筋外に近接棟持柱P9・12を配す。(馬田)



第190图 建1012号群 (1011~1013号掘立柱建物跡) 实测图 (1/60)



第191图 建1014号群 (1014·1020·1021号掘立柱建物跡) 实测图 (1/60)

遺物（第193図10～13）10・11は甕の口縁部小片で、双方とも外面に煤が直線的に付着する。内外面ともナデ調整を施し、11は端部が二次加熱を受けて赤変する。12・13は底部片で、12の復元底径は8.4cm。11の内面はナデを施し、外面は二次加熱を受けて赤変する。（齋部）

1015号掘立柱建物跡（図版4 付図5 表56）

重複関係は、建2005号で詳述。

建物規模は、1間×4間（434cm×900cm。面積39.1m²。主軸N-83°-E）で、ほぼ西・東妻柱筋下に棟持柱P21・22を配し、既詳述のように、西・東妻柱筋に内接棟持柱P21・22を配す建1017号B（建物規模：1間×2間。416cm×512cm。面積22.5m²）に切られ、建1017号Bは、西・東妻柱筋に外接棟持柱P21・22を配す建1017号A（建物規模：1間×2間。434cm×581cm。面積25.2m²）へと建て替えられる。

詳述の建2005号群中では、上記3棟のみが東-西主軸をとり、棟持柱配置が建1015号（妻柱筋下）→建1017号B（妻柱筋内）→建1017号A（妻柱筋外）へと変化し、他の建1016号A・B、建1018・2005・2006号はいずれも南-北主軸で、棟持柱配置も妻柱筋に内・外接するか、独立棟持柱とする。

以上のことなどから、前述3棟は建1015号→建1017号B→建1017号Aへと順次、建て替えられたことも考えられ、他の建物群よりも古いものか。（馬田）

遺物（第193図14～17）14は台形突帯付きの胴部片で器面調整は摩滅のため不明。15～17は底部片で復元底径は5.0cm・6.0cm。すべて平底で、15・16の内外面はナデ、17は細かいハケ目が認められる。（齋部）

1016号A掘立柱建物跡（図版4 付図5 表57）

重複関係は、建2005号で詳述。

建物規模は、2間×4間（427cm×605cm。面積25.8m²）で、北・南妻柱筋に外接棟持柱P9・12を配す。

なお、主柱P10・11としたが、P9・10を棟持柱P21・22とし、P10・11は床東掘形P81・82とし、1間×4間とすべきと考えられる。（馬田）

1016号B掘立柱建物跡（図版4 付図5 表58）

重複関係は、建2005号で詳述。

建物規模は、1間×3間（388cm×636cm。面積24.7m²）で、北・南妻柱筋に外接棟持柱P21・22を配す。

なお、棟持柱筋下の中央部・P2-P6間・P3-P7間周辺部での掘形検出作業を実施し

でも掘形は出土しなかったことから、棟持柱はP21・22の2本配置のみで、床束は浅い掘形で削平に因り遺存しないものか。(馬田)

遺物(第193図18) 底部小片で復原径7.0cm。摩滅のため器面調整は不明。(齋部)

1017号A 掘立柱建物跡(図版4 付図5 表59)

重複関係は、建2005号で詳述し、建物規模などは、建1015号で既述。(馬田)

1017B 掘立柱建物跡(図版4 付図5 表60)

重複関係は、建2005号で詳述し、建物規模などは、建1015号で既述。(馬田)

遺物(第193図19) 器壁の厚い底部小片で復原径10.8cm。内外面にヨコナデを底部外面にナデを施し、粘土の接合痕が外面に顕著に見られる。(齋部)

1018号掘立柱建物跡(図版4 付図5 表61)

重複関係は、建2005号で詳述。

建物規模は、1間×2間(446cm×490cm。面積21.9m²)で、北・南妻柱筋外に55cm離れて独立棟持柱P21・22を配す。

なお、上記のような棟持柱2本配置から、中央部のP81は、棟持柱を配したのではなく、床束の掘形と考えられる。(馬田)

1019号掘立柱掘立柱建物跡(遺構に関しては来年度に報告)

遺物(第193図20) 平底の底部片で復原径10.3cm。底部外面にハケ目が観察できるが、その他は摩滅・剝離が激しく器面調整は不明。(齋部)

1020号掘立柱建物跡(図版4 第191図 表62)

重複関係は、建1014号で詳述したように建1020号→建1014号の順に新しいが、主軸方向がほぼ等しいだけでなく、建1020号の棟持柱筋と建1014号の西桁行筋が重複し、共に近接棟持柱を配すことなどから、建1020号→建1014号へと建て替えられたものか。

建物規模は、1間×2間(308cm×492cm。面積15.1m²)で、切妻側柱筋内に近接棟持柱P21・22を配す。(馬田)

1021号掘立柱建物跡(図版4 第191図 表63)

重複関係は、建1014号で詳述したように、住2号とは平面プランで重複し、主軸がほぼ等しいことから、両者は時期的に近いものか。

建物規模は、1間×2間(283cm×575cm。面積16.3㎡)で、切妻側柱筋外に近接棟持柱P21・22を配す。(馬田)

遺物(第193図21~24)甕の口縁部小片で、21は復原口径16.0cm。21・22は内外面のヨコナデを確認できる。23は端部に火を受けて黒変し、24は屈曲部外面のナデ以外は摩滅のため不明である。(齋部)

1024号掘立柱建物跡(図版107 付図6 表64・65)

重複関係(建1024号・住127号群)

建1024号は、住128・129号と重複関係にあり、切り合いによる新・古関係を古→新、建て替えによる新・旧関係も把握できるものを旧→新で示すと、住128号→住127号→建1024号B→建1024号Aの順に新しくなり、これら建物・住居群を中世の溝1号が切る。

上記の重複関係は、住128号の壁西半部が住127号の張床除去後で検出され、建1024号AのP5・6掘形がそれぞれ住128号西壁沿高床・住127号東壁高床を切り、建1024号Bの柱穴・柱痕を建1024号Aの柱穴掘形が切ることで確認できた。

なお、建1024号は建1025号・住140号とも重複関係にあるが、遺構間の切り合い部を中世の溝1号に切られるため、新・古・旧関係は不明である。

また、建1024号のP6については、住128号の柱持柱筋下の中央部で検出したため、住128号の中央土壌D11と考えていたが、既述のP5の新・古関係と後述の建物規模などから、P5として報告する。

1024号A建物

建物規模は、1間×3間(313cm×584cm。面積18.3㎡)で、中央部を中世の溝1号に切られるが、梁間313cmであるから、棟持柱や妻柱筋中央での支柱は配さない弥生期の梁間1間型とした。

なお、北桁行筋の断面図に示すように、掘形・柱痕共に東側のP4から西側のP1に向けて底面標高を下げ、P1・4の同比高差は70cmを測ること(P1~6検出時には既に中世溝は掘り下げられていたことも含めて)から、あるいは溝埋没後に、柱掘形底の地山部を求めて深く掘られたものかについて検討を加えた。

しかし、表64に示すように、P5もP6より底面の標高が深く、P5はP1よりも比高差20cmで深いことなどから、当時の建1024号周辺の旧地形は現況に似て東から西に、また北から南に傾斜していたため、そして、P1が特に深いのは、古出の住127・128号の竪穴掘削~埋没に関して地山部がより深くなっていたことも考えられるとの結論を得たことや、表64の計測値などの特徴などから、弥生期の建物として報告するものである。

1024号B建物

建物規模は、1間×3間(313cm×544cm。面積17.0㎡)である。

なお、表64・65の算出値に示すように、建1024号Bの桁行の構築基準は30.2cmの18倍として、また、建1024号Aは同29.9cmの19.5倍(端数)として算出されるが、この桁行の端数については付図6に示すように、建1024号Aの建て替えに際しては、P1・4・5・8を旧柱位置から柱径の分だけ桁行柱筋外配置とすることで規模(面積)を若干でも増加(1.3㎡増)させる意図を看取すべきで、端数は0.5としてではなく、1.5として、処理すべきものである。

また、上記のことを換言すれば、建1024号A・Bに使用された柱径(柱痕)の平均は、両建物の各桁行平均から、 $(584-544) \div 2 = 20\text{cm}$ と算出される。(馬田)

1025号掘立柱建物跡(図版107 付図6 表66)

重複関係(建1025号・住139号群)

建1025号は、住138～140号と重複関係にあり、切り合いによる新・古関係を古→新、建て替えによる新・旧関係も把握できるものを旧→新で示すと、住140号B→住140号A→住138号C→住138号B→住138号A→住139号B→住139号A→建1025号の順に新しくなり、これら建物・住居群を中世の溝1号が切る。

上記の重複関係のなかで、住140号B→住140号A→住139号については、住139号は住140号北壁を切ると共に、住140号B北壁が西壁沿高床上面下で検出されたことで確認(住140号B北西壁隅部は、住140号A床面の石群出土状態図示優先のため、未確認)。

また、住138号→住139号については、住139号を住138号が切る状態で掘り下げられているが、図示するように、住139号AのD11は住138号A・Bの床面から37cm上位で検出されていることで確認できる。

ところで、住139号の支柱穴のなかで、住139号BのP11・その抜去時掘形と住139号AのP12・住139号Bの抜去時掘形は、共に住138号A・B床レベルでの検出であるが、住139号AのP11・住139号BのP12掘形は西・東壁沿高床レベルで検出されており、要検討である。

また、西壁沿高床幅は127cm・東壁沿高床幅は102cmを測り、同じ幅となっていないことも要検討である。

なお、住139号Bの北柱筋下では住138号A・Bの北壁中央部の方形区画内柱穴様ピットHP212・北東壁隅高床が検出され、住138号Aの北柱筋下で住139号AのD11に切られて、住138号A～Cの床中央部床土墾D11・柱穴様小ピットD111も検出され、住138号AのP11に切られる住138号BのP11も検出されている。

以上の検出状態を検討すると、

①住138号Cは、北東壁隅部のみが遺存する小規模の住居として構築。

②住139号A・Bは、住138号Cの北壁を除去して北側に拡大すると共に、北東・南西壁隅高床（北東壁隅部高床の西縁は、住139号BのP12抜去掘形西縁までと復原される）を配した中規模の住居として建て替え。

③住139号A・Bは、住138号の西・東壁を除去して西・東側に拡大すると共に、その拡大部に両壁沿高床を配し、北壁部も若干拡大した大規模な住居として建て替え。

となり、始めに記した重複関係となる。

建1025号の建物規模は、3間×3間（648cm×766cm。面積48.0㎡）で、屋内に独立棟持柱P21・22を配す。

なお、各柱列は、隅柱以外の中央部柱間が小さく、また、柱筋に外接する配置をとる。

（馬田）

1027号掘立柱建物跡（巻頭図版7 第192図 表67・68）

重複関係

建1027号は、建て替えが1回行われており、切り合いによる新・旧関係を旧→新で示すと、建1027号B→建1027号Aの順になる。

上記のことは、建1027号Bの掘形P11・13内で建1027号Aの掘形P1・3を検出し、建1027号AのP2掘形底面下で建1027号Bの柱痕を検出したことから確認できた。

1027号A建物

建物規模は、1間×2間（284cm×441cm。面積12.5㎡）で、桁行柱筋を北・南共に整える。

また、柱P3を例外として、他の柱はいずれも建2027号Bの各柱除去を兼ねた新しい掘形内西側に片寄せする。

1027号B建物

建物規模は、1間×2間（289cm×437cm。面積12.6㎡）で、4隅柱を掘形北東壁に片寄せするだけで、桁行柱筋を通す。

ところで、P16掘形から32cm東に離れて出土した住1460号の北西隅壁の残存高は20cmであることを考慮すれば、建1027号掘形検出面は当時の地表から約130cm前後削平されていることとなり、65cmの遺存深度のP16掘形の当初の深さは約195cm前後と考えられるが、これだけの深さの掘形底面で、上記のように掘形北東壁に片寄せするだけで桁行柱筋を通すと共に、桁行柱筋と妻側柱筋を90°で整えるためには、下記のような整然とした掘形を当初から掘削しなければならないと考えられる。

（馬田）

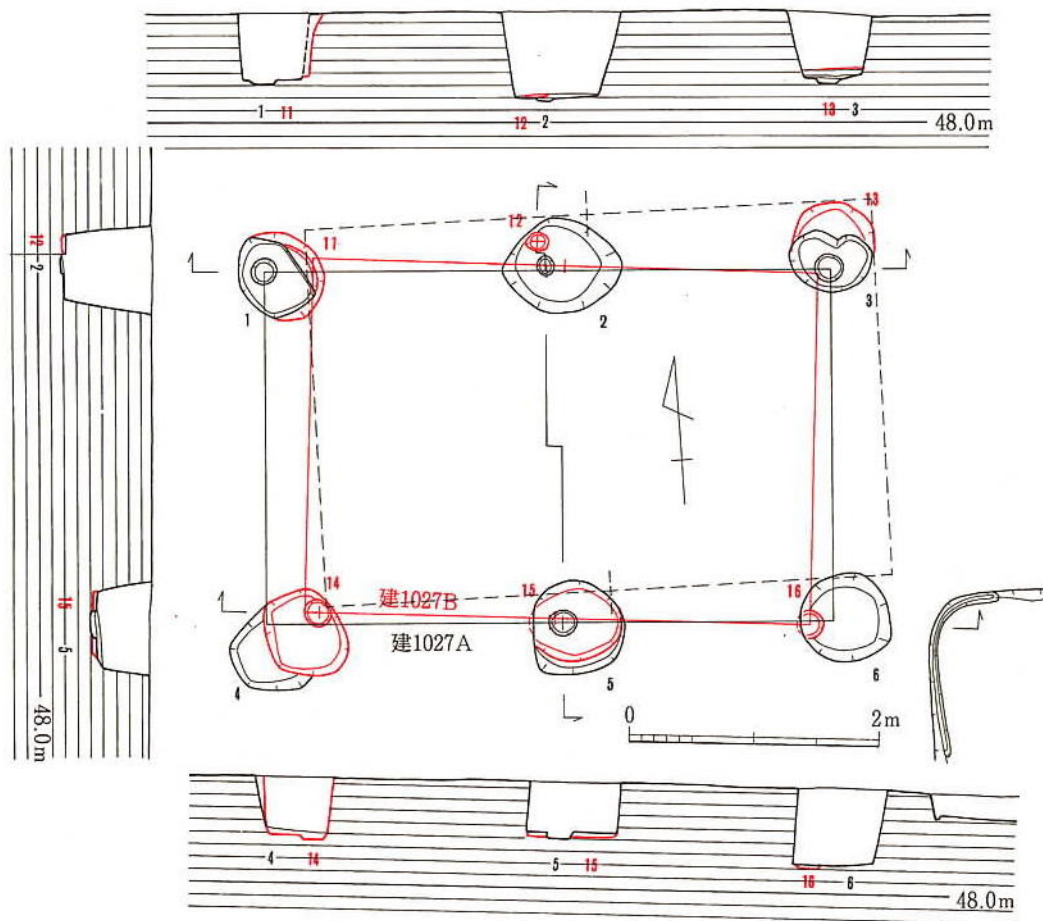
縄張りによる掘形掘削と間棹による建物構築

第192図中の破線による平面プランは、前述の柱を掘形北東壁寄せ配置を考慮し、①P11～13掘形北端部を結んだもので、また、②P11・12掘形東端に接し、①と直交する両線と、③P14掘形北端に接する線の計4破線による平面プラン（以下、掘形破線プランと略）である。

上記の掘形破線プランの規模は、287cm×437cmで図示し得、建1027号Bの柱筋の規模は289cm×437cmで図示し得るが、両プランは、④方向が一致すると共に、⑤同一規模と言える。

実際の柱痕・掘形の計測値も、表67・68に示すように、建1027号Aの桁行平均は441cm=29.4cm×15、建1027号Bの桁行平均は437cm=29.1cm×15=436.5cm、建1027号Bの掘形桁行の平均は434cm=28.9cm×15=433.5cm、建1027号Bの掘形梁行の平均は292cm=29.2cm×10である。

以上のことなどから、建1027号Bの構築の際は、当初から、⑦基準単位約29.4cmを周知し、



第192図 1027号A・B掘立柱建物跡実測図 (1/60)

④西一東間が約29.4cm×15=約441cm、北一南間が約29.4cm×10=約294cmの長方形の掘形掘削用縄張りを配し、⑦幅約29.4×4=約117.6cm前後・長さ約29.4cm×5=約147cm・深さ約29.4cm×6=約176.4cmの掘形を、⑤掘形P11—P14東接破線プランと同P13—P14東接破線をそれぞれ掘形東壁として、段状に北へ掘り進んだものか。

なお、建1027号での算出基準単位は約29.4cmとしたが、以来尺遺跡での他の建物・住居などの検討成果については、次年度で報告したいが、建1027号は当初の掘形規模が大きいただけでなく、遺跡全体の各種遺構配置の状態や、掘形P4への完形土器埋納などから、集落内でも特別の属性を有す建物と考えられる。(馬田)

出土遺物(第193図27)完形の甕で、長胴となる異形である。口径14.6cm・底径5.3cm・器高19.5cmと細長い。口縁は緩やかに外反しながら立ち上がり、胴部はほぼ直に落ちる。底部は意識して作ってはいるが、平坦部が少なく不安定である。器壁は胴部中位と底部の屈曲部はやや薄く、その他は厚めでぼってりとしている。内外面とも摩擦気味だが部分的に縦のハケ目が施され、底部内面は強めのナデを施す。(齋部)

2002号掘立柱建物跡(図版4 付図2 表69)

重複関係

144号住居で詳述。

建物規模

1間×2間規模であるが、調査中は建2004号で後述する原則に加え、P2が住1024号A・Bの主柱穴P3である可能性も考慮し、無番としていたものである。

しかし、住144・1031・1052号などの柱穴配置を検討する段階で、P3を加え、P6を欠失とし、1間×2間規模の建物として報告するものである。(馬田)

2003号掘立柱建物(図版74 付図2 表70)

重複関係

144号住居で詳述。調査中は、144号住居内の柱穴群のため、建物として検出できなかった。

建物規模

2間×2間規模の総柱建物で、桁行差は23cmを計り、平面プランはほぼ方形に近い。

なお、柱穴様ピットP5'は、P2がP1—P3柱筋下にほぼ配されているのに対し、P3—P6柱筋外側に42cmも大きく離れて位置することから、柱筋より若干内側に配されていたP5が、144号C(古)住居構築で欠失したものか。(馬田)

2004号掘立柱建物(図版74 付図2 表71)

重複関係

144号住居で詳述。

建物規模

1間×2間規模であるが、調査中は、144号・1024号住居内外の柱穴群中ではP2・5・6が掘形が大きく、P2～P5～P6を結ぶ線が90°を呈することから、P3を含めて建物配置を考えたが、以来尺遺跡では1間×1間規模の建物は、多数の建物群のなかで明確な確認例がないことから、調査中では無番号とし、後日の整理段階で検討することを原則とした（筆者）ため、無番としていたものである。

加えて、P2が住144号A（新）・P5が住144号B（中）のそれぞれに伴う土壌の可能性も考慮して、無番としていたものである。

しかし、整理の段階で、住144号A～Cの各柱穴配置などの検討から、P1・P4を加えて、1間×2間規模の建物として報告するものである。（馬田）

2005号建物・2号溝（図版4 付図5 表72）

建2005号群・住137号群（建1015～1018・2005～2007・2012号、住2～4・11・21・137号、溝2～4号）の重複関係

建2005号は溝2を伴い、建2006号は溝4を伴うことが十分に考えられ、両溝間の切り合いによる新・古関係を古→新で示すと、溝4→溝2の順になる。

上記のことから、建2005号は建て替えが最低1回は行われていることが十分に考えられ、新・古関係を旧→新で示すと、建2006号→建2005号の順となる。

ところで、建2005号・住2号群周辺は、2年度に分けて発掘調査が実施され、付図5でその調査年度調査区界を示すと、大略、建1016号B P6～建1018号P1～建2006号P1を結ぶまでが平成4年度に発掘し、同以南が平成5年度調査区である。

また、住2・4号南半部～住11・21号南半部と上記調査区界の間は、図版4に示すように、農道として利用するために、5年度調査段階では埋めもどされていた部分であるため、4年度調査区内に建物規模が及ぶ掘形・柱穴については、単に柱穴様ピットとして発掘されていることは仕方のない面もあるが、例えば本年度、5号建物（1間×3間規模とされる）を屋内棟持柱2本を配した1間×4間規模の建2012号として把握し、住4号を住4号B→住4号Aに建て替えが1回行われたものとして把握することもできよう。

以下では、建2005号・住2号群での各種遺構について、その詳細な切り合いによる新・古関係は各建物計測中に明記（表中の？←や→？は検討の結果、例えば住4？←建2012号P5では住4←建2012P5（未検出）が十分に考えられ、住11→？建2005号P1では溝4号が住11号を切ることから、住11→建2005号P1（未検出）が十分に考えられること、住3→？建1017号P

3では、住3→住4→溝2→溝4、溝4→建1017号B→建1017号A→溝2→溝4であることから、住3→建1017号P3が十分に考えられるなど)したので、遺構群間の切り合いによる新・旧や新・古関係の大略を列記する。

①既述のように、建1015～1018号は、いずれも建物規模の南半部を平成5年度の調査段階で検出しただけであるが、建2006号で詳述するように、溝4(建2005号)→溝2(建2006号)。

②溝4(建2005号、主軸N-14°-W)に切られる建2007号(主軸N-19°-W)と建2005号は、⑦共に北・南妻柱筋外接の棟持柱を配し、④共に主軸がほぼ一致し、⑦共に住137号に切れ、⑤互いに西桁行柱筋がほとんど一致し、④互いに住21号→住11号(住3号→住11号)→溝2(建2005号)の順に新しくなる住11号を切ることなどから、②建2007号→建2006号の順に建て替えたことが十分に考えられ、住21号→住11号(住3号→住11号)→建2007号→建2006号(溝4)→建2005号(溝2)→住137号の順に新しくなるものと考えられる〔計6遺構間〕。

③建2012号(案)は、住4号B→住4号A→住56号→住2号の順に新しくなり、住2号→溝4と考えられる(後述)住2号と溝2を切ることと、北妻柱筋を住4号と共に中世の溝10に切られることや、②から、⑥住4号A→住4号B→住56号→住2号→建2007号→建2006号(溝4)→建2005号(溝2)→建2012号(案)→溝10(中世)の順に新しくなると考えられる〔計9遺構間〕。(建2005号→住137号)

④建1015号は、建1017号B→建1017号Aの順に建て替えられ、溝2・4に切られる建1017号に切られることと、⑥から、③建1015号→建1017号B→建1017号A→建2007号→建2006号(溝4)→建2005号(溝2)→建2012号(案)の順に新しくなると考えられる〔計7遺構間〕。(建2005号→住137号)

⑤また、建1015号P1は、住2号南壁沿高床部の貼床下での検出として記録・図示されているが、P1掘形に西接する張床直上の土器は、P1掘形に切られたような遺存形状で記録・図示されていることや、建1015号で説明することなどから、住2号→建1015号の順に新しくなると考えられる。

⑥上記のことや③から、また、②のことからも、④住4号B→住4号A→住56号→住2号→建1015号→建1017号B→建1017号A→建2007号→建2006号(溝4)→建2005号(溝2)→建2012号(案)→中世溝10の順に新しくなると考えられる〔計12遺構間〕。(建2005号→住137号)

⑦建1016号A(主軸N-15°-W)、B(同N-13°-W)は、⑦共に北・南妻柱筋外接の棟持柱を配し、④共に主軸がほとんど一致し、⑦共に溝4に切れ、建1016号Aは溝2にも切れ、④互いに南妻柱筋と西桁行柱筋がほぼ一致し、⑤互いに建1016号A P8と建1016号B P7を共有(重複)することなどから、建1016号B→建1016号Aの順に建て替えたことが十分に考えられる。

⑧なお、建1016号A P5も、建1015号P1同様に住2号より新しいと思われるが、P5を建

1016号の支柱穴として入念な確認作業が実施されなかったことに因り、検出されなかったものと考えられる。

⑨上記⑦・⑧のことから、⑤住2号→建1016号B→建1016号Aと言えよう。

⑩また、②～④のことから、①住4号B→住4号A→住56号→住2号→建1016号B→建1016号A→建2007号→建2006号(溝4)→建2005号(溝2)→建2012号(案)→中世溝3・10の順に新しくなるものと考えられる〔計11遺構間〕。(建2005号→住137号)

以上、②～④の計19遺構間の重複関係については、各遺構間の出土遺物の検討をしていない現況での、一応の把握としての指摘事項とし、次年度報告への検討課題としたい。

なお、以上の建2005号・住2号群のなかで、建2005・2006号はそれぞれ溝2・4を伴い、また、建1015～1018・2007・2012号も建2005・2006号と共に、建1017号AのP10・11を床束P81・82と考えれば、いずれも建物も妻柱筋に近内・外接の棟持柱や独立屋内・外棟持柱を配すなどの特徴を指摘することができ、また、以来尺遺跡全体のなかでも、建物が多重化する地区であることから、集落内でも特別な属性を有す建物群と考えられる。

建2005号の建物規模は、1間×1間(275cm×222cm。面積6.1㎡)と小型で、北・南妻柱筋外に各40cm離れた独立棟持柱P21・22を配す。

また、独立棟持柱を配した1間規模の建物の通例と異なり、桁行よりも梁間が53cmも大きい特異な軸組みを呈す。

加えて、隅丸円形(建2005号主軸下での溝検出上面外径768cm・同内径537cm・幅116cm・現況の深さ29～31cm。主軸直交軸下での同外径742cm・内径539cm・幅102cm・深さ39～48cm)の溝2のほぼ中央部に位置し、溝各壁方向もほぼ桁・梁行方向に一致するなど、建2005号は溝2を伴うことが十分に考えられる。

また、溝2内からは多量の祭祀行為に伴う土器群が出土しており、意図的な遺棄と考えられ、同様に多量の祭祀行為に伴う土器群を出土した南方14～20mの土壙12号や溝1001号などと共に、その形状(所謂、通称「円形周溝状遺構」)も含めて特殊な遺構と言えよう。

なお、溝2は溝4を切るが、後述するように、溝4の東半のコの字状部ほぼ中央部でも同様の建2006号が配されていることから、建2005号・溝2と建2006号・溝4は、共に集落内でも特別な属性を有す遺構と考えられる。

また、後述するように、溝4は住2号を切って今少し以西に続き、同様に住4号を切って建2005号東桁行筋延長線上まで続いていたことが考えられ、換言すれば、建2005号・溝2は建2006号・溝4の配置を忘却することなく(溝2・4埋土は、共に自然流入堆積の暗褐色土で、意図的な埋めもどしのブロック土ではなかった)、回帰的に配したものと考えられる。(馬田)

2006号建物・4号溝（図版4・108 付図5 表73）

重複関係は、建2005号で詳述したように、建2006号は溝4を伴う。

建物規模は、1間×1間(233cm×289cm、面積6.7㎡)で、前述の建2005号同様に小型で、北・南妻柱筋外に各58cm離れた独立棟持柱P21・22を配し、近内・外接棟持柱を配した1間規模の建物の通例と異なり、桁行比1.24と桁行柱間が梁間より56cmも大きい特異な軸組みを呈す。

加えて、溝4は、溝2以東が隅丸方形のコ形、溝2部が～形、溝2以西が一形を呈して連続するが、この溝2コ形のほぼ中央部に位置し、各溝壁方向もほぼ桁・梁行方向に一致するなど、建2006号は溝4を伴うことが十分に考えられる。

上記のことは、建2005・2006号、溝2・4間の配置関係からも、下記のとおり、看取できる。

①コ形部は、溝2東外壁との外接南外壁部位が、一見、壁コーナー状を呈して収束するかに見えることから、溝4北壁部の西端は住11号を切り(溝4が新しく)、住11号棟持柱筋まで直線的に続いていたことが考えられる。

また、その西端が南方に屈折して溝2号北壁部まで連続していたことも十分に考えられる。

②同様に、～形部は、溝2西内壁との内接南壁部位でも、一見、壁コーナー状を呈して北に向きを変える。

③溝2以西部でも、溝2西外壁との外接北壁部位が、同様に、一見、壁コーナー状を呈して西に向きを変え、その西端は住2号を切り(溝2が新しく)、住2号西壁部近くまで直線的に続いていたことが考えられる。

上記①～③のことは、換言すれば、

⑦溝2が、溝4の全平面プランを忘却することなく、溝4構築から回帰的に構築されたことを示唆するものであり、

⑧溝2内の建2005号の南妻柱筋外接の独立棟持柱P22と溝4内の建2006号の同棟持柱P22を結ぶ線が、建2005号主軸と直交、換言すれば、両建物のP22の位置を回帰的に南揃えして建2005号が構築されたことを示唆するものである。

以上のように、溝2を伴う建2005号は、溝4を伴う建2006号へと回帰的に建て替えられたことが十分に考えられ、このことは、表72・73に示した計測値・算出値からも指摘できよう。

なお、溝4は、所謂、円形周溝状遺構と通称されるものであるが、溝2と共に、建2006・2005号をそれぞれ伴うことが、整理報告での段階で確認できたことから、両溝は共に、集落内でも特別な「祭殿」的な属性を有す両建物を、他の日常的な住居・建物群から境する玉垣あるいは環濠的な非日常遺構（方形・円形区画溝）と考えられる。 (馬田)

2007号掘立柱建物跡（図版4 付図5 表74）

重複関係は、建2005号で詳述。

建物規模は、1間×2間（380cm×568cm。面積21.6㎡）で、北・南妻柱筋外に、近接棟持柱P21・22を配し、既述のように、建2007号→建2006号の順に建て替えられたものか。（馬田）

遺物（第193図28・29）28は壺の底部、29は甕の底部である。28は小片のため復元が不可能。全面摩滅が激しく器面調整は不明である。器壁はやや薄めで小型品になると思われる。胎土は精緻で、底部が一部黒変する。29は外面は摩滅のため調整は不明で、内面はナデを施す。底部は平坦で薄く作り、外面は二時加熱を受けて赤変する。（齋部）

2008号掘立柱建物跡（図版75～79 付図3A～C 表75）

重複関係

建2011号で詳述。建2008号は3回建て替えが3回行われており、切り合いによる新・旧関係を旧→新で示すと、建2008号→建2009号→建2010号→建2011号の順になる。

建物規模は、2間×3間（632cm×582cm。面積36.8㎡）で、屋内に棟持柱P23・屋外に近接棟持柱P21・22を配す。

建2008～2011号群中では、建2009～2011号が面積44.9～73.1㎡と大型であるのに対し面積が36.8㎡と中規模を呈し、掘形・柱痕規模共に4建物群中では最も小さい。

柱穴配置は、桁行で211cm・梁行で290cmの等間に配す。

また、P21・P22は西・東妻柱筋から平均34cm外側に配し、P21・22は、梁行の1/2等間で、P23は桁行の1/2等間に整然と配す。

なお、棟持柱P22の南側の焼土・灰層部は、住1035・1044・1046・1047号の張床土や覆土が多層で重複するため、その掘形を検出し得なかったが、後述する建2009・2010号の棟持柱掘り立て時の播火祭祀確認例から、建2008号の棟持柱P22掘り立て時の播火祭祀と考えられる。

そして、東柱筋P4—P8から焼土・灰層部西端間が60cm・同部東端部間が63cm、また、P22遺存掘形北端から同南端部間が149cm、遺存掘形南端から同部南端間が83cm、同部底面と遺存掘形底面とのレベル差42cmを測る。

以上のことから、棟持柱の当時の掘形は、①掘形最下段が遺存掘形（東西幅44cm・南北長66cmの長円形）で、②その直上部の掘形が東西幅123cm・南北長83cmの隅丸方形（①の掘形長を加えれば全長149cm）を呈し、③長軸方向は東柱筋方向と一致し、④当時の地表傾斜の標高がより低い南側から北方向に階段状に掘られ、⑤上部が削平されているが、地表部での掘形東西幅約150cm・南北長200cm前後、地表からの深さ約170cm以上の隅丸長方形の大型土壌様に構えられていたと復原できよう。（馬田）

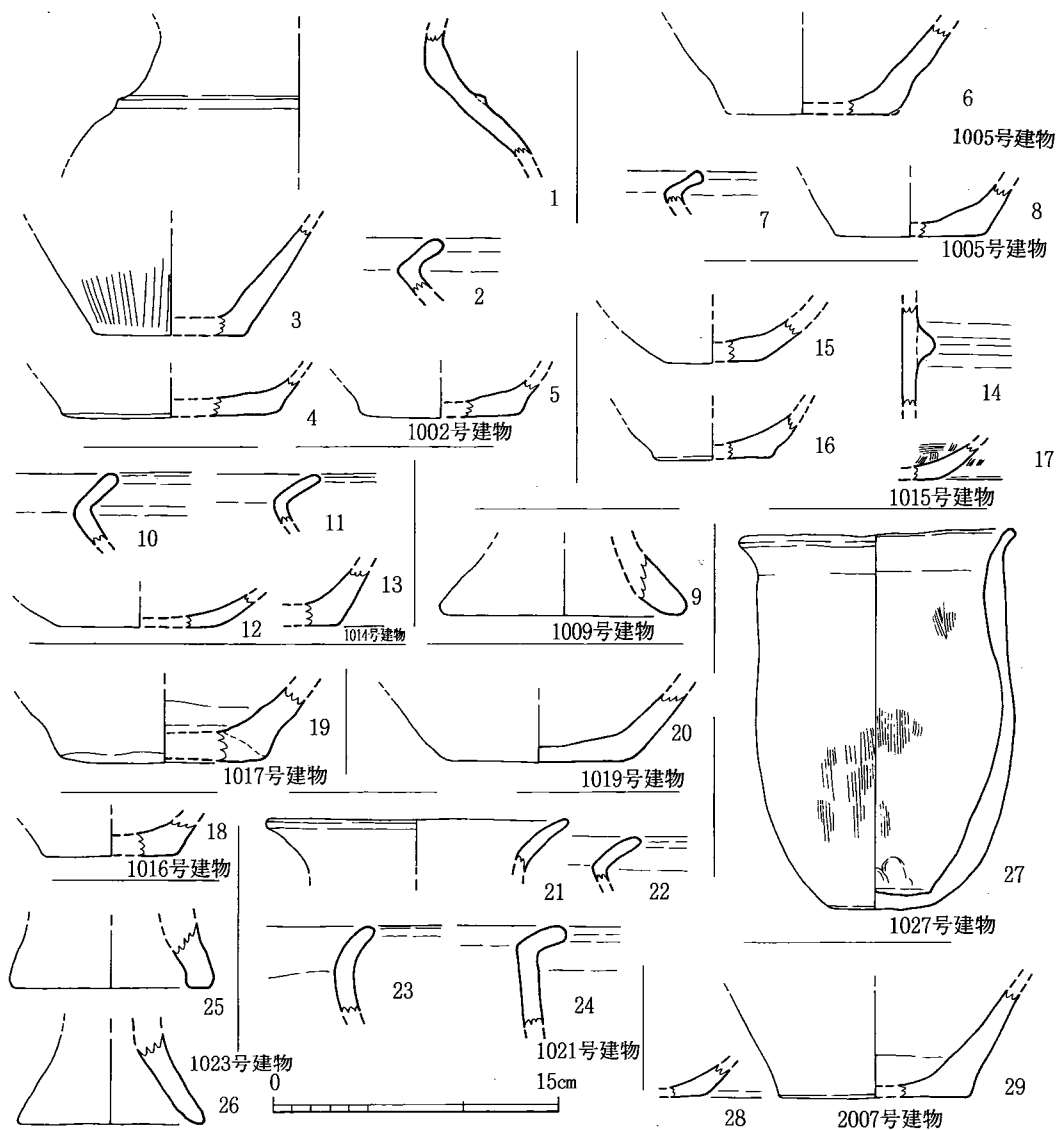
2009号掘立柱建物跡 (図版75~79 付図3A~C 表76)

重複関係

建2011号で詳述。建2009号は、建て替えが3回行われており、切り合いによる新・旧関係を旧→新で示すと、建2008号→建2009号→建2010号→建2011号の順になる。

建物規模は、3間×3間(737cm×603cm。面積44.4m²)で、屋内に棟持柱P21・22を配す。

掘形規模は、建て替え前の建2008号の方が小さく(面積も36.8m²と小さい)、建て替え後の建



第193図 1002~2007号掘立柱建物跡出土土器実測図 (1/4)

2010号の方が大きい（面積も47.8㎡と大きい）。

柱穴配置は、桁行ではほぼ247cm等間に配すが、梁行（603cm）では1/3の201cm等間に配されていない。

表76に示すように、P1—P9間・P11—5間・P4—P10間・P12—P8間（測点b）の平均は243cmで、上述の247cm（桁行柱間 a_2 ）と一致するに等しく、換言すれば、当初から桁行柱間 $a_2=247$ cmでP9～P12を配したものとと言える。

上記の柱配置は、上部の小屋組みを知る上では重要で、P9—P11は主軸間柱（補柱）P31—P32、P12—P13は同P33—P34として配し、棟を屋内棟持柱P21・22で支えるだけでなく、P9—P11とP12—P13の各中央部上の束柱でも支える屋根組みを構え、高床・横板壁・切妻の大型特殊建物が復原できる。

なお、後述の建2010号P22同様の構築時の棟持柱P21での**播火祭祀**が認められた。（馬田）

2010号掘立柱建物跡（図版75～79 付図3A～C 表77）

重複関係

建2011号で詳述。建2010号は、建て替えが3回行われており、切り合いによる新・旧関係を旧→新で示すと、建2008号→建2009号→建2010号→建2011号の順になる。

建物規模は、3間×4間（717cm×667cm。面積47.8㎡）で、屋内に棟持柱P21・22を配す。

建2008～2011号群では、建2011号の側柱内面積73.1㎡を除けば、最大規模を有す。

掘形規模も、建物群中ではP1が最も大きく、径78cm×83cm・深さ53cmを測り、平面隅丸方形を呈することから、後述する建2011号身舎柱・棟持柱同様に、建2010号の棟持柱P21・22を含む柱穴は、平面形が大型の隅丸長方形土壇状、断面形が階段状を呈する掘形が当時の規模と考えられ、検出したP1はその最下段の一部が遺存しているものである。

なお、P10では柱痕を黒褐色粘質埋土として当初から検出でき、**主柱規模**は径26～30cmである。

また、**棟持柱規模**はP21・22の柱当たり痕から約径29～48cmである。

建物の平面プラン

桁行はほぼ181cm等間に配すが、梁行は東・西妻共に、P11～14を224cm等間の位置から約18～40cmほど南側に片寄せた配置となっているが、このことは当時の地形も現況のように南に緩傾斜していたことを示唆するものか。

棟持柱P21・22も、梁行方向での柱位置が、梁行の1/2（334cm）等間の位置から12～37cm南側に片寄せた配置となっている。

また、桁行方向での柱位置は、P21が西妻側から・P22が東妻側から桁行の1/4（179cm）等間の位置に各西・東接する配置をとる。

なお、棟持柱のP22の柱穴床面（柱当たり面）のみが、焼土・黒色灰層が密着した状態で検出

され、建物構築時に伴う播火祭祀が認められ、他の柱穴では認められなかったことから、**大型建物での構築時の棟持柱での播火祭祀は、この建2010号の属性を考慮する際の一助となろう。**(馬田)

2011号掘立柱建物跡 (図版75～79 付図3A～C 表78)

建2011号群 (建2008～2011号)・住1041号群 (住1040・1041・1048号)・住1046号群 (住1026・1030・1034・1035・1042・1044・1046・1047号) の重複関係

建2011号は、建て替えが3回行われており、切り合いによる新・旧関係を旧→新で示すと、建2008号→建2009号→建2010号→建2011号の順になる。

また、上記のことは、掘形・柱穴間の切り合い関係を古→新で示すと、建2008号P5→建2011号P129、建2010号P2→建2011号P2や建2009号P8→建2010号P10などで確認できた。

ところで、建2008～2011号は、調査段階で建2010号P10・12・14柱穴列や建2011号P118～121柱穴列や建2011号P1・建2010号P1掘形の検出から、数棟の建物の所在は予期していたものであるが、後述する西側の住1026号～東側の住1047号～南側の住1036号などの住居群埋土中に掘り込まれた掘形の検出が困難を極めたため、無番としていたもので、1/20実測図面の整理段階で建物として番号を付したものである。

なお、上述住居群と重複する建物の掘形・柱穴のなかで、各住居群の埋土を切ることを確認し得たものは、建2011号がP1・118・129、建2010号がP1・6・10・12・14・21・22、建2009号がP5・6・8・10・21・22、建2008号がP5・6・8・10・12・22で、他は住居群の張床土と柱穴埋土が識別し難く、各張床除去後に検出したものである。

また、住1026・1029・1030・1034～1036・1041～1044・1046～1048号と建2008～2011号などの遺構間の切り合いによる新・古関係を古→新で列記すると、以下のとおりである。

①住1046号は住1035号Aの床面に張床を施して建て替え、住1035号Aは住1035号Bの床面に貼床を施して建て替えたものである(住1035号B→住1035号A→住1046号)。

②住1046号は、住1044号が埋没後に建てた住1047号の北壁や床面を切る(住1044号→住1047号→住1035号B→住1035号A→住1046号)。

③住1044・1047号は、住1041号南壁に西壁を切られる住1048号に南東壁隅部を切られ、住1041号は住1042号東壁も切る(住1042号→住1041号。住1044号→住1047号→住1048号→住1041号)。

④住1030号は住1034号の床面に張床を施して建て替えたもので、西壁を住1026号Bを建て替えた住1026号Aに切られ、南壁を住1029号の床面に張床を施して建て替えた住1036号に切られる(住1034号→住1030号→住1026号B→住1026号A。住1034号→住1030号→住1029号→住1036号)。

⑤また、住1036号は、南壁が住1041号に切られる住1042号の東壁を切るが、東壁を住1044号の南壁に切られ、住1030号の東壁は住1046号の南壁に切られる(住1042号→住1034号→住1030号→住1029号→住1036号。住1042号→住1034号→住1030号→住1044号→住1047号→住1035号B

→住1035号A→住1046号)。

⑥なお、建2011号は、P121が住1041号に切られる住1048号の南壁に切られるので、建2008～2011号は住1041・1048号よりも新しいが、既述のことから、建2008～2011号は住1041・1048号を除く既述住居群のいずれよりも新しい。

⑦また、住1026号Aの東壁と住1046号の西壁との距離は、現況で約30cmと近接し、壁堤施設や上部構造などを考慮すれば、重複関係にあり、後述するように、住1026号B→住1026号Aに建て替え後に、住1035号Bに改築され、住1035号B→住1035号A→住1046号へと建て替えられたことが十分に考えられる。

遺構群間の新旧・新古関係と居住空間・生活空間の占有・容認関係

ところで、既述の住144号群では、

⑦建2003・2004号→住144号C→住144号B→住144号A→住1024号B→住1024号A→建2002号→住1052号→住1031号B→住1031号A→住1025号(カマド付設)→溝1(中世溝)の計13遺構間

⑧住1027号→住1032号→住1052号→住1031号B→住1031号A→住1025号(カマド付設)→溝1(中世溝)の計7遺構間

などで、切り合い関係が認められ、住1029号群では、上記⑧に加重して、

⑨住1034号→住1030号→住1029号→住1036号→住1027号→住1032号→住1052号→住1031号B→住1031号A→住1025号(カマド付設)→溝1(中世)の計11遺構間

⑩住1034号→住1030号→住1029号→住1036号→住1027号→住1032号→住1028号(カマド付設)→住1038号(カマド付設)→住1039号(カマド付設)→溝1(中世)の計10遺構間

などで、切り合い関係が認められた。

そして、建2008号・住1046号群では、

⑪住1042号→住1034号→住1030号→住1044号→住1047号→住1035号B→住1035号A→住1046号→建2008号→建2009号→建2010号→建2011号→住1048号→住1041号→溝1(中世)の計15遺構間

⑫住1042号→住1034号→住1030号→住1029号→住1036号→建2008号→建2009号→建2010号→建2011号→住1048号→住1041号→溝1(中世)の計12遺構間

⑬住1042号→住1034号→住1030号→住1026号B→住1026号A→建2008号→建2009号→建2010号→建2011号→住1048号→住1041号→溝1(中世)の計12遺構間

などで、切り合い関係が認められた。

なお、既述したように、改築による移動を⇒で示すと

⑭住1026号A⇒住1035号Bが十分に考えられることを考慮すれば、⑪・⑬は

⑭住1042号→住1034号→住1030号→住1044号→住1047号→住1026号B→住1026号A⇒住1035号B→住1035号A→住1046号→建2008号→建2009号→建2010号→建2011号→住1048号→住1041

号→溝1(中世)の18遺構間での重複関係となり、溝1(中世)を除外すると

弥生時代中期末・後期前葉～古墳時代初期(出土遺物についての検討前の現段階ではあるが)にかけて、実に17遺構間に切り合い・重複関係が認められることになり、各遺構群間の新旧・新古関係と居住空間・生活空間の占有・容認関係には、強い規制の継承、そして回帰性が指摘できよう。

建2011号は、3間×4間の規模の身舎柱(P1～14)を配し、4面に側柱(P111～130)を付す。

なお、付図3A～Cに示すP112～建2008号P2～P5～(P124～P126間)～P122～住1048北壁東半部に至る境界線は、既述のように計17遺構群間での重複関係把握のため、建2011号・住1046群の発掘に断続的ではあるが、平成6年1月末～5月中旬の間を要したため、㊸境界線以南～以西の遺構群を長期にシートで保護したことで、P122・126・128部の遺構検出面地山に乾燥・地割れが生じて、検出作業が困難となったことに加え、㊹5月下旬になって、境界線外の排土・表土を除去して調査区を拡大したため、P3～5・113～116・124・130部の検出作業をより入念に実施されなかった諸般の事情などで、建2011号の北～東側部の側柱の一部が未確認となってしまった。

身舎柱の掘形は、P1で径68cm×82cmの隅丸方形を呈し、底面までの深さ66cmを測る。

しかし、P1に切られる住1026号Aの東壁沿の地山に張床を施した高床部張床上面の深さは、北壁検出面から11cmしかなく、P1部周辺の現検出面は当時から約100cm前後の削平を受けていると考えられ、当時の掘形の深さは約166cm前後か。

また、P8も径約63cm×63cm・遺存の深さ26cmを測るが、住1045号の南壁側中央部張床面までの深さ13cmを測り、同様に約100cm前後の削平を受けていると考えられ、当時の掘形の深さは約126cm前後か。

同様に、棟持柱P21も径68cm×68cmの隅丸方形を呈すが、当時の深さは約176cm前後か。

以上のことに加えて、P1・6・11の掘形の面・東壁方向プランはほぼ直線状に整うことなどから、他の柱穴も含めて、身舎柱・棟持柱の掘形は、建10号の掘形と同様に、上面長150cm・幅100cm前後の隅丸長方形プランで、縦断面プラン階段状に掘り込まれたものと考えられる。

建物の平面プラン

身舎部は、桁行4間×梁行3間(636cm×665cm、身舎面積42.3㎡、側柱内面積73.1㎡)規模で、桁行はP2・7・8も含めて159cm等間に配すが、梁行は東妻側は223cm等間で、西妻側はP1～P11間(203cm)とP11～P13間(202cm)を等間・P13～P14間(263cm)を最大にとる。

また、P1～11間の203cmとP11～13間の1/2の101cmの計303cmは、北身舎柱筋一棟持柱P21間の302cmとほとんど一致し、梁行平均665cmの1/2(333cm)とほぼ一致する。

上述のことから、P11とP13は、梁行の1/3等間の位置から意図的にはほぼ柱径?の21～22cm

ほど北側に配したことが考えられる。

なお、後述する西妻側の側柱は、南身舎柱筋ではP129を配すが、北身舎柱筋では側柱を配さず、P121とP125をそれぞれP1—P11間とP11—P13間の中央部に配す。

また、P127のみが、上記とは別途に、P13—P6間の中央部への配置をとらない。

以上のことから、側柱P127—P129間を経て、身舎部への出入り口施設はP13—P6間に構えたものか。

棟持柱は、P21・22を身舎内に配置し、桁行方向での柱位置は、P21が西妻側から・P22が東妻側から身舎桁行の各1/4等間部、梁行方向での柱位置は、P21・22共に梁行の各1/2等間部配置をとる。

身舎柱筋からの側柱筋の出は、北・南側柱筋が90cm、西・東側柱筋が120cmを測る。

なお、建2011号の棟持柱P21・22では、既述の建2009・2010号の棟持柱P21・22での構築時の播火祭祀は認められなかった。

しかし、建2011号構築に際しては、旧出の建2010号柱群のなかで、P1（掘形の埋土もP10柱痕埋土同様の黒褐色土で、黄褐色土等のブロック土を含まないものであったため、柱痕を検出し得なかったが）とP10、換言すれば北西隅柱とこれに対峙する南東隅柱のみが、抜去せずに、掘形内に埋め立てられたままの状態、柱痕として遺存していた。

上記のことは、建2008～2011号の各P2例のように抜去することなく、意図的に北西隅と南東隅の対峙する柱のみ、建2011号構築時の祭祀行為として、その地上部を切除したものか。

加えて、切除する前は、建2011号の各柱材を埋め立てる際の用材としても利したものか。

（馬田）

2012号掘立柱建物跡（図版75～79 付図5 表79）

重複関係は、建2005号で詳述。

建物規模は、1間×3間（330cm×596cm。面積19.7m²）で、北・南妻柱筋から54cm離れて屋内棟持柱P21・22を配す。

なお、棟持柱筋下の中央に、床束掘形P81を配す。

ところで、この建2012号は、次年度に別途、5号掘立柱建物（中世）として報告が予定されているものを、更に1間だけ規模を大きく看取り、屋内棟持柱2・床束1を配した、建2005号群同様の集落内で特別な属性を有す建物の所在確認事項として、整理報告段階での図上復原案を馬田の責任で提示させて頂くもので、それ以上の他意はない。

さて、西端の建1015～東端の建2007号間に帯状に群在する建物に限り、これを狭義の建2005号群とすれば、この建2012号（案）は、狭義建2005号群帯から北に突出した位置に、また、狭義2005号群帯と整然と直交する位置に配されている。

建2012号(案)では、上記のことを狭義建2005号群への意識的回帰性として把握し、建2012号も含む建2012号群として、次年度報告に向けての検討課題とするものである。

また、建2012号(案)を復原するための方策として、住4号の建て替え復原案を単に図示させて頂くもので、それ以上の他意はなく、諸兄にあっては、4号[・]掘[・]立[・]柱[・]建[・]物[・]跡の[・]5[・]号[・]掘[・]立[・]柱[・]建[・]物[・]跡の[・]説[・]明(次年度)を参照して頂きたい。(馬田)

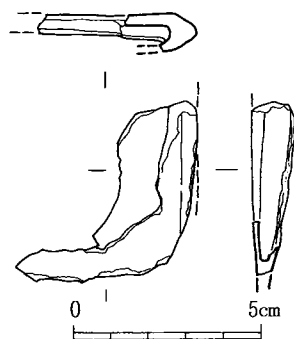
(3) 土 坑

本遺跡では、廃棄土坑・貯蔵穴・陥し穴・墓壇状のものなど多様な土坑が検出されている。今回掲載するのは、廃棄土坑3基である。ただし、1号土坑は浅く不整形で、土器も小片が多いが、他の2基については規模や土器の出土状態が等しく、配置についても軸を同じくしており、意図的に廃棄場所を選んでいるように思われる。

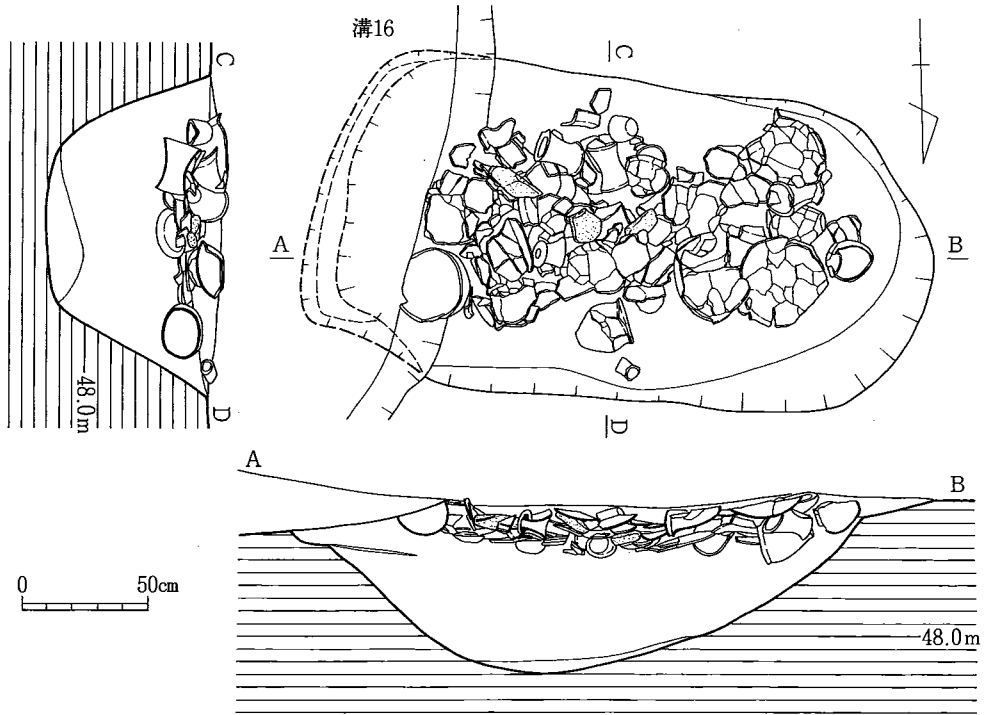
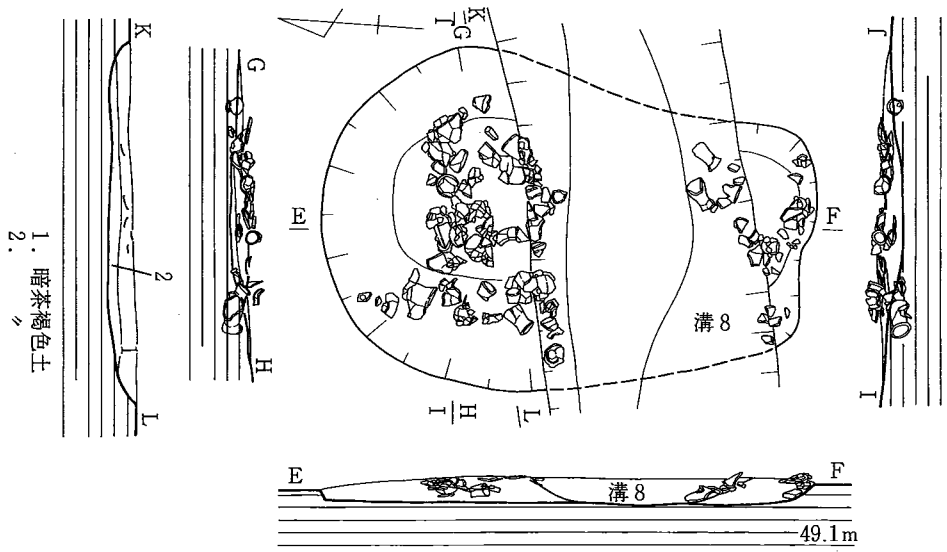
1号土坑(図版110 第195図)

平坦面中央西側に位置し、8号溝に中央部を切られるため残りが悪い。30・60号[・]掘[・]立[・]柱[・]建[・]物[・]跡[・]の[・]上[・]に[・]位[・]置[・]し[・]て[・]い[・]る[・]。平面不整形で、長軸約2m、短軸1.35mで、深さは10cmと浅く、[・]掘[・]立[・]柱[・]建[・]物[・]跡[・]の[・]埋[・]没[・]過[・]程[・]の[・]窪[・]地[・]を[・]利[・]用[・]し[・]た[・]も[・]の[・]か[・]も[・]し[・]れ[・]な[・]い[・]。上位からは完形に復元できない土器が、炭化物とともに大量に出土し、最上部から青銅製鋤先の破片が出土している。廃棄土坑であろう。

遺物(第197・198図) 1は複合口縁壺の口縁部で、屈折部に下垂する刻み目突帯が貼り付けられている。頸部には断面三角形の刻み目突帯が貼り付けられており、刻み目の間隔が屈折部のそれとほぼ等しい。2は大型甕の口縁部で、肩部に断面三角形刻み目突帯が貼り付けられる珍しいタイプである。口縁部は直線的に長く立ち上がっており、器壁が薄い。外面には煤が部分的に残る。3は甕の底部で、2次焼成を受けて赤変している。4は小型の甕の底部で、外面には煤が付着している。5は頸の短いタイプの長頸壺で、胎土の質が他の同一器種に比べてあまりよくなく、若干歪んでいるので、精製品とはいえない。6は最大径を胴部中央に持つ短頸壺の口縁部で、7は完形に復原される短頸壺である。両者とも精良な胎土だが、前者は小型品のためかつくりがよくない。8は短頸壺の胴部と思われる。9は小型の鉢で、器壁が厚く、つくりが粗い。10~13は杵形支脚で、10・11はほぼ完形で出土しており、上面の突起側半分に煤が付着する。12・13は半分が



第194図 1号土坑出土青銅製鋤先実測図(1/2)



第195图 1·11号土坑实测图 (1/30)

赤変し、その対面に煤が付着する。10は突起下に耳状のつまみがある。13は突起がなく、タキが側面部全体に充填されている。14・15は鼓形器台で、両者とも外面に煤が付着している。16は台付鉢で、鉢部の胴下位に煤が付着し、口縁上端の内面は内蓋のために変色しているの、煮沸使用されていると考えられる。17は杯である。

青銅製鋤先(第194図)は、半欠品だが、基部も刃部も欠損しており、非常に残りが悪い。土坑の最上位から出土しており、単に使用後欠損したため廃棄されたものと考えてよいだろう。

(秦)

11号土坑(図版111 第195図)

平坦面南半部の竪穴住居跡の存在しない空間に位置し、中世の15号溝に切られている。長軸約2.05m、短軸1.02mで、深さは67cmで、12号土坑と主軸方向・規模がほぼ等しい。上位から完形に復元できる土器が大量に出土している。

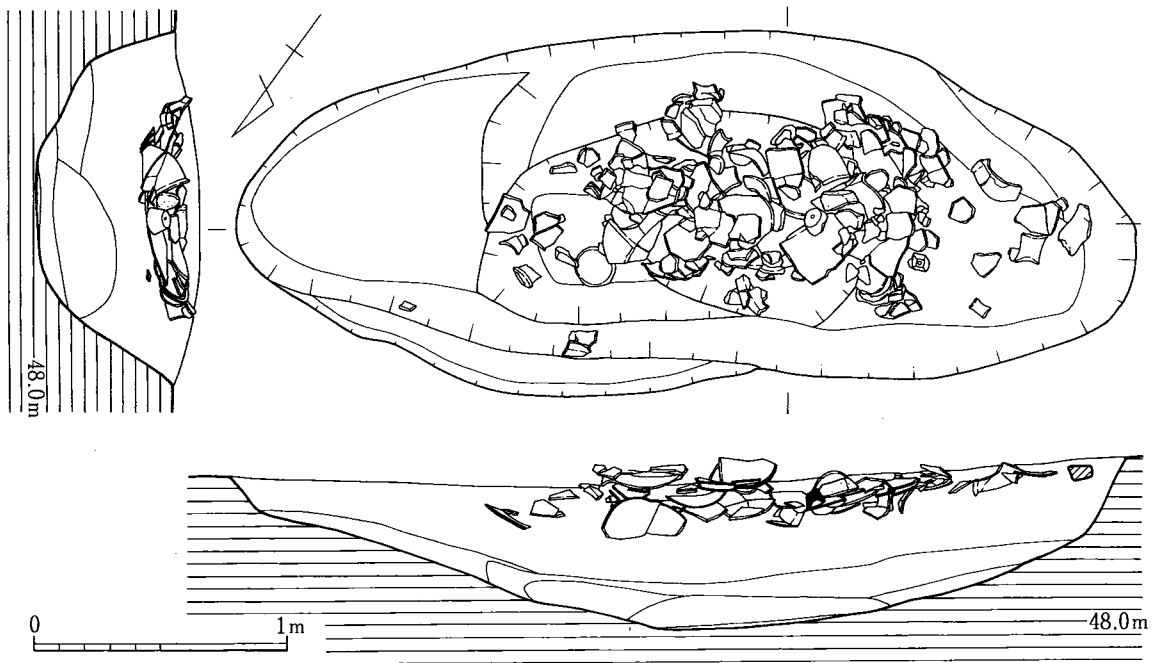
遺物(第198~202図18~62) 18・19は袋状口縁壺の口縁部であるが、屈曲部の稜が入るので複合口縁に移行する過渡的な形態といえよう。18の口縁下には、下垂する断面三角形の突帯が貼り付けられている。19の頸部には断面M字突帯が2条貼り付けられている。20は完全の複合口縁壺で、胴中位が膨らみ、器高の低いタイプであろう。黄橙褐色を呈する。21は壺の胴から底部で、胴中央に最大径を持ち、かつ、そこに断面台形の突帯が2条貼り付けられている。断面M字突帯が鈍化したものであろう。22はほぼ完形の短頸壺、23は単口縁壺か広口壺の口縁部と思われる。24は袋状口縁壺で、頸部と胴部中位に断面三角形の突帯が貼り付けられている。25は壺の頸部で、胎土と口縁の開き方から肥前系の広口壺の可能性が高い。26は壺の底部で、器壁が厚く、胎土が異質で、煮沸されたらしく外面に煤が付着していることから、肥前系広口壺の体部と思われる。27・28・37は小型の甕で、29~32・38は中型の甕、33~36・41~44は甕の底部で、33は外底から胴下位が赤化し、それより上に煤が付着するので、支脚を使用して煮沸していたと考えられる。34は甕の底部で、煮沸使用のため胴下位は煤が付着しており、底部は黒灰色に変色している。41は外底から胴下位まで煤が付着しており、43は胴下位が赤化し、それより上に煤が付着する。44は外面に煤が付着し、内面は炭化物の影響により変色している。39は小型甕の底部であろう。40は大型の甕の口縁部である。45は小型甕の体部であるが、つくりがよく、調整も丁寧である。46は鋤先口縁の器壁の器壁が厚く、上面に円形の浮文があるので、広口壺の口縁部と考えられる。47は小型の短頸壺である。48~52は鉢で、49・50は外底に変色がなく、胴全体と口縁上端の内面に変色しており、煮沸使用されたものと考えられる。51は肩部に稜のつく特異な器形で、器形が器壁が厚くつくりも良くない。内面は炭化物のため黒褐色に変色しており、外面は全体にくすんでいる。2次焼成を受けた痕跡は明瞭でないが煮沸使用されたと考えられる。53は鉢の底部だろう。54~57は鼓形器台である。55・56は2次焼成

を受けて赤化している。55は上部に平坦面を持つので、沓型支脚へ分化する初現的な形態である。58～63は杯で、身の深い平底タイプと、身の浅いタイプがあり、61はつくりが悪く小型なので、ミニチュアの可能性もある。62は胎土が精良でつくりもよい。 (秦)

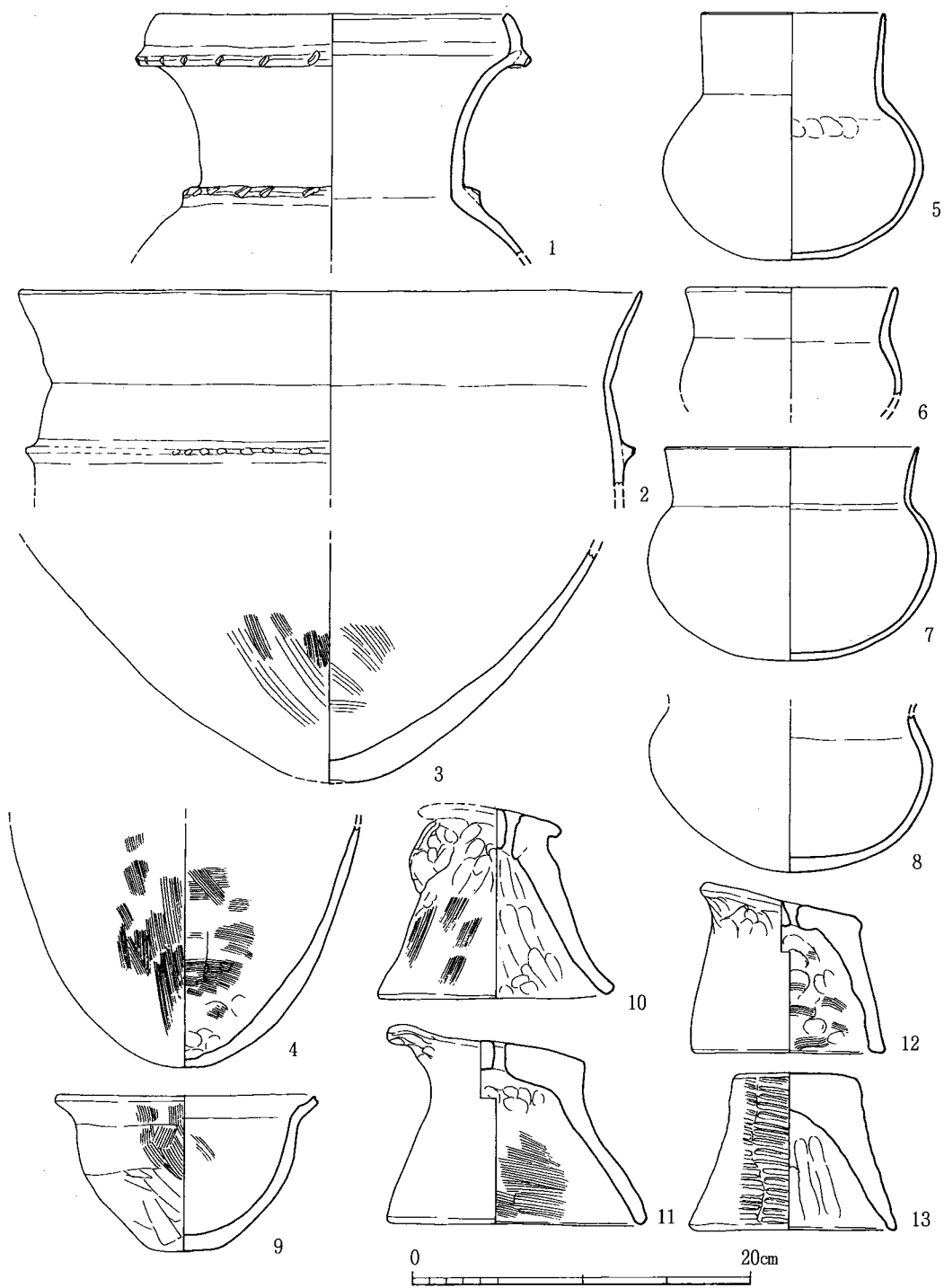
12号土坑 (図版117 第196図)

平坦面南半部の竪穴住居跡の存在しない空間に位置し、長軸約3.6m、短軸1.4m、深さは65cmで、12号土坑と主軸方向・規模がほぼ等しい。上位から完形に復元できる土器が大量に出土している。

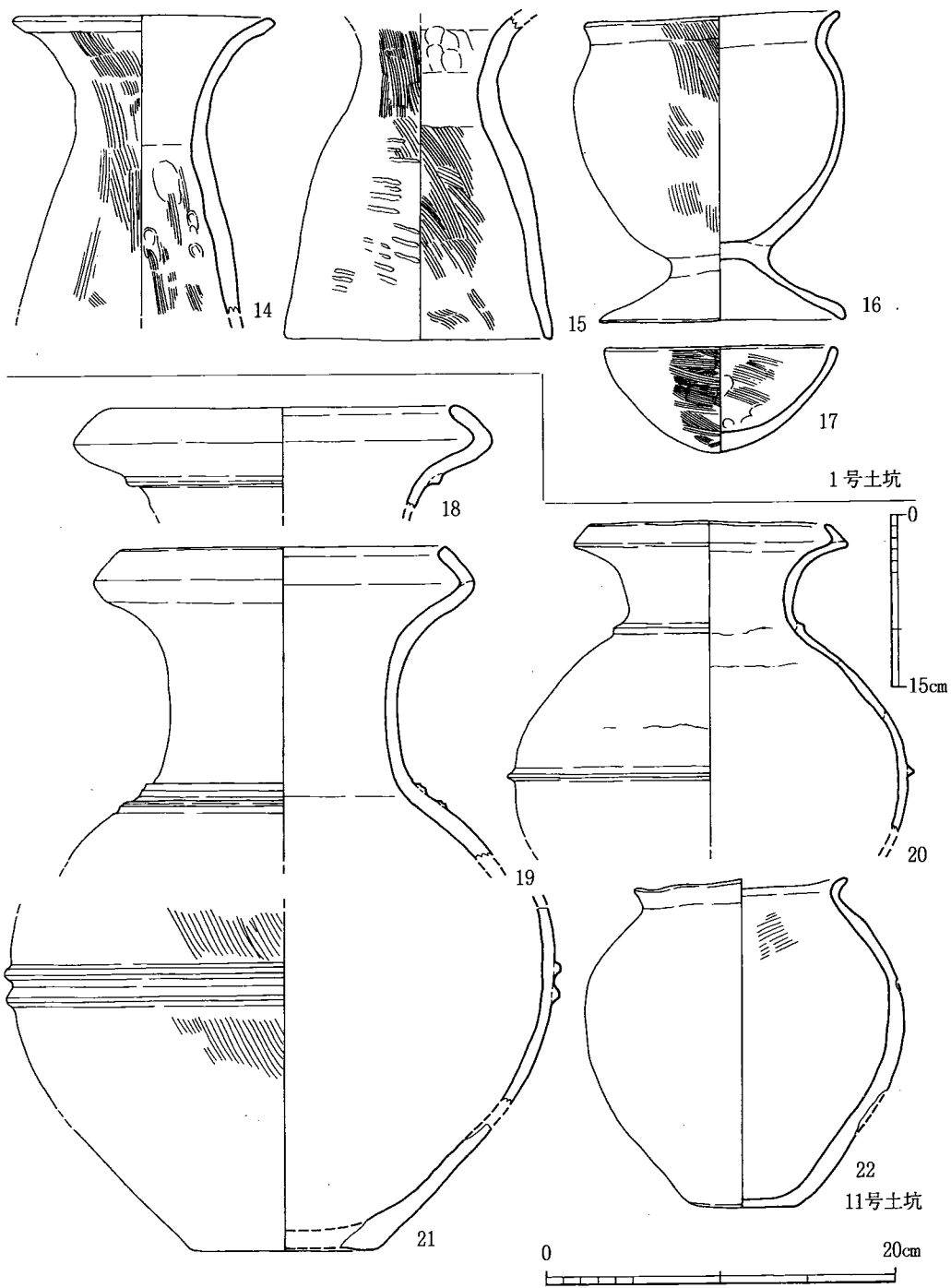
遺物 (第204～207 第2411図11) 64～68は複合口縁壺で、64は小型品でつくりが粗い。複合部が内湾するタイプがほとんどである。69・70は単口縁壺で、前者は、頸部に断面三角形の突帯が貼り付けられている。つくりは粗く、ほぼ同じ大きさの小型品のみである。16～19は中型の甕の口縁部、12・20は小型の甕、15・25は小型甕の底部、後者は外底から胴下位が赤変している。86は中型甕の底部、78は大型の甕で2次焼成が見られる。22・23は中型甕の口縁部、23はほぼ完形の甕棺である。27・28は壺の底部で、外底から胴下位が赤変している。29・30は短頸



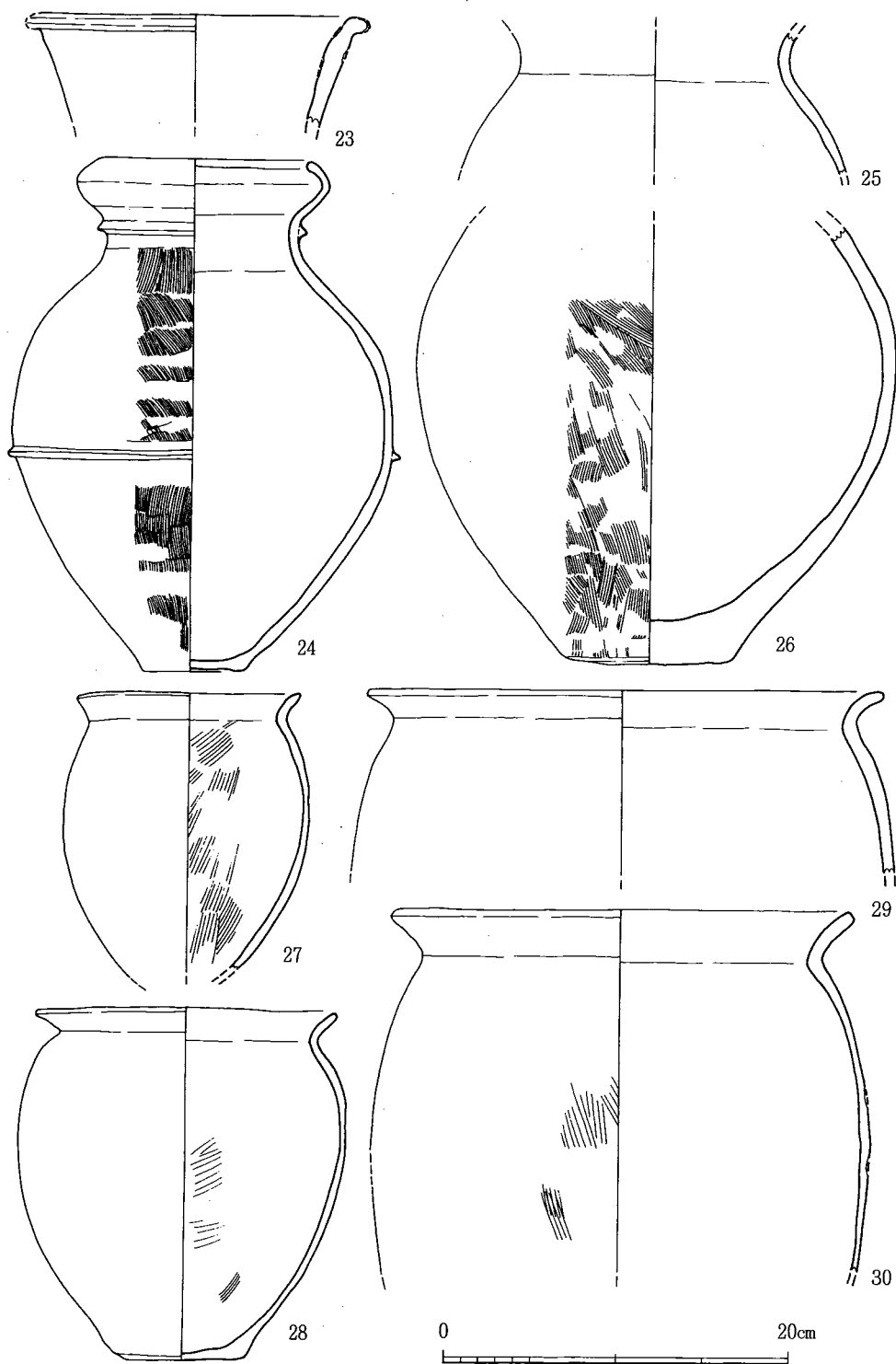
第196図 12号土坑実測図 (1/30)



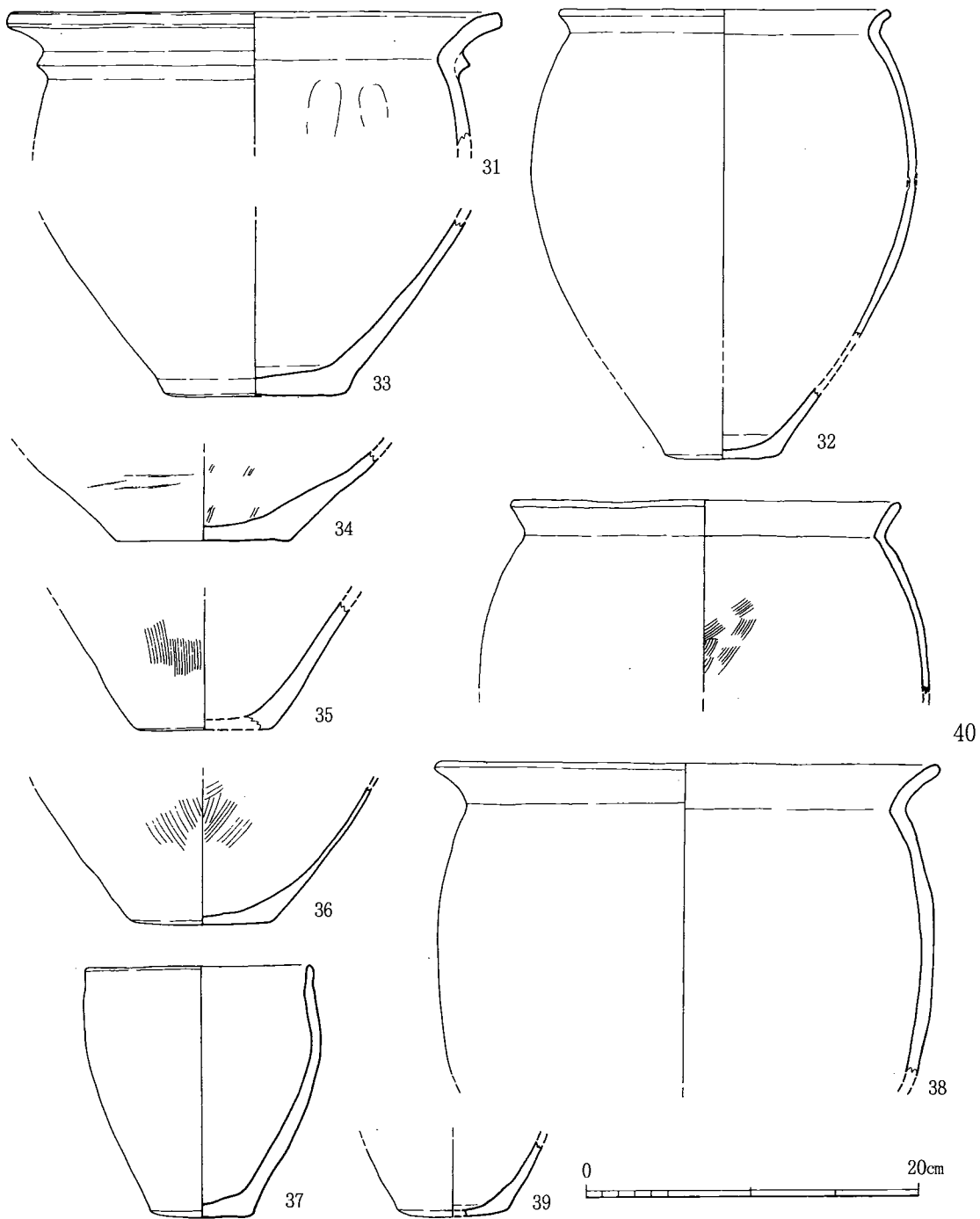
第197图 1号土坑出土土器实测图 (1/4)



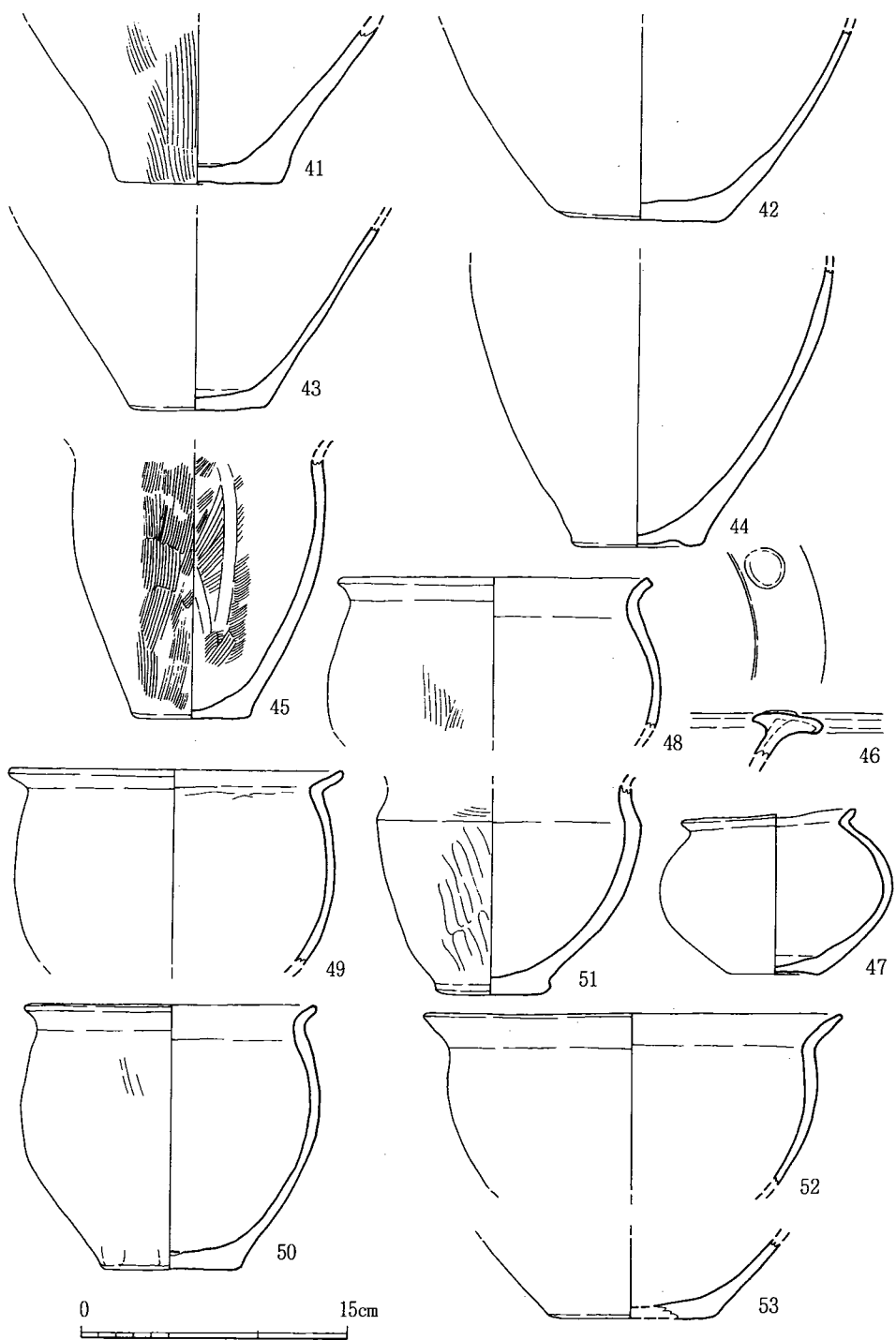
第198图 1・11号土坑出土土器实测图 (1/4 20は1/6)



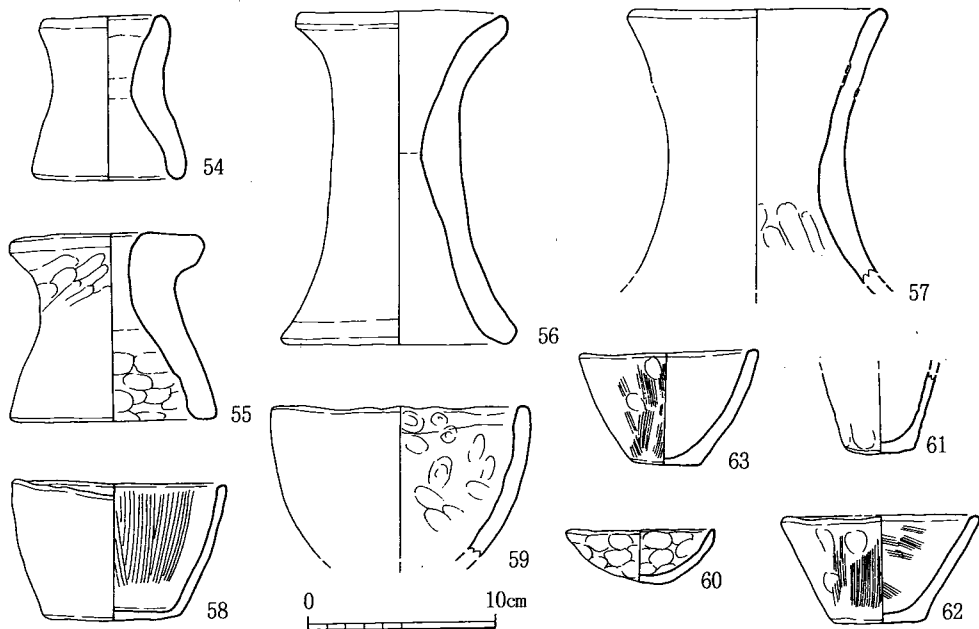
第199图 11号土坑出土土器实测图. 1 (1/4)



第200图 11号土坑出土土器实测图. 2 (1/4)



第201图 11号土坑出土土器实测图. 3 (1/4)



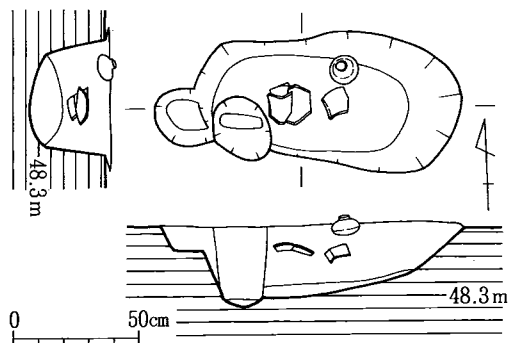
第202図 11号土坑出土土器実測図. 4 (1/4)

壺で、29は外面に煤がつくので、台付鉢の可能性はある。31は底部穿孔の見られる壺か鉢の底部である。11は長頸壺か直口壺の胴部、32は台付鉢の台であろう。33～35は鼓形器台で、36～43・103・107は杯で、44～46・48・49はミニチュア器種である。埋土中から打製石鏃（第241図11）が出土している。（秦）

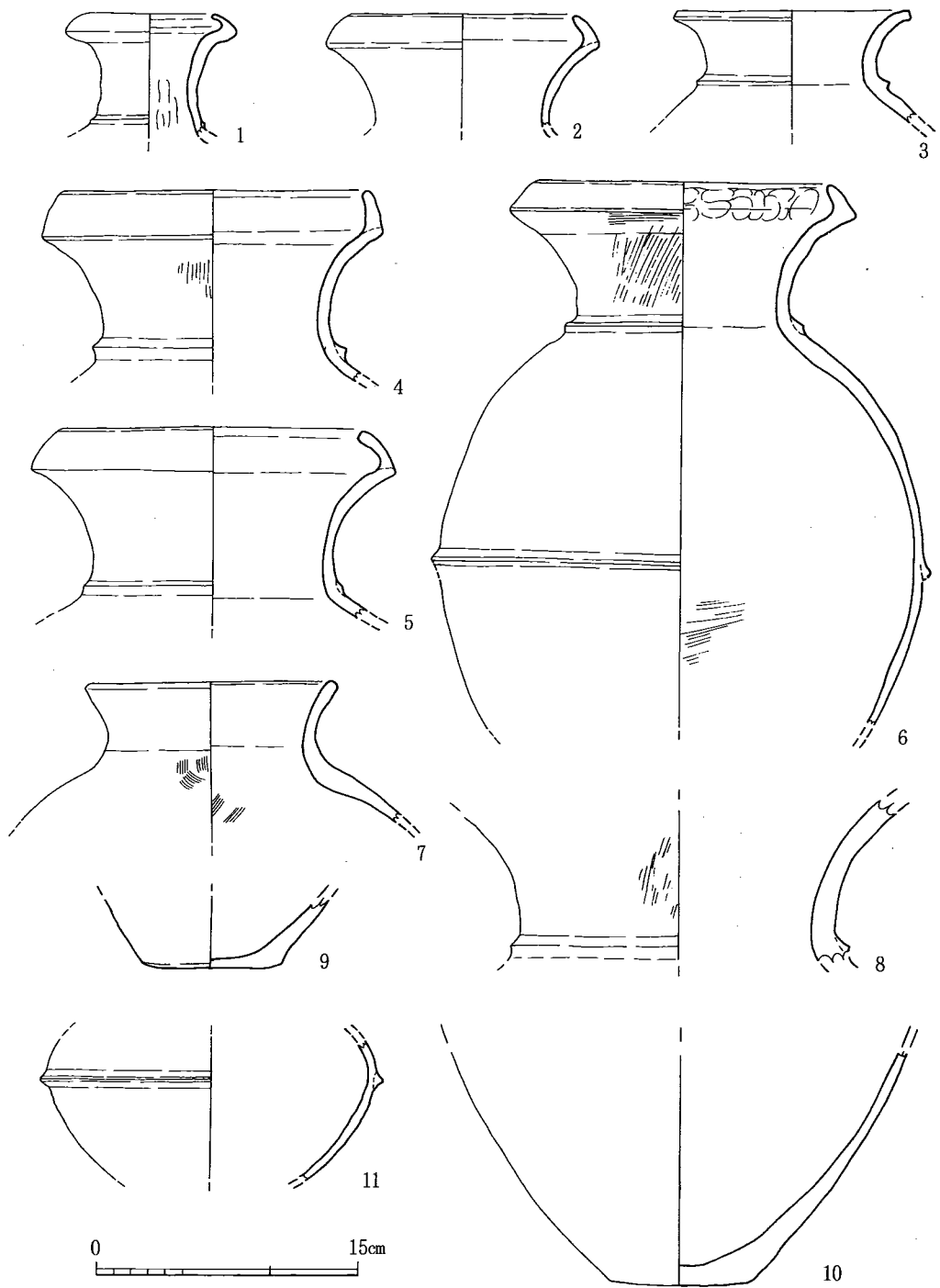
13号土坑（図版112、第203図）

平坦面南半部の竪穴住居跡の存在しない空間に位置し、上面を削平されているらしく、長軸約1.05m、短軸0.55mと小さく、深さは28cmと浅い。上位から完形に復元できる土器が出土している。

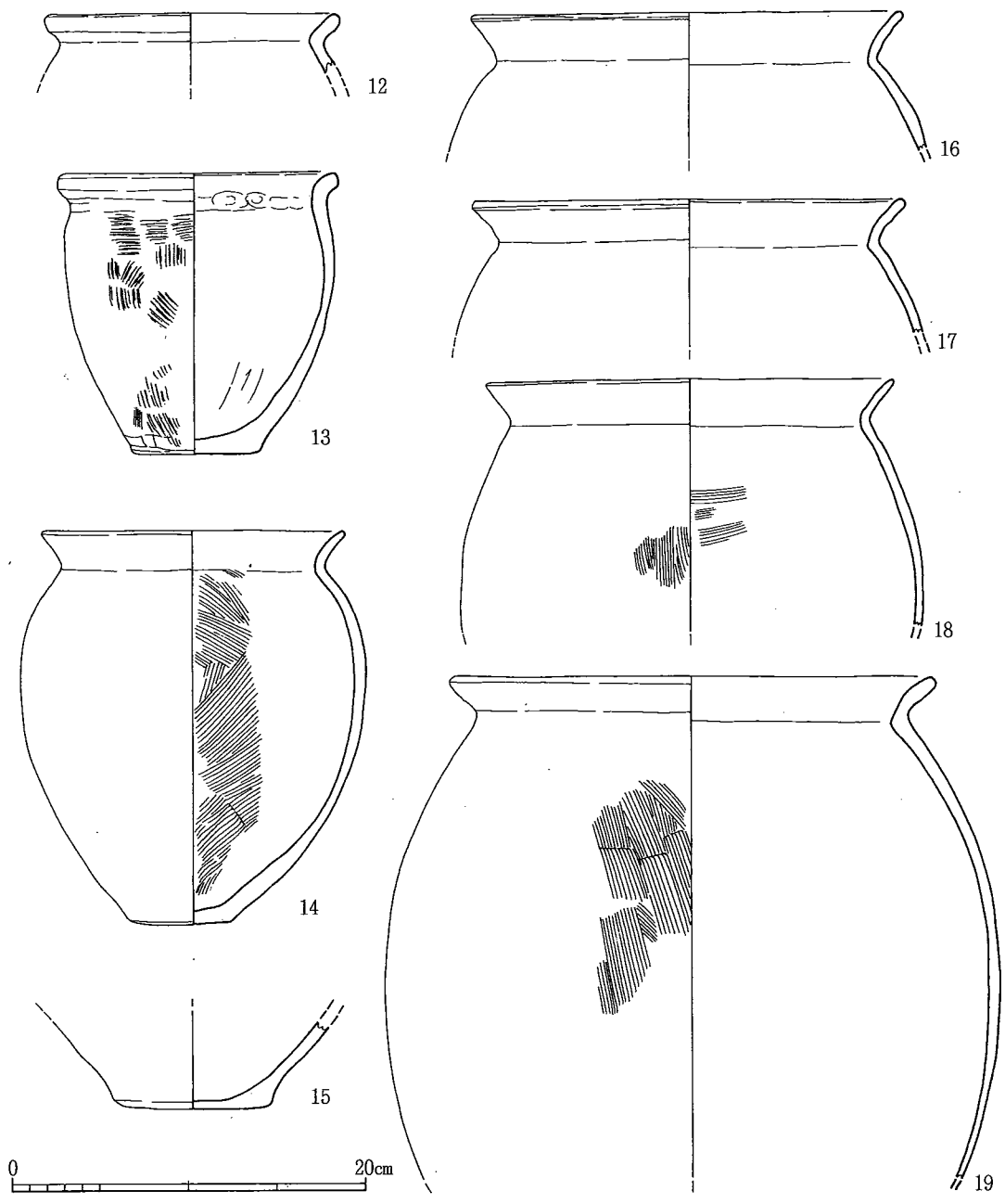
遺物（第208図）1は壺の肩部、2は甕の口縁部で、3～5は底部、6は台付杯であろう。外面に煤が付着する。（秦）



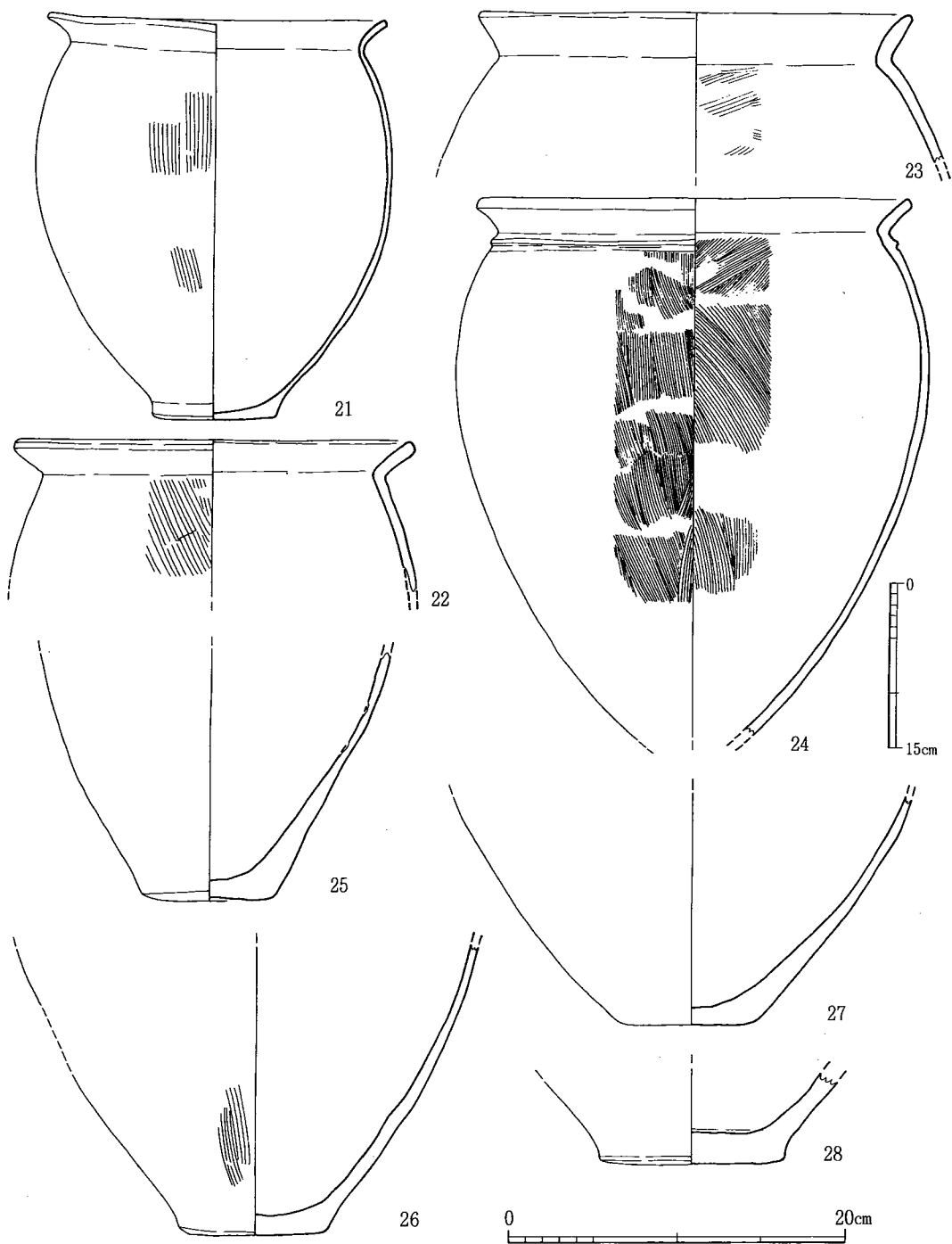
第203図 13号土坑実測図 (1/30)



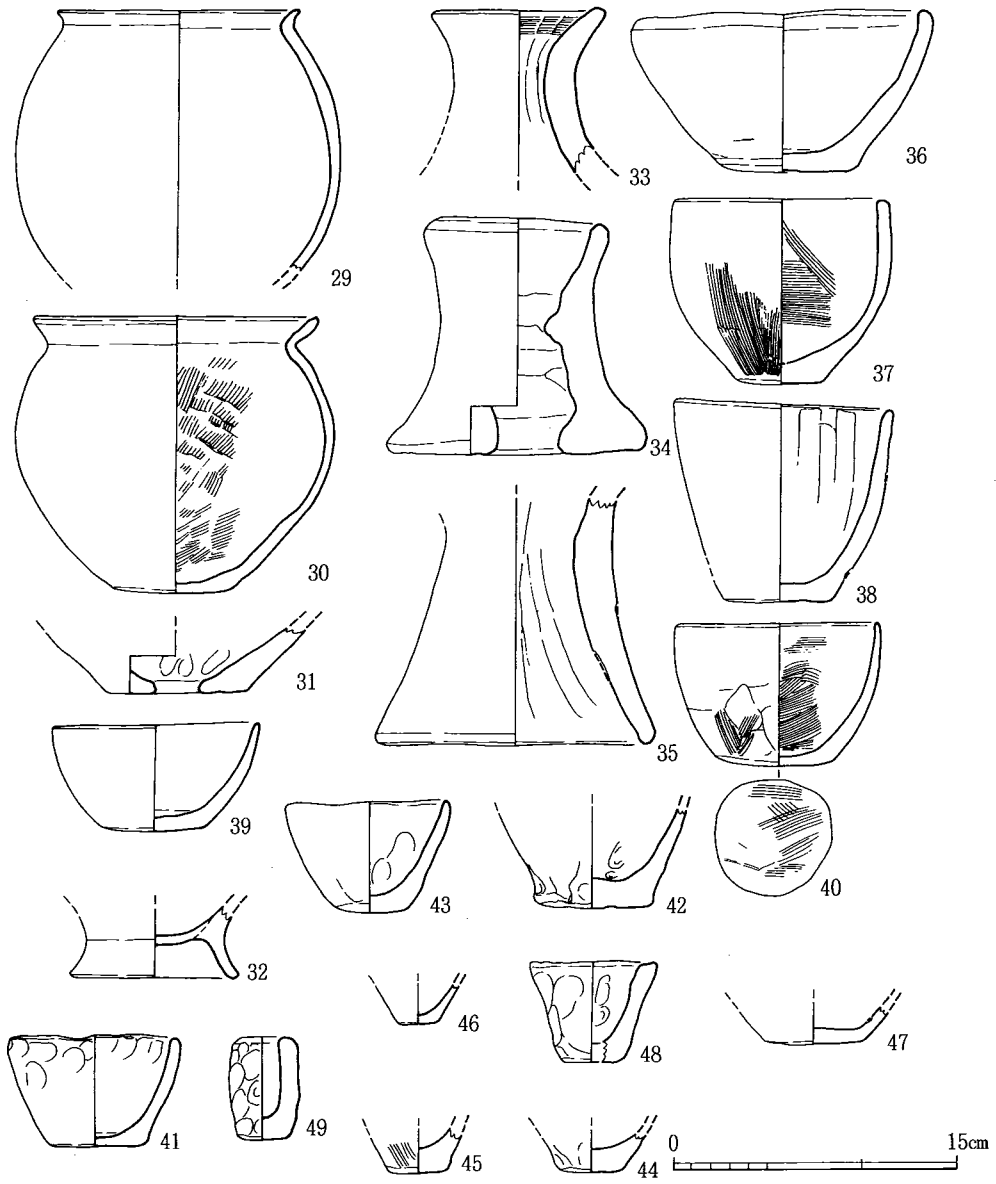
第204图 12号土坑出土土器实测图. 1 (1/4)



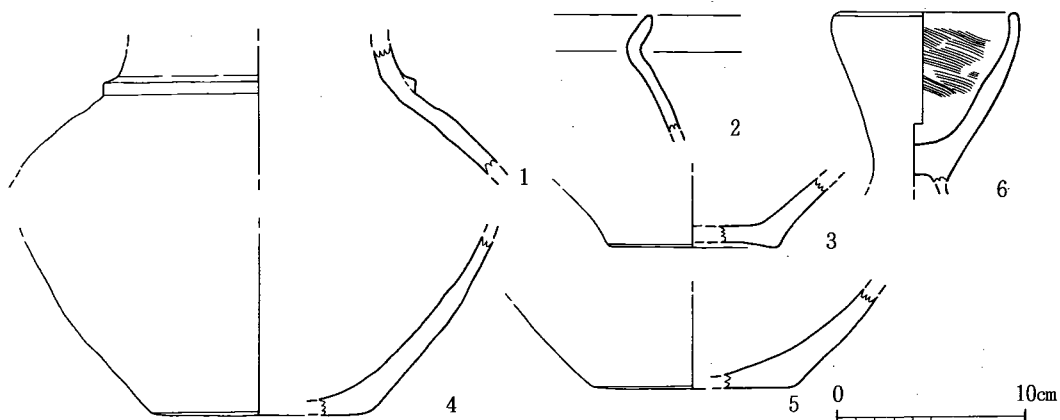
第205图 12号土坑出土土器实测图。2 (1/4)



第206图 12号土坑出土土器实测图. 3 (1/4 83は1/6)



第207图 12号土坑出土土器实测图. 4 (1/4)



第208図 13号土坑出土土器実測図 (1/4)

1002号土坑 (遺構に関しては来年度に報告)

遺物 (第209図～第215図) 1～8は頸部と胴部に突帯を有する袋状口縁壺である。1・2・5～7は口縁径より胴部径が大きくなるタイプで、口縁部の屈曲も丸みを帯び明らかな陵を持たない。8は屈曲部に陵をもつタイプで、口縁径は胴部径に近い。3・4も同タイプになると考えられる。いずれも摩滅が激しく器面調整は不明瞭であるが、部分的にハケ目が確認できる。1・2・7・8は口縁屈曲部内面にヨコナデを施し、4・5には指圧痕がほぼ等間隔に確認できる。7・9は底部内面にナデを施す。1は復元口径13.2cm、2は口径15.6cm、3は復元口径17.1cm、4は復元口径21.1cm、5は口径12.0cm、6は復元口径16.8cm、底径9.0cm、7は口径19.0cm、底径9.0cm、8は口径19.0cm、底径9.0cm。

9・10は広口壺で頸部に一条の突帯を持つ。9が口径20.1cm、底径9.4cm、10が復元口径18.8cm。どちらも摩滅が激しいが、9の底部には指圧痕が認められ胴部には変色が見られる。

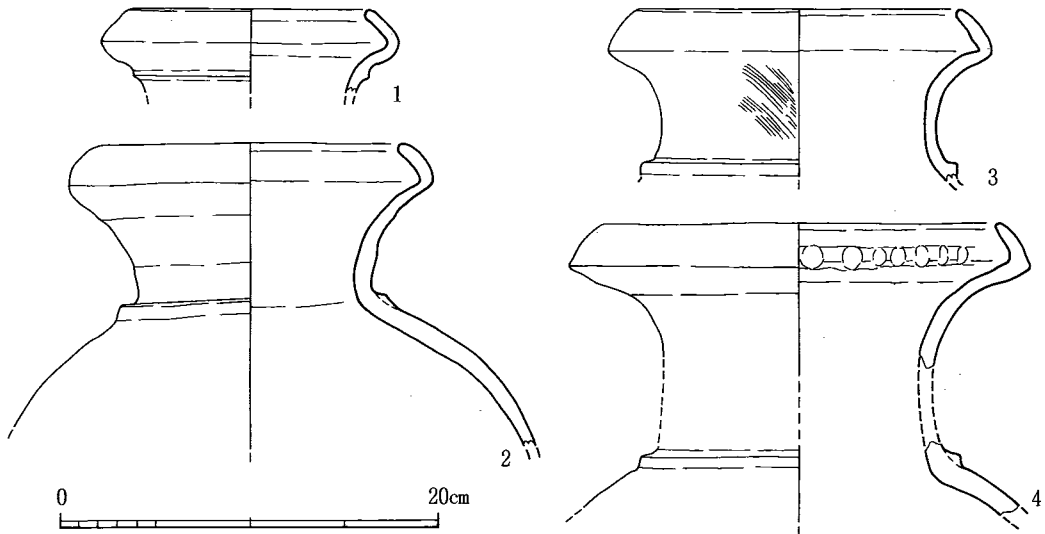
11は袋状口縁壺の口縁部で、復元口径13.6cm。二条の突帯を持ち、内外面とも丁寧なヨコナデを施す。12は壺の口縁部小片で、調整は不明である。13は口縁がやや袋状を呈する壺で、頸部と胴部中位に突帯を有する。口径17.5cm・最大胴部径32.4cmと口縁が小さい。外面は縦方向のハケを施し、内面は摩滅のため不明だが口縁付近はハケ目が認められる。

14は口縁部を欠く壺である。他の土器に比して残存状態が良く、外面はハケ目後ナデを施し内面はハケ目のみ、底部内面はナデを施し頸部はヨコナデを施す。胴部中位が大きく張り、広口口縁となろうか。復元底径7.4cm。15・16は平底の壺底部で、摩滅のため器面調整は不明、復元底径は5.8cmと9.6cm。

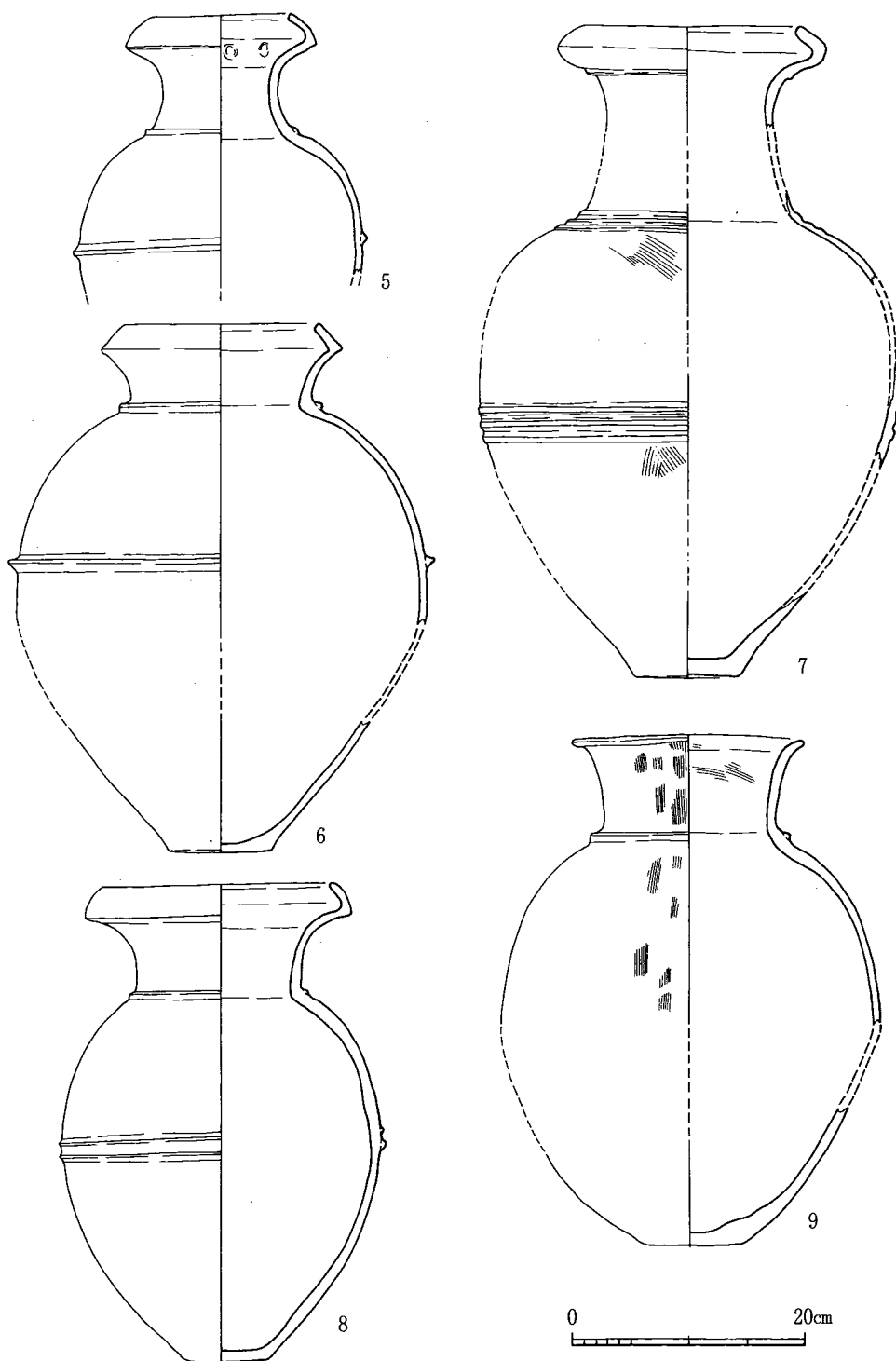
17～37は甕である。甕の占める比率が大きく、いずれも胎土に細砂粒を多量に含む。

17～19は口縁が強く外反して胴部が張らないタイプで、復元口径は順に18.4cm・20.0cm・22.6cmである。摩滅が激しく器面調整は不明瞭であるが、19は胴部にハケ目が見え、口縁部付近は

その後ナデを施す。20～24は口縁が緩やかにくの字に屈曲する。20は口縁に比して胴部が大きく張るタイプで、復元口径15.6cmである。器面の剝離が激しく調整は不明である。21は口径15.7cm、器高20.6～21.4cm、底径7.3cmを測る。外面全体に火を受け、特に底部付近は赤変し摩滅が著しい。中位外面は僅かにハケ目が残る程度であるが、内面は上半部がハケ後粗いナデ、下半部は丁寧なナデを施す。22は甕の口縁部と底部片で、復元口径15.8cm、復元底径6.3cmである。口縁外面付近は摩滅により器面調整不明であるが、内面はハケを施し底部はナデる。底部外面は火を受けて一部黒変し、内面はハケを施した後ナデる。23は口径17.6cm。全面摩滅が激しく器面調整は不明。24は復元口径17.3cm、器高20.9cm、底径7.5～8.0cmである。全面摩滅が激しく器面調整は不明瞭であるが、胴部中位にハケ目が僅かに認められる。25は頸部が締まり胴部中位が張るもので、頸部と胴部中位に三角形の貼付け突帯を持つ。口径17.1cm、器高33.0cm、底径8.2cmである。摩滅のため器面調整は不明で、胴部は一部火を受けて赤変、ススが付着する。26～33は口縁部がやや強くくの字に屈曲する甕である。特に26・28～30・32・33は内面に明確な陵がつく。26は、口径27.5cm、底径7.9cm、器高31.2～34.3cm。摩滅が激しいが、外面部分的にハケ目残り煤が付着する。27は復元口径30.1cmで、屈曲部はあまり強い陵はつかない。器面は摩滅のため調整不明。28は口径23.4cmで、口縁の屈曲はやや緩やかである。外面は二次加熱を受けて全体が黒変しており、僅かに斜方向のハケ目が残る。また頸部外面を巡るように煤が付着している。29は口径24.0cmで、口縁端部は断面コの字になる。器面は摩滅が激しく調整不明。30はやや胴部が張り、復元口径は24.0cm。屈曲部は強い陵がつく。摩滅が激しいため



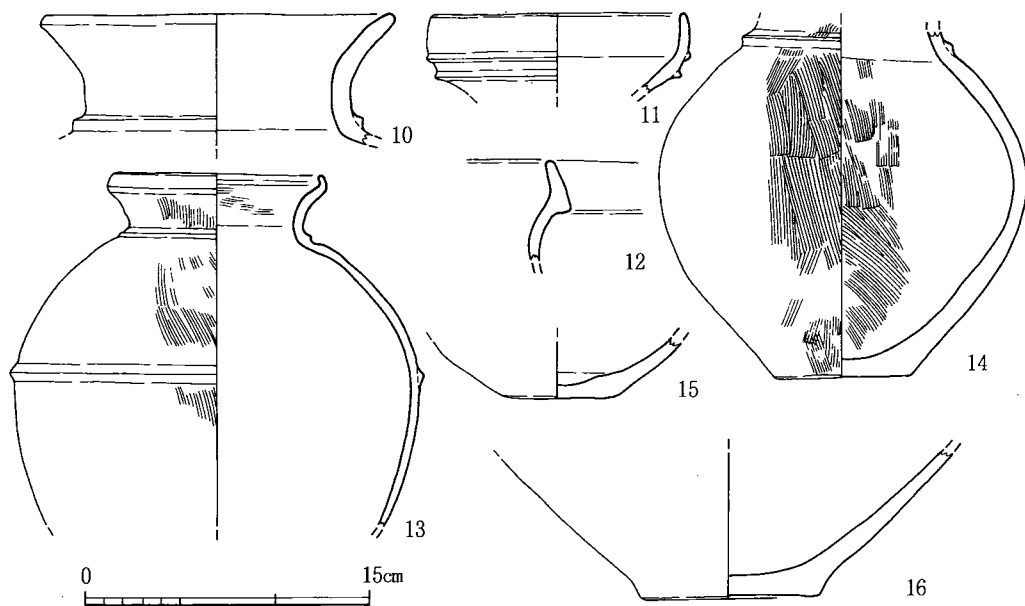
第209図 1002号土坑出土土器実測図。1 (1/4)



第210图 1002号土坑出土土器实测图. 2 (1/6)

器面調整は不明。31は復元口径26.0cm。器面は摩滅が激しく調整不明。32は口縁がやや強く外反するもので、復元口径26.2cm。器表面の剝離が激しいが、屈曲部外面にヨコナデが認められる。口縁端部と胴部に二次加熱による黒変が見られる。33は口縁が短くまとまるタイプで、復元口径27.0cm。器面は摩滅・剝離が激しく調整不明。胴部下位は二次加熱により赤変する。34は口縁部小片で、くの字に強く外反する。器面調整は不明である。35・36は甕の底部で、内外面をヨコナデする。36はややレンズ状になる。37は平底で古い様相を残し、底部付近が二次加熱のため部分的に赤変する。

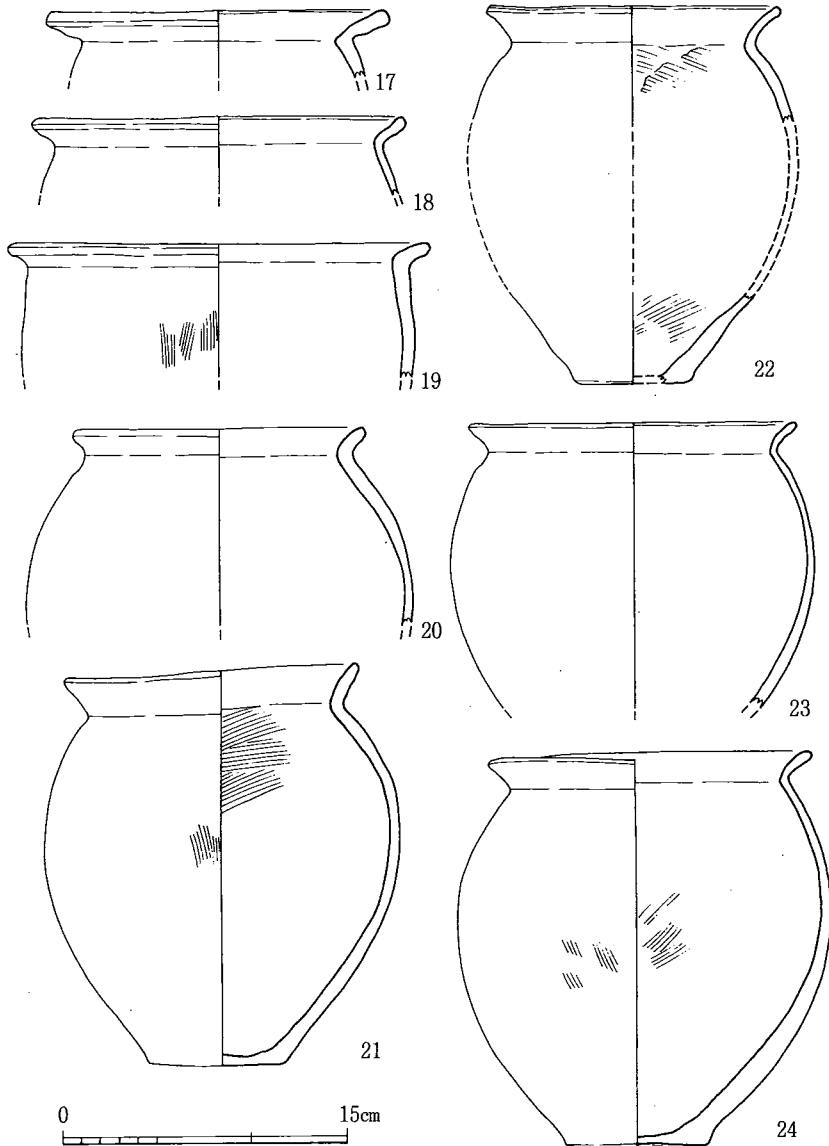
38~47は小型の鉢である。38・39は甕型の鉢で、38は復元口径13.6cm、39は口径12.6cm・器高7.4cm・底径12.3cm。39は口縁が外反し、底部は締まって厚く台状になる。底部外面のハケを止めることによって台状部分を意識して作り出している。内面・底部外面はナデる。38は内外面ともナデを施す。40は台付壺の台部で、復元裾径11.6cm。摩滅のため器面調整不明。41~43は外へ開く碗で、順に口径10.0cm・14.4cm・14.4cm、底径5.0cm・6.8cm・5.4cm、器高5.5cm・6.8cm・7.2cmを計る。内面に横ハケ外面に縦ハケを施し、その後ナデる。41・42は直線的に開いて端部を丸く仕上げるが、43は胴部下半がやや張る。44は胴部が大きく張るもので、復元口径12.7cm。摩滅が激しく器面調整は不明である。45・47は口縁がやや直線的に立ち上がる器高の高い鉢である。45は口径12.0cm・底径6.0cm・器高9.2cm、47は復元口径12.3cmを計る。器壁は薄く、口縁端部も薄く丸くまとめる。45の内面はナデを施すが、その他は摩滅のため調整不



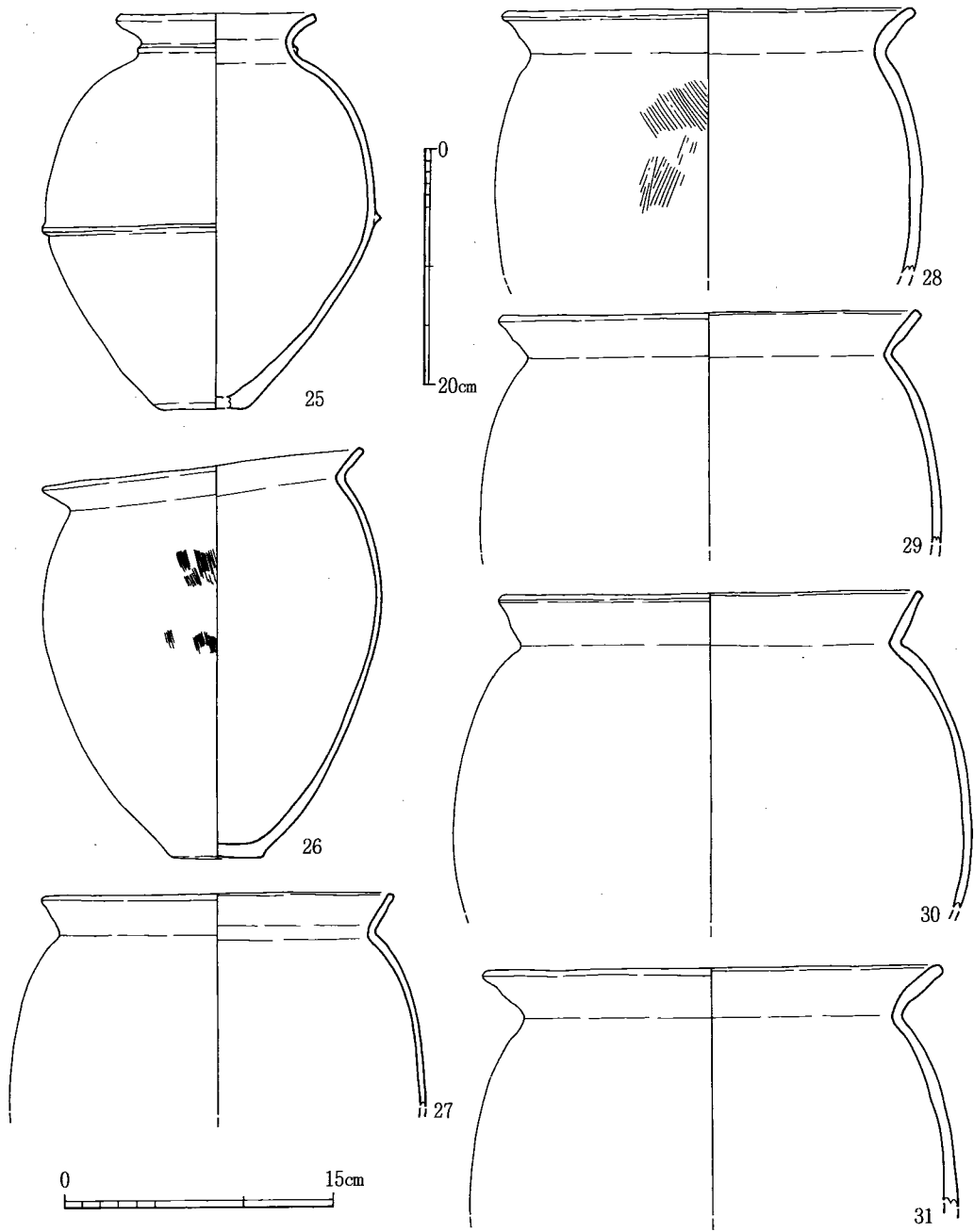
第211図 1002号土坑出土土器実測図. 3 (1/4)

明。46は口縁をやや内傾させ、胴部が丸みを帯びる。復原口径11.7cmで器高は知り得ないがやや深めになる。内面は指圧痕がつく程のナデを施し、外面は摩滅のため調整不明。

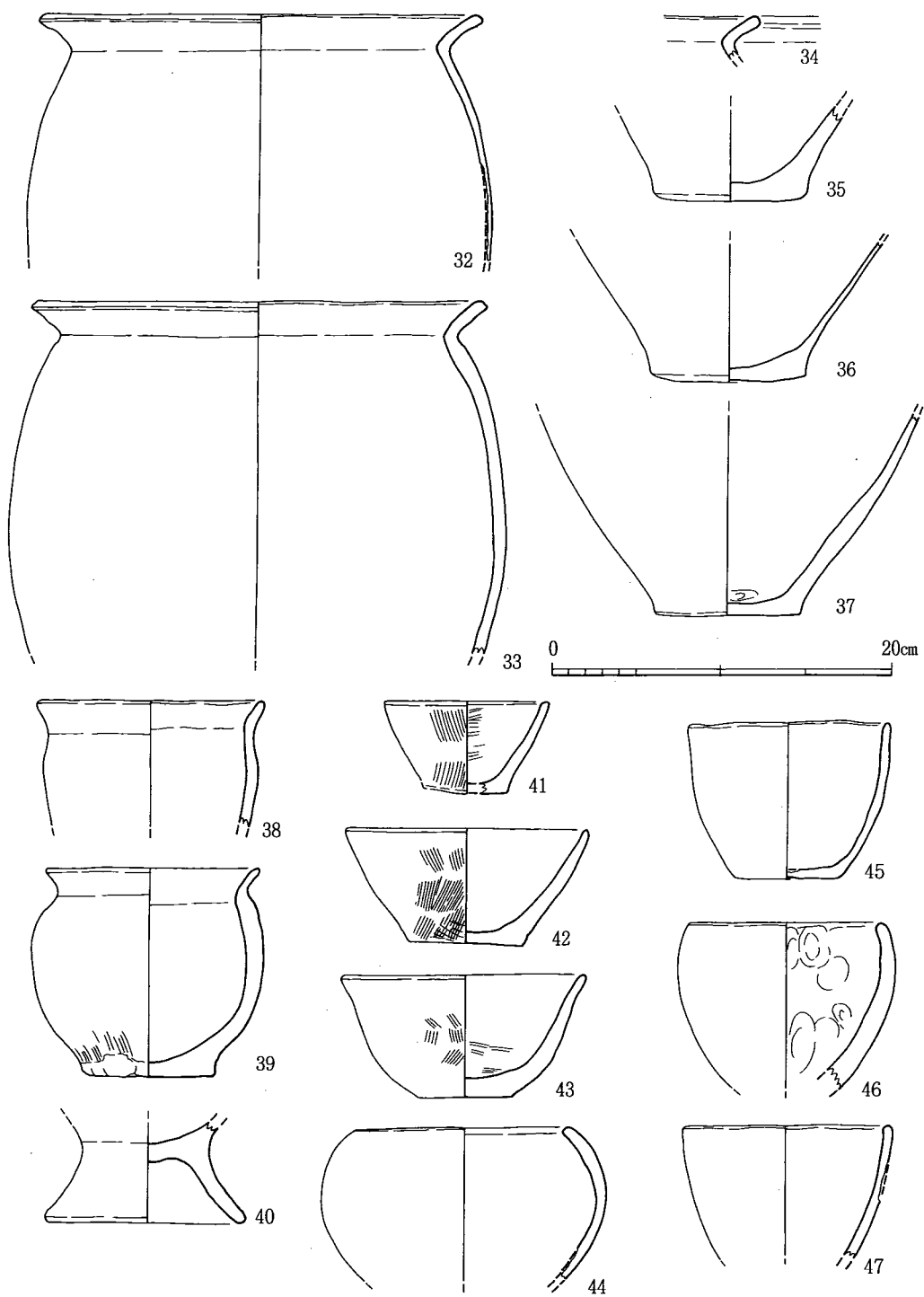
48は中型の鉢で、復元口径28.3cm・復元底径8.3cm・器高20.0cm。器面は摩滅が激しく、口縁部のナデ以外は調整不明。



第212図 1002号土坑出土土器実測図。4 (1/4)



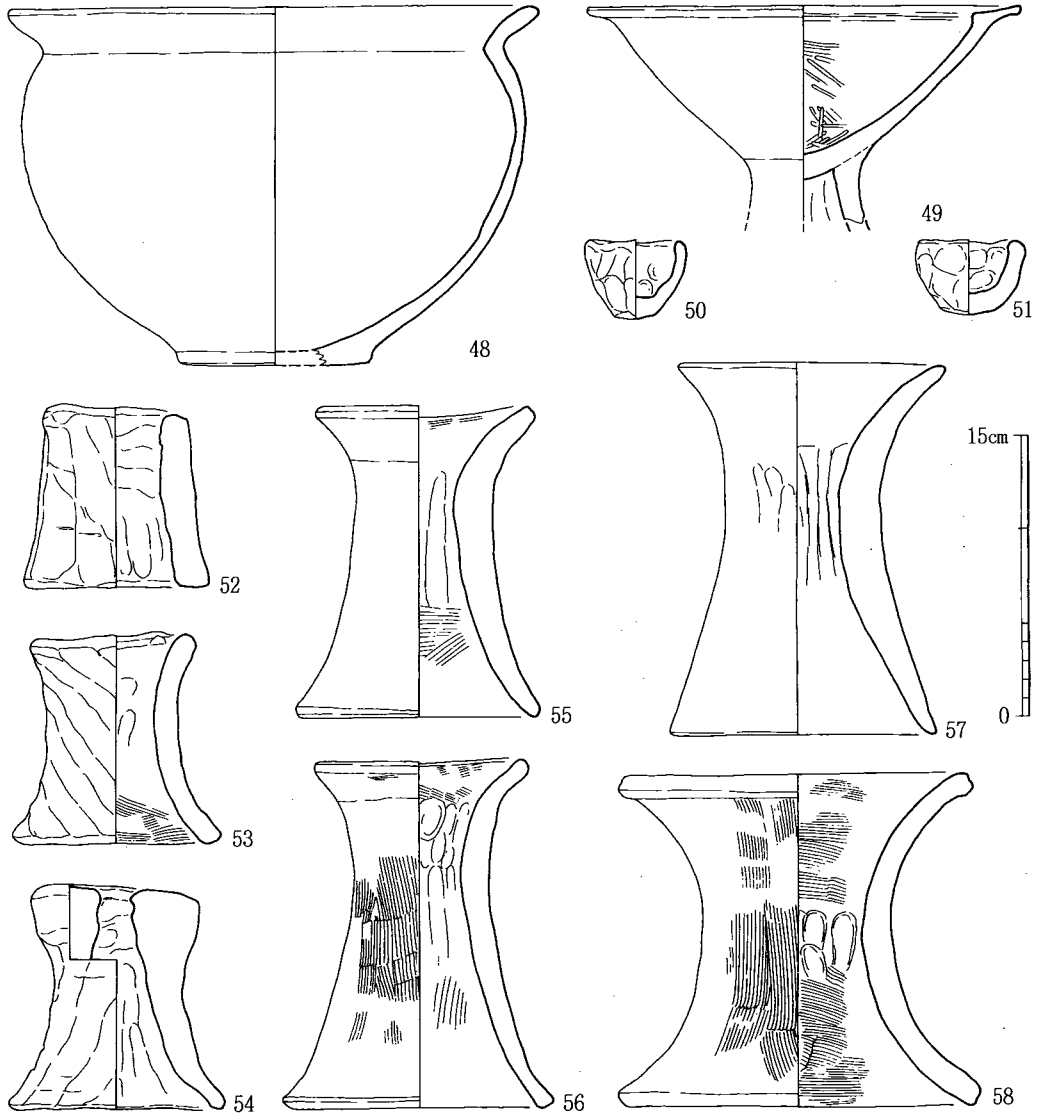
第213图 1002号土坑出土土器实测图. 5 (1/4 25~27は1/6)



第214图 1002号土坑出土土器实测图. 6 (1/4)

49は高坏で、口径23.3cm。口縁部はヨコナデ、内面は研磨痕が窺われ丹塗を施す。

50・51はミニチュアの手捏ねで、内外面とも軽くナデる。口径・器高は5.2・4.2cm、5.4・4.0cmである。52～58は器台。52・53は小型のもので、口径7.4cm・8.8cm、裾径9.9cm・11.2cm、器



第215図 1002号土坑出土土器実測図, 7 (1/4)

高が9.7cm・11.2cm。52は縦に2cm前後の単位のタタキの後ナデている。内面はナデ、口縁部から胴部中位までが二次加熱により赤変する。51は外面に斜のナデ痕が強く付き、内面の裾部は横方向のハケ目が模様のように施される。54は口径8.9cm・器高11.4~12.0cm・裾径11.4cmのほぼ完形品である。外面は斜方向の強いナデを筋状に施し、内面は横・縦ナデを施す。55~57は細型で、55・56は内外面にハケ目が認められ、その後部分的にナデる。57は摩滅が激しく僅かにナデが見られるのみである。何れも内部中位には絞り痕が残る。58は横広がり型で、口径18.6cm・裾径19.0cm・器高17.8cmと口径と裾径がほとんど変わらない。内外面にハケを施し、内部中位も丁寧なナデる。口縁端部も外折し、他の個体とは作りが違う。55・57は二次加熱による赤変が見られる。
(齋部)

(4) 円形周溝状遺構

1号円形周溝状遺構 (旧2号溝) (図版113・114、第216図)

平坦面中央に位置し、3・11・22号竪穴住居跡・2号円形周溝状遺構を切り、3号溝に切られている。西南部は切り合いが判明しなかったが、ピットと切り合っていると思われる。外径7.4m内径5.0~5.2mで、平面形は円形よりもむしろ隅円方形を呈す。周溝内外からピットが多く検出されたが、本遺構に確実に伴うといえるものはない。遺物は多く、北東隅と南西隅に集中して出土した。

遺物 (第217・220図1~32) 1は複合口縁壺の口縁部、2は口縁の直立する小型の甕で、肩の張らない器形である。3・5・7・18・19は小型の甕で外面に煤が付着するものが多い。12は内面が炭化物のため変色し、外面は底部が変色している。4・6・8・9は中型の甕である。11~13は胴部全面にタタキが入る小型甕で、14は大型の甕の完形品で、口径30.4cmを測る。外面には煮沸使用の痕跡が弱いながら見られる。胴中位から上位には煤が付着し、胴下位は2次焼成により赤変しており、底部には変色がないことから、器台に載せて使用したと思われる。15は大甕の口縁部で外面に煤が付着する。16は壺甕の底部で、つくりは丁寧である。17~21は小型甕の底部で、外底は変色なしで胴下位が赤化、その上に煤が付着する。22は高杯で、杯内面に暗文風のミガキがある。23は鉢だが、台がつく可能性がある。24は鉢、25・26は短頸壺で、胎土は精良であるが、後者は煮沸使用されている。外底には変色がなく、胴中位に煤が付着する。27~30は鼓形器台で2次焼成を受けて赤化している。前2者と後2者がそれぞれ相似形であるので2個1セットとして使用されていたものかもしれない。31は杓形支脚で、32は杓子形土製品である。
(秦)

2号円形周溝状遺構（旧4号溝）（図版114、第216図）

平坦面中央に位置し、22号竪穴住居跡を切り、3・11号竪穴住居跡・1号円形周溝状遺構・3号溝に切られている。西部が切られているため、平面形は判然としないが、南辺の西端が曲がらないまま途切れることから、収束しないものと思われる。南西部が開く長方形と推定されるが、コの字形の可能性も残される。長辺は正確な数値がわからず、短辺は外径8.2m、内径6.2mを測る。周溝内外からピットが多く検出されたが、本遺構に確実に伴うといえるものはない。

遺物（第220図33～37、第240図68・69、第247図215、第229図1）33は複合口縁壺、34は中型甕の口縁部、35～37は底部で、37は甕の底部で2次焼成を受けている。埋土中より頁岩製砥石（第240図68・69）が2点と、ガラス玉（第247図215）・土製紡錘車の残欠（第229図1）が出土している。（秦）

(5) 溝状遺構

5号溝

平坦面中央東部に位置し、16・17号竪穴住居跡に切られるため残りが悪い。長く延びておらず、湾曲しているので円形周溝状遺構の可能性もある。実測できる遺物がなく、時期を特定できない。（秦）

11号溝

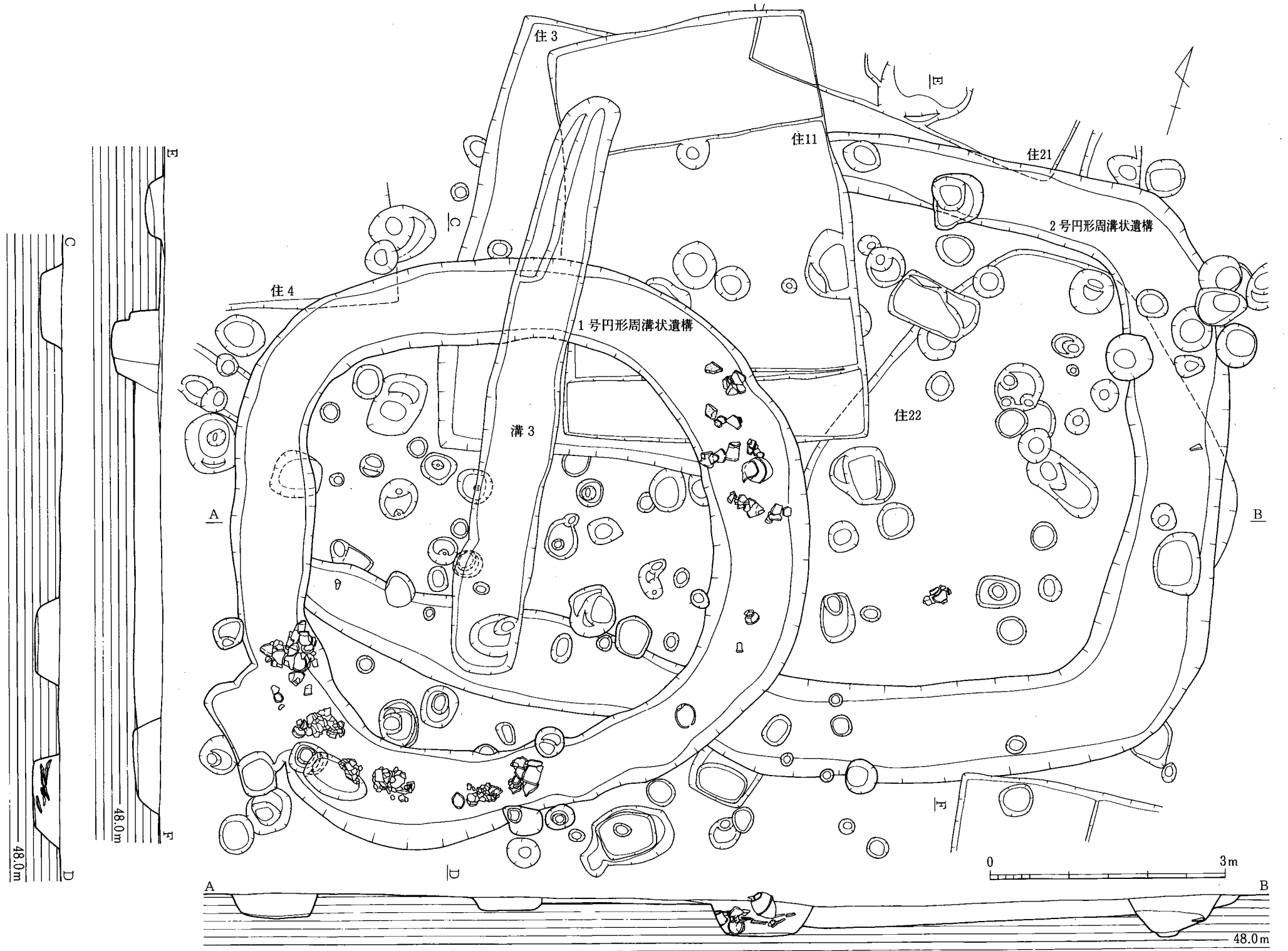
調査区西北部に位置し、29号竪穴住居跡に切られ、調査区外に延びるため残りが悪い。幅は広いところで75cm、深さは20cm程で、実測できる遺物がなく、時期を特定できないが、29号竪穴住居跡以前といえる。（秦）

12号溝

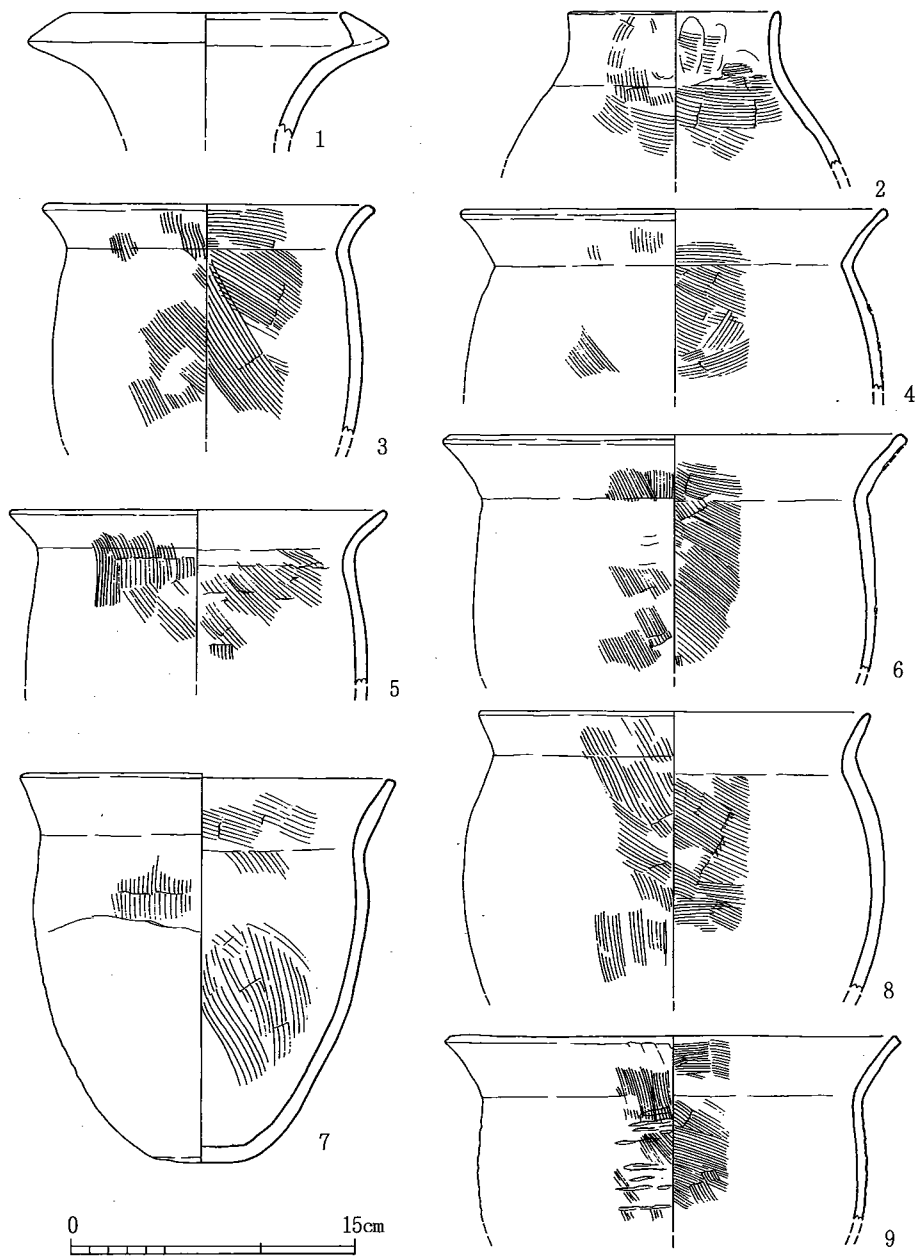
調査区西北部に位置し、調査区外に延びる。6・7号竪穴住居跡に切られ、28・29・30・33・34・48号竪穴住居跡を切る。10号掘立柱建物跡の西側に、主軸方向を同じくして並走するが、竪穴住居跡との切り合いが明確なので、伴うものではない。幅は広いところで1.4m、深さは20cm程で、実測できる遺物がなく、時期を特定できないが、弥生集落の末期の竪穴住居跡を切っていることから、弥生終末以降といえる。（秦）

14号溝

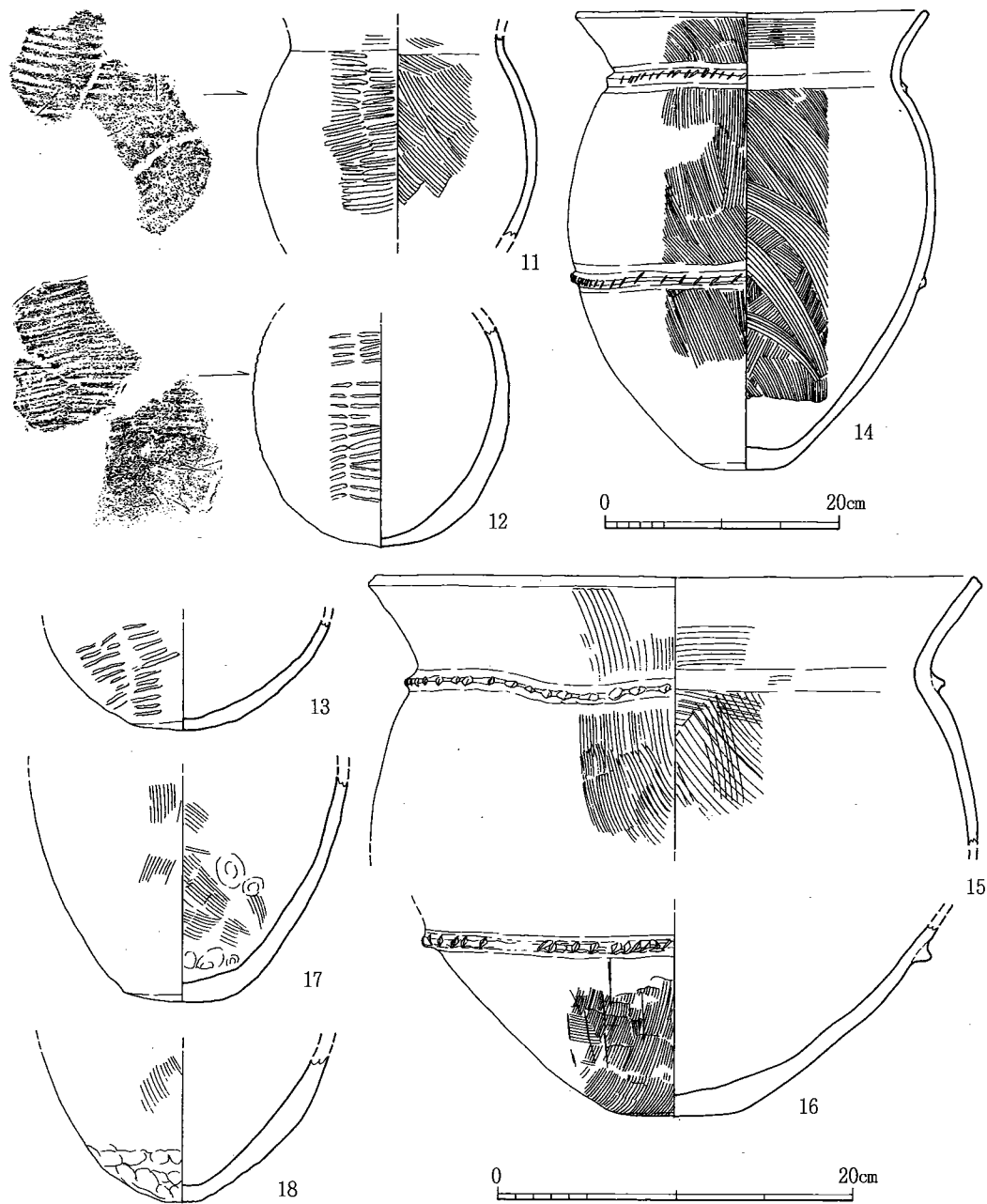
調査区西北端に位置し、49・98号竪穴住居跡に切られる。調査区外に延びるため、ほとんど



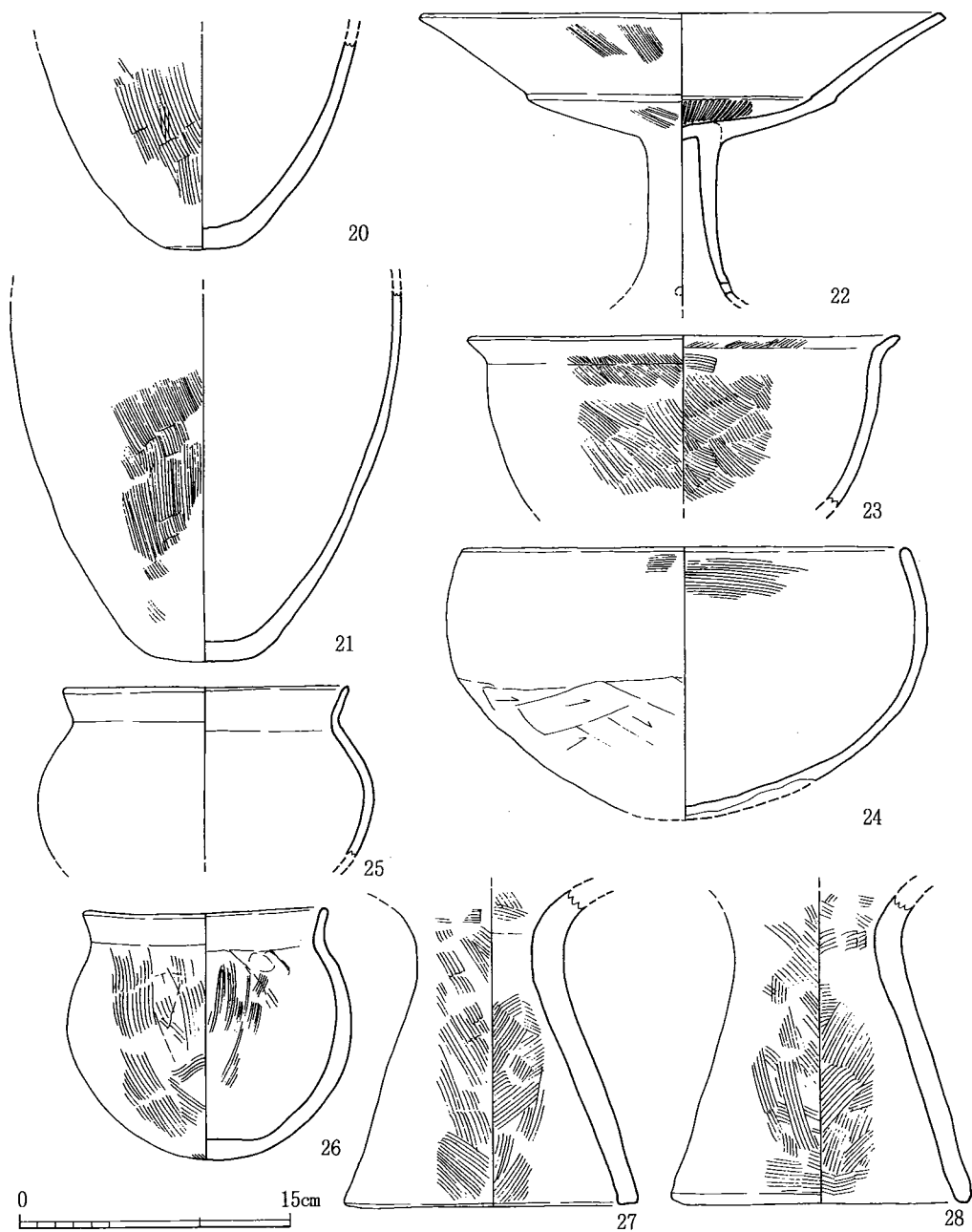
第216図 1・2号円形周溝状遺構実測図 (1/60)



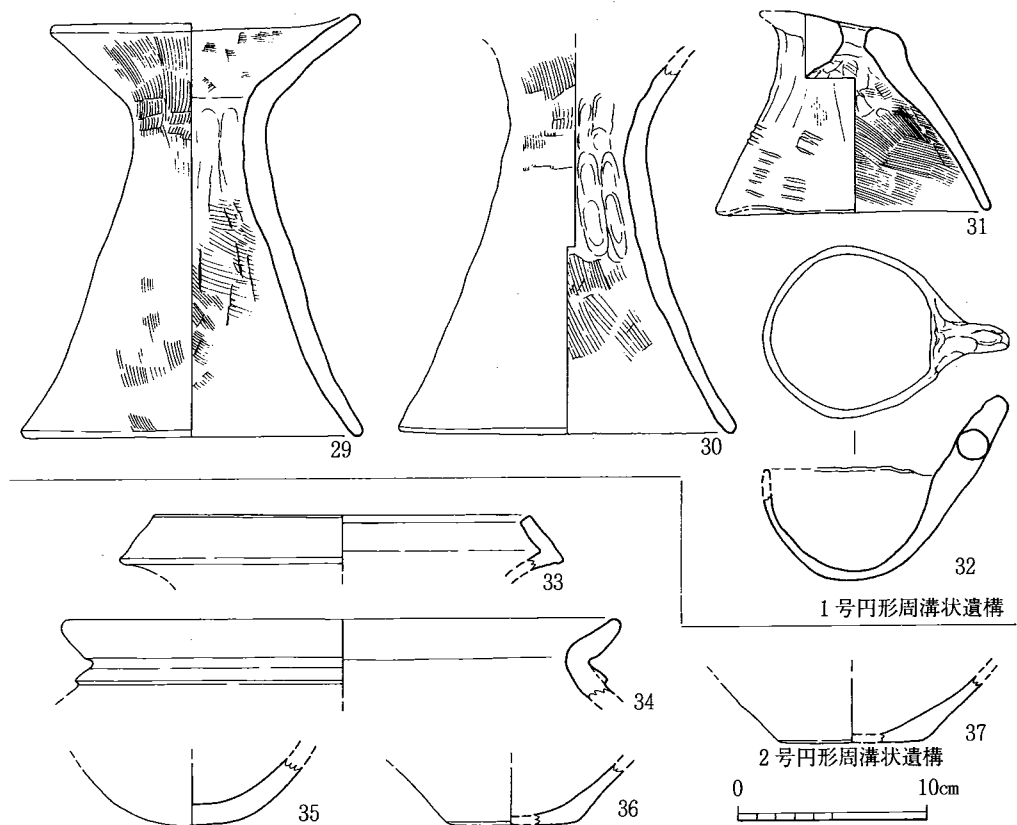
第217图 1号円形周溝状遺構出土土器実測図。1 (1/4)



第218図 1号円形周溝状遺構出土土器実測図。2 (1/4 15は 1/6)



第219图 1号凹形周溝状遺構出土土器実測図。3 (1/4)



第220図 1・2号円形周溝状遺構出土土器実測図 (1/4)

残っていないが、角をもって湾曲していることから、周溝状遺構の可能性をもつ。幅は広いところで77cm、深さは20cm程で、実測できる遺物がないため、時期を特定できないが、49・98号
 竪穴住居跡以前といえる。 (秦)

1001号溝 (遺構に関しては来年度に報告)

遺物 (第221図～第225図) 1～50は上層出土である。1～11は壺。1・2は口縁が鋤先型をなすもので、2はやや退化している。復元口径28.8cm・45.0cmで、1は口縁部に僅かに丹塗り
 が確認できる他はナデ調整である。3～7は袋状口縁壺で、復元口径は順に12.2cm・14.0cm・
 15.5cm・16.6cm・16.8cm。3・7は頸部が短く口径が胴部径より遙かに小さくなるタイプで、
 口縁部の屈曲が弱い。5・6は口縁部の屈曲が強くはっきりと陵がつくタイプで、口径と胴部
 径が近くなるものと思われる。4は前記の2タイプの間で、胴部上位に最大径があると思わ

れる。どれも摩滅が激しいため器面調整は不明であるが、口縁屈曲部に僅かにナデが認められる。8は広口壺で、復元口径は23.6cm。摩滅のため器面調整は不明。9～11は小型壺の下半部で、底径は6.5～7.0cm。底部は平坦であるが、10はややレンズ状に近くなる。9・10は底部内面に指圧痕が認められ、その他は摩滅のため器面調整は不明。

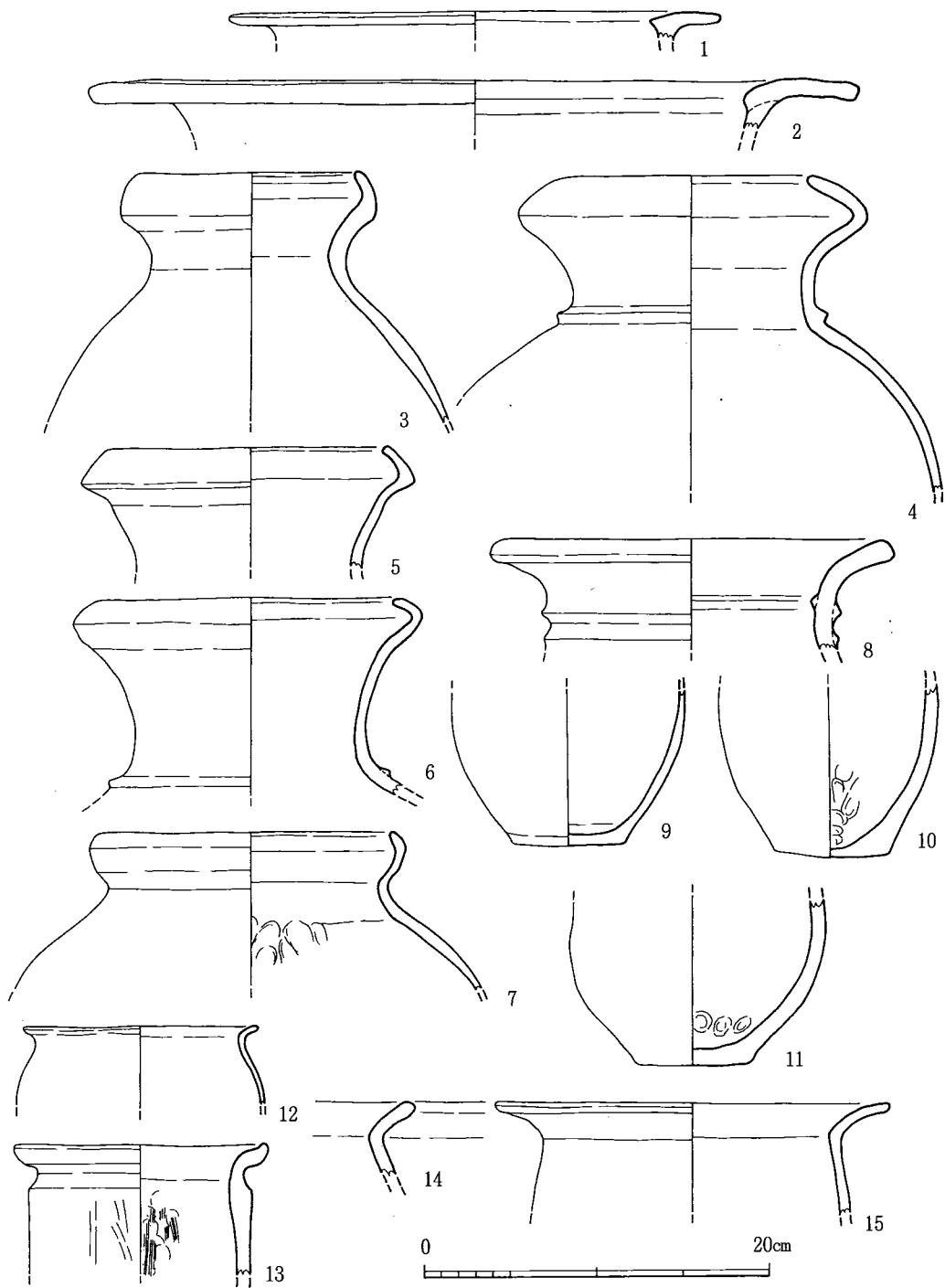
12～35は甕である。12・13は小型甕の上半部で、復元口径13.6cm・14.8cm。13は頸部からほぼ直に胴部がおちるもので、外面はヘラ等の工具による丁寧なヨコナデを施し、内面はハケを施した後にナデる。14は小片で、頸部内面をナデる。15～19は口縁部が強く屈曲する甕で、復元口径は順に23.0cm・21.2cm・22.6cm・27.8cm・30.2cmである。器面調整はいずれも摩滅によって不明である。17・18は二次加熱を受けて外面が赤変し、17は頸部に煤が付着する。20～26は口縁部がくの字に屈曲する中型甕の口縁で、22～24は屈曲がやや緩やかになる。復元口径は順に19.9cm・22.6cm・25.4cm・25.4cm・26.2cm・19.0cm・19.8cmをを計る。21の内外面、23の内面、25の外面のハケ目以外は摩滅のため器面調整不明。25は胴部から底部にかけて煤が付着する。27は口縁が大きくくの字に屈曲し胴が張るタイプで、口径18.0cmを計る。外面は摩滅のため器面調整は不明、内面は細かいハケを施す。28～30は頸部に突帯を持つ甕で、復元口径は順に32.4cm・37.4cm・39.0cm。いずれの突帯も摩滅が激しいが、29は特に貼付け方が粗雑である。器面調整は摩滅のため不明瞭で、30の突帯部分に僅かにナデの痕跡を見る。また30は二次加熱を受けた痕跡があり、外面は赤変し内面は黒変する。31は大型甕の口縁で、復元口径49.4cmを計る。摩滅のため器面調整は不明。32～38は底部片でほぼ平底であるが、34はややレンズ状に膨らみ明瞭な陵を持たない。底径は順に7.7cm・8.1cm・8.2cm・9.0cm・9.0cm・9.4cm・11.4cm。器面はいずれも摩滅が激しいが、34の内面と35の外面にハケ目が、33の内面に指圧痕が残る。38は内面を丁寧にナデる。32・38は二次加熱を受けて外面が赤変し、35は底部外面に煤が多量に付着している。34は内面に黒色の付着物が認められる。

39・40は小型の鉢で、39は口径10.7cm・器高6.9cm・底径6.6cmで内面ハケ調整、40は復元口径11.3cmで、外面はハケを施し、内面はナデる。

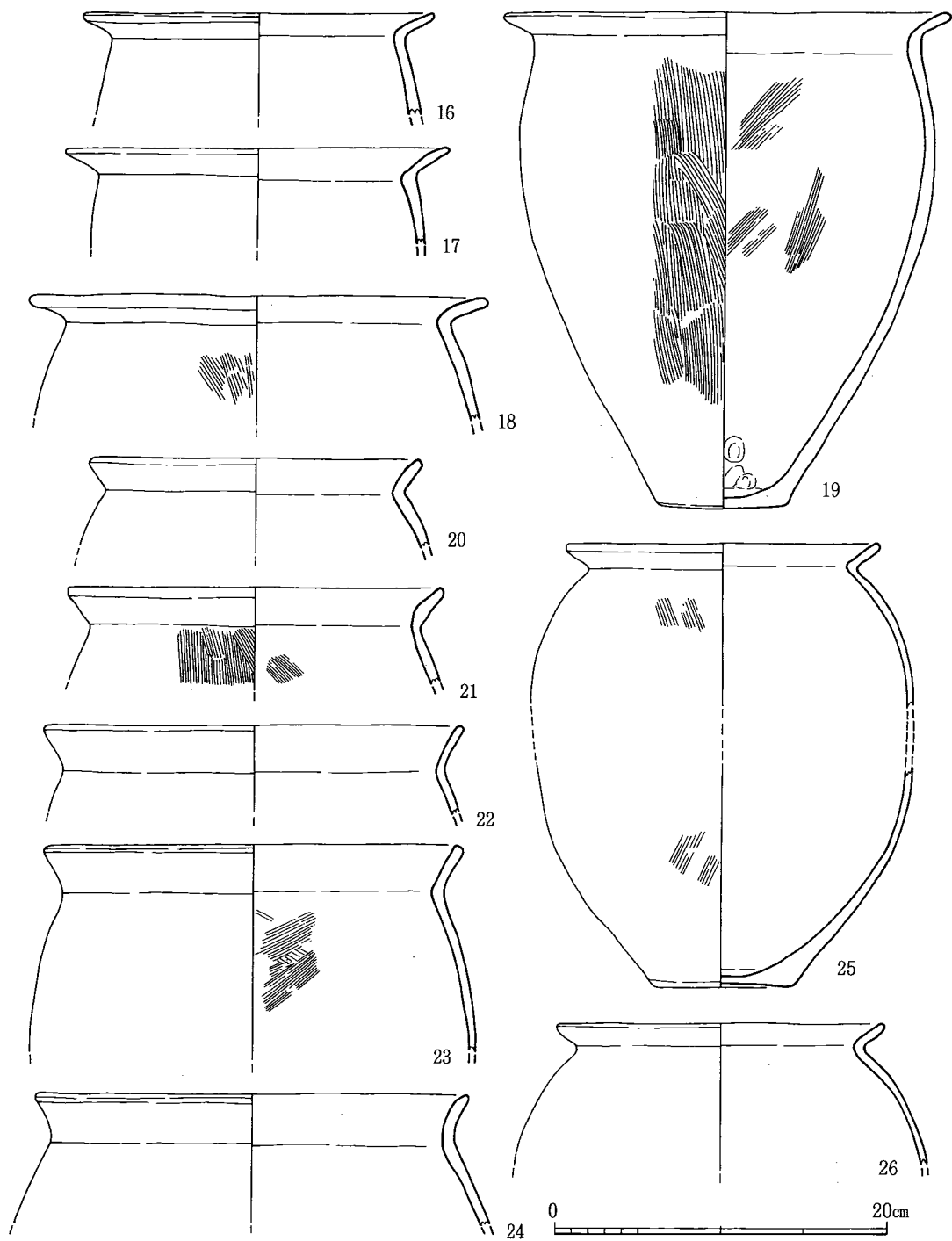
41～48はミニチュア土器。41は壺形を呈し内外面ともナデを施す。42・45・46・48は手捏ねで内外面に指圧痕が残り、外面は後にナデを施す。44は内外面をヘラ状の工具によりナデる。47は器台のミニチュアで、外面は摩滅のため僅かに指圧痕が残る程度だが、内面は丁寧なナデが見られる。48は蓋型で、端部を平端に整える。43は他とは違い外面に荒いハケを施し、内面は丁寧にナデる。ミニチュアではなく実用品の可能性も高い。

49・50は器台で、49は内面に絞り痕がみられ、裾部内面は双方ともナデる。二次加熱により49は内面が黒変し、50は内面が赤変、外面が黒変し煤が付着する。

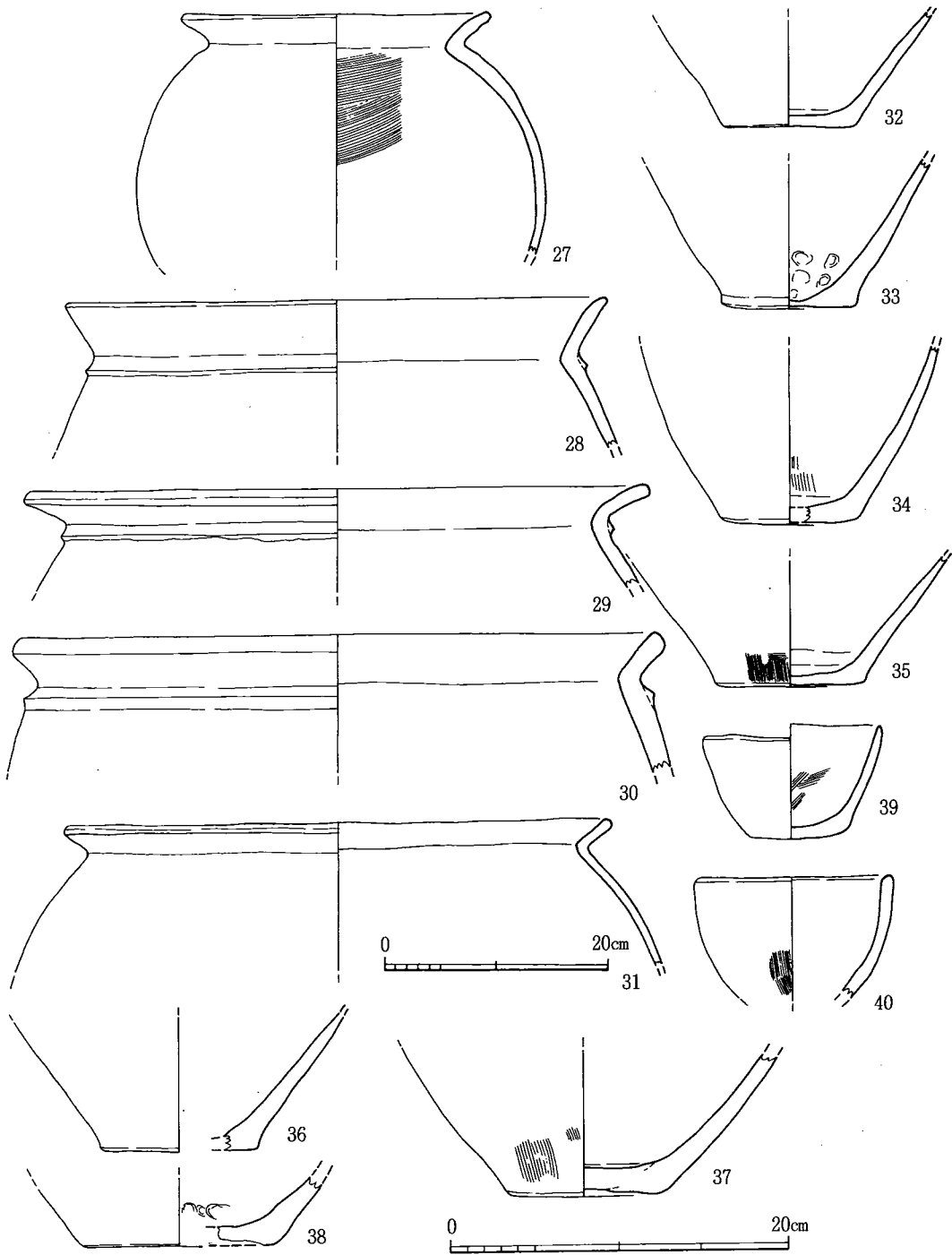
51～61は下層出土。51は袋状口縁壺で、復元口径は19.8cm。口縁が緩やかに屈曲し、明確な陵を作らない。頸部に二条の突帯を持ち、内面に指圧痕が見られる。他は摩滅のため器面調整



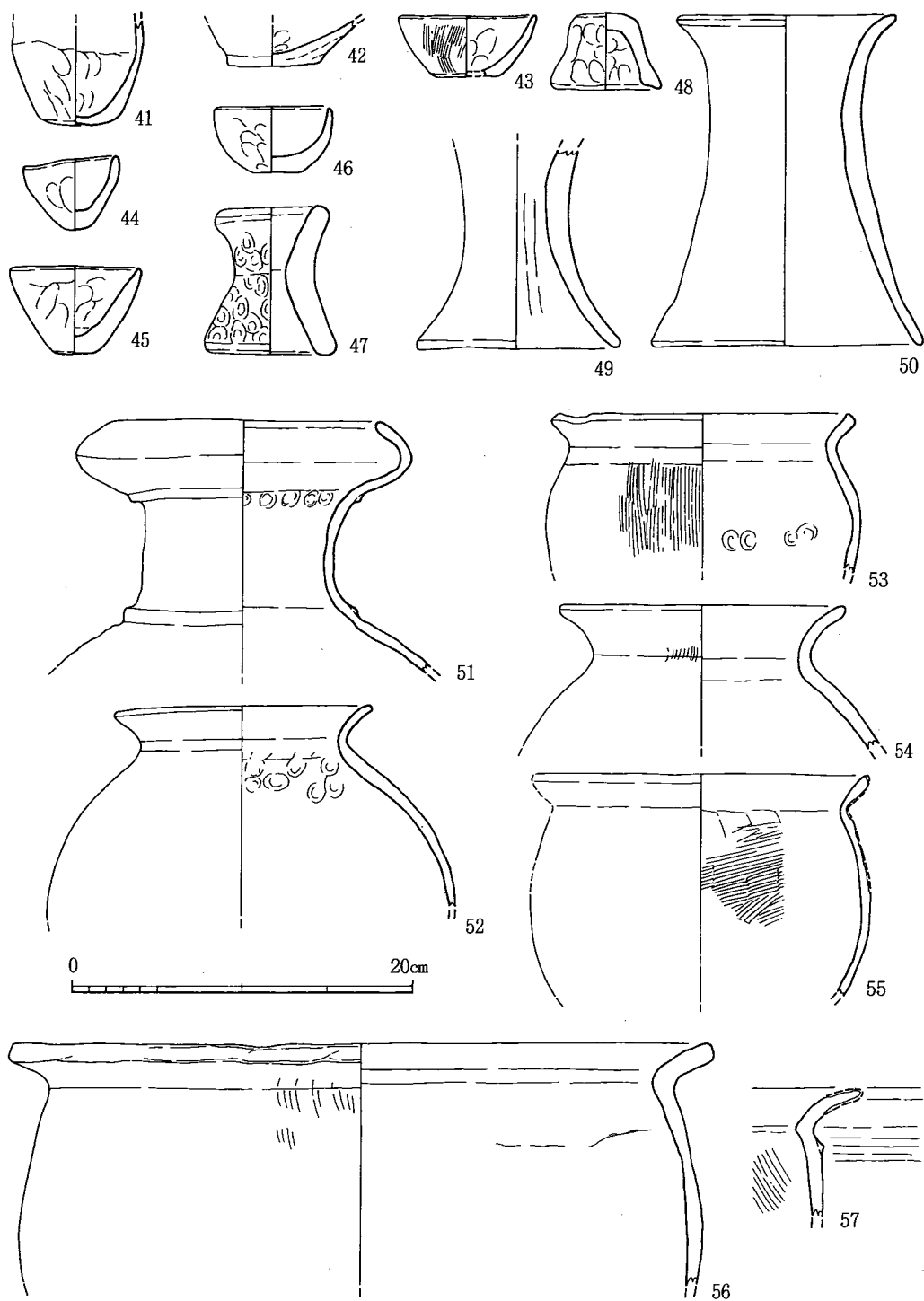
第221图 1001号沟上層出土土器实测图. 1 (1/4)



第222图 1001号沟上层出土土器实测图. 2 (1/4)



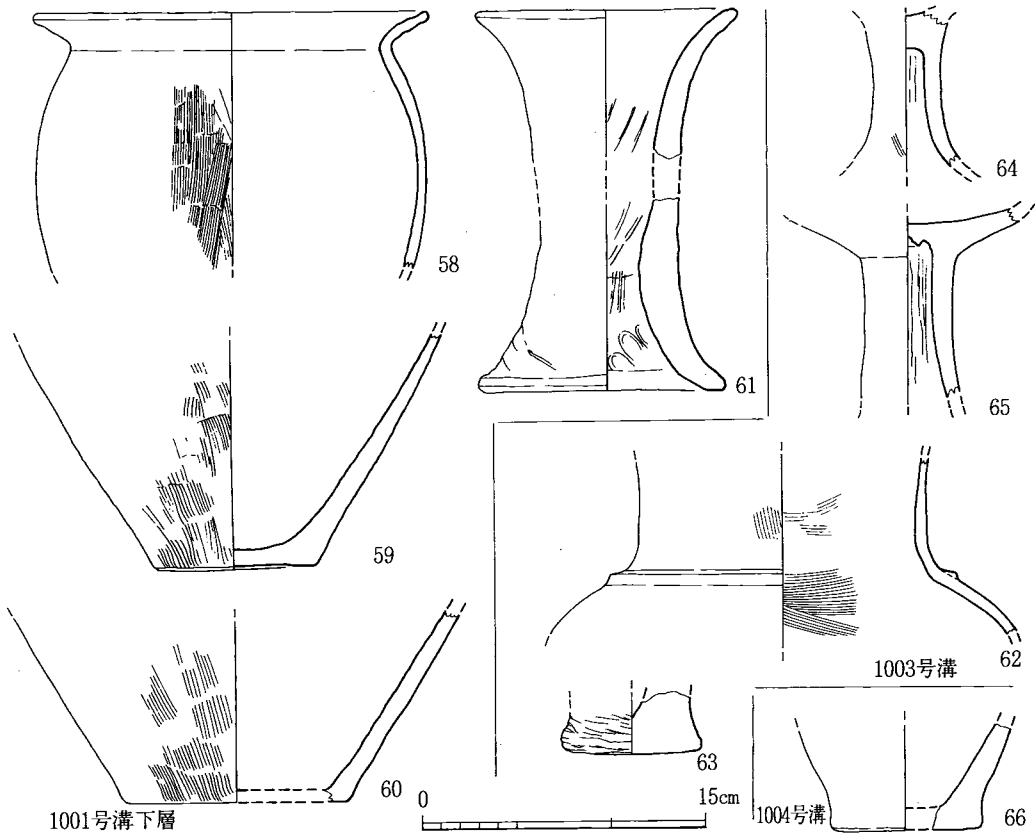
第223图 1001号沟上层出土土器实测图. 3 (1/4 1/6)



第224图 1001号沟上·下層出土土器实测图. 4 (1/4)

不明。

52~60は甕である。52・54は口縁より胴部が大きく張るタイプで、復元口径15.2cm・17.0cm。器面調整はほとんど窺えない。53・55は、口縁がくの字に屈曲し胴の張りが少ないタイプで、復元口径が18.0cm・20.0cm。摩滅・剝離が激しいが、部分的にハケ目を観察できる。56~58は口縁が強く外反し胴が張らない。56は内面に粘土の接合痕が見られ、外面には僅かにハケ目が見られる。口縁端部は整形が粗く変形している。57は小片のため口径は復元できない。頸部に突帯を有し、内面にタテハケが残る。58は復元口径21.0cm。口縁がやや長く外反し、端部断面はコの字を呈する。外面に僅かにハケ目残り、二次加熱により茶変して煤が付着する。59・60は平底の甕の下半部で、外面の一部にハケ目が残る。60は外面に煤が付着する。61は器台で、復元口径12.0cm、復原裾径14cm。外面は剝離・摩滅が激しく器面調整不明であるが、内面の工具による丁寧なナデと裾部に指ナデが見られる。二次加熱により内面は変色しており、煤が付着する。 (齋部)



第225図 1001号下層・1003・1004号溝出土土器実測図. 5 (1/4)

1003号溝（遺構に関しては来年度に報告）

遺物（第225図62～65）67は壺の肩部片で、三角形の突帯を有する。摩滅が激しいが、内外面に僅かにハケ目が認められる。63は底部片で、つぶれたようなシワがある。内面は未調整で、底部外面には板状圧痕があり煤が付着する。64・65は高坏の脚部で、内面は絞り痕が残り、下部はナデを施す。（齋部）

1004号溝（遺構に関しては来年度に報告）

遺物（第225図）66は甕の底部で、復元底径8.1cm。摩滅が激しく器面調整は不明で、底部外面は二次加熱を受けて黒変する。（齋部）

（6）ピ ッ ト

ピット107（第226図）

平坦面中央に位置し、22号竪穴住居跡を切る。完形の杯が2枚重なって正置して出土した。（秦）

ピット170（第226図）

平坦面中央に位置し、2号周溝状遺構の北東部を切っており、底面から礎板の痕跡と思われるものが検出されたので、掘立柱建物跡の柱穴である可能性が高いが確認できなかった。（秦）

ピット180（図版111 第226図）

平坦面中央に位置し、8・9号竪穴住居跡の北東隅を切って検出され、底面から粘土塊が出土した。（秦）

ピット300（図版107 第226図）

調査区北西端に位置し、調査区壁にかかって検出され、上位から甕棺のミニチュアの完形品が横位で出土した。（秦）

ピット400（図版107 第226図）

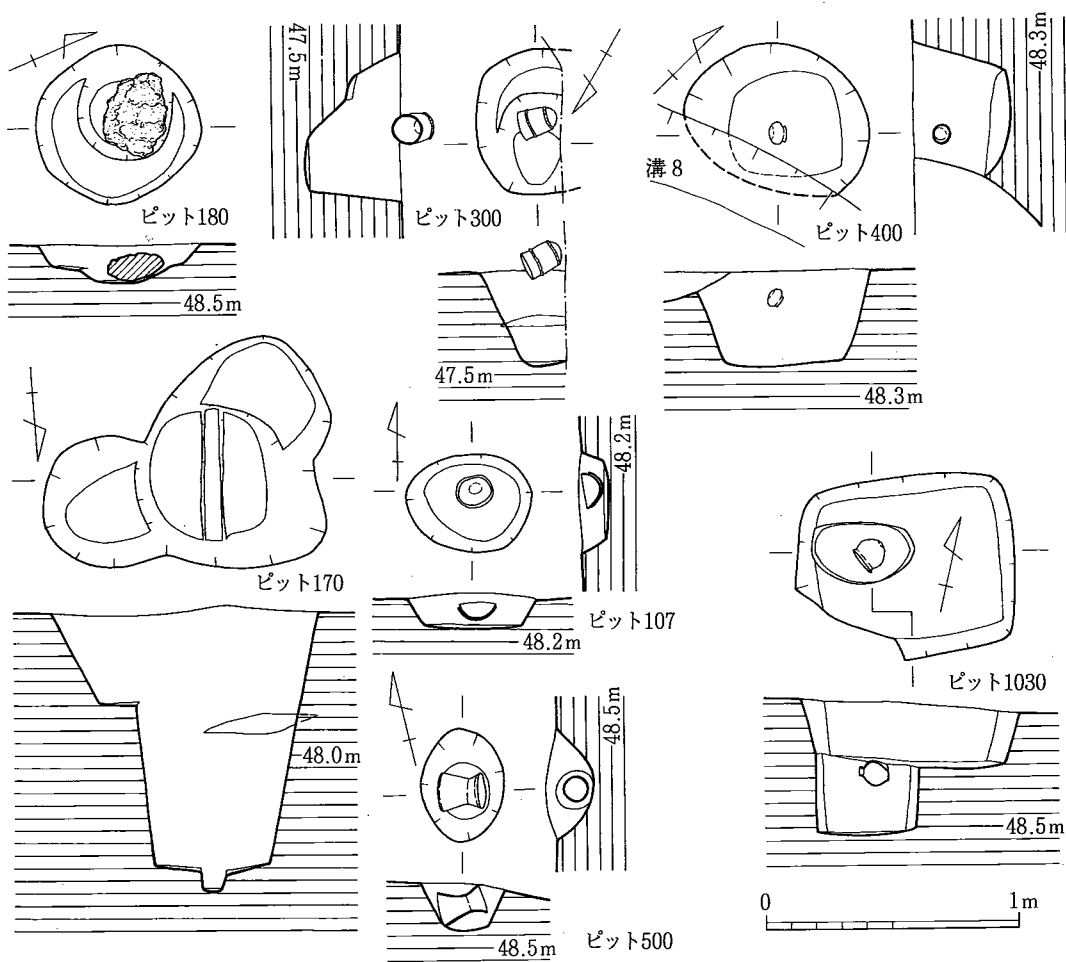
調査区西北端に位置し、30号竪穴住居跡の床面から検出され、上位から短頸壺の完形品が横位で出土した。（秦）

ピット500 (第226図)

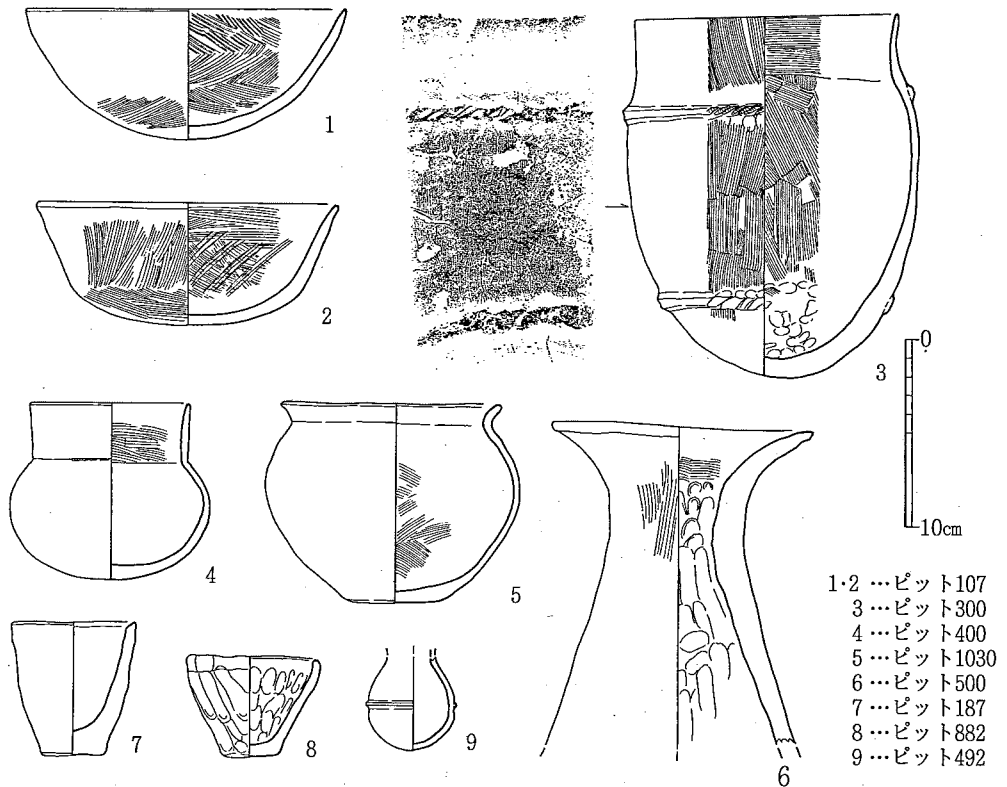
調査区中央北側に位置し、8号溝の床面から検出されており、完形の鼓形器台が、底面に横位で出土している。 (秦)

ピット1030 (図版98 第226図)

平坦面中央に位置し、72号竖穴住居跡の北東から検出され、上位から短頸壺の完形品が横位で出土した。 (秦)



第226図 ピット実測図 (1/30)



第227図 ピット出土土器実測図 (1/4)

ピット出土の遺物

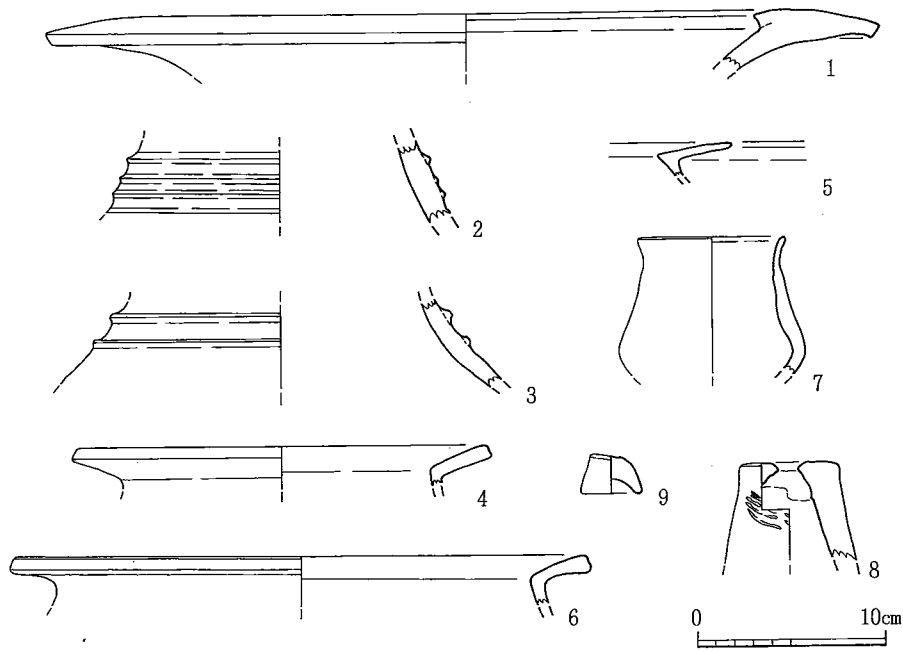
土器 (第227図1~9)

1・2は完形の鉢で、3は甕棺のミニチュアで、ピット300の上位から完形で出土しており、丁寧なつくりで、ハケも細かい。4は直口壺で、ピット400から完形で出土している。5は小型の短頸壺で、ピット1030から完形で出土している。6はピット500出土の鼓形器台で、裾部が欠損しているが、ほぼ完形で出土している。7・8は杯で、前者はピット187、後者はピット882から完形で出土している。9はピット492出土のミニチュアの壺で、口縁部が欠けている。

石器 (第232図34~36 第239図64~67 第242図5・11・12 第241図11)

第232図34はピット351出土の石庖丁片で、粘板岩系の軟らかい石材で全体的に摩滅している。また、基部に紐ずれらしい凹みを持つ。第232図35はピット643出土の石庖丁片で輝緑凝灰岩製である。第232図36はピット930出土の石庖丁で刃部のみが残欠で、輝緑凝灰岩製である。

第239図64はピット220出土の頁岩製の砥石で4面使用している。第239図65はピット1036出土の砂岩製の砥石で、扁平な板状の置き砥石が半欠したもの。よく使い込まれており、4面を使用しており、上端部は整形している。第239図67はピット1223出土の方柱状の頁岩製砥石で4面



第228図 包含層出土土器実測図 (1/4)

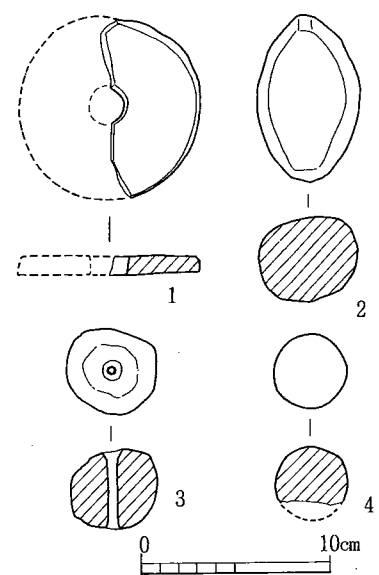
使用しており、下端部は整形している。第292図5はピット919出土の小型の磨石で、扁平な円盤状を呈する。平面形は正円で径4.7cmを測る。砂岩製であろう。第242図11はピット661出土の端部に赤色顔料の付着する小礫で、付着している部分は磨っているらしく面を形成している。砂岩製であろう。第242図12はピット321出土の端部に赤色顔料の付着する小礫で、安山岩製と思われる。第241図11はサヌカイト製の打製石鏃で、基部を欠損している。

鉄器 (第245図2)

第245図2はピット910から出土した小型の鉄斧で、刃部は一部欠損しているが残っているものと思われる。錆び膨れのため片刃かどうかは不明。袋部の短いタイプで基部まで残っている。

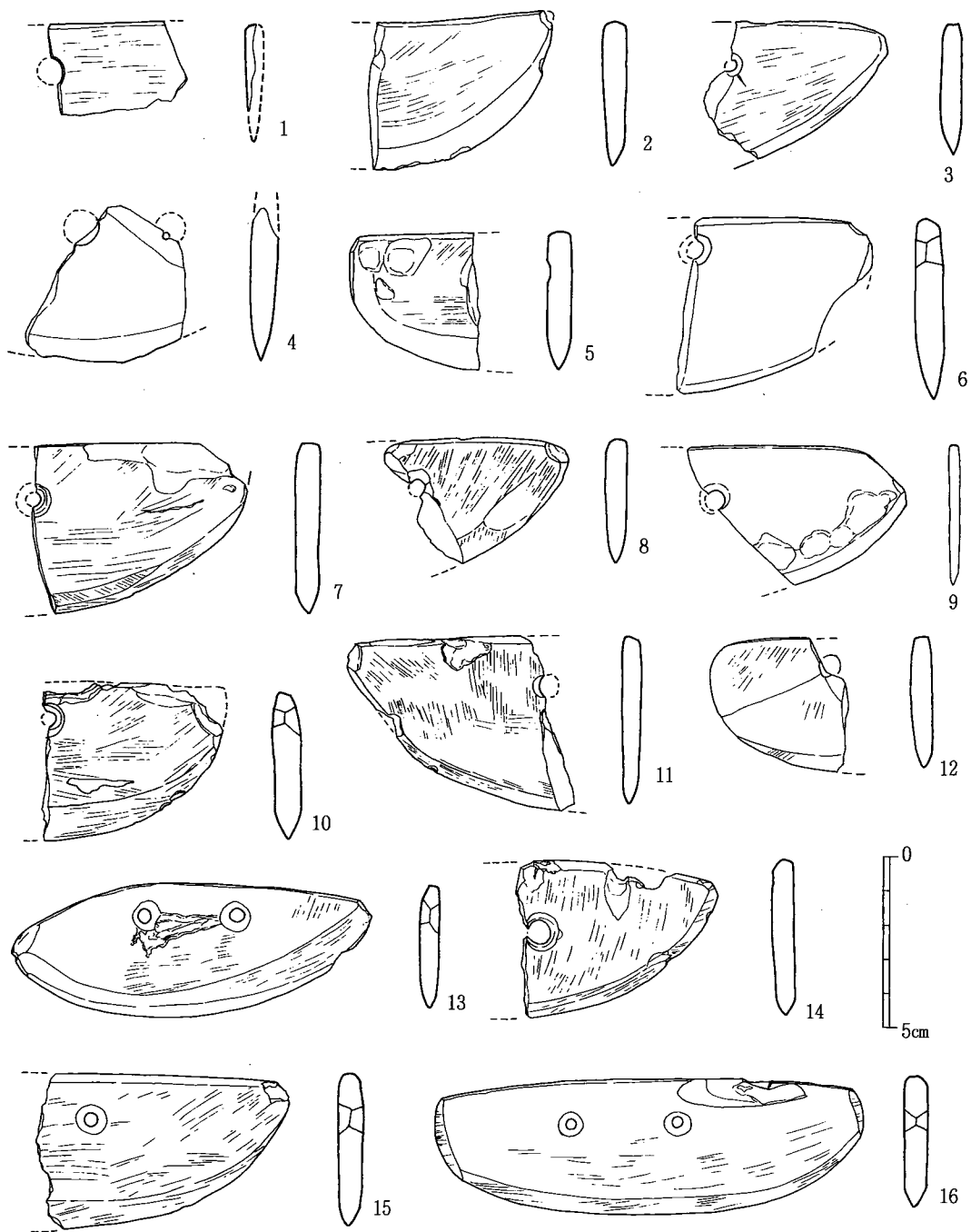
投弾 (第229図2)

第229図2はピット1148の埋土出土の完形品で、長軸4.5cm、最大径2.8cmを測る。



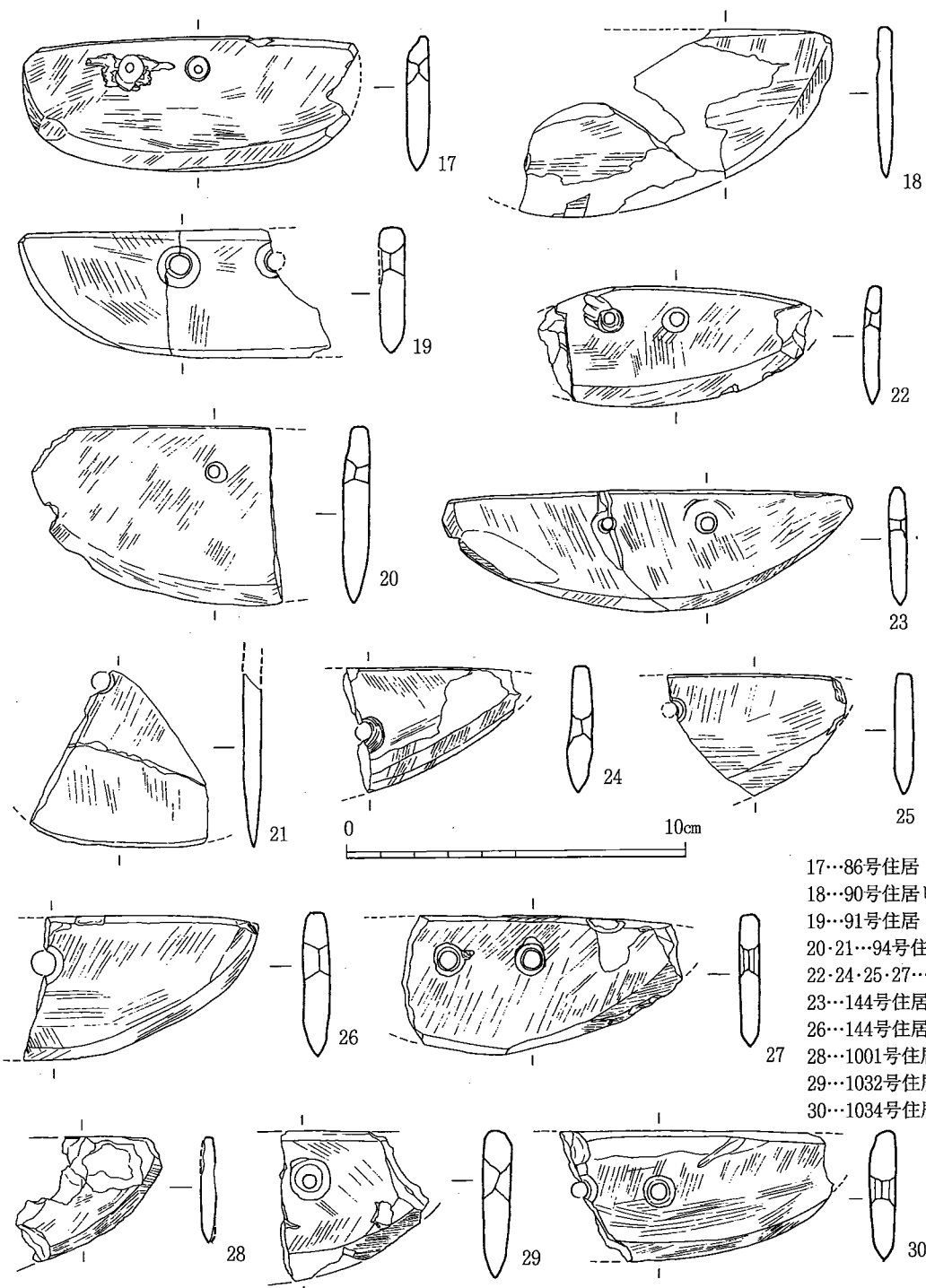
第229図 土製品実測図 (1/2)

(秦)



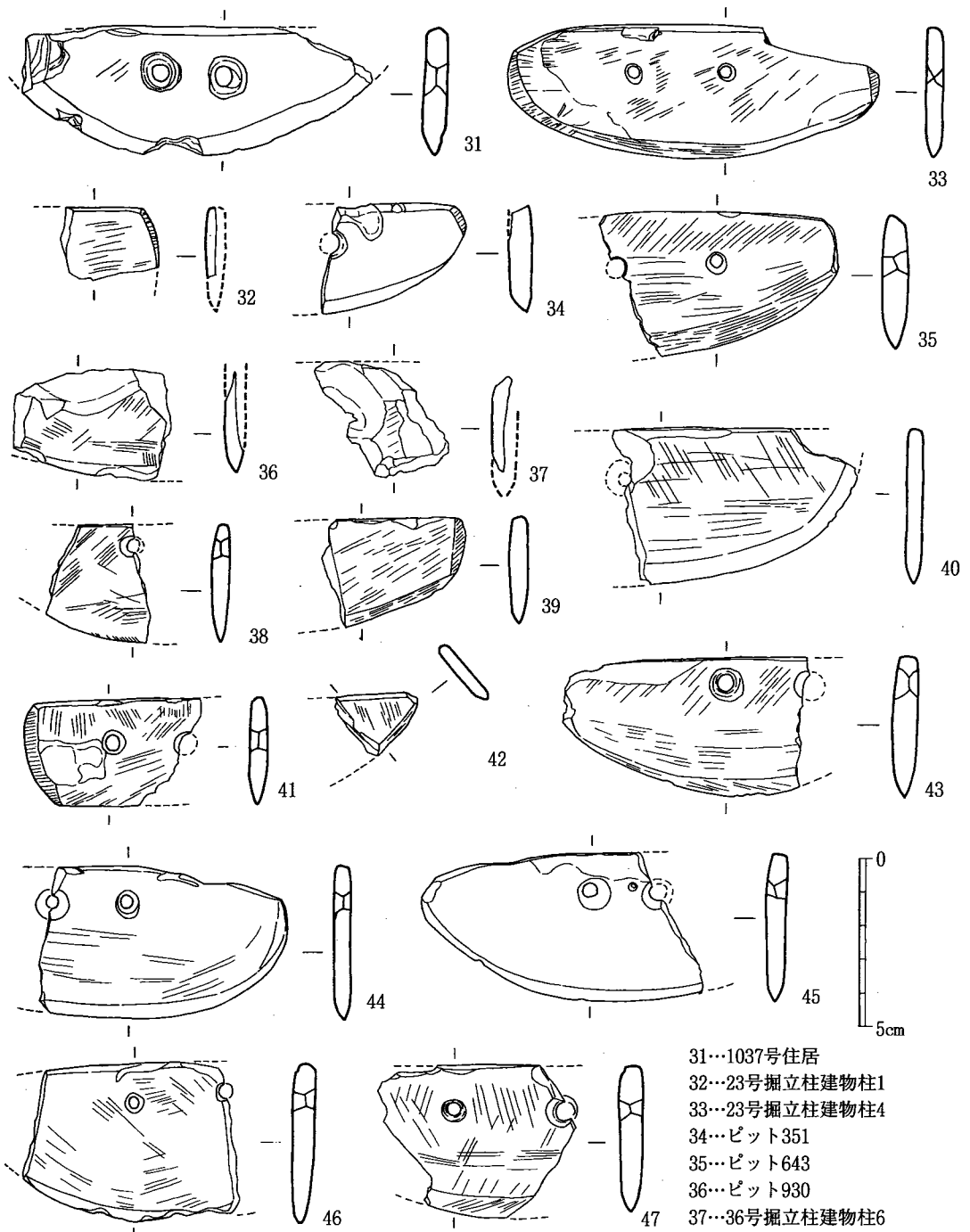
- | | | | |
|-----------|-----------|-----------------|------------|
| 1...5号住居 | 5...25号住居 | 9...44号住居 | 13...62号住居 |
| 2...5号住居 | 6...26号住居 | 10...44号住居東側主柱穴 | 14...69号住居 |
| 3...8号住居 | 7...34号住居 | 11...47号住居 | 15...76号住居 |
| 4...17号住居 | 8...34号住居 | 12...63号住居 | 16...84号住居 |

第230图 石庵丁実測図. 1 (1/2)



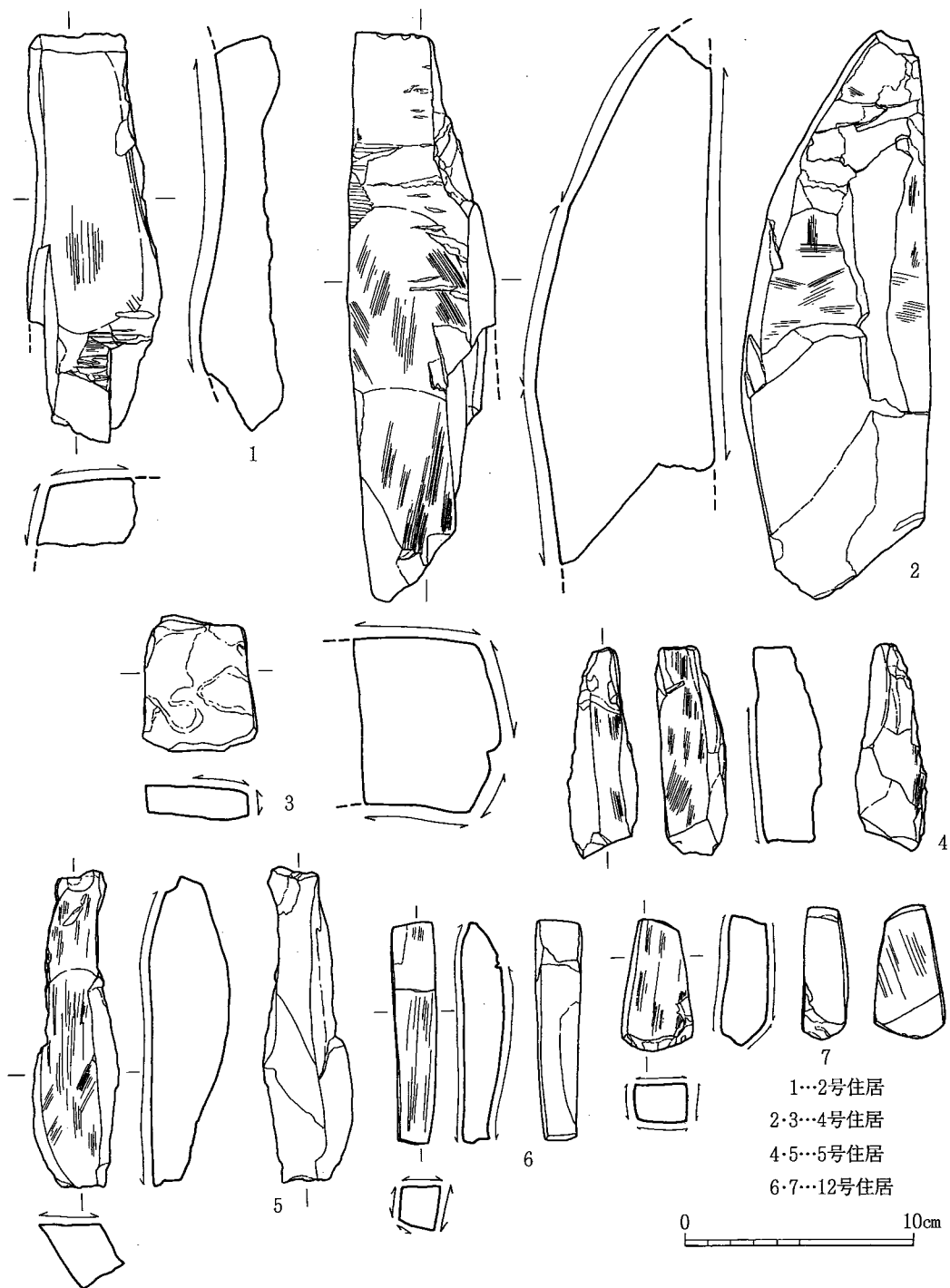
- 17...86号住居
- 18...90号住居ピット2
- 19...91号住居
- 20・21...94号住居
- 22・24・25・27...144号住居埋土
- 23...144号住居ピット6
- 26...144号住居ピット3
- 28...1001号住居
- 29...1032号住居
- 30...1034号住居東側主柱穴

第231図 石庖丁実測図. 2 (1/2)

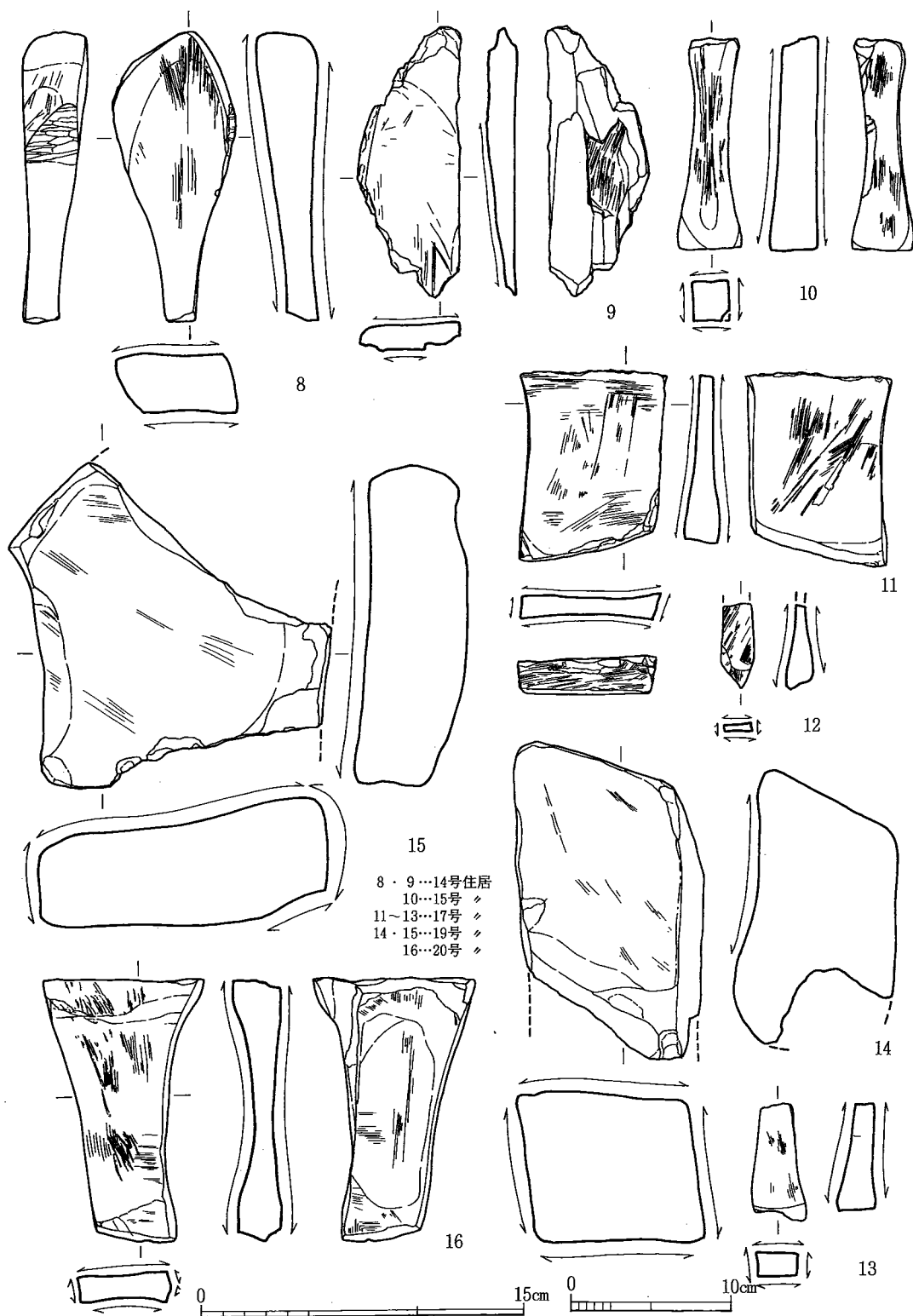


- 31…1037号住居
- 32…23号掘立柱建物柱1
- 33…23号掘立柱建物柱4
- 34…ピット351
- 35…ピット643
- 36…ピット930
- 37…36号掘立柱建物柱6
- 38～47…平坦面包含層

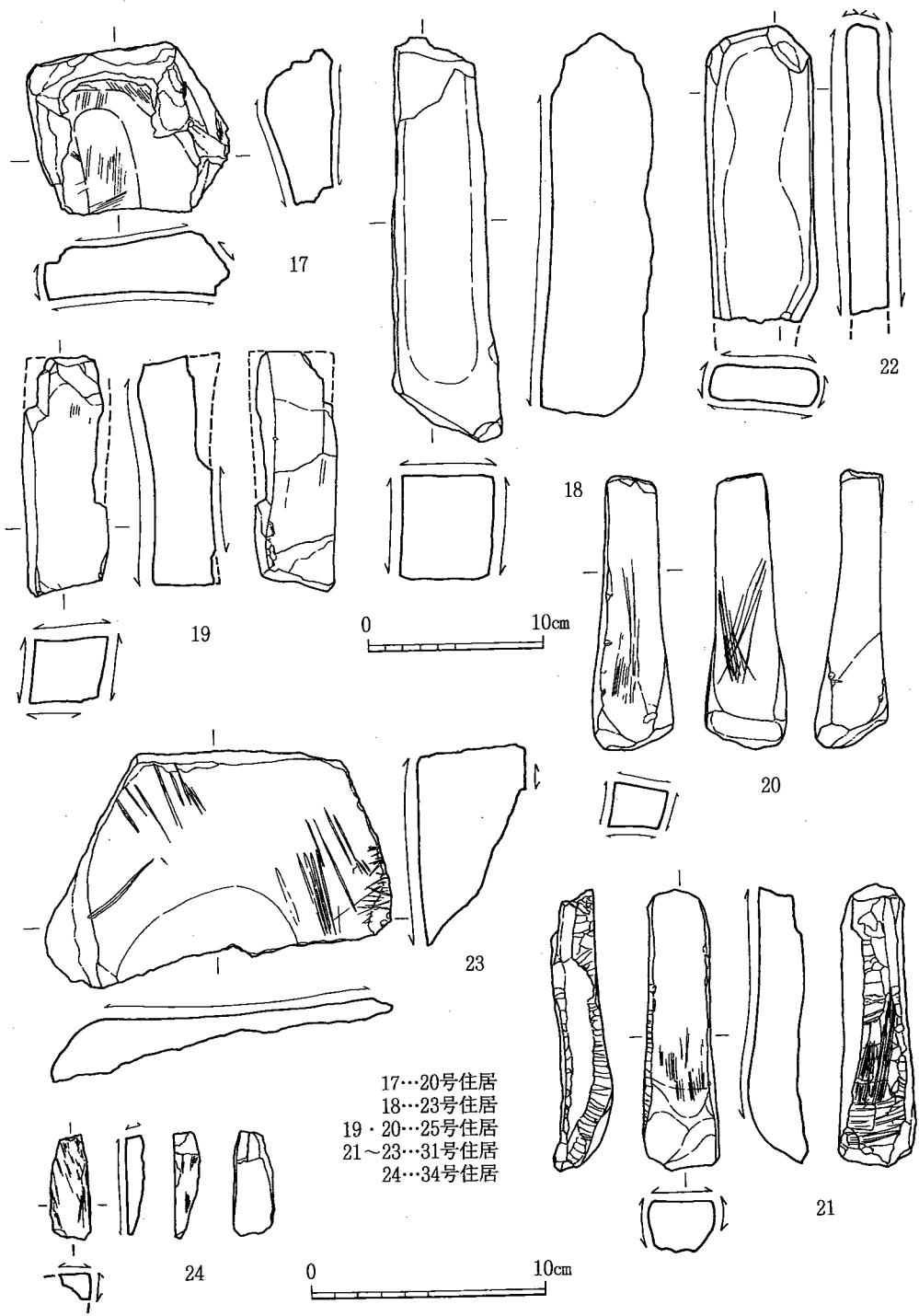
第232図 石庖丁実測図. 3 (1/2)



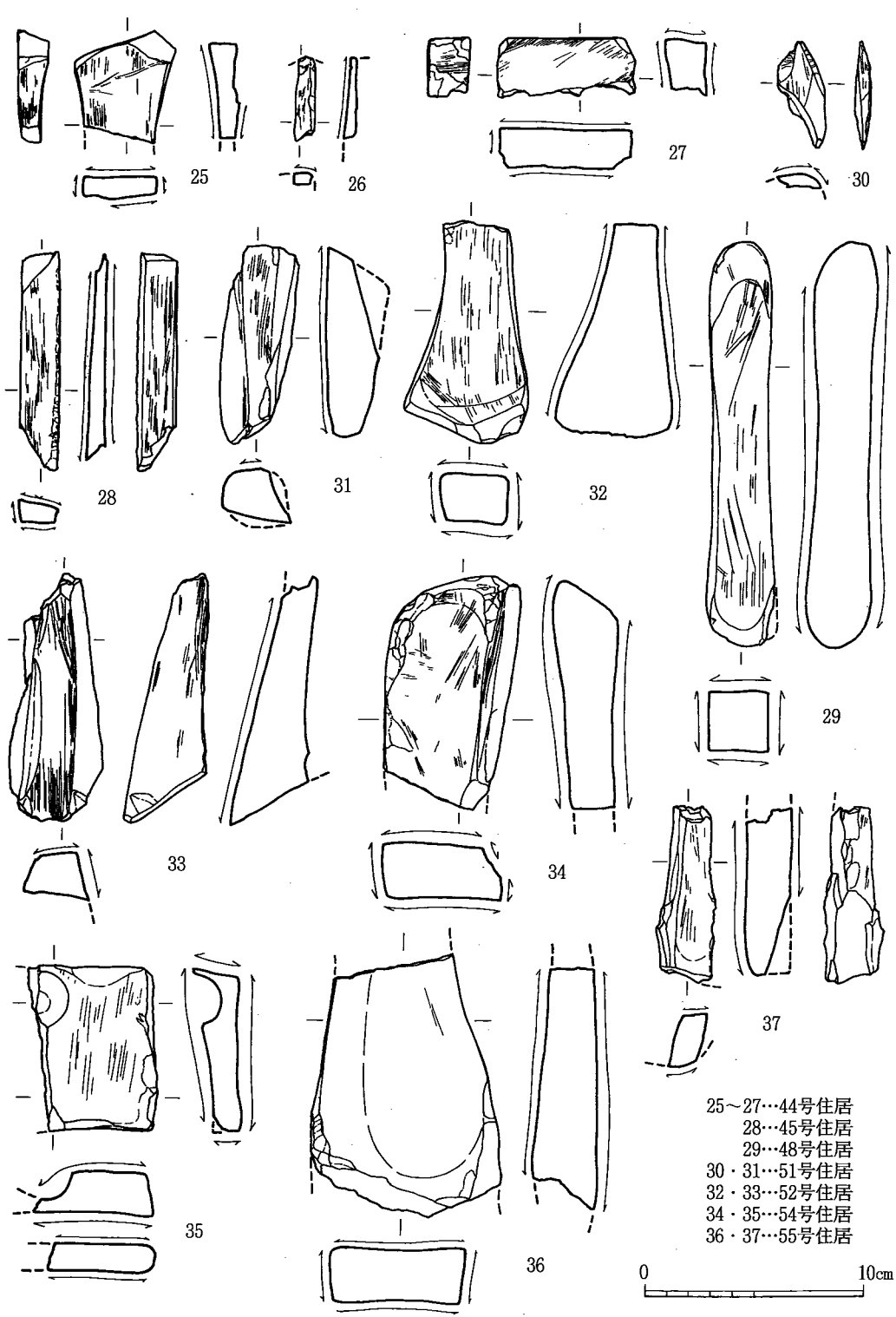
第233图 砥石实测图. 1 (1/3)



第234图 砥石实测图. 2 (1/3)

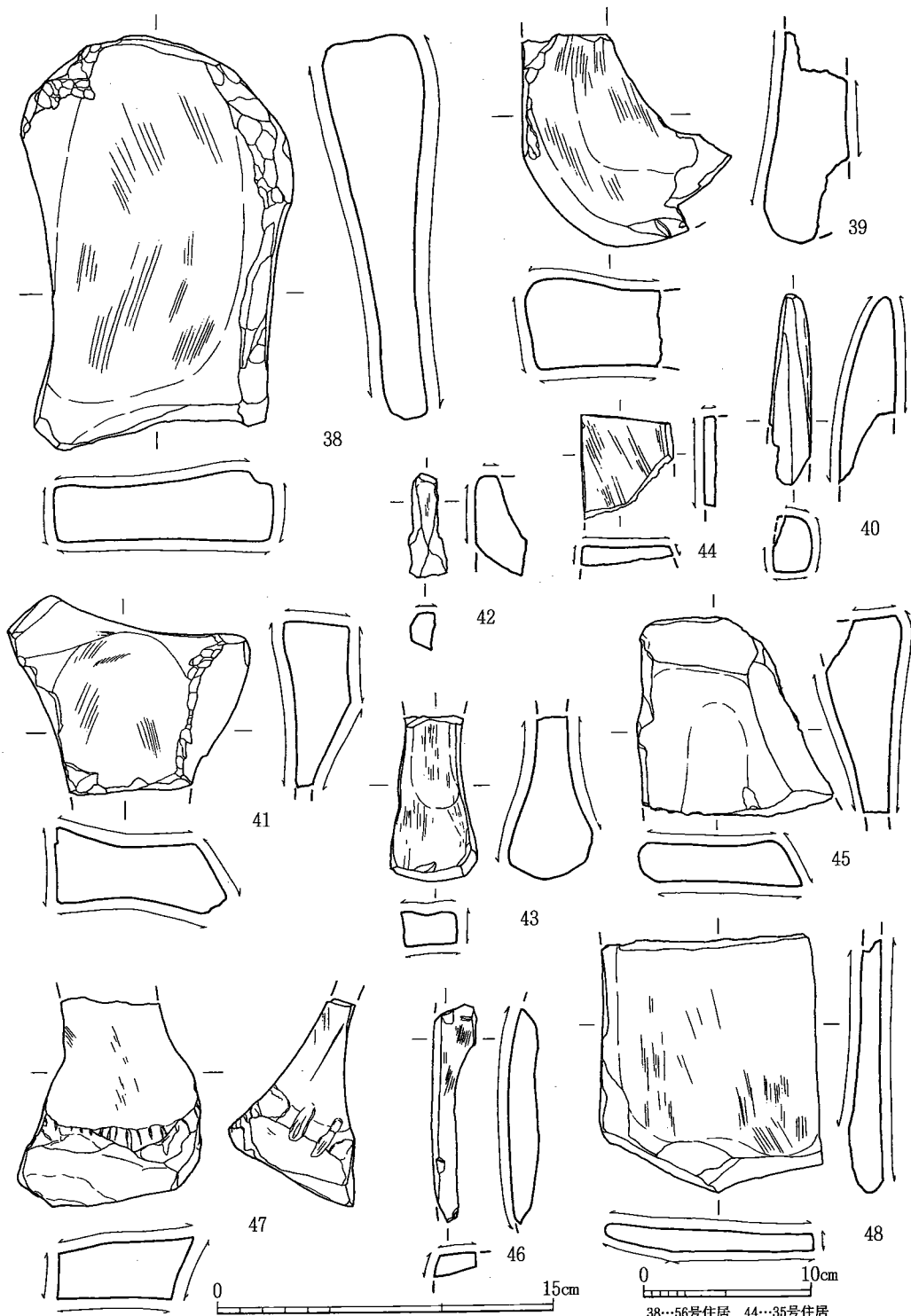


第235図 砥石実測図. 3 (1/3 18は1/4)



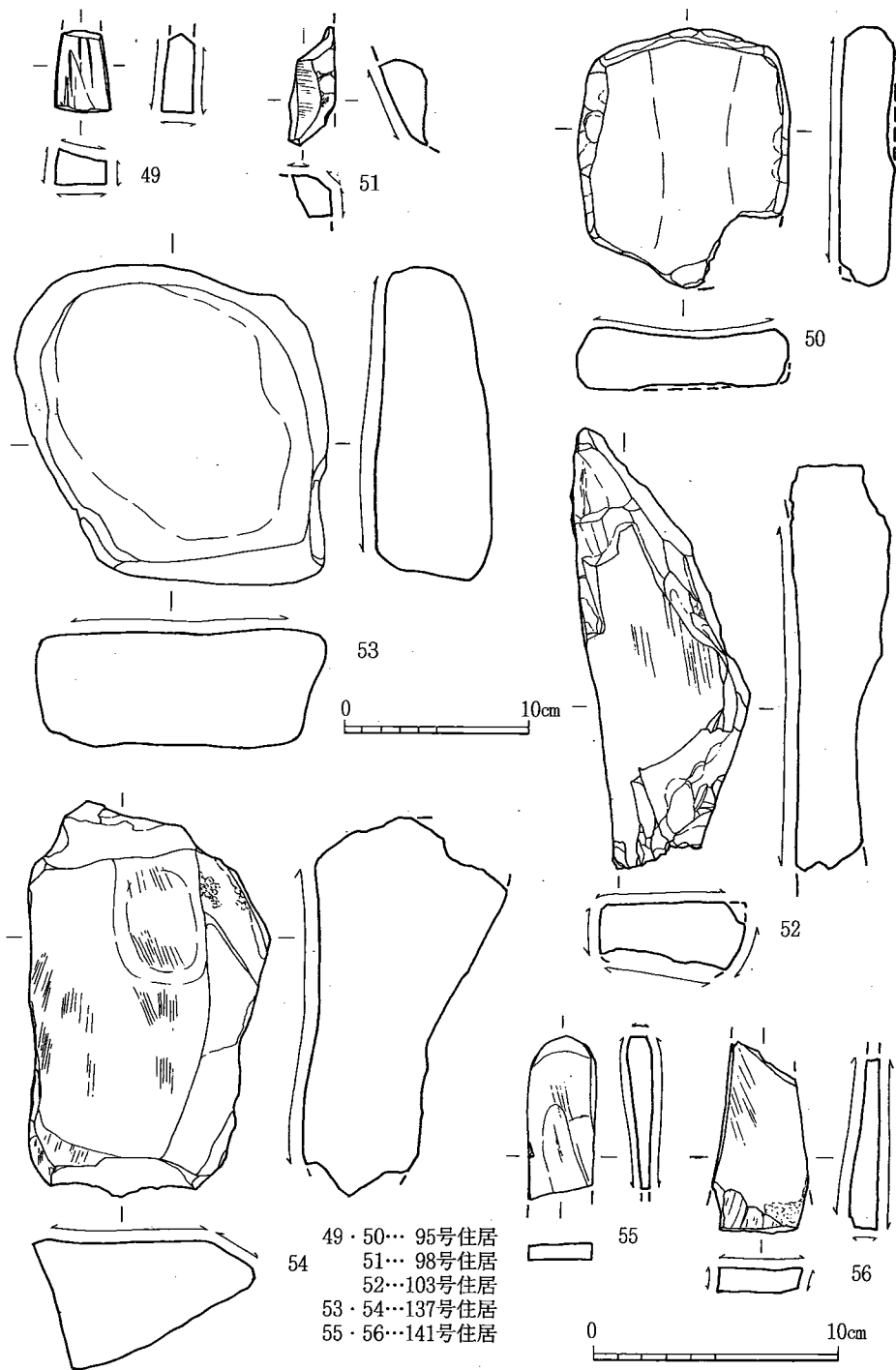
- 25~27...44号住居
- 28...45号住居
- 29...48号住居
- 30·31...51号住居
- 32·33...52号住居
- 34·35...54号住居
- 36·37...55号住居

第236图 砥石实测图。4 (1/3)

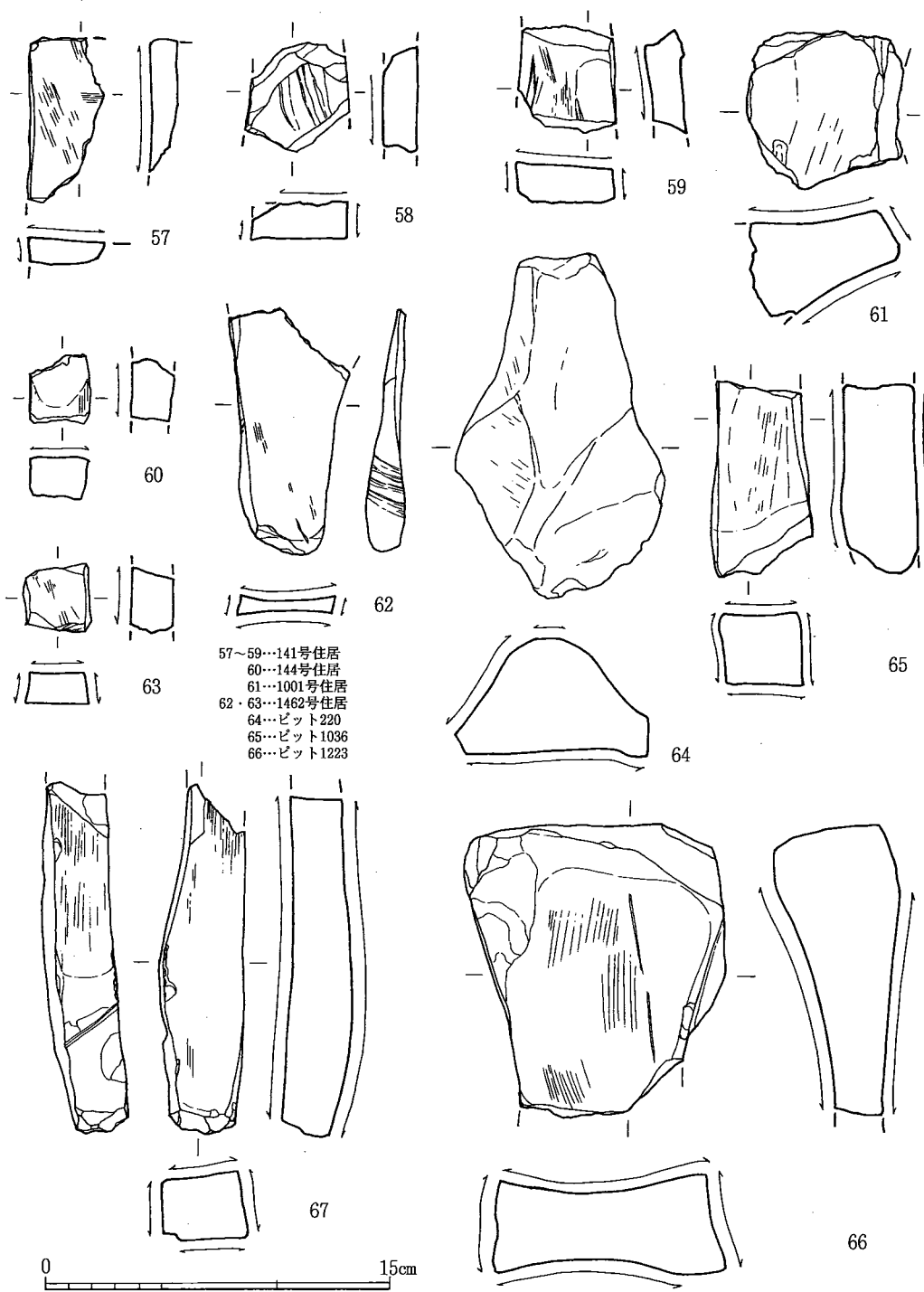


38...56号住居 44...35号住居
 39·40...57号住居 45...80号住居屋內土坑
 41...60号住居 47...82号住居
 42·43...74号住居 48...92号住居

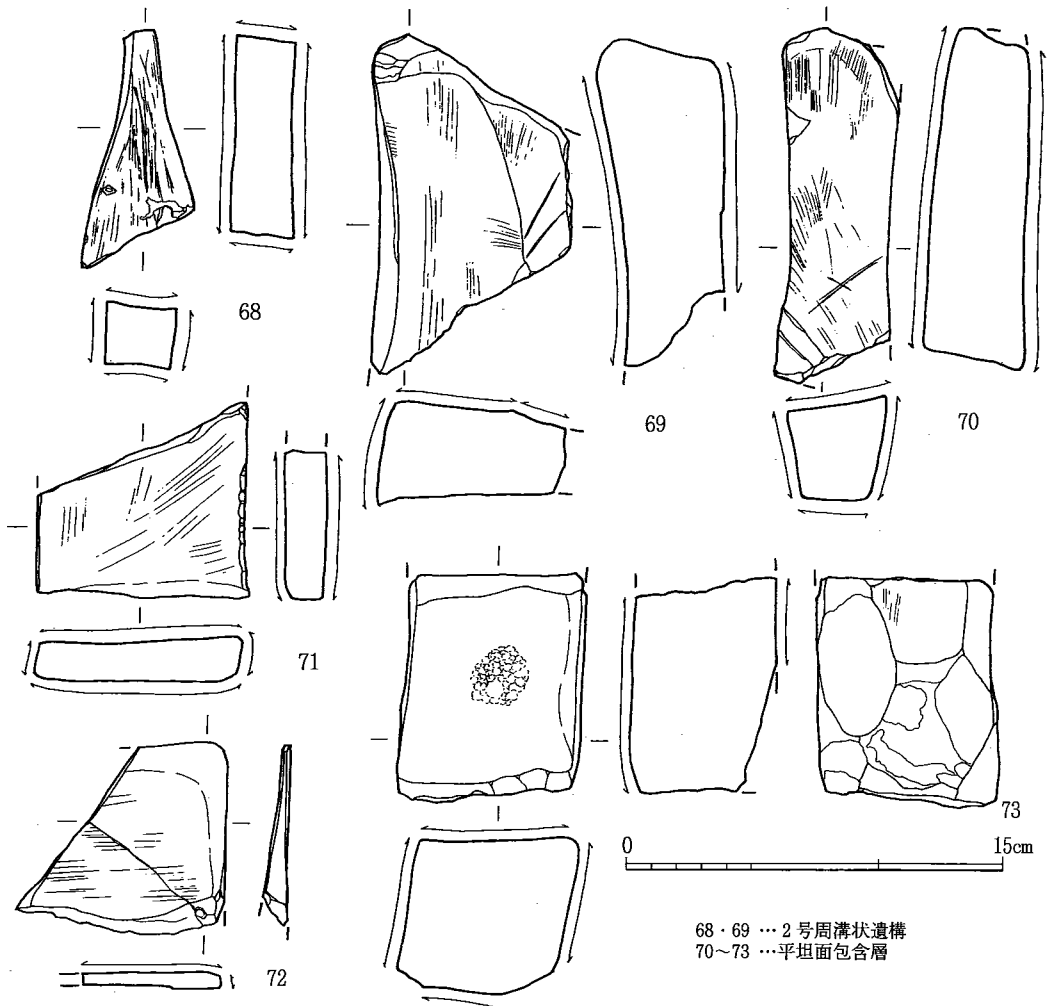
第237图 砥石实测图. 5 (1/3)



第238図 砥石実測図. 6 (1/3 53は1/4)



第239図 砥石実測図. 7 (1/3)



第240図 砥石実測図. 8 (1/3)

(7) その他の遺物

平坦面包含層出土の遺物

土器 (第227図1～9)

第227図1は鋤先口縁壺か高杯の口縁部で、表面は磨滅しており、赤色顔料やへら磨きの痕跡は残っていない。2は突帯を何本もめぐらせた長頸壺の頸部であろう。3はM字突帯を残す壺の肩部である。4は小型甕の口縁部、5は中型甕の口縁部で、頸部内面に尖った稜をもち、口

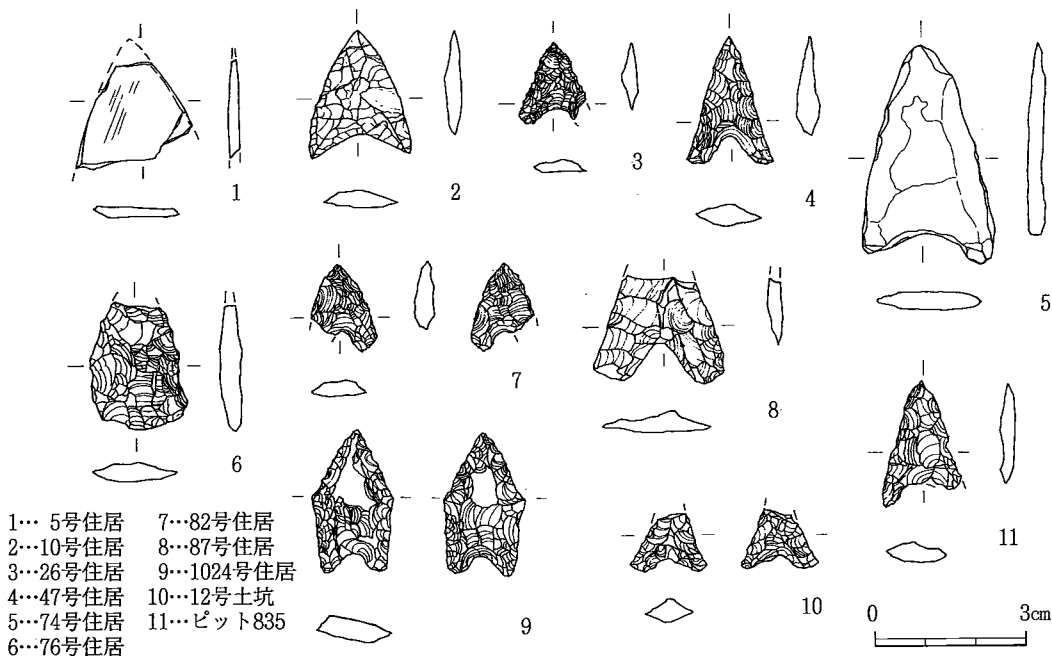
縁が直線的である。6は逆し字口縁をもつ中型甕の口縁部である。7は最大径を胴部中位にもち、口縁部が直線的にすばまり、端部をわずかに外反させるもので、朝鮮系無文土器と繋がる可能性がある甕の小型品であろうか。8は鼓型器台、9は杓形支脚のミニチュア品である。

(秦)

石器 (第232図38~46 第240図70~73 第245図4 第243図5・10・17)

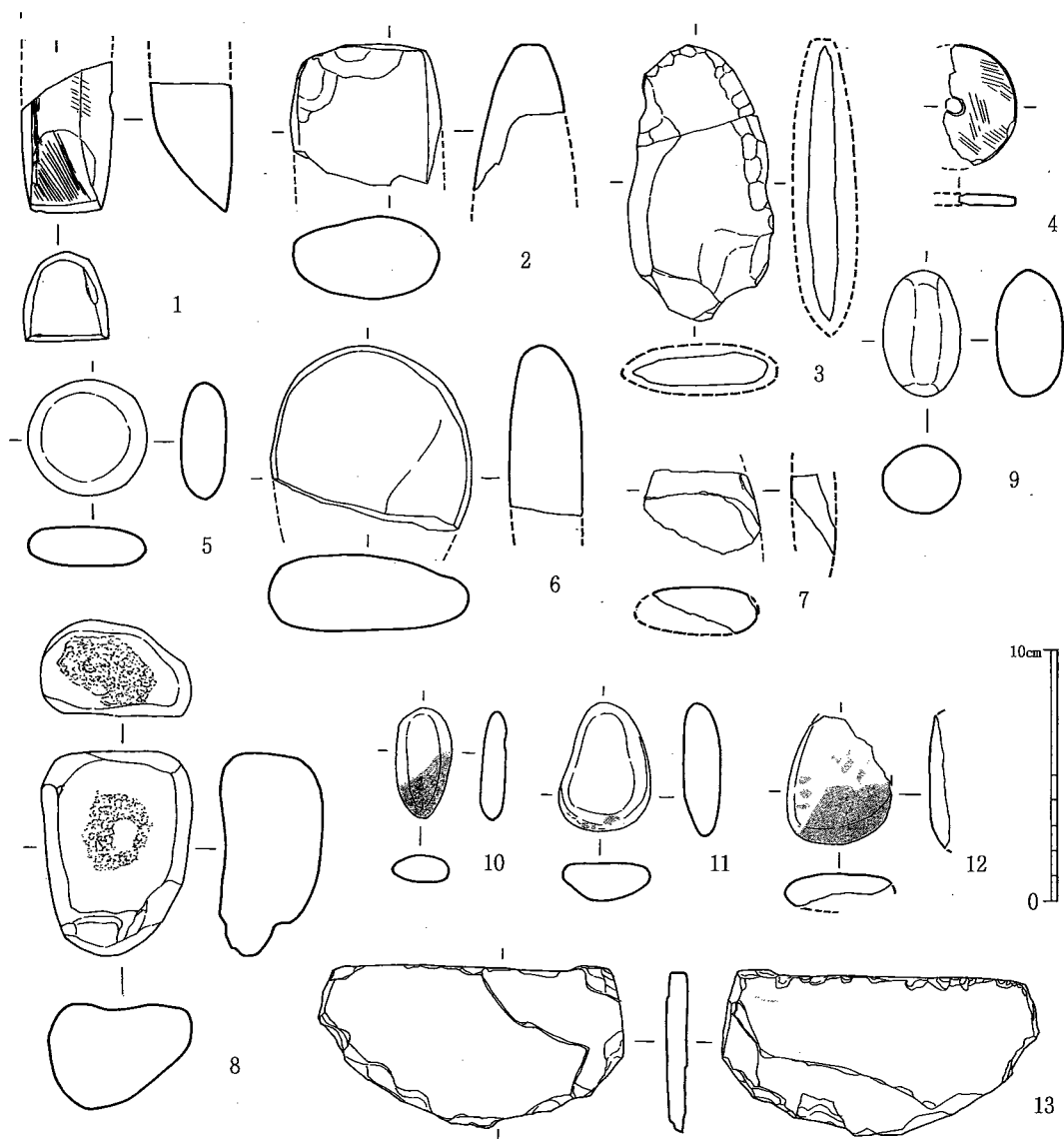
第232図38は、輝緑凝灰岩製の小型の石庖丁片で、刃部は平坦面を形成し、刃先は尖っている。第232図39は、輝緑凝灰岩製の小型の石庖丁片で、刃部と側面に平坦面を形成している。第232図40は、輝緑凝灰岩製の石庖丁片で、背部は丸みを持つ。第232図41は、輝緑凝灰岩製の小型の石庖丁片で、側面に荒い研磨の平坦面を形成しているが、これは使用を目的としたものではなく、平面方形を意図して整形したものであろう。第232図42は風化して変色しているが輝緑凝灰岩製の小型の石庖丁片である。第232図43・44・47は輝緑凝灰岩製の石庖丁片で、第232図45・46は安山岩質の石材の石庖丁片である。前者には穿孔位置を途中で変えたと思われる未完成の孔がある。

第240図70は4面使用の方柱状の頁岩製砥石で、形がよく整っており、あまり使い込まれておらず残りがよいことから、中・近世の遺物の可能性もある。第240図71は砂岩製の砥石で扁平な



第241図 石鏃実測図 (2/3)

板状で側面部を整形している。全面使用している。第240図72は頁岩製砥石で扁平な板状で、よく使い込まれているため端部が薄くなっている。第240図73は砂岩製の砥石で方柱状を呈し、上面中央に敲打痕がある。おそらく欠損後敲石に転用したのであろう。全体にやや赤いが熱を受けたのではないようだ。4面使用している。

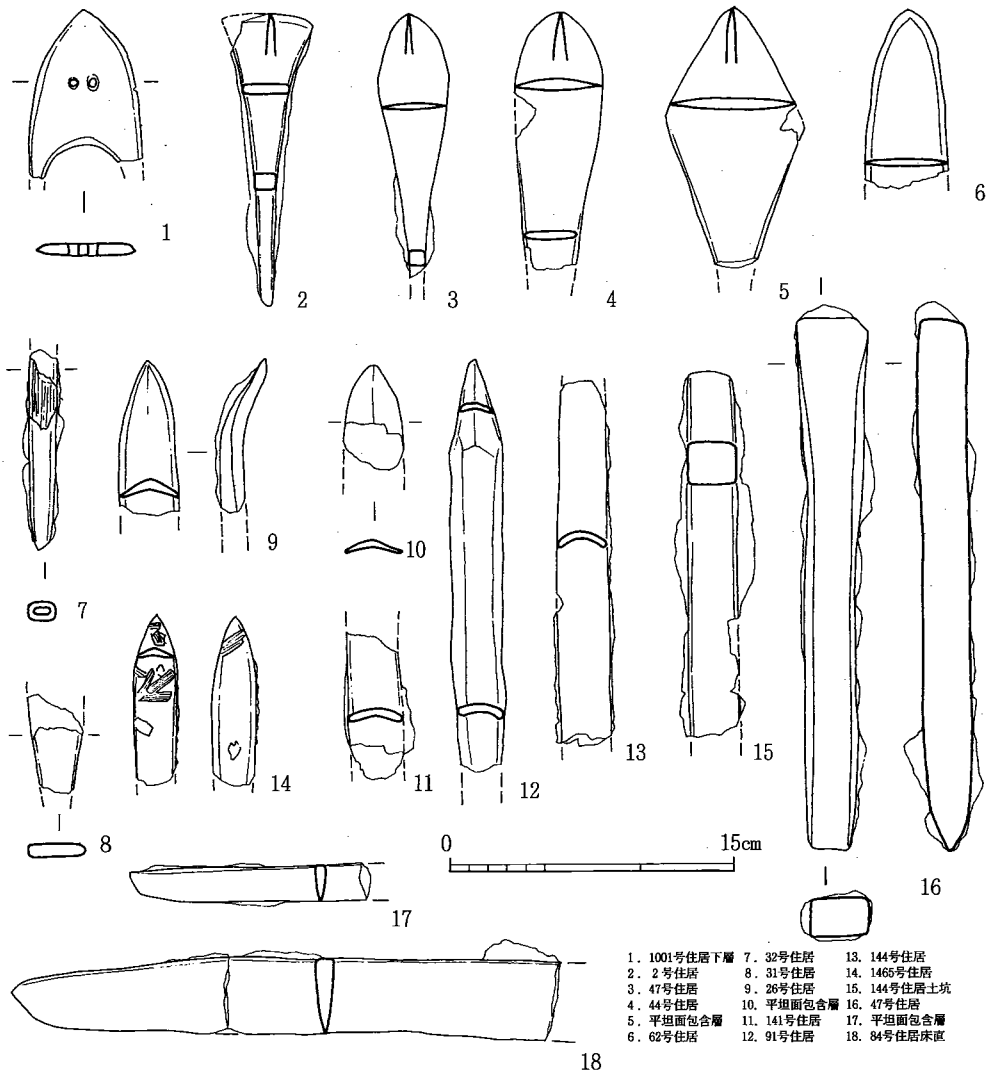


- | | | | |
|---------------|-------------|---------------|----------|
| 1…22号掘立柱建物柱 5 | 5…ピット919 | 9…33号掘立柱建物柱 4 | 13…44号住居 |
| 2…51号住居 | 6…82号住居貼床 | 10…74号住居 | |
| 3…143号住居 | 7…44号住居ベッド内 | 11…ピット661 | |
| 4…23号掘立柱建物柱 4 | 8…26号住居 | 12…ピット321 | |

第242図 その他の石器実測図 (1/3)

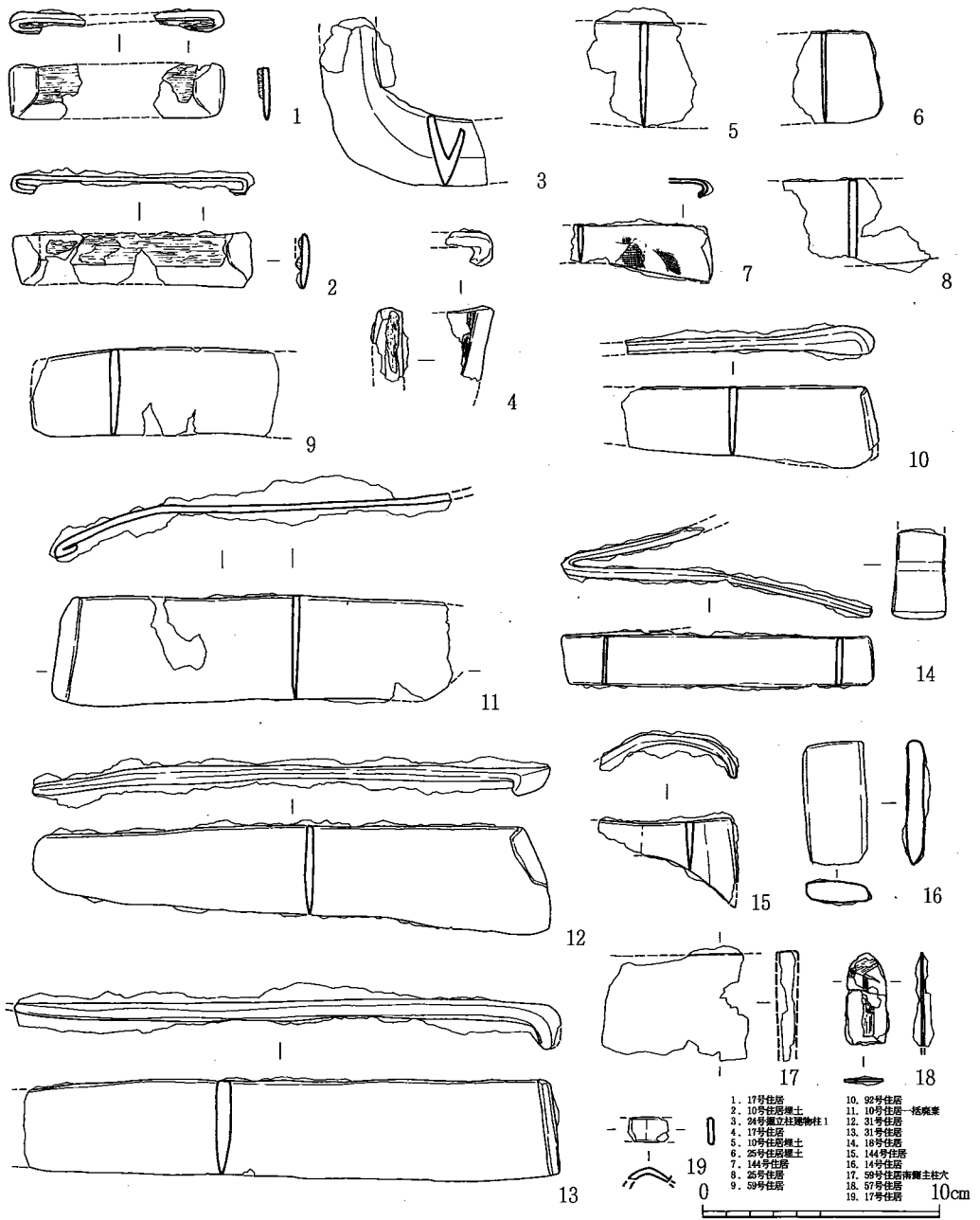
鉄器

第245図4は小型の鉄斧で、袋部が長いタイプで、袋部のつけ根は三角形状に開いている。また、側面は若干屈曲して広がっている。刃部は先端が欠損しているものと思われる。第243図5は基部を欠損しているが圭頭鎌と思われる。第243図10は鉈の先端部である。第243図17は小型の刀子の刃部か基部と思われる。 (秦)

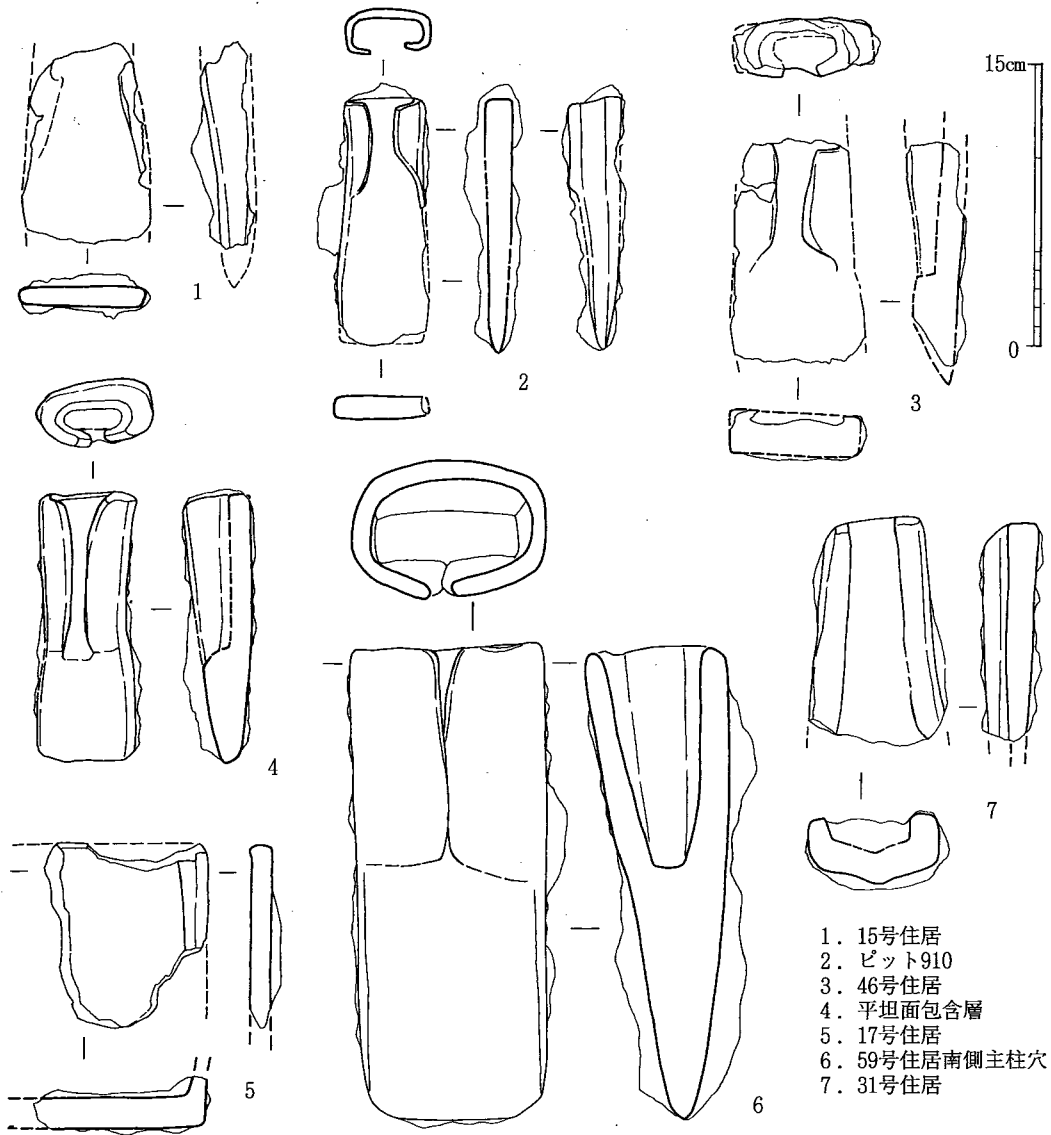


- | | | |
|--------------|------------|--------------|
| 1. 1001号住居下層 | 7. 32号住居 | 13. 144号住居 |
| 2. 2号住居 | 8. 31号住居 | 14. 1465号住居 |
| 3. 47号住居 | 9. 26号住居 | 15. 144号住居土坑 |
| 4. 44号住居 | 10. 平坦面包含層 | 16. 47号住居 |
| 5. 平坦面包含層 | 11. 141号住居 | 17. 平坦面包含層 |
| 6. 62号住居 | 12. 91号住居 | 18. 84号住居床直 |

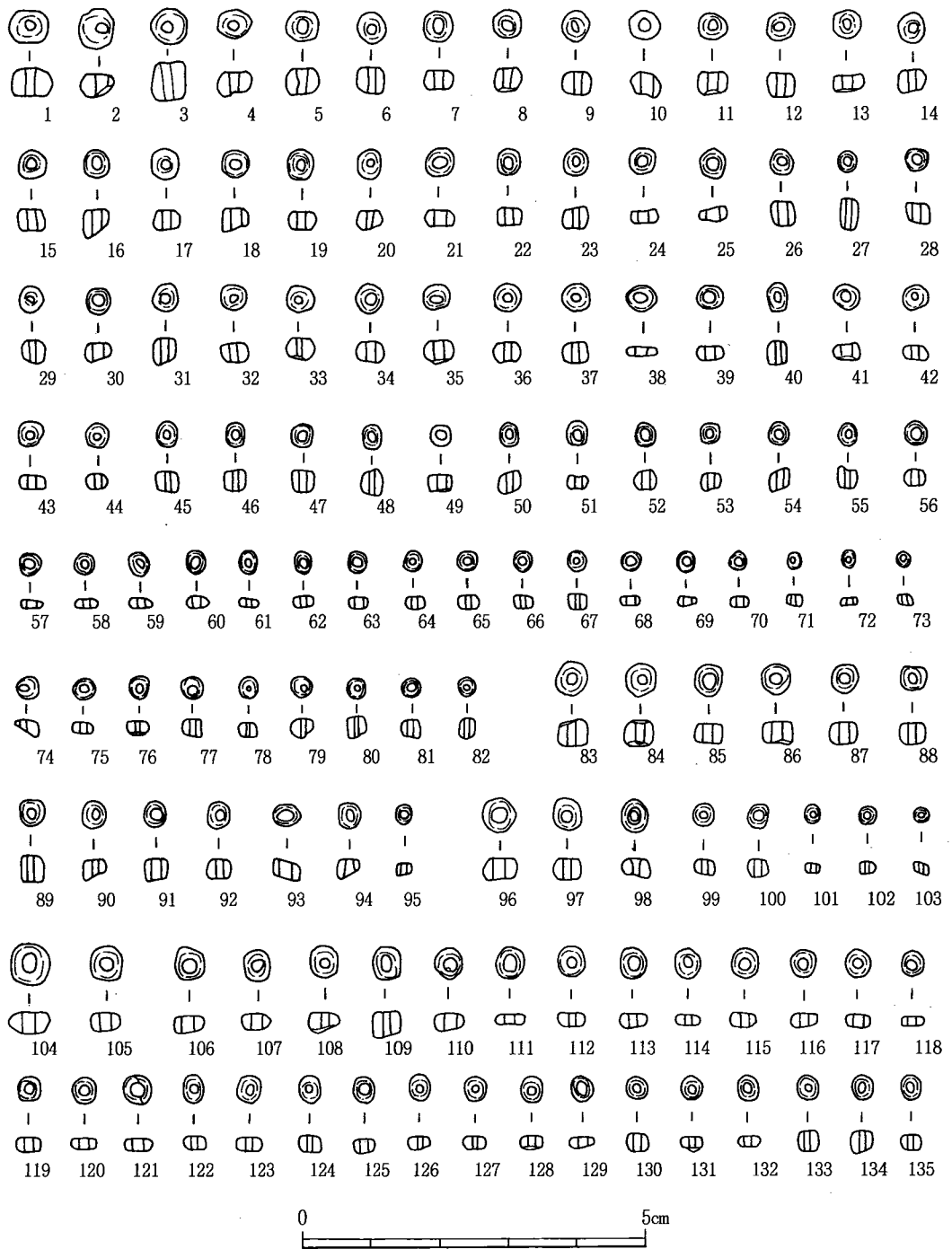
第243図 鉄器実測図 (1/2)



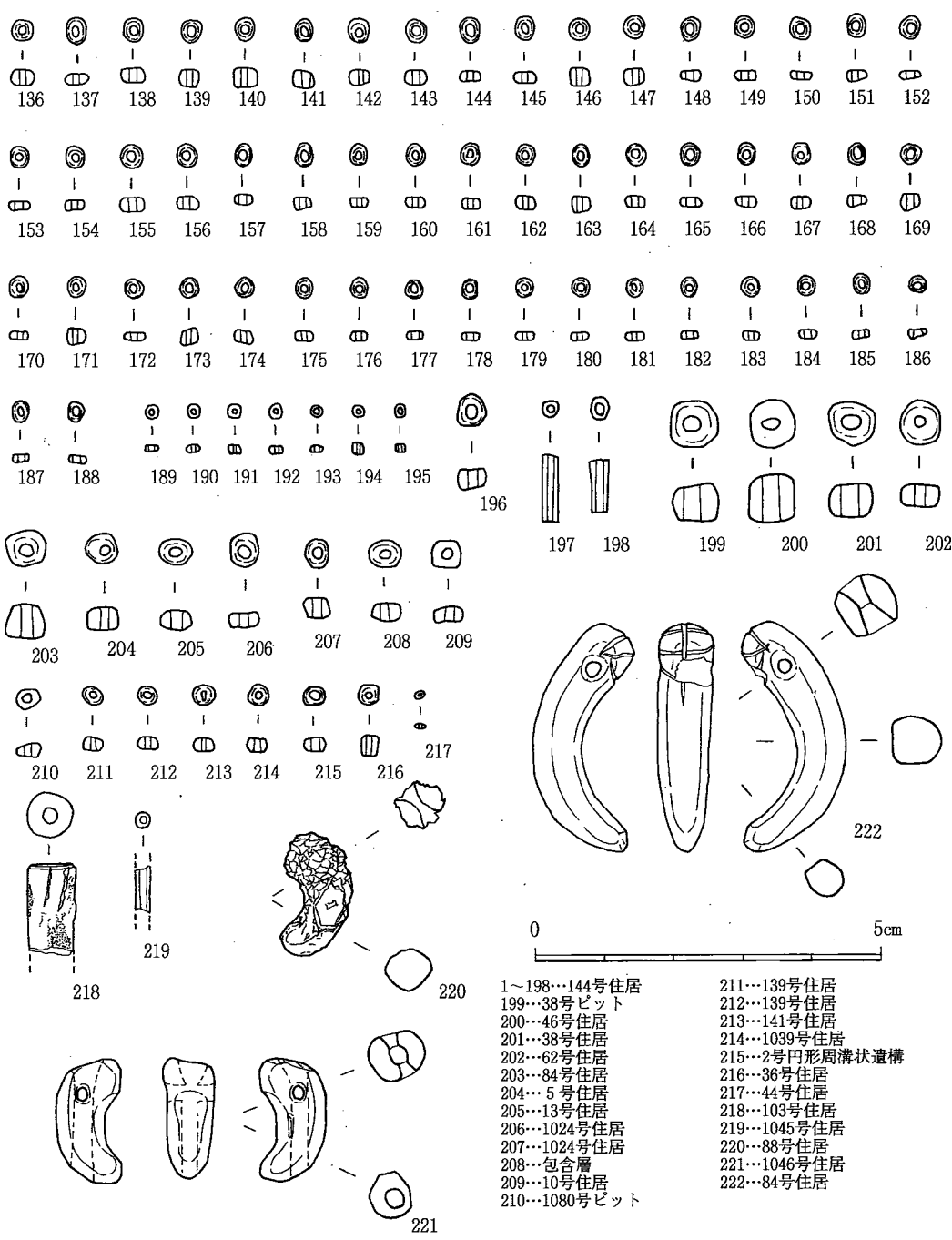
第244图 鉄器実測図 (1/2)



第245図 鉄器実測図 (1/3)



第246图 144号竖穴住居跡出土玉類実測図 (1/1)



第247図 144号竪穴住居跡およびその他の玉類実測図 (1/1)

表2 旧石器時代の石器観察表

No.	器種	石質	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	備考	出土地点
1	ナイフ形石器	黒曜石	(5.80)	210	1.40	18.40	先端欠	溝8-3区
2	"	"	4.35	2.45	1.40	8.70	先端・基部欠	表採
3	"	"	4.55	1.55	0.95	5.40		住1440埋土
4	"	"	(3.85)	2.90	1.20	9.10	左側縁・基部欠	表採
5	"	"	4.00	1.90	1.15	6.60		溝1-1区上層
6	"	サヌカイト	(5.15)	(1.75)	0.80	7.90		表採
7	台形石器	黒曜石	1.65	2.00	6.00	1.70		P5129
8	角錐状石器	"	(2.55)	1.25	0.95	1.70	先端欠	P1108
9	"	"	(3.80)	1.75	1.55	9.10	先端・基部欠	P732
10	"	サヌカイト	(3.40)	1.75	1.35	6.80	未製品	住1440埋土
11	"	黒曜石	6.40	3.50	3.00	48.50	"	1号円形周溝状遺構
12	スクレイパー	サヌカイト	3.65	4.20	1.55	22.50		P500
13	"	黒曜石	3.55	3.00	1.00	7.00		表採
14	"	"	2.75	2.40	1.50	6.90	石核転用	1号円形周溝状遺構
15	"	サヌカイト	3.15	2.80	0.70	4.90		住1460埋土
16	"	黒曜石	(3.70)	2.45	1.20	8.60	側縁・端部欠	P665
17	"	サヌカイト	6.25	3.80	1.15	13.70	側縁欠	表採
18	彫器	黒曜石	(3.20)	(2.50)	0.85	5.30	端部~側縁欠	調査区北端斜面
19	微細刻線のある剥片	"	3.35	1.90	0.90	3.60		住1047東壁土坑
20	"	サヌカイト	2.80	2.15	0.60	3.00		TP-2北表採
21	"	黒曜石	(3.00)	3.20	0.80	5.00		建15柱2
22	"	"	(3.15)	1.60	0.85	3.10	打点部~胴部欠	住5埋土
23	"	"	1.95	1.25	0.40	1.20		住144埋土
24	"	"	(2.80)	1.90	0.55	2.90	打点部~胴部欠	P5119
25	剥片・碎片	"	(2.15)	2.15	0.45	2.00	両端切断	住144新
26	"	"	4.45	2.35	0.60	4.40		住1024
27	"	"	(3.15)	1.45	3.00	1.40	打点部欠	住31屋内土坑
28	"	"	3.55	2.15	0.65	3.00		住34埋土
29	"	"	2.65	2.50	0.80	3.00		住1126
30	"	サヌカイト	2.35	3.95	1.10	5.70		住7埋土
31	"	"	(2.85)	2.85	0.9	4.60	端部欠	建4柱6
32	"	"	4.55	1.90	1.30	9.70		住74床面下
33	"	黒曜石	1.35	3.45	0.80	2.30		P5119
34	"	"	2.65	1.90	0.80	2.40		住1051
35	"	"	2.85	1.60	1.05	3.00		住1073上層
36	"	"	(2.40)	(1.95)	0.40	1.40	胴部以下欠	P66表土
37	"	"	2.60	1.50	0.40	0.90		住132
38	"	"	2.30	1.35	0.65	1.80		調査区東表採
39	"	"	2.25	1.25	0.25	0.80		表採
40	"	"	2.50	1.65	0.55	1.40		表採
41	"	"	1.55	1.54	0.35	0.70		表採
42	石核	"	3.45	2.70	1.45	9.70	打面部一部欠	住34
43	"	サヌカイト	5.15	4.45	1.75	28.30		住1442 P 1
44	"	"	8.20	4.15	2.15	74.40		表採

表3 縄紋時代の石器観察表

No.	器種	石質	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	備考	出土地点
1	槍先形尖頭器	サヌカイト	13.85	7.50	3.50	314.30	未製品	住44埋土
2	石 鋏	〃	1.80	1.65	0.35	0.90		住1441D24
3	〃	〃	(3.00)	1.75	0.65	2.80	両面磨き・先端欠	住3埋土
4	石 匙	黒曜石	(3.55)	1.33	0.65	2.40	胴部以下欠	
5	〃	サヌカイト	(4.05)	4.35	0.95	11.50	〃	建12柱3・4
6	〃	〃	3.70	8.20	1.30	27.20		1号貯蔵穴
7	スクレイパー	〃	5.00	4.80	1.75	38.90		住1422埋土
8	〃	〃	8.95	5.35	1.65	55.90	下端欠	溝9-10-11区畦部
9	〃	〃	6.25	4.50	1.25	32.20		P1144
10	〃	〃	4.15	4.20	1.00	17.00		住95埋土
11	〃	〃	2.60	3.75	1.00	8.50		住74埋土
12	〃	黒曜石	2.55	2.00	0.75	2.70		住82埋土
13	〃	サヌカイト	3.55	2.00	0.75	6.60		表採
14	〃	黒曜石	2.25	3.85	1.55	16.10	石核転用	住1126埋土
15	〃	〃	2.75	3.45	0.95	8.00		大溝10224トレ4層
16	微細彫刻のある剥片	サヌカイト	4.35	3.00	1.25	12.80		表採
17	〃	黒曜石	4.00	3.85	1.05	5.90	打点部欠	1号円形周溝状遺構
18	〃	〃	(4.80)	2.35	1.20	8.00	打点部欠	住137 P1
19	〃	〃	4.05	2.35	1.25	8.10		建4柱5
20	〃	〃	(4.05)	2.25	0.65	5.40		溝16埋土
21	〃	〃	2.50	2.40	0.75	3.80		包含層
22	〃	〃	1.90	2.20	0.80	2.30		住1063
23	〃	〃	1.75	2.15	0.55	1.70	打点部～胴部欠	住1044・1047
24	〃	〃	2.05	2.20	0.75	2.80		調査区西端表採
25	楔形石器	〃	2.80	1.80	1.65	9.60		住90埋土
26	〃	〃	3.60	1.50	1.10	5.90		溝9-9区
27	〃	〃	2.75	2.05	1.15	7.20		P912
28	〃	〃	2.35	1.85	0.90	3.40		住1044～47埋土
29	〃	〃	2.35	1.80	1.00	3.70		住47床面
30	磨面ある剥片	黒曜石	3.05	1.65	0.60	1.70	磨き面あり	住1440 P1
31	〃	サヌカイト	12.70	9.50	4.75	518.40	〃	大溝1022 ベルト内64層
32	石 斧	玄武岩	(16.50)	5.00	4.60	298.80		大溝1022 ドレンチ5層
33	〃	〃	9.35	5.60	2.85	216.80		住45No.1埋土
34	〃	変岩	13.80	6.85	2.20	178.80		北斜面表採
35	剥片・破片	黒曜石	4.90	2.00	0.75	4.70		表採
36	〃	〃	4.25	2.25	0.90	5.60		大溝1022 6トレ4層
37	〃	〃	5.35	2.90	1.25	8.90		住1278
38	〃	〃	3.85	3.15	1.00	9.00		大溝1022埋土中
39	〃	〃	3.50	2.12	1.05	7.80		P1085
40	〃	〃	2.20	3.00	0.65	2.80		表採
41	〃	〃	1.90	2.15	0.55	2.20		住1478炉
42	〃	〃	2.55	2.65	0.90	5.30		住1073 P4
43	〃	〃	1.90	2.80	0.80	4.70		建23柱6
44	〃	サヌカイト	5.95	5.35	1.50	34.70	打点部欠	杭24付近表採
45	石 核	〃	2.65	4.25	1.85	21.40		住95埋土
46	〃	黒曜石	2.55	2.60	1.95	6.70		表採
47	〃	〃	2.05	3.55	1.45	8.80		表採

表4 144号A 竪穴住居跡計測表

主軸方向		欠番		桁行 A	梁行 B	桁行柱間 a ₂	梁間 b ₂	測点 a ₃	測点 b ₃	番号	標高		
東—西		DP211		P ₁₁ —P ₁₂	P ₁₁ —P ₁₃	412	432	西壁—P ₄₂	北壁—北柱筋	P ₁₁	48.20		
N—78°—E				396	425			34	22	P ₁₂	48.52		
番号	検出面標高	平均	●412	●432	測点 A	測点 b ₂	P ₄₂ —西柱筋	北柱筋—D ₁₁	P ₁₃ —P ₁₄	P ₁₂ —P ₁₄	P ₁₃	48.18	
											P ₁₄	48.34	
											P ₂₁	47.35	
											P ₂₂	48.01	
											P ₄₁	48.31	
											P ₄₂	48.19	
											P ₄₃	48.11	
											D ₁₁	48.35	
											D ₂₁	48.11	
											DP ₂₁₁	未検出	
棟持柱間 a ₁	P ₂₁ —P ₂₂	●357	高床	48.57	西壁—東壁	北壁—南壁	683	537	高床幅	北柱筋—P ₂₁	D ₁₁ —南柱筋	P ₂₁	47.35
中床	48.49	高床—西柱筋	北柱筋—P ₂₂	222	P ₂₁ —D ₁₁	南柱筋—D ₂₂	P ₄₁	48.19					
桁行比	桁行柱比	桁行差	桁行柱差	棟持柱差	P ₄₁ —西柱筋	P ₂₁ —南柱筋	115	41	D ₁₁ —東柱筋	D ₈₁ —南壁	P ₄₃	48.11	
0.96	0.96	-20	-20	-55	P ₄₃ —西柱筋	P ₂₂ —南柱筋	228	36	D ₁₁	48.35			
					西柱筋—DP ₂₁₁	測点 B	14		D ₂₁	48.11			
					117	東柱筋—西高床	P ₂₁ —東高床	測点 A	DP ₂₁₁	未検出			
					DP ₂₁₁ —D ₂₁	78	35	DP ₂₁₂ —東柱筋	DP ₂₁₂	48.17			
					41	西高床長	東高床幅	198					
					D ₂₁ —DP ₂₁₂	206	83	DP ₂₁₁ —DP ₂₁₂					
					40			81					

○桁行換算	計 算 値	算 出 値
桁行 A	412≒30.1cm×13.7=412.4	412≒29.4cm×14.0=411.6
梁行 B	432≒30.1 ×14.4=433.4	432≒29.4 ×14.5=426.3
棟持 a ₁	357≒30.1 ×11.9=358.2	357≒29.4 ×12.0=352.8

○棟持換算	計 算 値	算 出 値
棟持 a ₁	357≒30.0cm×11.9	357≒29.8cm×12.0=357.6
桁行 A	412≒30.0 ×13.7=411	412≒29.8 ×14.0=417.2
梁行 B	432≒30.0 ×14.4	432≒29.8 ×14.5=432.1

規 模	1間×1間
	主柱 4
	棟持柱 2
	補柱 3
	壁沿・隅高床各1
床面積36.7㎡	

表5 144号B 竪穴住居跡計測表

主軸方向		欠番		桁行 A	梁行 B	桁行柱間 a ₂	梁間 b ₂	測点 a ₃	測点 b ₃	番号	標高		
東—西		P13		P ₁₁ —P ₁₂	P ₁₁ —P ₁₃	356	357	西壁—P ₄₂	北壁—北柱筋	P ₁₁	48.22		
N—89°—E		DP211・212		356	(357)			25	17	P ₁₂	48.04		
番号	検出面標高	平均	●356	●357	測点 A	測点 b ₂	P ₄₂ —西柱筋	北柱筋—D ₁₁	P ₁₃ —P ₁₄	P ₁₂ —P ₁₄	P ₁₃	欠失	
											P ₁₄	48.31	
											P ₂₁	47.96	
											P ₂₂	47.67	
											P ₄₁	重複	
											P ₄₂	48.08	
											P ₄₃	48.11	
											D ₁₁	48.33	
											D ₂₁	48.15	
											棟持柱間 a ₁	P ₂₁ —P ₂₂	●330
中床	48.45	高床—西柱筋	北柱筋—P ₂₂	209	P ₂₁ —D ₁₁	D ₁₁ —南柱筋	P ₄₁	重複					
桁行比	桁行柱比	桁行差	桁行柱差	棟持柱差	P ₄₃ —西柱筋	北柱筋—P ₂₂	23	137	P ₂₂	47.67			
1.00	1.00	1	1	-24	58	200	P ₂₁ —D ₁₁	D ₁₁ —南柱筋	P ₄₁	重複			
					西柱筋—D ₂₁	P ₂₁ —南柱筋	117	30	P ₄₂	48.08			
					195	148	D ₁₁ —東柱筋	南柱列—南壁	P ₄₃	48.11			
					D ₂₁ —東柱筋	P ₂₂ —南柱筋	213	117	D ₁₁	48.33			
					161	157	東柱筋—P ₂₂		D ₂₁	48.15			
							3						
							P ₂₂ —東墮	115					

桁行換算	計 算 値	算 出 値
桁行 A	356≒29.9cm×11.9=355.8	351≒29.3cm×12.0=351.6
梁行 B	357≒29.9 ×11.9=355.8	357≒29.3 ×12.0=351.6
棟持 a ₁	330≒29.9 ×11.0=328.9	330≒29.3 ×11.5=337.0

○棟持換算	計 算 値	算 出 値
棟持 a ₁	330≒30.0cm×11.0	左に同じ
桁行 A	356≒30.0 ×11.9=357	356≒30.0 ×12.0=360.0
梁行 B	357≒30.0 ×11.9	357≒30.0 ×12.0=360.0

規 模	1間×1間
	主柱 4
	棟持柱 2
	補柱 3
	高床 0
床面積31.8㎡	

表 6 144号C 竖穴住居跡計測表

主軸方向		欠番	桁行 A	梁行 B	桁行柱間 a ₂	梁間 b ₂	測点 a ₃	測点 b ₃	番号	標高
東-西 N-81°-E		P13	P ₁₁ -P ₁₂ 370	P ₁₁ -P ₁₃ (249)	365	249	西壁-P ₄₂ 32	北壁-北柱筋 54	P ₁₁	48.18
番号	検出面標高	平均	●365	●249	測点 a ₂ P ₄₁ -西柱筋 95	測点 b ₂ 北柱筋-P ₂₁ 147	P ₄₂ -西柱筋 111	北柱筋-D ₁₁ 132	P ₁₂	48.11
									P ₁₃	欠失
									P ₁₄	48.23
									P ₂₁	48.05
									P ₂₂	48.21
									P ₂₁ -D ₁₁	48.20
									P ₃₂	48.14
									P ₄₁	48.29
									P ₄₂	48.20
									壁	48.43
高床										
中床	48.44									
棟持柱間 a ₁		測点 a ₃	測点 b ₃	西柱筋-D ₂₁ 121	北柱筋-P ₂₂ 115	P ₂₁ -D ₁₁ 104	D ₂₁ -南柱筋 33	P ₃₁	48.20	
P ₂₁ -P ₂₂ ●324		西壁-東壁 584	北壁-南壁 395	D ₂₁ -東柱筋 249	P ₂₁ -南柱筋 (102)	D ₁₁ -P ₂₂ 220	D ₂₁ -南壁 59	P ₄₁	48.29	
				P ₂₂ -南柱筋 134		P ₂₂ -東柱筋 34		P ₄₂	48.20	
				P ₃₁ -P ₃₂ ●126				D ₁₁	48.40	
								D ₂₁	48.21	
						測点 a ₃				
						東柱筋-P ₃₂		15		
						P ₃₂ -東壁		56		

桁行比	桁行柱比	桁行差	桁行柱差	棟持柱差
1.47	1.47	116	116	-41

○桁行換算	計算値	算出値
桁行 A	365 ÷ 29.9cm × 12.2 = 364.8	365 ÷ 30.4cm × 12.0 = 364.8
梁行 B	249 ÷ 29.9 × 8.3 = 248.2	249 ÷ 30.4 × 8.0 = 243.2
棟持 a ₁	324 ÷ 29.9 × 10.8 = 322.9	324 ÷ 30.4 × 10.5 = 319.2
P ₃₁ -P ₃₂	126 ÷ 29.9 × 4.2 = 125.6	126 ÷ 30.4 × 4.0 = 121.6

棟持換算	計算値	算出値
棟持 a ₁	324 ÷ 30.0cm × 10.8	324 ÷ 29.5cm × 11.0 = 324.5
桁行 A	365 ÷ 30.0 × 12.2 = 366	365 ÷ 29.5 × 12.5 = 368.8
梁行 B	249 ÷ 30.0 × 8.3	249 ÷ 24.5 × 8.5 = 250.8
P ₃₁ -P ₃₂	126 ÷ 30.0 × 4.2	126 ÷ 29.5 × 4.5 = 132.8

規模	1間×1間
	主柱 4
	棟持柱 2
	主軸間柱 2
	高床 0
床面積 23.1㎡	

表 7 1001号B 竖穴住居跡計測表

主軸方向		欠番	桁行 A	梁行 B	桁行柱間 a ₂	梁間 b ₂	測点 A	測点 B	番号	標高
東-西 N-75°-E		略	P ₁₁ -P ₁₂	P ₁₁ -P ₁₃	(269)	(267)	略	評	P ₁₁	重複
番号	検出面標高	平均	(269)	(267)	測点 a ₃	測定 b ₃	略	略	P ₁₂	重複
									P ₁₃	48.57
									P ₁₄	重複
									P ₂₁	重複
									P ₄₁	
									P ₁₁	重複
									P ₁₂	重複
									P ₁₃	48.70
									P ₁₄	重複
									P ₂₁	48.69
P ₂₂	未検出									
壁										
高床										
中床										
棟持柱間 a ₁		P ₂₁ -P ₂₂ (419)								
桁行比	桁行柱比	桁行差	桁行柱差	棟持柱差						
(1.01)	(1.01)	(2)	(150)	(150)						

規模	
1間×1間	
主柱 4	
棟持柱 2	
補柱 0	
高床 0	
床面積 (22.5)㎡	

表 8 1001号A 竪穴住居跡計測表

主軸方向		欠番		桁行 A	梁行 B	桁行柱間 a ₂	梁行柱間 b ₂	測点 A	測点 B	番号	標高
東-西 N-75°-E		P41・P42 P44外略		P ₁₁ -P ₁₂ 259	P ₁₁ -P ₁₃ 258	269	267	西柱筋-P ₅₁₁ 133	北柱筋-P ₅₁₁ 207	P ₁₁	48.79
平均		●269 ●267		P ₁₃ -P ₁₄ 279	P ₁₂ -P ₁₄ 273	測点 a ₃ 西壁-P ₂₁ 46	測点 b ₃ 北壁-D ₂₁ 39	西柱筋-P ₅₁₂ 137	南柱筋-P ₅₁₂ 205	P ₁₂	48.28
番号	検出面標高	P ₂₁ -西柱筋		D ₂₁ -北柱列		西柱筋-P ₅₁₃		北柱筋-P ₅₁₃		P ₁₃	48.34
P ₁₁	48.76	測点 a ₃		測点 b ₃		重複		重複		P ₁₄	48.29
P ₁₂	48.75	西壁-東壁 519		北壁-南壁 433		東柱筋-P ₂₂ (80)		南柱筋-南壁 71		P ₂₁	48.59
P ₁₃	48.76	P ₂₂ -東壁 (54)		棟持柱間 a ₁ P ₂₁ -P ₂₂ ●(419)		測点 A		測点 B		P ₂₂	未検出
P ₁₄	48.73	D ₂₁ -東柱筋 ●92		西柱筋-D ₂₁ 167		西柱筋-P ₅₂₁ 16		北柱筋-P ₅₂₁ 170		P ₅₁₁	49.05
P ₂₁	48.76	D ₂₁ -東柱筋 ●92		西柱筋-P ₅₁₅ 268		北柱筋-P ₅₁₅ 57		西柱筋-P ₅₁₇ 273		P ₅₁₂	48.86
P ₂₂	未検出	西柱筋-P ₅₁₇ 273		南柱筋-P ₅₁₇ 18		西柱筋-P ₅₂₂ 20		南柱筋-P ₅₂₂ 179		P ₅₁₃	48.95
壁	49.13	西柱筋-P ₅₁₇ 273		南柱筋-P ₅₁₇ 18		西柱筋-P ₅₂₂ 20		南柱筋-P ₅₂₂ 179		P ₅₁₄	未確認
高床		西柱筋-P ₅₁₇ 273		南柱筋-P ₅₁₇ 18		西柱筋-P ₅₂₂ 20		南柱筋-P ₅₂₂ 179		P ₅₁₅	48.96
中床	48.77	西柱筋-P ₅₁₇ 273		南柱筋-P ₅₁₇ 18		西柱筋-P ₅₂₂ 20		南柱筋-P ₅₂₂ 179		P ₅₁₆	未確認
桁行比		桁行柱比		桁行差		桁行柱差		棟持柱差		P ₅₁₇	48.93
1.01		1.01		2		2		150		P ₅₁₈	未確認
○桁行換算		計 算 値				算 出 値				P ₅₁₉	未確認
桁行 A		269 ≒ 29.9cm × 9.0 = 269.1				左に同じ				P ₅₂₀	未確認
梁行 B		267 ≒ 29.9 × 8.9 = 266.1				267 ≒ 29.9 × 9.0 = 269.1				P ₅₂₁	49.01
棟持 a ₁		(419) ≒ 29.9 × 14.0 = 418.6				左に同じ				P ₅₂₂	48.63
D ₂₁ -東柱筋		92 ≒ 29.9 × 3.1 = 92.7				92 ≒ 29.9 × 3.0 = 89.7				D ₂₁	48.64

○棟持換算		計 算 値				算 出 値			
棟持 a ₁		(419) ≒ 29.9mm × 14.0 = 418.6				左に同じ			
桁行 A		269 ≒ 29.9 × 9.0 = 269.1				左に同じ			
梁行 B		267 ≒ 29.9 × 8.9 = 266.1				267 ≒ 29.9 × 9.0 = 269.1			
D ₂₁ -東柱筋		92 ≒ 29.9 × 3.1 = 92.7				92 ≒ 29.9 × 3.0 = 89.7			

規 模	1間×1間
	主柱 4
	棟持柱 2
	補柱 2
	高床 0
床面積22.5㎡	

表 9 1007号竪穴住居跡計測値

主軸方向		欠番		桁行 A	梁行 B	番号	標高
東-西 N-12°-E		P11~14		P-P	P-P	P ₁₁	欠失
平均				P-P	P-P	P ₁₂	欠失
番号	検出面標高					P ₁₃	欠失
P ₁₁	欠失					P ₁₄	欠失
P ₁₂	欠失					P ₅₁	48.05
P ₁₃	欠失						
P ₁₄	欠失						
壁	48.19						
中床	48.15						

表10 1024号A竖穴住居跡計測表

主軸方向		欠番		桁行 A	梁行 B	桁行柱間 a ₂	梁間 b ₂	測点 a ₃	測点 b ₃	番号	標高	
東-西 N-75°-E		P13-64-512 P519-520-521		P ₁₁ -P ₁₂ 268	P ₁₁ -P ₁₃ (330)	268	330	西壁-西柱筋 160	北高床幅 83	P ₁₁ P ₁₂	48.23 48.30	
				P ₁₃ -P ₁₄ (268)	P ₁₂ -P ₁₄ 330	測点 a ₂ P ₅₁₁ -P ₅₂ 85	測点 a ₂ P ₅₂₂ -P ₅₃ 76	西柱筋-P ₂₁ 50	高床-P ₅₁ 2	P ₁₃ P ₁₄	未検出 48.18	
		平均		●268	●330			P ₂₁ -D ₁₁ 109	P ₅₁ -北柱筋 35	P ₂₁ P ₂₂	47.71 48.08	
		棟持柱間 a ₁		測点 B ●233	測点 B P ₅₁₄ -P ₆₂ 178	P ₅₂ -西柱筋 161	P ₅₃ -西柱筋 150	D ₁₁ -東柱筋 109	北柱筋-D ₁₁ 180	P ₅₁ P ₅₂	48.49 48.50	
				P ₂₁ -P ₂₂ ●233	P ₆₂ -P ₆₅ 190	P ₆₁ -東柱筋 118	●88	東柱筋-P ₂₂ 14	D ₁₁ -南柱筋 150	P ₅₃ P ₅₄	48.56 48.78	
					瀨点 b ₂ 177	北柱筋-P ₂₁ 153	東柱筋-P ₆₁ 71	P ₂₂ -東壁 132	南柱筋-南壁 31	P ₅₅ P ₆₁	48.54 48.67	
					北柱筋-P ₂₂ 167	P ₆₁ -P ₆₂ 112	東壁-P ₅₁₇ 92	西壁-東壁 574	北壁-南壁 481	P ₆₂ P ₆₃ P ₆₄	48.73 48.78 未確認	
		番号 標高		P ₅₁₄ 48.88	P ₅₁₅ 48.87							
		番号 標高		P ₆₅ 48.54	DP ₂₁₁ 48.03	P ₁₆ 48.73						
		番号 標高		P ₆₆ 48.46	DP ₂₁₂ 48.12	P ₅₁₇ 48.79						
		番号 標高		D ₁₁ 48.37	P ₅₁₁ 48.29	P ₅₁₈ 48.69						
		番号 標高		D ₂₁ 48.38	P ₅₁₃ 48.68	P ₅₂₂ 48.41						
										桁行比 桁行柱比 桁行差 桁行柱差 棟持柱差		
										0.81 0.81 -62 -62 -35		

○桁行換算		計算値		算出値	
桁行 A	268	$\approx 30.1\text{cm} \times 8.9 = 267.9$		268	$\approx 29.8\text{cm} \times 9.0 = 268.2$
梁行 B	330	$\approx 30.1 \times 11.0 = 333.1$		330	$\approx 29.8 \times 11.0 = 327.8$
棟持 a ₁	233	$\approx 30.1 \times 7.7 = 231.8$		233	$\approx 29.8 \times 8.0 = 238.4$
DP ₂₁₁ -DP ₂₁₂	88	$\approx 30.1 \times 2.9 = 87.3$		88	$\approx 29.8 \times 3.0 = 89.4$
棟持換算		計算値		算出値	
棟持 a ₁	233	$\approx 29.9\text{cm} \times 7.8 = 233.2$		233	$\approx 29.1\text{cm} \times 8.0 = 232.8$
桁行 A	268	$\approx 29.9 \times 9.0 = 269.1$		268	$\approx 29.1 \times 9.0 = 261.9$
梁行 B	330	$\approx 29.9 \times 11.0 = 328.9$		330	$\approx 29.1 \times 11.5 = 334.7$
DP ₂₁₁ -DP ₂₁₂	88	$\approx 29.9 \times 2.9 = 86.7$		88	$\approx 29.1 \times 3.0 = 87.3$

規		棟	
1間×1間		主柱 4	
棟持柱 2		補柱 1	
施設柱 6		壁隅外周 P	
壁隅高床 2		床面積(27.6)㎡	

表11 1024号B竖穴住居跡計測表

主軸方向		欠番		桁行 A	梁行 B	桁行柱間 a ₁	梁間 a ₃	測点 a ₃	測点 b ₃	番号	標高
東-西 N-71°-E		P11~14-D11 HP21		P ₁₁ -P ₁₂	P ₁₁ -P ₁₃	(268)	(330)	西壁-西柱筋 116	北壁-北柱筋 39	P ₂₁ P ₂₂	48.15 48.17
		平均		P ₁₃ -P ₁₄	P ₁₂ -P ₁₄	測点 A 南西高床-西柱筋 0	測点 B 北東高床長 182	西柱筋-P ₂₁ 65	北柱筋-D ₁₁ 184	D ₁₁ H ₂₁	重複 未確認
		棟持柱間 a ₁		測点 a ₃	測点 b ₃	西柱筋-HP ₂₁₁ 55	北東高床-主軸 5	P ₂₁ -D ₁₁ 94	D ₁₁ -南柱筋 146	HP ₂₁₁ HP ₂₁₂	48.34 48.11
		P ₂₁ -P ₂₂ ●218		西壁-東壁 525	北壁-南壁 399	HP ₂₁₁ -HP ₂₁₂ ●60	北柱筋-南西高床 179	D ₁₁ -東柱筋 109	南柱筋-DP ₂₁₂ 8	測点 A 東柱筋-北東高床 30	
		桁行比		桁行柱比		桁行差		桁行柱差		棟持柱差	
		(0.81)		(0.81)		(-62)		(-62)		-50	
		高床		中床		220		P ₂₂ -東壁 126		北東高床幅 111	
		48.69		48.49						南西高床幅 128	

○桁行換算		計算値		算出値	
桁行 A	(268)	$\approx 30.1\text{cm} \times 8.9 = 267.9$		(268)	$\approx 29.8\text{cm} \times 9.0 = 268.2$
梁行 B	(330)	$\approx 30.1 \times 11.0 = 331.1$		(330)	$\approx 29.8 \times 11.0 = 327.8$
棟持 a ₁	218	$\approx 30.1 \times 7.2 = 216.7$		218	$\approx 29.8 \times 7.5 = 223.5$
HP ₂₁₁ -HP ₂₁₂	60	$\approx 30.1 \times 2.0 = 60.2$		60	$\approx 29.8 \times 2.0 = 59.6$
棟持換算		計算値		算出値	
棟持 a ₁	218	$\approx 29.9\text{cm} \times 7.3 = 218.3$		218	$\approx 31.1\text{cm} \times 7.0 = 217.7$
桁行 A	(268)	$\approx 29.9 \times 9.0 = 269.1$		(268)	$\approx 31.1 \times 8.5 = 264.4$
梁行 B	(330)	$\approx 29.9 \times 11.0 = 328.9$		(330)	$\approx 31.1 \times 10.5 = 326.6$
HP ₂₁₁ -HP ₂₁₂	60	$\approx 29.9 \times 2.0 = 59.8$		60	$\approx 31.1 \times 2.0 = 62.2$

規		棟	
1間×1間		主柱 4	
棟持柱 2		補柱 (1)	
壁隅高床 2		方形区画 (1)	
床面積20.9㎡			

表12 1025号竪穴住居跡計測表

主軸方向		欠番	桁行 A	梁行 B	桁行柱間 a ₂	梁間 b ₂	測点 a ₃	測点 b ₃	番号	標高
東-西 N-86°-E		P43・44 P62	P ₁₁ -P ₁₂ 329	P ₁₁ -P ₁₃ 302	329	299	西壁-支脚 ●32	北壁-北柱筋 106	P ₁₁ P ₁₂	47.92 48.20
平均			P ₁₃ -P ₁₄ 329	P ₁₂ -P ₁₄ 295	測点 A 西壁-P ₄₁ 63	測点 B 北壁-P ₄₁ 69	支脚-西柱筋 104	南柱筋-南壁 (106)	P ₁₃ P ₁₄	47.92 48.21
西壁-東壁 ●675			測点 a ₃	測点 b ₃ 北壁-南壁 ●(511)	P ₄₁ -西柱筋 71	P ₄₁ -北柱筋 13	東柱筋-東壁 110		P ₄₁ P ₄₂ P ₄₃ P ₄₄	48.26 48.27 欠失 欠失
東柱筋-P ₄₂ 33					東柱筋-P ₄₂ 71	北壁-P ₄₂ 71	西壁-西柱筋 136		P ₆₁ P ₆₂	48.29 未検出
P ₄₂ -東壁 68					P ₄₂ -東壁 68	P ₄₂ -北柱筋 55	測点 B			
東柱筋-P ₆₂ 81					東柱筋-P ₆₂ 81	北柱筋-P ₆₂ 53	北柱筋-支脚 170			
P ₆₂ -東壁 27					P ₆₂ -東壁 27	P ₆₂ -南柱筋 246	支脚-南柱筋 129			

番号	検出面標高
P ₁₁	48.32
P ₁₂	48.42
P ₁₃	48.18
P ₁₄	48.30
壁	48.76
高床	
中床	48.43

桁行比	桁行柱比	桁行差	桁行柱差	棟持柱差
1.10	1.10	30	30	

桁行換算	計算値	算出値
桁行 A	329 ≒ 29.9cm × 11.0 = 328.9	左に同じ
梁行 B	299 ≒ 29.9 × 10.0	左に同じ
西壁-支脚	32 ≒ 29.9 × 1.1 = 32.9	32 ≒ 29.9 × 1.0 = 29.9
西壁-東壁	675 ≒ 29.9 × 22.6 = 675.8	675 ≒ 29.9 × 23.0 = 687.7
北壁-南壁	(511) ≒ 29.9 × 17.1 = 511.3	(511) = 29.9 × 17.0 = 508.3

規 模	1間×1間
	主柱 4
	棟持柱 0
	補柱 0
	西壁中央カマ下 床面積34.5㎡

表13 1026号A竪穴住居跡計測表

主軸方向		欠番	桁行 A	梁行 B	測点 a ₂	測点 b ₂	測点 a ₃	測点 b ₃	番号	標高
東-西 N-83°-E		P12・13 P31・33・34	P ₁₁ -P ₁₂ (223)	P ₁₁ -P ₁₃ (285)	西柱筋-D ₂₁ (112)	北柱筋-P ₃₁ 104	西壁-西柱筋 73	北壁-北柱筋 28	P ₁₁ P ₁₂	48.15 未検出
平均			P ₁₃ -P ₁₄ (223)	P ₁₂ -P ₁₄ (285)	D ₂₁ -東柱筋 (111)	P ₃₁ -P ₃₂ 77	西柱筋-P ₃₂ 16	北柱筋-D ₁₁ 170	P ₁₃ P ₁₄	未検出 48.21
西壁-東壁 ●487			測点 a ₃	測点 b ₃ 北壁-南壁 ●353		P ₃₂ -南柱筋 104	P ₃₂ -D ₁₁ 90	D ₁₁ -DP ₁₁₁ 8	P ₃₁ P ₃₂ P ₃₃ P ₃₄	未検出 48.23 未検出 未検出
D ₁₁ -DP ₁₁₁ 3							D ₁₁ -DP ₁₁₁ 3	DP ₁₁₁ -D ₂₁ ●90	D ₁₁ DP ₁₁₁	48.44 48.38
DP ₁₁₁ -P ₃₄ (97)							東柱筋-東壁沿高床西縁 72	D ₂₁ -南柱筋 17	D ₂₁ DP ₁₁₁	48.44 48.38
P ₃₄ -東柱筋 (17)							東壁沿高床幅 119		D ₂₁	48.27

番号	検出面標高
P ₁₁	48.60
P ₁₂	未検出
P ₁₃	未検出
P ₁₄	48.43
壁	48.87
高床	48.65
中床	48.64

桁行比	桁行柱比	桁行差	桁行柱差	棟持柱差	主軸間柱差
(0.78)	(0.78)	(-62)	(-62)		-34

桁行換算	計算値	算出値
桁行 A	(223) ≒ 30.1cm × 7.4 = 222.7	(223) ≒ 31.9cm × 7.0 = 223.3
梁行 B	(285) ≒ 30.1 × 9.5 = 286.0	(285) ≒ 31.9 × 9.0 = 287.1
DP ₁₁₁ -D ₂₁	90 ≒ 30.1 × 3.0 = 90.3	90 ≒ 31.9 × 3.0 = 95.7
西壁-東壁	487 ≒ 30.1 × 16.2 = 487.6	487 ≒ 31.9 × 15.0 = 478.5
北壁-南壁	353 ≒ 30.1 × 11.7 = 352.2	353 ≒ 31.9 × 11.0 = 350.9

規 模	1間×1間
	主柱 4
	棟持柱 0
	主軸間接 (4)
	補柱 0
壁沿高床 1	
床面積17.0㎡	

表14 1026号B竖穴住居跡計測表

主軸方向		欠番		桁行 A	梁行 B	測点 a ₂	測点 b ₂	測点 a ₃	測点 b ₃	番号	標高
東—西 N—83°—E		P11~14 P31~34·D11		P ₁₁ -P ₁₂	P ₁₁ -P ₁₃	西柱筋—D ₂₁ (73)	北柱筋—P ₃₁ (104)	西壁—西柱筋 (63)	北壁—北柱筋 (15)	P ₁₁ P ₁₂	重複 未検出
				P ₁₃ -P ₁₄	P ₁₂ -P ₁₄	D ₂₁ —東柱筋 (150)	P ₃₁ -P ₃₂ (77)	東柱筋—東壁 61	D ₂₁ —南柱筋 (14)	P ₁₃ P ₁₄	未検出 重複
番号	検出面標高	平均		●(223) ●(285)		P ₃₂ —南柱筋 104		西壁—東壁 ●347	南柱筋—南壁 (23)	P ₃₁ P ₃₂	未検出 重複
P ₁₁	重複								北壁—南壁 ●323	P ₃₃ P ₃₄	未検出 未検出
P ₁₂	未検出									D ₁₁ D ₂₁	重複 48.29
P ₁₃	未検出										
P ₁₄	重複										
壁	48.87										
高床											
中床	48.50										
		桁行比	桁行柱比	桁行差	桁行柱差	棟持柱差	主軸間柱差				
		(0.78)	(0.78)	(-62)	(-62)		(-34)				
桁行換算		計算値				算出値					
桁行 A		(223) ≒ 30.1cm × 7.4 = 222.7				(233) ≒ 31.9cm × 7.0 = 223.3					
梁行 B		(285) ≒ 30.1 × 9.5 = 286.0				(285) ≒ 31.9 × 9.0 = 287.1					
西壁—東壁		347 ≒ 30.1 × 11.5 = 346.2				347 ≒ 31.9 × 11.0 = 350.9					
北壁—南壁		323 ≒ 30.1 × 10.7 = 322.1				323 ≒ 31.9 × 10.0 = 319.0					
規模	1間×1間										
	主柱 4										
	棟持柱 0										
	主軸間柱 (4)										
	補柱 0										
高床 0											
床面積11.2㎡											

表15 1027号竖穴住居跡計測表

主軸方向		欠番		桁行 A	梁行 B	桁行柱間 a ₂	梁行柱間 b ₂	測点 A	測点 b ₃	番号	標高
東—西 N—72°—E		P13·14		P ₁₁ -P ₁₂ 345	P ₁₁ -P ₁₃ (252)	345	(252)	西柱筋—D ₂₁ 228	北壁—D ₂₁ 36	P ₁₁ P ₁₂	47.76 47.70
				P ₁₃ -P ₁₄ (345)	P ₁₂ -P ₁₄ (252)	測点 a ₂ 西柱筋—D ₁₁		D ₂₁ —東柱筋 117	D ₂₁ —北柱筋 82	P ₁₃ P ₁₄	欠失 欠失
番号	検出面標高	平均		●345 ●(252)		D ₁₁ —東柱筋 204		測点 a ₃ 西壁沿高床幅 (110)	南柱筋—南壁 98	D ₁₁ D ₂₁	47.84 47.96
P ₁₁	48.11							西高床—西柱筋 0	北壁—南壁 ●468		
P ₁₂	47.93							東柱筋—東壁 (110)			
P ₁₃	欠失							西壁—東壁 ●(565)			
P ₁₄	欠失										
壁	48.31										
高床	欠失										
中床	48.20										
		桁行比	桁行柱差	桁行差	桁行柱差	棟持柱差					
		1.37	1.37	93	93						
桁行換算		計算値				算出値					
桁行 A		345 = 30.0cm × 11.5				345 ≒ 28.8cm × 12.0 = 345.6					
梁行 B		(252) = 30.0 × 8.4				(252) ≒ 28.8 × 9.0 = 259.2					
西壁—東壁		(565) ≒ 30.0 × 18.8 = 564.0				(565) ≒ 28.8 × 20.0 = 576.0					
北壁—南壁		486 = 30.0 × 15.6				468 ≒ 28.8 × 16.0 = 460.8					
規模	1間×1間										
	主柱 4										
	棟持柱 0										
	補柱 1										
	壁沿高床 1										
床面積(26.4)㎡											

表16 1028号竪穴住居跡計測表

主軸方向		欠番	桁行 A	梁行 B	桁行柱間 a ₂	梁間 b ₂	測点 a ₃	測点 b ₃	番号	標高
東-西 N-88°-W		P14	P ₁₁ -P ₁₂ 180	P ₁₁ -P ₁₃ 163	180	163	西壁-西柱筋 70	北壁-D ₂₁ 49	P ₁₁ P ₁₂	47.48 47.48
番号		検出面標高	P ₁₃ -P ₁₄ (180)	P ₁₂ -P ₁₄ (163)	測点 a ₃ 西壁-東壁	測点 b ₃ 北壁-南壁	西柱筋-D ₂₁ 85	D ₂₁ -北柱筋 42	P ₁₃ P ₁₄	47.61 欠失
P ₁₁		47.91	平均	●180	●163	●404	●(296)	D ₂₁ -東柱筋 95	D ₂₁	47.77
P ₁₂		47.88	棟持柱間 a ₁				東柱筋-東高床 75			
P ₁₃		47.87					東壁沿高床幅 79			
P ₁₄		欠失								
壁		48.29								
高床		欠失								
中床		48.09								
			桁行比	桁行柱比	桁行差	桁行柱差	棟持柱差			
			1.10	1.10	17	17				
									主軸 N-88°-W	
									カマド残長 79	
									カマド長(109)	
									燃焼室幅 70	
									カマド破棄行為	

桁行換算	計算値	算出値
桁行 A	180 = 30.0cm × 6.0	左に同じ
梁行 B	163 = 30.0 × 5.4	163 ÷ 30.0 × 5.5 = 165.0
西壁-東壁	404 ÷ 30.0 × 13.5 = 405	404 ÷ 30.0 × 14.0 = 420.0
北壁-南壁	(296) ÷ 30.0 × 9.9 = 297	296 ÷ 30.0 × 10.0 = 300.0

規 模	1間×1間
	主柱 4
	棟持柱 0
	補柱 0
	壁沿高床 2
	東壁北隅カマド 床面積(12.0)㎡

表17 1029(1033)号竪穴住居跡計測表

主軸方向		欠番	桁行 A	梁行 B	桁行柱間 a ₂	梁間 b ₂	測点 A	測点 b ₃	番号	標高
東-西 N-77°-E		P13-14-81 D11-HP212	P ₁₁ -P ₁₂ 448	P ₁₁ -P ₁₃	448	(366)	西柱筋-HP ₂₁₁ 155	北壁-HP ₂₁₂ 8	P ₁₁ P ₁₂	47.96 48.02
番号		検出面標高	P ₁₃ -P ₁₄ (448)	P ₁₂ -P ₁₄		測点 a ₃	HP ₂₁₁ -HP ₂₁₂ ●(69)	HP ₂₁₂ -北柱筋 100	P ₁₃ P ₁₄	欠失 欠失
P ₁₁		48.04	平均	●448	●(366)	西壁沿高床幅 107	HP ₂₁₂ -東柱筋 (224)	北方形区画幅 108	P ₂₁ P ₂₂	重複? 重複?
P ₁₂		48.35	棟持柱間 a ₁				西壁-西柱筋 53	北方形区画長 184	P ₅₁ P ₅₂	47.95 47.96
P ₁₃		欠失	P ₂₁ -P ₂₂ ●(234)				西柱筋-P ₂₁ (139)	北東隅高床幅 108	P ₈₁ P ₈₂	欠失 欠失
P ₁₄		欠失					P ₂₂ -東柱筋 309	北柱筋-P ₂₁ (215)	D ₁₁ D ₁₂	欠失 欠失
P ₂₁		重複?					95	西柱筋-P ₅₁ 196	H ₂₁	48.17
P ₂₂		重複?					101	P ₅₁ -P ₅₂ 134	HP ₂₁₁ HP ₂₁₂	48.05 未検出
壁		48.41					●602	P ₅₂ -東柱筋 118	P ₂₂ -南柱筋 (194)	
高床		48.31							南柱筋-南壁 (74)	
中床		48.17							北壁-南壁 ●548	
			桁行比	桁行柱比	柱行差	桁行柱差	棟持柱差			
			(1.22)	(1.22)	(82)	(-82)	(-214)			

○桁行換算	計算値	算出値
桁行 A	448 = 30.1cm × 14.9 = 448.5	448 = 29.9cm × 15.0 = 448.5
梁行 B	(366) = 30.1 × 12.2 = 367.2	(366) = 29.9 × 12.0 = 358.8
棟持 a ₁	(234) = 30.1 × 7.8 = 234.8	(234) = 29.9 × 8.0 = 239.2
HP ₂₁₁ -HP ₂₁₂	(69) = 30.1 × 2.3 = 69.2	(69) = 29.9 × 2.5 = 74.8
西壁-東壁	602 = 30.1 × 20.0	602 = 29.9 × 20.0 = 598.0
北壁-南壁	548 = 30.1 × 18.2 = 547.8	548 = 29.9 × 18.0 = 538.2

(HP ₂₁₁ -HP ₂₁₂)換算	計算値	算出値
HP ₂₁₂ -HP ₂₁₂	(69) = 30.0cm × 2.3	(69) = 34.5cm × 2.0
桁行 A	448 = 30.0 × 14.9 = 447.0	448 = 34.5 × 13.0 = 448.5
梁行 B	(366) = 30.0 × 12.2	(366) = 34.5 × 10.5 = 362.3
棟持 a ₁	(234) = 30.0 × 7.8	(234) = 34.5 × 7.0 = 241.5
西壁-東壁	602 = 30.0 × 20.1 = 603.0	602 = 34.5 × 17.0 = 593.3
北壁-南壁	548 = 30.0 × 18.3 = 549.0	548 = 34.5 × 16.0 = 552.0

規 模	1間×1間
	主柱 4
	棟持柱 2
	補柱 1
	壁沿・隅高床各 1
	方形区画 1 床面積33.0㎡

表18 1030(1043)号竖穴住居跡計測表

主軸方向 東-西 N-81°-E	欠番 P12 DP211	桁行 A P ₁₁ -P ₁₂ (493)	梁行 B P ₁₁ -P ₁₃ 395	番号 P ₁₁ P ₁₂ P ₁₃ P ₁₄ P ₂₁ P ₂₂ P ₈₁ D ₁₁ D ₂₁ DP ₂₁₁ DP ₂₁₂	標高 48.20 欠失 47.86 48.32 47.56 47.54 未記入 48.37 48.38 48.08 欠失 48.09	測点 a ₃ 西壁沿高床幅 112	測点 b ₂ 北壁-北柱筋 60
		P ₁₃ -P ₁₄ 493	P ₁₂ -P ₁₄ (418)			西壁-P ₈₁ 43	北柱筋-D ₁₁ 202
番号	検出面標高	平均 ●493	●407	規	1間×1間	P ₈₁ -西柱筋 5	D ₁₁ -南柱筋 183
P ₁₁	48.52	棟持柱間 a ₁		模	支柱 4	P ₂₁ -D ₁₁ 133	D ₂₁ -DP ₂₁₂ 10
P ₁₂	欠失	P ₂₁ -P ₂₂ ●269			棟持柱 4	D ₁₁ -P ₂₂ 136	DP ₂₁₂ -南壁 42
P ₁₃	48.50				補柱 1	P ₂₂ -東柱筋 79	北壁-南壁 566
P ₁₄	48.43				壁沿高床 1	東柱筋-P ₅₁ 46	
P ₂₁	48.43				床面積27.9m ²	P ₅₁ -東壁 (66)	
P ₂₂	48.42	桁行比	桁行柱比	桁行差	桁行柱差	棟持柱差	
壁	48.79	1.21	1.21	86	86	-224	
高床	48.53	○桁行換算		計算値		算出値	
中床	48.46	桁行 A		493 ÷ 30.1cm × 16.4 = 493.6		493 ÷ 30.8cm × 16.0 = 492.8	
		梁行 B		407 ÷ 30.1 × 13.5 = 406.4		407 ÷ 30.8 × 13.0 = 400.4	
		棟持 a ₁		269 ÷ 30.1 × 8.9 = 267.9		269 ÷ 30.8 × 9.0 = 277.2	
		棟持換算		計算値		算出値	
		棟持 a ₁		269 ÷ 29.9cm × 9.0 = 269.1		左に同じ	
		桁行 A		493 ÷ 29.9 × 16.5 = 493.4		左に同じ	
		梁行 B		407 ÷ 29.9 × 13.6 = 406.6		407 ÷ 29.9 × 13.5 = 403.7	
		西壁-東壁		760 ÷ 30.0 × 25.3 = 759		760 ÷ 29.8 × 26.0 = 774.8	
		北壁-南壁		609 ÷ 30.0 × 20.3		609 ÷ 29.8 × 20.0 = 596.0	

表19 1031号A竖穴住居跡計測表

主軸方向 東-西 N-84°-E	欠番 P13・14 P81・21 P22・D11	桁行 A P ₁₁ -P ₁₃ 387	梁行 B P ₁₁ -P ₁₃ (339)	桁行柱間 a ₂ (387)	梁間 b ₂ (339)	測点 A 西柱筋-DP ₂₁₁ (66)	測点 a ₃ 西高床幅 106	番号 P ₁₁ P ₁₂ P ₁₃ P ₁₄ P ₂₁ P ₂₂ P ₈₁ P ₈₂ P ₈₃ D ₁₁ D ₂₁ DP ₂₁₁ DP ₂₁₂	標高 47.99 48.00 欠失 欠失 欠失 欠失 未検出 47.74 47.78 欠失 48.14 未検出 48.04
		P ₁₂ -P ₁₄ (387)	P ₁₂ -P ₁₄ (339)	測点 a ₂ 西壁-P ₈₁ (114)	測点 b ₃ 北壁-DP ₂₁₂ 56	DP ₂₁₁ -D ₂₁ (75)	高床-西柱筋 154	P ₁₄ 欠失	
番号	検出面標高	平均 ●387	●(339)	P ₈₁ -西柱筋 (146)	DP ₂₁₂ -北柱筋 98	D ₂₁ -DP ₂₁₂ 71	東柱筋-東壁 113	P ₂₁ 欠失	
P ₁₁	48.19	棟持柱間 a ₁		西壁-P ₈₂ 111	南柱筋-南壁 116	DP ₂₁₂ -東柱筋 174	西壁-東壁 ●760	P ₂₂ 欠失	
P ₁₂	48.08	P ₂₁ -P ₂₂ ●(387)?		P ₈₂ -西柱筋 146	北壁-南壁 ●609	DP ₂₁₁ -DP ₂₁₂ ●(146)		P ₈₁ 未検出	
P ₁₃	欠失			西柱筋-P ₈₃ 211				P ₈₂ 47.74	
P ₁₄	欠失			P ₈₃ -東柱筋 176				P ₈₃ 47.78	
P ₂₁	欠失							D ₁₁ 欠失	
P ₂₂	欠失							D ₂₁ 48.14	
壁	48.50	桁行比	桁行柱比	桁行差	桁行柱差	棟持柱差		DP ₂₁₁ 未検出	
高床	48.30	1.14	1.14	48	48	0?		DP ₂₁₂ 48.04	
中床	48.25	○桁行換算		計算値		算出値			
		桁行 A		387 ÷ 30.0cm × 12.9		387 ÷ 29.8cm × 13.0 = 387.4			
		梁行 B		(339) ÷ 30.0 × 11.3		(339) ÷ 29.8 × 11.5 = 342.7			
		棟持 a ₁		(387) ÷ 30.0 × 12.9		(387) ÷ 29.8 × 13.0 = 387.4			
		DP ₂₁₁ -DP ₂₁₂		(146) ÷ 30.0 × 4.9 = 147		(146) ÷ 29.8 × 5.0 = 149.0			
		西壁-東壁		760 ÷ 30.0 × 25.3 = 759		760 ÷ 29.8 × 26.0 = 774.8			
		北壁-南壁		609 ÷ 30.0 × 20.3		609 ÷ 29.8 × 20.0 = 596.0			
		(DP ₂₁₁ -DP ₂₁₂)換算		計算値		算出値			
		DP ₂₁₁ -DP ₂₁₂		(146) ÷ 30.0cm × 4.9 = 147		(146) ÷ 29.2cm × 5.0			
		桁行 A		387 ÷ 30.0 × 12.9		387 ÷ 29.2 × 13.5 = 394.2		規	
		梁行 B		(339) ÷ 30.0 × 11.3		(339) ÷ 29.2 × 11.5 = 335.8		1間×1間	
		棟持 a ₁		(387) ÷ 30.0 × 12.9		(387) ÷ 29.2 × 13.5 = 394.2		支柱 4	
		西壁-東壁		760 ÷ 30.0 × 25.3 = 759		760 ÷ 29.2 × 26.0 = 759.2		棟持柱 (2)	
		北壁-南壁		609 ÷ 30.0 × 20.3		609 ÷ 29.2 × 21.0 = 613.2		補柱 3	
								壁沿高床 1	
								床面積46.3m ²	

表20 1031号B型竖穴住居跡計測表

主軸方向		欠番	桁行 A	梁行 B	桁行柱間 a ₂	梁間 b ₂	測点 a ₂	番号	標高
東-西		P12~P14	P ₁₁ -P ₁₂	P ₁₁ -P ₁₃	373	(282)	西壁-P ₈₁	P ₁₁	47.86
N-76°-E		P21·22-D11	373	(282)			測点 B	35	P ₁₂
番号	検出面標高	平均	P ₁₃ -P ₁₄	P-P			P ₈₁ -西柱筋	P ₁₃	欠失
P ₁₁	48.10	●373	(373)	(282)			149	P ₁₄	欠失
P ₁₂	重複	測点 a ₃	西高床幅	北壁-北柱筋			6	P ₂₁	欠失
P ₁₃	欠失	測点 b ₃	142	76			P ₈₂ -南柱筋	P ₂₂	欠失
P ₁₄	欠失	西高床幅	142	76			10	D ₁₁	欠失
P ₂₁	欠失	高床-西柱筋	42	0			棟持柱間		
P ₂₂	欠失	東柱筋-東壁	90	156			P ₂₁ -P ₂₂		
壁	48.28	西壁-東壁	●647	●514			●(373)?		
高床	48.21	北壁-南壁	514	373.2	桁行比	桁行柱比	桁行差	桁行柱差	棟持柱差
中床	48.16	東壁-西壁	647	279.9	1.32	1.32	91	91	0?

桁行換算	計算値	算出値
桁行 A	373 ≒ 30.1cm × 12.4 = 373.2	373 ≒ 31.1cm × 12.0 = 373.2
梁行 B	(282) ≒ 30.1 × 9.4 = 282.9	(282) ≒ 31.1 × 9.0 = 279.9
棟持 a ₁	(373) ≒ 30.1 × 12.4 = 373.2	(373) ≒ 31.1 × 12.0 = 373.2
西壁-東壁	647 ≒ 30.1 × 21.5 = 647.2	647 ≒ 31.1 × 21.0 = 653.1
北壁-南壁	514 ≒ 30.1 × 17.1 = 514.7	514 ≒ 31.1 × 17.0 = 528.7

規模	1間×1間
	主柱 4
	棟持柱 (2)
	補柱 3
	壁沿高床 1
床面積33.3㎡	

表21 1032(1053)号竖穴住居跡計測表

主軸方向		欠番	桁行 A	梁行 B	桁行柱間 a ₂	梁間 b ₂	測点 a ₃	測点 a ₂	番号	標高		
東-西		P13·14·21	P ₁₁ -P ₁₂	P ₁₁ -P ₁₃	361	402	西高床幅	西壁-P ₈₂	P ₁₁	48.12		
N-76°-E		P22·81	360	(402)			(114)	21	P ₁₂	48.06		
番号	検出面標高	平均	P ₁₃ -P ₁₄	P ₁₂ -P ₁₄			西高床-西柱筋	P ₈₂ -西柱筋	P ₁₃	欠失		
P ₁₁	48.30	●360	(360)	(402)			0	93	P ₁₄	欠失		
P ₁₂	48.12	棟持柱間 a ₁					西柱筋-D ₁₁	西柱筋-P ₅₁	P ₂₁	欠失		
P ₁₃	欠失	P ₂₁ -P ₂₂					125	115	P ₂₂	欠失		
P ₁₄	欠失	●(360)?					D ₁₁ -東柱筋	P ₅₁ -東柱筋	P ₅₁	48.20		
P ₂₁	欠失							235	P ₈₁	未検出		
P ₂₂	欠失							東柱筋-東壁	測点 A	P ₈₂	47.80	
壁	48.56							(114)	●114	H ₂₁	48.36	
高床	48.31							●(588)	HP ₂₁₁ -HP ₂₁₂	HP ₂₁₁	48.17	
中床	48.18									●81	HP ₂₁₂	48.24

○桁行換算	計算値	算出値
桁行 A	360 = 30.0cm × 12.0	左に同じ
梁行 B	(402) = 30.0 × 13.4	(402) ≒ 30.0cm × 13.5 = 405.0
棟持 a ₁	(360) = 30.0 × 12.0	左に同じ
HP ₂₁₁ -HP ₂₁₂	81 = 30.0 × 2.7	81 ≒ 30.0 × 2.5 = 75.0
西柱筋-HP ₂₁₁	114 = 30.0 × 3.8	114 ≒ 30.0 × 4.0 = 120.0
西壁-東壁	(588) = 30.0 × 19.6	588 ≒ 30.0 × 20.0 = 600.0
北壁-南壁	551 ≒ 30.0 × 18.4 = 552.0	551 ≒ 30.0 × 18.0 = 540.0

(HP ₂₁₁ -HP ₂₁₂)換算	計算値	算出値
HP ₂₁₁ -HP ₂₁₂	81 = 30.0cm × 2.7	81 = 27.0cm × 3.0
桁行 A	360 = 30.0 × 12.0	360 ≒ 27.0 × 13.5 = 364.5
梁行 B	(402) = 30.0 × 13.4	(402) ≒ 27.0 × 15.0 = 405.0
棟持 a ₁	(360) = 30.0 × 12.0	(360) ≒ 27.0 × 13.5 = 364.5
西柱筋-HP ₂₁₁	114 = 30.0 × 3.8	114 ≒ 27.0 × 4.0 = 108.0
西壁-東壁	(588) = 30.0 × 19.6	(588) ≒ 27.0 × 22.0 = 594.0
北壁-南壁	551 ≒ 30.0 × 18.4 = 552.0	551 ≒ 27.0 × 20.0 = 540.0

規模	1間×1間
	主柱 4
	棟持柱 2
	補柱 2
	方形区画 1
壁沿・隅高床各1	
床面積(32.4)㎡	

表22 1034号竖穴住居跡計測表

主軸方向		欠番	桁行 A	梁行 B	測点 a ₃	測点 b ₃	測点 a	番号	標高
東-西		P13・14	P ₁₁ -P ₁₂	P ₁₁ -P ₁₃	西壁-西柱筋	北壁-北柱筋	西柱筋-DP ₂₁₁	P ₁₁	48.45
N-81°-E		DP211	328	(392)	42	26	120	P ₁₂	47.94
			P ₁₃ -P ₁₄	P ₁₂ -P ₁₄	西柱筋-P ₂₁	北柱筋-D ₁₁	DP ₂₁₁ -D ₂₁	P ₁₃	欠失
			(328)	(392)	55	244	24	P ₁₄	欠失
平均			●328	●(392)	P ₂₁ -D ₁₁	D ₁₁ -南柱筋	D ₂₁ -DP ₂₁₂	P ₂₁	48.14
			棟持柱間 a ₁		109	148	28	P ₂₂	47.72
			P ₂₁ -P ₂₂		D ₁₁ -P ₂₂	南柱筋-DP ₂₁₂	DP ₂₁₂ -東柱筋	D ₁₁	48.21
			●220		111	75	156	D ₂₁	48.26
P ₁₁		48.48			P ₂₂ -東柱筋	DP ₂₁₂ -D ₂₁	南東壁隅高床長	DP ₂₁₁	欠失
P ₁₂		48.25			53	15	214	DP ₂₁₂	48.04
P ₁₃		欠失			東柱筋-東壁	D ₂₁ -南壁	DP ₂₁₁ -DP ₂₁₂		
P ₁₄		欠失			(95)	42	●52		
P ₂₁		48.41			西壁-東壁	北壁-南壁			
P ₂₂		48.39			465	550			
壁		48.55				南東壁隅高床幅			
高床		48.46				116			
中床		48.39							

桁行比	桁行柱比	桁行差	桁行柱差	棟持柱差
0.84		-64		-108

○桁行換算	計算値	算出値
桁行 A	328 ≒ 30.1cm × 10.9 = 328.1	328 ≒ 29.8cm × 11.0 = 327.8
梁行 B	(392) ≒ 30.1 × 13.0 = 391.3	(392) ≒ 29.8 × 13.0 = 387.4
棟持 a ₁	220 ≒ 30.1 × 7.3 = 219.7	220 ≒ 29.8 × 7.5 = 223.5
DP ₂₁₁ -DP ₂₁₂	52 ≒ 30.1 × 1.7 = 51.2	52 ≒ 29.8 × 1.5 = 44.7

○棟持換算	計算値	算出値
棟持 a ₁	220 ≒ 30.1cm × 7.3 = 219.7	220 ≒ 31.4cm × 7.0 = 219.8
桁行 A	328 ≒ 30.1 × 10.9 = 328.1	328 ≒ 31.4 × 10.5 = 329.7
梁行 B	(392) ≒ 30.1 × 13.0 = 391.3	(392) ≒ 31.4 × 12.5 = 392.5
DP ₂₁₁ -DP ₂₁₂	52 ≒ 30.1 × 1.7 = 51.2	52 ≒ 31.4 × 1.5 = 47.1

規模	1間×1間
	主柱 4
	棟持柱 2
	補柱 0
	壁隅高床 1
	床面積25.6㎡

表23 1035A号竖穴住居跡計測表

主軸方向		欠番	桁行 A	梁行 B	測点 a ₂	測点 b ₂	測点 a ₃	測点 b ₃	番号	標高
東-西		P11・13	P ₁₁ -P ₁₂	P ₁₁ -P ₁₃	西柱筋高床西縁	北柱筋-P ₂₁	北壁-北柱筋	西壁-西柱筋	P ₁₁	欠失
N-73°-E			(326)	(292)	212	152	56	126	P ₁₂	48.04
			P ₁₃ -P ₁₄	P ₁₂ -P ₁₄	高床西縁-東壁	北柱筋-P ₂₂	北柱筋-D ₁₁	西柱筋-P ₂₁	P ₁₃	欠失
			(326)	(292)	142	152	158	46	P ₁₄	48.15
平均			●(326)	●(292)	西柱筋-DP ₂₁₁	P ₂₁ -南柱筋	D ₁₁ -DP ₂₁₁	P ₂₁ -D ₁₁	P ₂₁	47.74
			棟持柱間 a ₁		132	140	114	112	P ₂₂	47.52
			P ₂₁ -P ₂₂		DP ₂₁₁ -D ₂₁	P ₂₂ -南柱筋	DP ₂₁₁ -南柱筋	D ₁₁ -P ₂₂	D ₁₁	48.09
			●234		16	140	21	122	D ₂₁	48.01
P ₁₁		欠失			D ₂₁ -DP ₂₁₂	北壁-高床南縁	南柱筋-D ₂₁	P ₂₂ -東柱筋	DP ₂₁₁	48.94
P ₁₂		48.26			21	190	6	46	DP ₂₁₂	48.93
P ₁₃		欠失			DP ₂₁₂ -東柱筋		D ₂₁ -南壁	東柱筋-東壁		
P ₁₄		48.32			157		44	27		
P ₂₁		48.26			DP ₂₁₁ -DP ₂₁₂	●37	北壁-南壁	西壁-東壁		
P ₂₂		48.24					398	479		
壁		48.60								
高床		48.75								
中床		48.30								

桁行比	桁行柱比	桁行差	桁行柱差	棟持柱差
1.12		34		-92

○桁行換算	計算値	算出値
桁行 A	(326) ≒ 29.9cm × 10.9 = 325.9	(326) ≒ 29.6cm × 11.0 = 325.6
梁行 B	(292) ≒ 29.9 × 9.8 = 293.0	(292) ≒ 29.6 × 10.0 = 296.0
棟持 a ₁	234 ≒ 29.9 × 7.8 = 233.2	234 ≒ 29.6 × 8.0 = 236.8
DP ₂₁₁ -DP ₂₁₂	37 ≒ 29.9 × 1.2 = 35.9	37 ≒ 29.6 × 1.5 = 44.4

○棟持換算	計算値	算出値
棟持 a ₁	234 = 30.0cm × 7.8	234 ≒ 29.3cm × 8.0 = 234.4
桁行 A	(326) ≒ 30.0 × 10.9 = 327.0	(326) ≒ 29.3 × 11.0 = 322.3
梁行 B	(292) ≒ 30.0 × 9.7 = 291.0	(292) ≒ 29.3 × 10.0 = 293.0
DP ₂₁₁ -DP ₂₁₂	37 ≒ 30.0 × 1.2 = 36.0	37 ≒ 29.3 × 1.5 = 44.0

規模	1間×1間
	主柱 4
	棟持柱 2
	補柱 0
	壁隅高床 1
	床面積19.1㎡

表26 1038号竪穴住居跡計測表

主軸方向		欠番	桁行 A	梁行 B	桁行柱間 a ₂	梁間 b ₂	測点 a ₃	測点 b ₃	番号	標高
東-西 N-73°-E		P13・14	P ₁₁ -P ₁₂ 300	P ₁₁ -P ₁₃	300	(270)	西壁-西柱筋 (60)	北壁-D ₂₁ 94	P ₁₁ P ₁₂	47.56 47.64
番号		検出面標高	P ₁₃ -P ₁₄ (300)	P ₁₂ -P ₁₄			東柱筋-東壁 60	D ₂₁ -北柱筋 38	P ₁₃ P ₁₄	欠失 欠失
P ₁₁	47.87	平均	●300	●(270)			西壁-東壁 ●(420)	南柱筋-南壁 (132)	D ₂₁	47.78
P ₁₂	47.89	棟持柱間 a ₁								
P ₁₃	欠失	規								
P ₁₄	欠失									
壁	48.34	模								
中床	48.00									
桁行比		桁行核比	桁行差	桁行柱差	棟持差					
(1.11)		(1.11)	(30)	(30)						
規										
カマド										
1間×1間										
主柱 4										
棟持柱 0										
補柱 0										
高床 0?										
北東壁隅カマド										
床面積(22.4)㎡										
カマド										
主軸N-28°-E										
カマド長?										
燃焼室幅56										
カマド破棄行為										

桁行換算	計算値	算出値
桁行 A	300 = 30.0cm × 10	左に同じ
梁行 B	(270) = 30.0 × 9	左に同じ
西壁-東壁	(420) = 30.0 × 14	左に同じ
北壁-南壁	(534) = 30.0 × 17.8	(534) ÷ 30.0 × 18.0 = 540.0

表27 1039号竪穴住居跡計測表

主軸方向		欠番	桁行 A	梁行 B	桁行柱間 a ₂	梁間 b ₂	測点 a ₃	測点 b ₃	番号	標高
東-西 N-78°-E		P13・14	P ₁₁ -P ₁₂ 357	P ₁₁ -P ₁₃	(357)	西壁-西柱筋 (120)	西壁-西柱筋 (120)	北壁-北柱筋 108	P ₁₁ P ₁₂	47.56 47.47
番号		検出面標高	P ₁₃ -P ₁₄ (357)	P ₁₂ -P ₁₄			東柱筋-東壁 120	南柱筋-南壁 (108)	P ₁₃ P ₁₄	欠失 欠失
P ₁₁	48.12	平均	●357	●(327)			西壁-東壁 ●(597)	北壁-南壁 ●(543)		
P ₁₂	47.97	棟持柱間 a ₁								
P ₁₃	欠失	規								
P ₁₄	欠失									
壁	48.36	模								
中床	48.27									
桁行比		桁行柱比	桁行差	桁行柱差	棟持柱差					
(1.09)		(1.09)	(30)	(30)						
規										
カマド										
1間×1間										
主柱 4										
棟持柱 ?										
補柱 0										
高床 0?										
北東壁隅カマド										
床面積(32.2)㎡										
カマド										
主軸N-33°-E										
カマド長?										
燃焼室幅(60)										
カマド破棄行為										

桁行換算	計算値	算出値
桁行 A	357 = 30.0cm × 11.9	357 ÷ 29.8cm × 12.0 = 357.6
梁行 B	(327) = 30.0 × 10.9	(327) ÷ 29.8 × 11.0 = 327.8
西壁-東壁	(597) = 30.0 × 19.9	(597) ÷ 29.8 × 20.0 = 596.0
北壁-南壁	(543) = 30.0 × 18.1	(543) ÷ 29.8 × 18.0 = 536.4

表28 1040号竖穴住居跡計測表

主軸方向	欠番	桁行 A	梁行 B	桁行柱間 a ₂	梁間 b ₂	測点 A	番号	標高
東—西	P11・13・14	P ₁₁ —P ₁₂	P ₁₂ —P ₁₃	(290)	(343)	西柱筋—D P ₂₁₁	P ₁₁	欠失
N—88°—E	P21	(290)	(343)	測点 a ₃	測点 b ₃	D P ₂₁₁ —D P ₂₁₂	P ₁₂	47.63
番号	検出面標高	P ₁₃ —P ₁₄	P ₁₂ —P ₁₄	西壁沿高床幅	北壁—D P ₂₁₁	●35	P ₁₃	欠失
P ₁₁	欠失	(290)	(343)	(113)	32	D P ₂₁₁ —東柱筋	P ₁₄	欠失
P ₁₂	47.96	棟持柱間 a ₁	東壁沿高床幅	(113)	64	175	P ₂₁	欠失
P ₁₃	欠失	P ₂₁ —P ₂₂	(113)	●(516)	南柱筋—南壁		P ₂₂	47.47
P ₁₄	欠失	(290)?	西壁—東壁		(47)		P ₅₁	47.79
P ₂₁	欠失		●(516)	北壁—南壁	●(486)		P ₅₂	47.64
P ₂₂	47.63						P ₅₃	47.83
壁	48.38						D ₂₁	48.31
中床	欠失						D P ₂₁₁	48.16
中床	48.36						D P ₂₁₂	48.21

桁行比	桁行柱比	桁行差	桁行柱差	棟持柱差
0.8	0.8	-53	-53	0?

○桁行換算	計算値	算出値
桁行 A	(290) ≒ 29.9cm × 9.7 = 290.03	(290) = 29.0cm × 10.0
梁行 B	(343) ≒ 29.9 × 11.5 = 343.9	(343) ≒ 29.0 × 12.0 = 348
D P ₂₁₁ —D P ₂₁₂	35 ≒ 29.9 × 1.2 = 35.9	35 ≒ 29.0 × 1.0 = 29
西壁—東壁	(516) ≒ 29.9 × 17.3 = 517.3	(516) ≒ 29.0 × 18.0 = 522
北壁—南壁	(486) ≒ 29.9 × 16.3 = 487.4	(486) ≒ 29.0 × 17.0 = 493

(D P ₂₁₁ —D P ₂₁₂)換算	計算値	算出値
D P ₂₁₁ —D P ₂₁₂	35 = 29.2cm × 1.2 = 35.04	35 = 35.0cm × 1.0
桁行 A	(290) ≒ 29.2 × 9.9 = 289.1	(290) ≒ 35.0 × 8.5 = 297.5
梁行 B	(343) ≒ 29.2 × 11.7 = 341.6	(343) ≒ 35.0 × 10.0 = 350.0
西壁—東壁	(516) ≒ 29.2 × 17.7 = 516.8	(516) ≒ 35.0 × 15.0 = 525.0
北壁—南壁	(486) ≒ 29.2 × 16.6 = 484.7	(486) ≒ 35.0 × 14.0 = 490.0

規	1間×1間
模	主柱 4
	棟持柱 2
	壁沿高床 2
	床面積 (25.0) m ²

表29 1041号竖穴住居跡計測表

主軸方向	欠番	桁行 A	梁行 B	桁行柱間 a ₂	梁間 b ₂	測点 a ₃	測点 b ₃	番号	標高
東—西	P12	P ₁₁ —P ₁₂	P ₁₁ —P ₁₃	290	294	西壁沿高床幅	北壁—北柱筋	P ₁₁	48.18
N—78°—E	P21・22	(290)	294			(113)	158	P ₁₂	欠失
番号	検出面標高	P ₁₃ —P ₁₄	P ₁₂ —P ₁₄			高床—西柱筋	北柱筋—P ₂₂	P ₁₃	未計測
P ₁₁	48.31	290	(294)			(119)	114	P ₁₄	47.56
P ₁₂	欠失	●290	●294			東柱筋—東壁	P ₂₂ —南柱筋	P ₅₁	48.39
P ₁₃	48.06	棟持柱間 a ₁				(113)	180	P ₅₂	48.27
P ₁₄	48.17	P ₂₁ —P ₂₂				●(635)	(158)	P ₅₃	47.84
P ₂₁	欠失	?					北壁—南壁		
P ₂₂	欠失						●(610)		
壁	欠失								
高床	欠失								
中床	48.31								

桁行比	桁行柱比	桁行差	桁行柱差	棟持柱差
0.99	0.99	-4	-4	?

桁行換算	計算値	算出値
桁行 A	290 ≒ 29.9cm × 9.7 = 290.03	290 ≒ 29.0cm × 10.0 = 290.0
梁行 B	294 ≒ 29.9 × 9.8 = 293.0	294 ≒ 29.0 × 10.0 = 290.0
西壁—東壁	(635) ≒ 29.9 × 21.2 = 633.9	(635) ≒ 29.0 × 22.0 = 638.0
北壁—南壁	(610) ≒ 29.9 × 20.4 = 609.96	(610) ≒ 29.0 × 21.0 = 609.0

規	1間×1間
模	主柱 4
	棟持柱 2
	壁沿高床 1
	床面積 (38.8) m ²

表30 1042号竖穴住居跡計測表

主軸方向		欠番		桁行 A	梁行 B	測点 b ₂	測点 a ₃	測点 b ₃	番号	標高			
東—西 N—77°—E		P13・14・P21 D11・21		P ₁₁ —P ₁₂ 261	P ₁₁ —P ₁₃ (267)	北柱筋—P ₂₂ 121	西壁—西柱筋 (158)	北壁—北柱筋 ?	P ₁₁	48.25			
番号	検出面標高	平均	●261	●273	P ₁₃ —P ₁₄ (261)	P ₁₂ —P ₁₄ 279	P ₂₂ —南柱筋 158	西柱筋—P ₂₁ (16)	南柱筋—南壁 ?	P ₁₂	48.14		
P ₁₁	48.42									P ₁₃	欠失		
P ₁₂	48.35	棟持柱間 a ₁	●(229)	P ₂₂ —東柱筋 16	P ₂₁ —P ₂₂	東柱筋—東壁 158	北壁—南壁 ?	西壁—東壁 (577)	P ₁₄	47.70			
P ₁₃	欠失								P ₂₁	48.13			
P ₁₄	48.34	桁行比	0.96	桁行柱比	0.96	桁行差	-12	桁行柱差	-12	棟持柱差	(-32)		
P ₂₁	欠失											P ₂₂	未検出
P ₂₂	48.40	壁		欠失		D ₁₁		欠失		D ₂₁		欠失	
高床		欠失											
中床		48.58											

○桁行換算	計 算 値		算 出 値	
桁 行 A	261 = 30.0cm × 8.7		261 = 29.0cm × 9.0	
梁 行 B	273 = 30.0 × 9.1		273 = 29.0 × 9.5 = 275.5	
棟 持 a ₁	(229) = 30.0 × 7.6 = 228.0		(229) = 29.0 × 8.0 = 232.0	
○棟持換算	計 算 値		算 出 値	
棟 持 a ₁	(229) = 30.1cm × 7.6 = 228.8		(229) = 28.6cm × 8.0 = 228.8	
桁 行 A	261 = 30.1 × 8.7 = 261.9		261 = 28.6 × 9.0 = 257.4	
梁 行 B	273 = 30.1 × 9.1 = 273.9		273 = 28.6 × 9.5 = 271.7	

規 模	1 間 × 1 間
	主 柱 4
	棟持柱 2
	補 柱 0
	高 床 ?
床面積 ?	

表31 1044号竖穴住居跡計測表

主軸方向		欠番		桁行 A	梁行 B	測点 a ₃	測点 b ₃	番号	標高				
東—西 N—84°—W		P13・14 P22・D21		P ₁₁ —P ₁₂ 188	P ₁₁ —P ₁₃ (217)	西壁—P ₂₁ (89)	北壁—北柱筋 56	P ₁₁	48.06				
番号	検出面標高	平均	●188	●(217)	P ₁₃ —P ₁₄ (188)	P ₁₂ —P ₁₄ (217)	P ₂₁ —西柱筋 55	北柱筋—D P ₁₁₁ 142	P ₁₂	48.09			
P ₁₁	48.24								P ₁₃	未検出			
P ₁₂	48.31	棟持柱間 a ₁	●(298)	西柱筋—D ₁₁ 124	D P ₁₁₁ —南柱筋 75	D ₁₁ —東柱筋 64	南柱筋—南壁 79	東柱筋—P ₂₂ 38	北壁—南壁 352	P ₁₄	未検出		
P ₁₃	未検出									P ₂₁	48.06		
P ₁₄	未検出	東壁沿高床幅 106	西壁—東壁 476	東壁沿高床幅 106	西壁—東壁 476					P ₂₂	未検出		
P ₂₁	48.24									D ₁₁	48.41		
P ₂₂	未検出	桁行比		0.87		桁行柱比		0.87		桁行差		-29	
壁	48.84	桁行柱差		-29		棟持柱差		(110)		D ₂₁		未検出	
高床	48.55												
中床	未検出												

○桁行換算	計 算 値		算 出 値	
桁 行 A	188 = 29.8cm × 6.3 = 187.7		188 = 31.3cm × 6.0 = 187.8	
梁 行 B	(217) = 29.8 × 7.3 = 217.5		(217) = 31.3 × 7.0 = 219.1	
棟 持 a ₁	(298) = 29.8 × 10.0		(298) = 31.3 × 9.5 = 297.4	
○棟持換算	計 算 値		算 出 値	
棟 持 a ₁	(298) = 30.1cm × 9.9 = 297.99		(298) = 29.8cm × 10.0	
桁 行 A	188 = 30.1 × 6.2 = 186.6		188 = 29.8 × 6.5 = 193.7	
梁 行 B	(217) = 30.1 × 7.2 = 216.7		(217) = 29.8 × 7.5 = 223.5	

規 模	1 間 × 1 間
	主 柱 4
	棟持柱 2
	補 柱 0
	壁沿高床 1
床面積 16.8㎡	

表34 1048号竪穴住居跡計測表

主軸方向 東-西 N-75°-E		欠番 H21 HP212		桁行 A P-P	梁行 B P-P	桁行柱間 a ₂	梁間 b ₂	測点 a ₃ 西壁沿高床幅 (112)	測点 b ₃ 北壁-H P ₂₁₁ 16	番号 P ₁₁ P ₁₂ P ₁₃ P ₁₄ P ₂₁ P ₂₂ D ₁₁ H ₂₁ HP ₂₁₁ HP ₂₁₂	標高		
平均		測点 a ₃ 西壁-東壁 ●601		測点 b ₃ 北壁-南壁 ●(432)		高床-P ₂₁ (53)		HP ₂₁₁ -区画南端 (94)		48.09 48.12 48.26 48.49 48.38 未検出			
棟持柱間 a ₁ P ₂₁ -P ₂₂ ●286		西壁-P ₂₁ ●165		方形区画幅 (110)		P ₂₁ -D ₁₁ 137		区画-D ₁₁ (102)		48.09 48.12 48.26 48.49 48.38 未検出			
P ₁₁ P ₁₂ P ₁₃ P ₁₄		P ₂₁ P ₂₂		壁 48.80		高床 48.75		中床 48.48					
P ₂₁ -高床 42		北壁-東西0 216		東壁沿高床幅 108		東西0-南壁 (216)		P ₂₁ -東壁 ●150		測点 A 西壁沿高床東縁-区画西縁 (90) 区画西縁-H P ₂₁₁ 22 H P ₂₁₁ -H P ₂₁₂ ●85 H P ₂₁₂ -区画東縁 21 北壁中央方形区画長 ●128 区画東縁-東壁沿高床西縁 170			
桁行比		桁行柱比		桁行差		桁行柱差		棟持柱差		棟壁比		棟壁差	
										0.47		-315	

○棟持換算	計算値		算出値	
棟持 a ₁	286	≒30.1cm × 9.5=285.95	286	=28.6cm × 10.0
HP ₂₁₁ -HP ₂₁₂	85	≒30.1 × 2.8=84.3	85	≒28.6 × 3.0=85.8
方形区画長	128	≒30.1 × 4.3=129.4	128	≒28.6 × 4.5=128.7
西壁-P ₂₁	165	≒30.1 × 5.5=165.6	165	≒28.6 × 6.0=171.6
P ₂₂ -東壁	150	≒30.1 × 5.0=150.5	150	≒28.6 × 5.0=143.0
西壁-東壁	601	≒30.1 × 20.0=602.0	601	≒28.6 × 21.0=600.6
北壁-南壁	(432)	≒30.1 × 14.5=436.5	(432)	≒28.6 × 15.0=429.0

○(HP ₂₁₁ -HP ₂₁₂)換算	計算値		算出値	
HP ₂₁₁ -HP ₂₁₂	85	≒30.4cm × 2.8=85.1	85	≒28.3cm × 3.0=84.9
方形区画長	128	≒30.4 × 4.2=127.9	128	≒28.3 × 4.5=127.4
棟持 a ₁	286	≒30.4 × 9.4=285.8	286	≒28.3 × 10.0=283.0
西壁-P ₂₁	165	≒30.4 × 5.4=164.2	165	≒28.3 × 6.0=169.8
P ₂₂ -東壁	150	≒30.4 × 4.9=149.0	150	≒28.3 × 5.5=155.7
西壁-東壁	601	≒30.4 × 19.8=601.9	601	≒28.3 × 21.0=594.3
北壁-南壁	(432)	≒30.4 × 14.2=431.7	(432)	≒28.3 × 15.0=424.5

規	1間×1間
棟	主柱 0
模	棟持柱 2
	補柱 0
	壁沿高床 2
	方形区画 1
	床面積(26.0)㎡

表35 1052号竪穴住居跡計測表

主軸方向 東-西 N-76°-E		欠番 P11・14		桁行 A P ₁₁ -P ₁₂ (250)	梁行 B P ₁₁ -P ₁₃ (184)	桁行柱間 a ₂ (250)	梁間 b ₂ (184)	測点 a ₃ 西高床幅 129	測点 b ₃ 北壁-D ₁₁ 160	番号 P ₁₁ P ₁₂ P ₁₃ P ₁₄	標高 欠失 48.02 47.61 欠失
平均		●(250)		●(184)		測点 a ₂ 西柱筋-D ₁₁ (125)		西柱筋-高床 -8		D ₁₁ -北柱筋 0	
棟持柱間 a ₁				D ₁₁ -東柱筋 125		東柱筋-東壁 (131)		南柱筋-南壁 159		西壁-東壁 ●502	
P ₁₁ P ₁₂ P ₁₃ P ₁₄		欠失 48.15 47.79 欠失		壁 48.20		高床 48.16		中床 48.10			
桁行比		桁行柱比		桁行差		桁行柱差		棟持柱差			
(1.36)		(1.36)		(66)		(66)					

桁行換算	計算値		算出値	
桁行 A	(250)	≒30.1cm × 8.3=249.8	(250)	≒31.3cm × 8.0=250.4
梁行 B	(184)	≒30.1 × 6.1=183.6	(184)	≒31.3 × 6.0=187.8
西壁-東壁	502	≒30.1 × 16.7=502.7	502	≒31.3 × 16.0=500.8
北壁-南壁	503	≒30.1 × 16.7=502.7	503	≒31.3 × 16.0=500.8

規	1間×1間
棟	主柱 4
模	棟持柱 0
	補柱 0
	壁沿高床 1
	床面積25.3㎡

表36 1432号竪穴住居跡計測表

主軸方向	欠番	桁行 A	梁行 B	測点 A	測点 B	番号	検出面標高
東-西	P21・22	?	?	西壁-東壁 ●(540)	北壁-南壁 ●(486)	壁	48.62
N-81°-E		棟持柱間 a ₁ P ₂₁ -P ₂₂ ●(156)				高床	48.55
						中床	

棟持換算	計算値	算出値	規 模 主柱(0) 主軸柱(2) 高床(0) 床面積(26.2)㎡
棟持 a ₁	(156) = 30.0cm × 5.2	(156) = 31.2cm × 5.0	
西壁-東壁	(540) = 30.0 × 18.0	(540) ÷ 31.2 × 17.0 = 530.4	
北壁-南壁	(486) = 30.0 × 16.2	(486) ÷ 31.2 × 16.0 = 499.2	

表37 1433号竪穴住居跡計測表

主軸方向	欠番	桁行 A	梁行 B	測点 A	測点 B	番号	標高
東-西	D21	?	?	西壁-P ₂₁ 208	北壁-P ₂₁ 237	P ₂₁	48.20
N-89°-E		主軸柱間 a ₁ P ₂₁ -P ₂₂ ●156		P ₂₁ -D ₁₁ 65	P ₂₁ -東西 0 6	P ₂₂	48.20
				D ₁₁ -南北 0 9	東西 0 - P ₂₂ 8	D ₁₁	48.21
				南北 0 - P ₂₁ 78	P ₂₂ -D ₁₁ 8		
				P ₂₁ -東壁 180	D ₁₁ -北壁 (227)		
				西壁-東壁 ●540	北壁-南壁 ●(486)		

棟持換算	計算値	算出値
主軸柱間 a ₁	156 = 30.0cm × 5.2	156 = 31.2cm × 5.0
西壁-東壁	540 = 30.0 × 18.0	540 ÷ 31.2 × 17.0 = 530.4
北壁-南壁	(486) = 30.0 × 16.2	(486) = 31.2 × 16.0 = 499.2

表38 1434号豎穴住居跡計測表

主軸方向	欠番
東-西	P21・22
N-88°-E	

桁行 A	梁行 B	棟持柱間 a ₁
?	?	?
主軸柱間 a ₁		
P ₂₁ -P ₂₂		
?		

番号	検出面標高
壁	48.54
高床	
中床	48.33

規模	主柱 0
	主軸柱 (2)
	高床 ?
	床面積 ?

表39 1458号A豎穴住居跡計測表

主軸方向	欠番
東-西	DP211
N-83°-E	

番号	検出面標高
P ₂₁	48.55
P ₂₂	48.54
P	
壁	48.81
高床	48.72
中床	48.54

桁行 A	梁行 B	測点 a ₁	測点 b ₁	測点 A
P-P	P-P	西壁沿高床幅 128	北壁-D ₁₁ 276	南北P ₂₁ -DP ₂₁₁ 101
P-P	P-P	高床-P ₂₁ 60	D ₁₁ -東西0 17	DP ₂₁₁ -D ₂₁ 46
平均		P ₂₁ -D ₁₁ 174	東西0-DP ₂₁₂ 197	D ₂₁ -DP ₂₁₂ 45
棟持柱間 a ₁		D ₁₁ -P ₂₂ 184	DP ₂₁₂ -D ₂₁ 6	DP ₂₁₂ -南北P ₂₂ 166
●358		P ₂₂ -高床 (60)	D ₂₁ -南壁 34	DP ₂₁₁ -DP ₂₁₂ ●91
規		東壁沿高床幅 (128)	北壁-南壁 ●530	
棟持柱 2		西壁-東壁 ●(734)		
補柱 2				
壁沿高床 2				
床面積(38.9)㎡				

番号	標高
P ₂₁	48.28
P ₂₂	48.25
D ₁₁	48.44
D ₂₁	48.46
DP ₂₁₁	未検出
DP ₂₁₂	48.24

桁行比	桁行柱比	桁行差	桁行柱差	棟持柱差

棟持換算	計算値	算出値
棟持 a ₁	358 ≒ 30.1cm × 11.9 = 358.2	358 ≒ 29.8cm × 12.0 = 357.6
DP ₂₁₁ -DP ₂₁₂	91 ≒ 30.1 × 3.0 = 90.3	91 ≒ 29.8 × 3.0 = 89.4
西壁-東壁	(734) ≒ 30.1 × 24.4 = 734.4	(734) ≒ 29.8 × 25.0 = 745.0
北壁-南壁	530 ≒ 30.1 × 17.6 = 529.8	530 ≒ 29.8 × 18.0 = 536.4

○(DP ₂₁₁ -DP ₂₁₂)換算	計算値	算出値
DP ₂₁₁ -DP ₂₁₂	91 ≒ 30.3cm × 3.0 = 90.9	左に同じ
棟持 a ₁	358 ≒ 30.3 × 11.8 = 357.5	358 ≒ 30.3 × 12.0 = 363.6
西壁-東壁	(734) ≒ 30.3 × 24.2 = 733.3	(734) ≒ 30.3 × 24.0 = 727.2
北壁-南壁	530 ≒ 30.3 × 17.5 = 530.3	530 ≒ 30.3 × 18.0 = 545.4

表40 1458号B 竪穴住居跡計測表

主軸方向		欠番	桁行 A	梁行 B	測点 a ₁	測点 b ₁	測点 b ₁	測点 a ₁	番号	標高
東—西 N—84°—E		DP211・212	P—P	P—P	西壁—東壁 ●(747)	北壁—南壁 ●526	北壁—D ₁₁ 262	西壁沿高床幅 ●128	P ₂₁ P ₂₂	48.19 48.02
番号		検出面標高	P—P	P—P			D ₁₁ —東西0 16	高床—P ₂₁ ●68	D ₁₁ D ₂₁	48.44 48.39
P ₂₁	48.19	平均	棟持柱間 a ₁ P ₂₁ —P ₂₂ ●355				東西0—南壁 248	P ₂₁ —D ₁₁ 167	DP ₂₁₁ DP ₂₁₂	欠失 欠失
P ₂₂	48.02								D ₁₁ —P ₂₂ 188	
壁	48.81						P ₂₂ —高床 (68)			
高床	48.72						東壁沿高床幅 (128)			
中床	48.54									

桁行比	桁行柱比	棟壁比	桁行比	桁行柱比	棟持柱差	棟壁差 A	棟壁差 B
		0.48				-196	-263

桁行換算	計 算 値	算 出 値
桁 行 a ₁	355 ≒ 30.1cm × 11.8 = 355.2	355 ≒ 29.6cm × 12.0 = 355.2
西壁沿高床幅	128 ≒ 30.1 × 4.3 = 129.4	128 ≒ 29.6 × 4.5 = 133.2
高床—P ₂₁	68 ≒ 30.1 × 2.3 = 69.2	68 ≒ 29.6 × 2.5 = 74.0
西壁—東壁	(747) ≒ 30.1 × 24.8 = 746.5	(747) ≒ 29.6 × 25.0 = 740.0
北壁—南壁	526 ≒ 30.1 × 17.5 = 526.8	526 ≒ 29.6 × 18.0 = 532.8

規 模	棟持柱 2
	補 柱 0
	壁沿高床 2
	床面積 (39.3) m ²

表41 1458号C 竪穴住居跡計測表

主軸方向		欠番	桁行 A	梁行 B	桁行柱間 a ₂	梁 間 b ₂	番号	標高
東—西 N—84°—E		P13 D11・21	P ₁₁ —P ₁₂ 288	P ₁₁ —P ₁₃ (286)	296	286	P ₁₁ P ₁₂ P ₁₃ P ₁₄	58.58 48.52 欠失 48.39
番号		検出面標高	P ₁₃ —P ₁₄ (303)	P ₁₂ —P ₁₄ 286	測点 b ₁ 西壁—西柱筋	測点 a ₁ 北壁—北柱筋	D ₁₁ D ₂₁	欠失 欠失
P ₁₁	48.71	平均	棟持柱間 a ₁		35	(45)		
P ₁₂	48.58				東柱筋—西壁 (35)	南柱筋—南壁 45		
P ₁₃	欠失				西壁—東壁 ●(366)	北壁—南壁 ●(376)		
P ₁₄	48.39							
壁	48.81							
高床								
中床	?							

桁行比	桁行柱比	桁行差	桁行柱差	棟持柱差
1.03	1.03	10	10	

桁行換算	計 算 値	算 出 値
桁 行 A	296 ≒ 29.9cm × 9.9 = 296.0	296 ≒ 29.6cm × 10.0
梁 行 B	286 ≒ 29.9 × 9.6 = 287.0	286 ≒ 29.6 × 9.5 = 281.2
西壁—東壁	(366) ≒ 29.9 × 12.2 = 364.8	(366) ≒ 29.6 × 13.0 = 384.8
北壁—南壁	(376) ≒ 29.9 × 12.6 = 376.7	(376) ≒ 29.6 × 13.0 = 384.8

規 模	1 間 × 1 間
	主 柱 4
	棟持柱 0
	補 柱 0
	床面 (13.8) m ²

表42 1459号竪穴住居跡計測表

主軸方向		欠番		桁行 A	梁行 B	測点 a	測点 b ₁	測点 A
東-西 N-83°-E		P21 DP212		P-P	P-P	西壁沿高床幅 (128)	北壁-D ₁₁ 274	南北 P ₂₁ -DP ₂₁₁ ●(121)
番号	検出面標高	平均	棟持柱間 a ₁ P ₂₁ -P ₂₂ ●(360)	P-P	P-P	高床-P ₂₁ (60)	D ₁₁ -東西0 2	DP ₂₁₁ -D ₁₁ 40
P ₂₁	未検出			P ₂₁ -D ₁₁ (175)	東西0-D ₂₁ 218	D ₁₁ -P ₂₁₂ 41		
P ₂₁	48.58			D ₁₁ -P ₂₂ 185	D ₂₁ -DP ₂₁₁ 5	DP ₂₁₂ -南北 P ₂₂ 156		
P				P ₂₂ -高床 (60)	DP ₂₁₁ -南壁 21	DP ₂₁₁ -DP ₂₁₂ ●81		
P				東壁沿高床幅 (128)	北壁-南壁 ●520			
壁	48.81			西壁-東壁 ●(736)				
高床	48.72							
中床	48.58							

番号	標高
P ₂₁	未検出
P ₂₂	48.00
D ₁₁	48.44
D ₂₁	48.31
DP ₂₁₁	48.25
DP ₂₁₂	未検出

規	棟持柱 2
模	補柱 0
	壁沿高床 2
	床面積(38.3)㎡

桁行比	桁行柱比	桁行差	桁行柱差	棟持柱差

棟持換算	計算値	算出値
棟持 a ₁	(360) ÷ 30.0cm × 12.0	左に同じ
南北 P ₂₁ -DP ₂₁₁	(121) ÷ 30.0 × 4.0 = 120.0	左に同じ
DP ₂₁₁ -DP ₂₁₂	81 ÷ 30.0 × 2.7 = 81.0	81 ÷ 30.0 × 2.5 = 75.0
西壁-東壁	(736) ÷ 30.0 × 24.5 = 735.0	(736) ÷ 30.0 × 25.0 = 750.0
北壁-南壁	520 ÷ 30.0 × 17.3 = 519.0	520 ÷ 30.0 × 18.0 = 540.0

表43 1460号A竪穴住居跡計測表

主軸方向		欠番		桁行 A	梁行 B	測点 a ₁	測点 b ₁
東-西 N-85°-W				P-P	P-P	西壁-P ₂₁ 169	北壁-東西0 229
番号	検出面標高	平均	棟持柱間 a ₁ P ₂₁ -P ₂₂ ●218	P-P	P-P	P ₂₁ -D ₁₁ 73	東西0-南壁 173
P ₂₁	47.85			D ₁₁ -P ₂₂ 145	北壁-南壁 ●402		
P ₂₂	47.90			P ₂₂ -東壁 154			
P				西壁-東壁 ●541			
P							
壁	48.88						
高床							
中床	48.63						

番号	標高
P ₂₁	47.85
P ₂₂	47.94
D ₁₁	48.49
D ₂₁	48.41
DP ₂₁₁	48.39
DP ₂₁₂	48.39

規	主柱 0
模	棟持柱 2
	補柱 0
	床面積21.8㎡

桁行比	桁行柱比	桁行差	桁行柱差	棟持柱差

棟持換算	計算値	算出値
棟持 a ₁	218 ÷ 29.9cm × 7.3 = 218.3	218 ÷ 31.1cm × 7.0 = 217.7
西壁-東壁	541 ÷ 29.9 × 18.1 = 541.2	541 ÷ 31.1 × 17.5 = 544.3
北壁-南壁	402 ÷ 29.9 × 13.4 = 400.7	402 ÷ 31.1 × 13.0 = 404.3

表44 1460号B 竖穴住居跡計測表

主軸方向		欠番		桁行 A	梁行 B	測点 a ₁	測点 b ₁	番号	標高
東—西 N-85°-W		/		P-P	P-P	西壁-P ₂₁ 140	北壁—東西0 231	P ₂₁	47.80
平均				P-P	P-P	P ₂₁ -D ₁₁ 102	東西0—南壁 173	D ₁₁	48.49
番号	検出面標高	棟持柱間 a ₁		D ₁₁ -P ₂₂ 145		北壁—南壁 ●404		D ₂₁	48.41
P ₂₁	47.96	P ₂₁ -P ₂₂ ●247		P ₂₂ —東壁 154		規		DP ₂₁₁	48.39
P ₂₂	48.06			西壁—東壁 ●541		模		DP ₂₁₂	48.39
P						主柱 0			
P						棟持柱 2			
壁	48.83					補柱 0			
高床						床面積21.9m ²			
中床	48.63								

桁行比	桁行柱比	桁行差	桁行柱差	棟持柱差
/	/	/	/	/

棟持換算	計算値	算出値
棟持 a ₁	247 \approx 30.1cm \times 8.2=246.8	247 \approx 30.9cm \times 8.0=247.2
西壁—東壁	541 \approx 30.1 \times 18.0=541.8	541 \approx 30.9 \times 17.5=540.8
北壁—南壁	404 \approx 30.1 \times 13.4=403.3	404 \approx 30.9 \times 13.0=401.7

表45 1460号C 竖穴住居跡計測表

主軸方向		欠番		桁行 A	梁行 B	測点 a ₁	測点 b ₁	測点 b ₂	測点 A	番号	標高	
東—西 N-85°-W		/		P-P	P-P	西壁-P ₂₁ 146	北壁—東西0 211	北壁-P ₂₁ 184	南北P ₂₁ -DP ₂₁₁ 136	P ₂₁	47.85	
平均				P-P	P-P	P ₂₁ -D ₁₁ 99	東西0—D ₁₁ 47	P ₂₁ —南壁 238	DP ₂₁₁ -D ₂₁ 26	D ₁₁	48.49	
番号	検出面標高	測点 a ₁		測点 b ₂		D ₁₁ -P ₂₂ 156		D ₁₁ -DP ₂₁₁ 101	北壁—P ₂₂ 208	D ₂₁ -DP ₂₁₂ 26	D ₂₁	48.41
P ₂₁	47.97	西壁—東壁 ●533		北壁—南壁 ●394		P ₂₂ —東壁 132		DP ₂₁₁ -D ₂₁ 5	P ₂₃ —南壁 142	DP ₂₁₂ -南北P ₂₂ 67	DP ₂₁₁	48.39
P ₂₂	48.06							D ₂₁ -DP ₂₁₂ 5		DP ₂₁₁ -DP ₂₁₂ ●52	DP ₂₁₂	48.39
P								DP ₂₁₂ —南壁 25		南北P ₂₁ -DP ₂₁₂ ●188	DP ₂₁₂	48.39
P												
壁	48.83											
高床												
中床	48.58											

桁行比	桁行柱比	桁行差	桁行柱差	棟持柱差
/	/	/	/	/

○棟持換算	計算値	算出値
棟持 a ₁	255 \approx 30.0cm \times 8.5	255 \approx 28.3cm \times 9.0=254.7
DP ₂₁₁ -DP ₂₁₂	52 \approx 30.0 \times 1.7=51.0	52 \approx 28.3 \times 2.0=56.6
西壁—東壁	533 \approx 30.0 \times 17.8=534.0	533 \approx 28.3 \times 19.0=537.7
北壁—南壁	394 \approx 30.0 \times 13.1=393.0	394 \approx 28.3 \times 14.0=396.2

棟持柱間 a ₁
P ₂₁ -P ₂₂ ●255

(DP ₂₁₁ -DP ₂₁₂)換算	計算値	算出値
DP ₂₁₁ -DP ₂₁₂	52 \approx 30.6cm \times 1.7=52.02	52 \approx 34.7cm \times 1.5=52.05
棟持 a ₁	255 \approx 30.6 \times 8.3=254.0	255 \approx 34.7 \times 7.5=260.3
西壁—東壁	533 \approx 30.6 \times 17.4=532.4	533 \approx 34.7 \times 15.0=520.5
北壁—南壁	394 \approx 30.6 \times 12.9=394.7	394 \approx 34.7 \times 11.0=381.7

規	主柱 0
棟持柱 2	
補柱 0	
模	床面積21.0m ²

表46 1461号竖穴住居跡計測表

主軸方向	欠番	桁行 A	梁行 B	桁行柱間 a ₂	梁間 b ₂	測点 a ₁	測点 b ₁	番号	標高
東-西 N-74°-E	P11・12・14 DP211	P ₁₁ -P ₁₂ (300)	P ₁₁ -P ₁₃ (196)	(300)	(196)	西壁-西柱筋 112	北壁-北柱筋 111	P ₁₃ D ₁₁	48.12 48.49
		P ₁₃ -P ₁₄ (300)	P ₁₂ -P ₁₄ (196)	測点 a ₂ 西壁-P ₁₁	測点 b ₂ 北壁-P ₁₁	西柱筋-D ₁₁ 118	北柱筋-D ₁₁ 132	D ₂₁ DP ₂₁₁	48.41 欠失
平均		●(300)	●(196)	85	135	D ₁₁ -東柱筋 182	D ₁₁ -南柱筋 60	DP ₂₁₂	48.25
棟持柱間 a ₁				P ₁₂ -東壁 70	P ₁₃ -南壁 86	東柱筋-東壁 86	南柱筋-DP ₂₁₂ 48	測点 A 西柱筋-DP ₂₁₂	●120
				西壁-P ₁₃ 121	北壁-P ₁₂ 83	西壁-東壁 ●498	DP ₂₁₂ -D ₂₁ 14	DP ₂₁₁ -D ₂₁ (20)	
				P ₁₄ -東壁 95	P ₁₄ -南壁 83			D ₂₁ -南壁 28	D ₂₁ -DP ₂₁₂ 20
								北壁-南壁 ●393	DP ₂₁₁ -DP ₂₁₂ ●40
番号	検出面標高	桁行比	桁行柱比	桁行差	桁行柱差	棟持柱差			
P ₁₁	中央部床面	(1.35)	(1.35)	(78)	(78)				
P ₁₂	中央部床面								
P ₁₃	48.56								
P ₁₄	中央部床面								
P ₂₁	48.58								
P ₂₂	欠失								
P ₁₄	48.83								
高床									
中床	48.54								

桁行換算	計算値	算出値
桁行 A	(300) = 30.0cm × 10.0	左に同じ
梁行 B	(196) ÷ 30.0 × 6.5 = 195	左に同じ
西柱筋-DP ₂₁₂	120 = 30.0 × 4.0	左に同じ
DP ₂₁₁ -DP ₂₁₂	40 = 30.0 × 1.3	40 ÷ 30.0 × 1.5 = 45.0
西壁-東壁	498 = 30.0 × 16.6	498 ÷ 30.0 × 17.0 = 510.0
北壁-南壁	393 = 30.0 × 13.1	393 ÷ 30.0 × 13.0 = 390.0

規	1間×1間
模	主柱 (4)
	棟持柱 0
	補柱 0
床面積19.6㎡	

表47 1462号A竖穴住居跡計測表

主軸方向	欠番	桁行 A	梁行 B	桁行柱間 a ₂	測点 b ₂	番号	標高	梁行柱間 b ₂	測点 a ₂
南-北 N-4°-E	P61・62	P ₁₁ -P ₁₂ 298	P ₁₁ -P ₁₃ 188			P ₁₁ P ₁₂	48.39 48.39		P ₁₁ -南柱筋 15
		P ₁₃ -P ₁₄ 262	P ₁₂ -P ₁₄ 247	測点 a ₃ 南壁沿高床幅 (111)		P ₁₃ P ₁₄	48.43 48.48	測点 b ₂ P ₆₁ -西柱筋 (138)	南柱筋-P ₆₃ 138
平均		●280	●218			P ₆₁ P ₆₂	欠失 欠失	西壁-P ₆₃ 43	P ₆₃ -北柱筋 138
棟持柱間 a ₁				高床北縁-南柱筋 27		P ₆₃ P ₆₄	48.58 同	P ₆₃ -西柱筋 5	北柱筋-P ₁₂ 7
				南柱筋-D ₁₁ 122		D ₁₁ D ₂₁	48.53 48.34	南柱筋-P ₁₃ 14	南柱筋-P ₁₃ 14
				D ₁₁ -北柱筋 154		DP ₂₁₁ DP ₂₁₂	48.28 48.31	西柱筋-D ₁₁ 90	P ₁₃ -DP ₂₁₁ 42
				北柱筋-北壁 51				D ₁₁ -DP ₂₁₂ 90	DP ₂₁₁ -D ₂₁ 16
				南壁-北壁 ●(465)				DP ₂₁₂ -D ₂₁ 14	D ₂₁ -DP ₂₁₂ 14
								D ₂₁ -東柱筋 8	DP ₂₁₂ -P ₁₄ 190
								東柱筋-東壁 19	DP ₂₁₁ -DP ₂₁₂ ●30
								西壁-東壁 ●269	
桁行比	桁行柱比	桁行差	桁行柱差	棟持柱差					
1.28		62							

○桁行換算	計算値	算出値
桁行 A	280 ÷ 30.1cm × 9.3 = 279.9	280 ÷ 31.1cm × 9.0 = 279.9
梁行 B	218 ÷ 30.1 × 7.2 = 216.7	218 ÷ 31.1 × 7.0 = 217.7
DP ₂₁₁ -DP ₂₁₂	30 ÷ 30.1 × 1.0 = 30.1	30 ÷ 31.1 × 1.0 = 31.1
西壁-東壁	269 ÷ 30.1 × 8.9 = 267.9	269 ÷ 31.1 × 9.0 = 279.9
北壁-南壁	(465) ÷ 30.1 × 15.4 = 463.5	(465) ÷ 31.1 × 15.0 = 466.5

(DP ₂₁₁ -DP ₂₁₂)換算	計算値	算出値
DP ₂₁₁ -DP ₂₁₂	30 = 30.0cm × 1.0	左に同じ
桁行 A	280 ÷ 30.0 × 9.3 = 279.0	280 ÷ 30.0 × 9.5 = 285.0
梁行 B	218 ÷ 30.0 × 7.3 = 219.0	218 ÷ 30.0 × 7.5 = 225.0
西壁-東壁	(465) = 30.0 × 15.5	(465) ÷ 30.0 × 16.0 = 480.0
北壁-南壁	269 ÷ 30.0 × 9.0 = 270.0	左に同じ

規	1間×1間
模	主柱 4
	棟持柱 0
	補柱 0
	壁沿高床 1
施設柱(4)	
床面積12.5㎡	

表48 1462号B 竖穴住居跡計測表

主軸方向	欠番	桁行 A	梁行 B	桁行柱間 a ₂	梁行柱間 b ₂	番号	標高	測点 a ₂	測点 b ₂
南-北 N-4°-E	P11~14 P61・62・64	P ₁₁ -P ₁₂	P ₁₁ -P ₁₃			P ₁₁ P ₁₂ P ₁₃ P ₁₄	欠失 欠失 欠失 欠失	P ₁₁ -南柱筋 (15)	
番号	検出面標高	平均		測点 a ₃ 南壁沿高床幅 (111)		P ₆₁ P ₆₂ P ₆₃ P ₆₄	欠失 欠失 48.33 P12に同	南柱筋-P ₆₃ 179	測点 b ₂ P ₆₁ -西柱筋 (138)
P ₁₁ P ₁₂ P ₁₃ P ₁₄	欠失 欠失 欠失 欠失	●(280)	●(218)			D ₁₁ D ₂₁ DP ₂₁₁ DP ₂₁₂	48.32 48.36 48.19 48.25	P ₆₃ -北柱筋 97	P ₆₁ -西柱筋 (138)
壁	48.83	棟持柱 a ₁		高床北縁-南柱筋 (27)				北柱筋-P ₁₂ (7)	西壁-P ₆₃ 32
高床	48.70			南柱筋-D ₁₁ 152				南柱筋-P ₁₃ (14)	P ₆₃ -西柱筋 16
中床	48.63	測点 a ₃	測点 b ₃	D ₁₁ -北柱筋 124				P ₁₃ -DP ₂₁₁ 104	西壁筋-D ₁₁ 124
		南壁-北壁 ●(465)	西壁-東壁 ●269	北柱筋-北壁 51				DP ₂₁₁ -D ₂₁ 16	D ₁₁ -DP ₂₁₁ 65
桁行比	桁行柱比	桁行差	桁行柱差	棟持柱差				D ₂₁ -DP ₂₁₂ 16	DP ₂₁₁ -D ₂₁ 7
(1.28)		(62)						DP ₂₁₂ -P ₁₄ 140	D ₂₁ -東柱筋 6
								DP ₂₁₁ -DP ₂₁₂ ●32	東柱筋-東壁 19

○桁行換算	計算値	算出値
桁行 A	(280)=30.1cm×9.3=279.9	280≒31.1cm×9.0=279.9
梁行 B	(218)=30.1×7.2=216.7	(218)≒31.1×7.0=217.7
DP ₂₁₁ -DP ₂₁₂	32=30.1×1.1=33.1	32≒31.1×1.0=31.1
西壁-東壁	269=30.1×8.9=267.9	269≒31.1×9.0=279.9
北壁-南壁	(465)=30.1×15.4=463.5	(465)≒31.1×15.0=466.5

○(DP ₂₁₁ -DP ₂₁₂)換算	計算値	算出値
DP ₂₁₁ -DP ₂₁₂	32=32.0cm×1.0	左に同じ
桁行 A	(280)≒32.0×8.8=281.6	(280)≒32.0×9.0=288.0
梁行 B	(218)≒32.0×6.8=217.6	(218)≒32.0×7.0=224.0
西壁-東壁	269≒32.0×8.4=268.8	269≒32.0×8.0=256.0
北壁-南壁	(465)≒32.0×14.5=464.0	(465)≒32.0×15.0=480.0

規	1間×1間
模	主柱 4
	棟持柱 0
	補柱 0
	壁沿高床 1
	施設柱 (4)
	床面積12.50㎡

表49 1463号竖穴住居跡計測表

主軸方向	欠番	桁行 A	梁行 B	桁行柱間 a ₂	梁行柱間 b ₂	測点 B	測点 A	番号	標高
南-北 N-4°-E	P31・61 P62・64	P-P	P-P					東西 P ₂₁ -P ₆₃ 75	P ₂₁ 48.55 P ₂₂ 48.52
番号	検出面標高	平均		測点 a ₃ 南壁-P ₂₁ 96	測点 b ₃ P ₆₁ -P ₆₃ 127			P ₆₃ -東西 P ₂₂ 58	P ₃₁ 48.31 P ₃₂ 欠失
P ₂₁ P ₂₂ P ₃₁ P ₃₂	48.57 48.59 48.59 欠失	測点 a ₃	測点 b ₃	P ₂₁ -D ₁₁ 58	西壁-P ₆₃ (19)			P ₆₃ -P ₁₂ (125)	P ₆₁ 欠失 P ₆₂ 欠失
壁	48.60	南壁-北壁 ●347	西壁-東壁 ●250	D ₁₁ -P ₂₂ 75	P ₆₃ -D ₁₁ 115			東西 P ₂₁ -DP ₂₁₁ 28	P ₆₃ 48.58 P ₆₄ P12に同
高床	48.63	棟持柱間 a ₁		東西 P ₂₂ -P ₃₁ 14	D ₁₁ -DP ₂₁₁ 73			DP ₂₁₁ -D ₂₁ 11	D ₁₁ 48.46 D ₂₁ 48.45
中床	48.57	P ₂₁ -P ₂₂ ●133		P ₃₁ -高床南縁 20	DP ₂₁₁ -D ₂₁ 8			D ₂₁ -DP ₂₁₂ 20	DP ₂₁₁ 48.28 DP ₂₂₂ 48.11
桁行比	桁行柱比	桁行差	桁行柱差	棟持柱差				DP ₂₁₂ -東西 P ₂₂ 73	DP ₂₁₁ -DP ₂₁₂ ●31

○棟持換算	計算値	算出値
棟持 a ₁	133=30.2cm×4.4=132.9	133≒33.3cm×4.0=133.2
DP ₂₁₁ -DP ₂₁₂	31=30.2×1.0=30.2	31=33.3×1.0=33.3
西壁-東壁	250=30.2×8.3=250.7	250=33.3×8.0=266.4
北壁-南壁	347=30.2×11.5=347.3	347=33.3×10.0=333.0

(DP ₂₁₁ -DP ₂₁₂)換算	計算値	算出値
DP ₂₁₁ -DP ₂₁₂	31=31.0cm×1	左に同じ
棟持 a ₁	133=31.0×4.3=133.3	133=31.0×4.5=139.5
西壁-東壁	250=31.0×8.1=251.1	250=31.0×8.0=248.0
北壁-南壁	347=31.0×11.2=347.2	347=31.0×11.0=341.0

規	主柱 0
模	棟持柱 2
	補柱 0
	壁沿高床 1
	施設柱 (4)
	床面積8.7㎡

表50 1001号A掘立柱建物跡計測表

主軸方向		欠番	桁行 A	梁行 B	桁行柱間 a ₂	梁行柱間 b ₂	番号	標高
東—西 N—89°—E			P ₁ —P ₃ 382	P ₁ —P ₄ 154	P ₁ —P ₂ 200	166	P ₁	48.51
平均			P ₄ —P ₆ 344	P ₃ —P ₆ 178	P ₂ —P ₃ 182	柱間 B	P ₂	48.58
番号		検出面標高	●363	●166	P ₄ —P ₅ 200	P ₁ —P ₂₁ 75	P ₃	48.66
P ₁	48.90		棟持柱間 a ₁	梁行柱間 b ₁		P ₂₁ —P ₄ 79	P ₄	48.88
P ₃	48.95		P ₂₁ —P ₂₂ ●325	P ₂ —P ₅ 170	P ₅ —P ₆ 144	P ₃ —P ₂₂ 90	P ₅	48.47
P ₄	48.94			平均	182		P ₆	48.69
P ₆	48.94						P ₂₁	48.82
P ₂₁	48.90						P ₂₂	48.84
P ₂₂	48.95							
						P ₂₂ —P ₆ 88		
桁行比		桁行柱比	桁行差	桁行柱差	棟持柱差	規模		
2.19		1.10	197	16	-38	1間×2間 棟持柱 2 面積 6.0㎡		

○桁行換算	計 算 値	算 出 値
桁行 A	363=30.0cm×12.1	363=30.3cm×12.0=363.6
梁行 B	166≒30.0 × 5.5=165	166≒30.3 × 5.5=166.7
棟持 a ₁	325≒30.0 × 10.8=324	325=30.3 × 10.5=318.2

○棟持換算	計 算 値	算 出 値
棟持 a ₁	325≒30.1cm×10.8=325.1	325≒29.5cm×11.0=324.5
桁行 A	363≒30.1 × 12.1=364.2	363≒29.5 × 12.5=368.8
梁行 B	166≒30.1 × 5.5=165.6	166≒29.5 × 5.5=162.3

表51 1001号B掘立柱建物跡計測表

主軸方向		欠番	桁行 A	梁行 B	桁行柱間 a ₂	梁行柱間 b ₂	番号	標高
東—西 N—89°—E		P 1'~4', 6' P21'・22'	P ₁ '—P ₃ ' (382)	P ₁ '—P ₄ ' (154)	P ₁ '—P ₂ ' (191)	(166)	P ₁ '	P ₁ 重複
平均			P ₄ '—P ₆ ' (344)	P ₃ '—P ₆ ' (178)	P ₂ '—P ₃ ' (191)	柱間 B	P ₂ '	P ₂ 重複
番号		検出面標高	●(363)	●(166)	P ₄ '—P ₅ ' 179	P ₁ '—P ₂₁ ' 90	P ₃ '	P ₃ 重複
P ₁ '	P ₁ 重複		棟持柱間 a ₁	梁行柱間 b ₁		P ₂₁ '—P ₄ ' 64	P ₄ '	P ₄ 重複
P ₃ '	P ₃ 重複		P ₂₁ '—P ₂₂ ' ●344	P ₂ '—P ₅ ' 170	P ₅ '—P ₆ ' 165	P ₃ '—P ₂₁ ' (90)	P ₅ '	48.67
P ₄ '	P ₄ 重複			平均	(182)		P ₆ '	P ₆ 重複
P ₆ '	P ₆ 重複						P ₂₁ '	48.82
P ₂₁ '	48.91						P ₂₂ '	P ₂₂ 重複
P ₂₂ '	P ₂₂ 重複							
桁行比		桁行柱比	桁行差	桁行柱差	棟持柱差	規模		
(2.19)		(1.10)	(197)	(16)	-19	1間×2間 棟持柱 2 面積(6.0)㎡		

○桁行換算	計 算 値	算 出 値
桁行 A	(363)=30.0cm×12.1	(363)=30.3cm×12.0=363.6
梁行 B	(166)≒30.0 × 5.5=165	(166)≒30.3 × 5.5=166.7
棟持 a ₁	344 ≒30.0 × 11.5=345	344 ≒30.3 × 11.5=348.5

○棟持換算	計 算 値	算 出 値
棟持 a ₁	344 ≒29.9cm×11.5=343.9	344 ≒28.7cm×12.0=344.4
桁行 A	(363)≒29.9 × 12.1=361.8	(363)≒28.7 × 12.5=358.8
梁行 B	(166)≒29.9 × 5.6=167.4	(166)≒28.7 × 6.0=172.2

表52 1011号掘立柱建物跡計測表

主軸方向		欠番	桁行 A	梁行 B	桁立柱間 a ₂	梁間 b ₂	番号	標高
東-西 N-68°-E		P 4	P ₁ -P ₃ 462	P ₁ -P ₄ (250)	P ₁ -P ₂ 252	250	P ₁	48.52
番号	検出面標高	平均	P ₄ -P ₆ 464	P ₃ -P ₆ 250	P ₂ -P ₃ 210	規 模 1間×2間 棟持柱 0 祭祀 P 1 面積11.6m ²	P ₂	48.41
			●463	●250	P ₄ -P ₅ (250)		P ₃	48.46
			棟持柱間 a ₁	柱間 b ₁	P ₅ -P ₆ 214		P ₄	攪乱
				P ₂ -P ₅ 260	P ₅ -P ₆ 214		P ₅	48.43
					232	平均	P ₆	48.36
桁行比		桁立柱比	桁行差	桁立柱差	棟持柱差			
1.85		0.93	213	-18				

桁行換算	計 算 値	算 出 値
桁 行 A	463÷30.1cm×15.4=463.5	463=30.9cm×15.0=463.5
梁 行 B	250÷30.1 × 8.3=249.8	250=30.9 × 8.0=247.2

表53 1012号掘立柱建物跡計測表

主軸方向		欠番	桁行 A	梁行 B	桁立柱間 a ₂	梁行 b ₂	測点 A	測点 B	番号	標高	
東-西 N-86°-W			P ₁ -P ₅ 761	P ₁ -P ₆ 343	P ₁ -P ₂ 192	335	北妻柱筋-P ₁₁ 92	棟持柱筋-P ₁₁ 88	P ₁	48.29	
番号	検出面標高	平均	P ₆ -P ₁₀ 736	P ₅ -P ₁₀ 327	P ₂ -P ₃ 184	柱間 b ₂ P ₁ -P ₂₁ 162	P ₁₁ -東桁筋筋 77		P ₂	48.29	
			●749	●335	P ₃ -P ₄ 205				P ₃	48.30	
			棟持柱間 a ₁	柱間 b ₁	P ₂₁ -P ₆ 181				P ₄	48.05	
			P ₂₁ -P ₂₂ ●775	P ₂ -P ₇ 365	P ₄ -P ₅ 180				P ₅	48.30	
					P ₃ -P ₈ 359	P ₆ -P ₇ 181	P ₅ -P ₂₂ 162	P ₆	48.28		
					P ₄ -P ₉ 336	P ₇ -P ₈ 205	P ₂₂ -P ₁₀ 165	P ₇	48.15		
					平均	353	168	平均	P ₈	48.26	
					P ₈ -P ₉ 185				P ₉	48.30	
桁行比		桁立柱比	桁行差	桁立柱差	棟持柱差				P ₁₀	48.17	
2.24		0.56	414	-148	26				P ₂₁	48.27	
					P ₉ -P ₁₀ 166				P ₂₂	48.31	
					187	平均				P ₁₁	48.42

○桁行換算	計 算 値	算 出 値
桁 行 A	749÷30.0cm×25.0=750.0	左に同じ
梁 行 B	335÷30.0 × 11.2=336.0	335÷30.0 × 11.0=330
棟 持 a ₁	775÷30.0 × 25.8=774.0	775÷30.0 × 26.0= 78.0

○棟持換算	計 算 値	算 出 値
棟 持 a ₁	775÷30.0cm×25.8=774.0	775÷29.8cm×26.0=774.8
桁 行 A	749÷30.0 × 25.0=750.0	749÷29.8 × 25.0=745.0
梁 行 B	335÷30.0 × 11.2=336.0	335÷29.8 × 11.0=327.8

表54 1013号掘立柱建物跡計測表

主軸方向		欠番		桁行 A	梁行 B	桁行柱間 a ₂	梁行 b ₂	柱間 b ₂	番号	標高
東-西 S-87°-E		P 6・7・9 P21		P ₁ -P ₅ 683	P ₁ -P ₅ (378)	P ₁ -P ₂ 167	378	P ₁ -P ₂₁ (189)	P ₁	48.35
番号	検出面標高	平均	●681	●378	P ₂ -P ₃ 197	P ₃ -P ₄ 142	P ₅ -P ₂₂ 172	P ₂₁ -P ₆ (189)	P ₂	48.41
									P ₃	48.39
P ₁	48.55	棟持柱間 a ₁	●(685)	●411	P ₂ -P ₇ ?	P ₄ -P ₅ 177	P ₆ -P ₇ (171)	P ₅ -P ₂₂ 206	P ₄	48.42
P ₅	48.52								P ₆	調査区外
P ₆	調査区外								P ₇	調査区外
P ₁₀	48.18								P ₈	48.25
規	1間×4間	棟持柱 2	面積25.8m ²	平均	411	P ₃ -P ₈ 411	P ₇ -P ₈ (171)	P ₂₂ -P ₁₀ 189	P ₉	未検出
									P ₁₀	48.15
模	面積25.8m ²	棟持柱 2	面積25.8m ²	平均	411	P ₄ -P ₉ ?	P ₉ -P ₁₀ (168)	P ₁₀	P ₁₁	調査区外
									P ₁₁	48.29
桁行比	桁行柱比	桁行差	桁行柱差	棟持柱差		P ₁₂	170	平均	P ₁₂	48.29
1.80	0.45	303	-208	4		P ₉ -P ₁₀ (168)				

○桁行換算	計 算 値	算 出 値
桁行 A	681 = 30.0cm × 22.7	681 ÷ 29.6cm × 23.0 = 680.8
梁行 B	378 = 30.0 × 12.6	378 ÷ 29.6 × 13.0 = 384.8
棟持 a ₁	(685) ÷ 30.0 × 22.8 = 684	(685) ÷ 29.6 × 23.0 = 680.8
棟持換算	計 算 値	算 出 値
棟持 a ₁	(685) ÷ 30.0cm × 22.8 = 684	(685) ÷ 29.8cm × 23.0 = 685.4
桁行 A	681 = 30.0 × 22.7	681 = 29.8 × 23.0 = 685.4
梁行 B	378 = 30.0 × 12.6	378 = 29.8 × 12.5 = 372.5

表55 1014号掘立柱建物跡計測表

主軸方向		欠番		桁行 A	梁行 B	桁行柱間 a ₂	梁行柱間 b ₂	測点 B	番号	標高
南-北 N-11°-W		P 5・6		P ₁ -P ₄ 576	P ₁ -P ₅ (400)	P ₁ -P ₂ 204	P ₁ -P ₉ 180	棟持柱筋-P ₁₃ 120	P ₁	48.30
番号	検出面標高	平均	●568	●418	P ₂ -P ₃ 191	P ₃ -P ₄ 181	P ₉ -P ₅ (220)	P ₁₃ -西桁行筋 100	P ₂	48.33
									P ₃	48.23
P ₁	48.81	棟持柱間 a ₁	●595	●418	P ₂ -P ₆ (406)	P ₅ -P ₆ (187)	P ₄ -P ₁₂ 217	P ₁₃ -北妻圓柱 103	P ₄	48.35
P ₄	48.70								P ₆	欠失
P ₅	欠失								P ₇	未検出
P ₈	48.75								P ₈	48.44
規	2間×3間	棟持柱 2	面積23.7m ²	平均	418	P ₃ -P ₇ 430	P ₆ -P ₇ 185	P ₁₂ -P ₈ 219	P ₉	48.47
									P ₁₀	48.65
模	面積23.7m ²	棟持柱 2	面積23.7m ²	平均	418	P ₇ -P ₈ 187	P ₂ -P ₁₀ 188	P ₁₀ -P ₆ 218	P ₁₁	48.42
									P ₁₂	48.09
桁行比	桁行柱比	桁行差	桁行柱差	棟持柱差		柱間 a ₃	189	平均	P ₁₃	48.65
1.36	0.90	150	-20	27		P ₉ -P ₁₀ 190	P ₃ -P ₁₁ 214			
						P ₁₀ -P ₁₁ 199	P ₁₁ -P ₇ 216			
						P ₁₁ -P ₁₂ 199	209	平均		

○桁行換算	計 算 値	算 出 値
桁行 A	568 ÷ 30.1cm × 18.9 = 568.9	568 ÷ 29.9cm × 19.0 = 568.1
梁行 B	418 ÷ 30.1 × 13.9 = 418.4	418 ÷ 29.9 × 14.0 = 418.6
棟持 a ₁	595 ÷ 30.1 × 19.8 = 596.0	595 ÷ 29.9 × 20.0 = 598.0
棟持換算	計 算 値	算 出 値
棟持 a ₁	595 ÷ 30.1 cm × 19.8 = 596.0	595 ÷ 29.8cm × 20.0 = 596.0
桁行 A	568 ÷ 30.1 × 18.9 = 568.9	568 ÷ 29.8 × 19.0 = 566.2
梁行 B	418 ÷ 30.1 × 13.9 = 418.4	418 ÷ 29.8 × 14.0 = 417.2

表56 1015号掘立柱建物跡計測表

主軸方向 東-西 N-83°-E		欠番 P 5		桁行 A P ₁ -P ₅ (908)	梁行 B P ₁ -P ₆ 434	桁行柱間 a ₂ P ₁ -P ₂ 233	梁行 b ₂ 434	遺構番号 住 2 ? ← 溝 2・4 ← 溝 3 ← 溝 2 ? ← 溝 2 溝 4 ← 新・古関係(古→新)	番号	標高
平均		●900	●434	P ₃ -P ₄ (173)	柱間 b ₁ P ₁ -P ₂₁ 228	P ₁	47.96			
規		棟持柱間 a ₁ P ₂₁ -P ₂₂ ●906		P ₄ -P ₅ (275)	P ₂₁ -P ₆ 206	P ₂	47.97			
模		1 間×4 間 棟持柱 2 面積39.1m ²		P ₆ -P ₇ 227	P ₃ -P ₂₂ (212)	P ₃	48.02			
桁行比		桁行柱比	桁行差	桁行柱差	棟持柱美	P ₄	48.27			
2.07		0.52	466	-209	6	P ₅	欠失?			
平均		平均		P ₇ -P ₈ 217	P ₂₂ -P ₁₀ 222	P ₆	48.15			
平均		平均		P ₈ -P ₉ 230	222	P ₇	48.25			
平均		平均		P ₉ -P ₁₀ 217	217	P ₈	48.14			
平均		平均		225	平均	P ₉	48.28			
平均		平均		平均	平均	P ₁₀	48.38			
平均		平均		平均	平均	P ₂₁	48.46			
平均		平均		平均	平均	P ₂₂	48.02			

○桁行換算	計 算 値		算 出 値	
桁 行 A	900=30.0cm×30.0		左に同じ	
梁 行 B	434≒30.0 ×14.5=435		左に同じ	
棟 持 a ₁	906=30.0 ×30.2		906≒30.0 ×30.0=900	
○棟持換算	計 算 値		算 出 値	
棟 持 a ₁	906=30.0cm×30.2		906≒30.0cm×30.0=900	
桁 行 A	900=30.0 ×30.0		左に同じ	
梁 行 B	434≒30.0 ×14.5=435		左に同じ	

表57 1016号A掘立柱建物跡計測表

主軸方向 南-北 N-15°-W		欠番 P 1・5 P10		桁行 A P ₁ -P ₄ (601)	梁行 B P ₁ -P ₅ (427)	桁行柱間 a ₂ P ₁ -P ₂ (204)	梁行柱間 b ₂ P ₁ -P ₉ (197)	遺構番号 溝 3 ? ← 溝 3 ? ← 溝 2 ← 住 2 ? ← 溝 4 ? ← 溝 2 ← 新・古関係(古→新)	番号	標高
平均		●(605)	●427	P ₂ -P ₃ 212	P ₉ -P ₅ (230)	P ₁	欠失?			
規		棟持柱間 a ₁ P ₉ -P ₁₂ ●622		P ₄ -P ₈ 427	P ₂ -P ₃ 212	P ₂	48.24			
模		2 間×3 間 棟持柱 4 面積25.8m ²		P ₅ -P ₈ (608)	P ₄ -P ₈ 427	P ₃	48.44			
桁行比		桁行柱比	桁行差	桁行柱差	棟持柱差	P ₄	48.42			
1.42		0.94	178	-12	17	P ₅	欠失?			
平均		平均		P ₉ -P ₁₂ ●622	P ₂ -P ₆ 431	P ₆	48.50			
平均		平均		P ₃ -P ₇ 458	P ₅ -P ₆ (211)	P ₇	48.33			
平均		平均		平均	445	P ₈	48.26			
平均		平均		平均	445	P ₉	48.50			
平均		平均		平均	445	P ₁₀	欠失?			
平均		平均		平均	445	P ₁₁	48.03			
平均		平均		平均	445	P ₁₂	48.27			

○桁行換算	計 算 値		算 出 値	
桁 行 A	(605)≒30.0cm×20.2=602		(605)≒30.3cm×20.0=606	
梁 行 B	427≒30.0 ×14.2=426		427≒30.3 ×14.0=424.2	
棟 持 a ₁	622≒30.0 ×20.7=621		622=30.3 ×20.5=621.2	
○棟持換算	計 算 値		算 出 値	
棟 持 a ₁	622≒30.0cm×20.7=621		622≒29.6cm×21.0=621.6	
桁 行 A	(605)≒30.0 ×20.2=602		(605)≒29.6 ×20.5=606.8	
梁 行 B	427≒30.0 ×14.2=426		427=29.6 ×14.5=429.2	

表58 1016号B掘立柱建物跡計測表

主軸方向		欠番	桁行 A	梁行 B	桁行柱間 a ₂	梁間 b ₂	遺構番号	番号	標高	
南—北 N—13°—W		P 7 P21	P ₁ —P ₄ 643	P ₁ —P ₅ 388	P ₁ —P ₂ 191	388		溝 2 ←	P ₁	48.32
番号	検出面標高	平均	P ₅ —P ₈ (628)	P ₄ —P ₈ (388)	P ₂ —P ₃ 241	柱間 b ₃ P ₂ —P ₆ 377			P ₂	48.09
			棟持柱間 a ₁	柱間 b ₁	P ₃ —P ₄ 211				P ₃	48.33
			P ₂₁ —P ₂₂ ●(650)	P ₂ —P ₆ 377	P ₅ —P ₆ 186	P ₃ —P ₇ (404)			391	平均
P ₂₁	欠失?	P ₃ —P ₇ (404)	P ₆ —P ₇ (228)	平均	P ₅			48.46		
P ₂₂	48.48		平均		391	P ₇ —P ₈ (214)		P ₆	48.38	
規	1間×3間							建1016号A←	P ₇	重複
棟	棟持柱 2								P ₈	未検出
模	面積24.7m ²								P ₂₁	欠失?
								P ₂₂	48.38	
								新・古関係(古→新)		

桁行比	桁行柱比	桁行差	桁行柱差	棟持柱差
1.64	0.55	248	-176	14

○桁行換算	計 算 値	算 出 値
桁行 A	636 = 30.0cm × 21.2	636 ≈ 30.3cm × 21.0 = 636.3
梁行 B	388 = 30.0 × 12.9 = 387	388 = 30.3 × 13.0 = 393.9
棟持 a ₁	(650) = 30.0 × 21.7 = 651	(650) = 30.3 × 21.5 = 651.5
○棟持換算	計 算 値	算 出 値
棟持 a ₁	(650) = 30.0cm × 21.7 = 651	(650) = 29.5cm × 22.0 = 649.0
桁行 A	636 = 30.0 × 21.2	636 = 29.5 × 21.5 = 634.3
梁行 B	388 = 30.0 × 12.9 = 387	388 = 29.5 × 13.0 = 383.5

表59 1017号A掘立柱建物跡計測表

主軸方向		欠番	桁行 A	梁行 B	桁行柱間 a ₂	梁間 b ₂	遺構番号	番号	標高	
東—西 S—77°—W		P ₆	P ₁ —P ₃ 581	P ₁ —P ₄ 448	P ₁ —P ₂ 285	434		溝 2 ←	P ₁	47.81
番号	検出面標高	平均	P ₄ —P ₆ (581)	P ₃ —P ₆ (420)	P ₂ —P ₃ 296	柱間 b ₂ P ₁ —P ₂₁ 207			住 3 → ?	P ₃
			棟持柱間 a ₁	柱間 b ₁	P ₄ —P ₅ 302			P ₂₁ —P ₄ 241		P ₄
			P ₂₁ —P ₂₂ ●638	P ₂ —P ₅ 448	P ₅ —P ₆ (279)	P ₃ —P ₂₂ 192		平均		291
P ₂₁	48.60		P ₂₂ —P ₆ (228)	P ₆	未検出					
P ₂₂	48.31							P ₂₁	48.29	
									P ₂₂	48.18
									新・古関係(古→新)	

桁行比	桁行柱比	桁行差	桁行柱差	棟持柱差
1.34	0.67	147	-143	57

○桁行換算	計 算 値	算 出 値
桁行 A	581 = 29.9cm × 19.4 = 580.1	581 = 30.6cm × 19.0 = 581.4
梁行 B	434 = 29.9 × 14.5 = 433.6	434 = 30.6 × 14.0 = 428.4
棟持 a ₁	638 = 29.9 × 21.3 = 636.9	638 = 30.6 × 21.0 = 642.6
○棟持換算	計 算 値	算 出 値
棟持 a ₁	638 = 30.0cm × 21.3 = 639	638 = 30.4cm × 21.0 = 638.4
桁行 A	581 = 30.0 × 19.4 = 582	581 = 30.4 × 19.0 = 577.6
梁行 A	434 = 30.0 × 14.5 = 435	434 = 30.4 × 14.0 = 425.6

規	1間×2間	
棟	棟持柱 2	
模	面積25.2m ²	

表60 1017号B掘立柱建物跡計測表

主軸方向		欠番	桁行 A	梁行 B	桁行柱間 b ₂	梁間 a ₂
東—西 S—80°—W		P 1・5	P ₁ —P ₃ (531)	P ₁ —P ₄ (416)	P ₁ —P ₂ (274)	416
番号	検出面標高	平均	P ₄ —P ₆ 548	P ₃ —P ₆ 416	P ₂ —P ₃ 257	柱間 b ₂
			●540	●416	P ₄ —P ₅ (274)	P ₁ —P ₂₁ (243)
			棟持柱間 a ₁	柱間 b ₁	P ₂₁ —P ₄ 173	P ₃ —P ₂₂
			P ₂₁ —P ₂₂ ●512	P ₂ —P ₅ (416)	P ₅ —P ₆ (274)	平均
					270	172
P ₂₁	48.54					P ₂₂ —P ₆ 244
P ₂₂	48.50					平均
						208

遺構番号	番号	標高
建1017号A←	P ₁	欠失
	P ₂	欠失
	P ₃	48.39
	P ₄	未記入
溝2・溝←	P ₅	47.90
建1015→	P ₆	48.00
溝2←	P ₂₁	48.28
溝4←	P ₂₂	48.33
新・古関係(古→新)		

規模	1間×2間
	棟持柱2
	面積22.5㎡

桁行比	桁行柱比	桁行差	桁行柱差	棟持柱差
1.30	0.65	124	-146	-28

○桁行換算	計 算 値	算 出 値
桁行 A	540≒30.0cm×18.0	左に同じ
梁行 B	416≒30.0 ×13.9=417.0	416≒30.0 ×14.0=420.0
棟持 a ₁	512≒30.0 ×17.1=513.0	512≒30.0 ×17.0=510.0

○棟持換算	計 算 値	算 出 値
棟持 a ₁	512≒29.9cm×17.1=511.3	512≒30.1cm×17.0=511.7
桁行 A	540≒29.9 ×18.1=541.2	540≒30.1 ×18.0=541.8
梁行 B	416≒29.9 ×13.9=415.6	416≒30.1 ×14.0=421.4

表61 1018号掘立柱建物跡計測表

主軸方向		欠番	桁行 A	梁行 B	桁行柱間 a ₂	梁間 a ₂
南—北 N—14°—W			P ₁ —P ₃ 492	P ₁ —P ₄ 462	P ₁ —P ₂ 261	446
番号	検出面標高	平均	P ₄ —P ₆ 487	P ₃ —P ₆ 430	P ₂ —P ₃ 231	柱間 b ₂
			●490	●446	P ₄ —P ₅ 229	P ₁ —P ₂₁ 208
			棟持柱間 a ₁	柱間 a ₁	P ₂₁ —P ₄ 254	P ₃ —P ₂₂
			P ₂₁ —P ₂₂ ●600	P ₂ —P ₅ 402	P ₅ —P ₆ 258	平均
					245	220
P ₂₁	48.62					P ₂₂ —P ₆ 210
P ₂₂	48.51					平均
						446

遺構番号	番号	標高
溝2←	P ₁	48.17
	P ₂	47.99
	P ₃	48.25
	P ₄	48.44
溝4←○←	P ₅	48.23
	P ₆	48.09
	P ₂₁	48.20
溝2←	P ₂₂	48.15
	P ₈₁	48.14
新・旧関係(古→新)		

規模	1間×2間
	棟持柱2
	床束1
	面積21.9㎡

桁行比	桁行柱比	桁行差	桁行柱差	棟持柱差
1.10	0.55	44	-201	110

○桁行換算	計 算 値	算 出 値
桁行 A	490≒30.1cm×16.3=490.6	490≒30.6cm×16.0=489.6
梁行 B	446≒30.1 ×14.8=445.5	446≒30.6 ×14.5=443.7
棟持 a ₁	600≒30.1 ×19.9=599.0	600≒30.6 ×19.5=596.7

○棟持換算	計 算 値	算 出 値
棟持 a ₁	600=30.0cm×20.0	左に同じ
桁行 A	490≒30.0 ×16.3=489.0	490≒30.0 ×16.5=495.0
梁行 B	446≒30.0 ×14.9=447.0	446=30.0 ×15.0=450.0

表62 1020号掘立柱建物跡計測表

主軸方向		欠番	桁行 A	梁行 B	桁行柱間 a ₂	梁間 b ₂	柱間 b ₂	番号	標高	
南-北 N-5°-W		P 1・22	P ₁ -P ₃ (487)	P ₁ -P ₄ (305)	P ₁ -P ₂ 236	308	P ₁ -P ₂₁ (144)	P ₁	欠失	
番号		検出面標高	P ₄ -P ₆ 496	P ₃ -P ₆ 311	P ₂ -P ₃ 251		P ₂₁ -P ₄ 161	P ₂	48.53	
P ₁	欠失	平均	●492	●308	P ₄ -P ₅		P ₃ -P ₂₂ (155)	P ₃	48.55	
P ₃	48.67	棟持柱間 a ₁	柱間 b ₁		246		P ₂₂ -P ₆ (156)	P ₄	48.60	
P ₄	48.84	P ₂₁ -P ₂₂	P ₂ -P ₅	P ₅ -P ₆	250			P ₅	48.45	
P ₆	48.72	●(453)	292	250	246	平均		P ₆	48.59	
規		1間×2間	桁行比		桁行柱比	桁行差	桁行柱差	棟持差	P ₂₁	48.63
模		棟持柱 2	1.60	0.80	184	-62	-39		P ₂₂	未検出
		面積15.1m ²							P ₇	48.50

○桁行換算	計 算 値	算 出 値
桁行 A	492 = 30.0cm × 16.4	492 ≈ 30.8cm × 16.0 = 492.8
梁行 B	308 ≈ 30.0 × 10.3 = 309	308 = 30.8 × 10.0
棟持 a ₁	(453) = 30.0 × 15.1	(453) = 30.8 × 14.5 = 446.6
○棟持換算	計 算 値	算 出 値
棟持 a ₁	(453) = 30.0cm × 15.1	(453) = 30.2cm × 15.0
桁行 A	492 = 30.0 × 16.4	492 ≈ 30.2 × 16.5 = 498.3
梁行 B	308 ≈ 30.0 × 10.3 = 30.9	308 ≈ 30.2 × 10.0 = 302.0

表63 1021号掘立柱建物跡計測表

主軸方向		欠番	桁行 A	梁行 B	桁行柱間 a ₁	梁行柱間 b ₂	柱間 b ₂	番号	標高
南-北 N-10°-W			P ₁ -P ₃ 574	P ₁ -P ₄ 251	P ₁ -P ₂ 312	283	P ₁ -P ₂₁ 83	P ₁	48.67
番号		検出面標高	P ₄ -P ₆ 575	P ₃ -P ₆ 314	P ₂ -P ₃ 262		P ₂₁ -P ₄ 168	P ₂	48.51
P ₁	48.89	平均	●575	●283	P ₄ -P ₅		P ₄ -P ₂₂ 135	P ₃	48.45
P ₃	48.65	棟持柱間 a ₁	柱間 b ₁		270		P ₂₂ -P ₆ 179	P ₄	48.27
P ₄	48.90	P ₂₁ -P ₂₂	P ₂ -P ₅	P ₅ -P ₆	305			P ₅	48.26
P ₆	48.67	●601	294	305	287	平均		P ₆	47.79
規		1間×2間	測点 A		測点 B			P ₇	48.50
模		棟持柱 2	南妻柱筋-P ₇		棟持柱筋-P ₇			P ₂₁	48.50
		施設 P 1	79		81			P ₂₂	48.39
		面積16.3m ²	P ₇ -南桁筋		98				
桁行比	桁行柱比	桁行差	桁行柱差	棟持柱差					
2.03	1.01	292	4	26					

○桁行換算	計 算 値	算 出 値
桁行 A	575 ≈ 29.9cm × 19.2 = 574.1	575 ≈ 30.3cm × 19.0 = 575.7
梁行 B	283 ≈ 29.9 × 9.5 = 284.1	283 ≈ 30.3 × 9.5 = 287.9
棟持 a ₁	601 = 29.9 × 20.1 = 600.99	601 = 30.3 × 20.0 = 606.0
○棟持換算	計 算 値	算 出 値
棟持 a ₁	601 ≈ 30.0cm × 20.0 = 600.0	左に同じ
桁行 A	575 ≈ 30.0 × 19.2 = 576.0	575 ≈ 30.0 × 19.0 = 570.0
梁行 B	283 ≈ 30.0 × 9.4 = 282.0	283 = 30.0 × 9.5 = 285.0

表64 1024号A掘立柱建物跡計測表

主軸方向		欠番	桁行 A	梁行 B	桁行柱間 a ₂	梁間 b ₂	番号	標高				
東-西		P 7・8	P ₁ -P ₄	P ₁ -P ₅	P ₁ -P ₂	313			P ₁	47.50		
N-65°-E			585	313	185				P ₂	47.80		
番号	検出面標高	平均	P ₅ -P ₈	P ₄ -P ₈	P ₂ -P ₃	P ₃ -P ₄			P ₃	47.96		
			(582)	(313)	210				190	P ₄	48.20	
					梁間 b ₁	P ₂ -P ₆			P ₅ -P ₆	P ₆ -P ₇	P ₅	47.79
						313			205		(180)	P ₆
				P ₃ -P ₆	P ₆ -P ₇	P ₇ -P ₈			P ₇	欠失		
				313	(180)		(197)	P ₈	欠失			
						195	規					
						平均	模					

桁行比	桁行柱比	桁行差	桁行柱差	棟持柱差
1.87	0.62	271	-118	

規	1間×3間
主柱	8
棟持柱	0
面積	18.3m ²

桁行換算	計算値	算出値
桁行 A	584 ÷ 29.9cm × 19.5 = 583.1	584 = 29.2cm × 20.0
梁行 B	313 ÷ 29.9 × 10.5 = 314.0	313 ÷ 29.2 × 10.5 = 306.6

表65 1024号B掘立柱建物跡計測表

主軸方向		欠番	桁行 A	梁行 B	桁行柱間 a ₂	梁間 b ₂	番号	標高				
東-西		P 5~8	P ₁ -P ₄	P ₁ -P ₅	P ₁ -P ₂	313			P ₁	47.70		
N-67°-E			544	(313)	161				P ₂	47.87		
番号	検出面標高	平均	P ₅ -P ₈	P ₄ -P ₈	P ₂ -P ₃	P ₃ -P ₄			P ₃	48.18		
			(544)	(313)	189				194	P ₄	48.20	
					梁間 b ₁	P ₂ -P ₆			P ₅ -P ₆	P ₆ -P ₇	P ₅	欠失
						(316)			(181)		(181)	P ₆
				P ₃ -P ₇	P ₆ -P ₇	P ₇ -P ₈			P ₇	欠失		
				319	(181)		(182)	P ₈	欠失			
						181	規					
						平均	模					

桁行比	桁行柱比	桁行差	桁行柱差	棟持柱差
1.73	0.58	231	-132	

規	1間×3間
主柱	8
棟持柱	0
面積	17.0m ²

桁行換算	計算値	算出値
桁行 A	544 ÷ 30.1cm × 18.1 = 544.8	544 ÷ 30.2cm × 18.0 = 543.6
梁行 B	(313) ÷ 30.1 × 10.4 = 313.04	(313) = 30.2 × 10.5 = 317.1

表66 1025号掘立柱建物跡計測表

主軸方向		欠番	桁行 A	梁行 B	桁行柱間 a ₂	梁行柱間 b ₂	測点 a ₃	測点 b ₃	番号	標高
東-西 N-79°-E		P9・11・12 P21	P ₁ -P ₄ 762	P ₁ -P ₅ 646	P ₁ -P ₂ 288	P ₁ -P ₉ (230)	P ₉ -西主柱筋 (16)	北主柱筋-P ₂₁ (325)	P ₁ P ₂	48.16 47.93
番号		検出面標高	P ₅ -P ₈ 769	P ₄ -P ₈ 650	P ₂ -P ₃ 208	P ₉ -P ₁₁ (190)	西主柱筋-P ₂₁ (97)	北主柱筋-P ₂₂ 327	P ₃ P ₄	47.77 48.03
P ₁	48.53	平均	●766	●648	P ₃ -P ₄ 266	P ₁₁ -P ₅ (266)	P ₂₂ -東主柱筋 97	P ₂₁ -南主柱筋 (325)	P ₅ P ₆	47.95 48.13
P ₄	48.53		棟持柱間 a ₁	梁行 b ₁	P ₅ -P ₆ 301	P ₄ -P ₁₀ 230	東主柱筋-P ₁₀ 16	P ₂₂ -南主柱筋 323	P ₇ P ₈	48.12 48.16
P ₅	48.27		P ₂₁ -P ₂₂ ●(568)	P ₂ -P ₆ 660	P ₆ -P ₇ 197	P ₁₀ -P ₁₂ (190)			P ₉ P ₁₀	欠失 47.94
P ₈	48.25		P ₃ -P ₇ 638	P ₇ -P ₈ 271	P ₁₂ -P ₈ (230)				P ₁₁ P ₁₂	欠失 欠失
P ₂₁	欠失	規 模	3間×3間						P ₂₁	欠失
P ₂₂	48.03		主柱 8						P ₂₂	47.54
			棟持柱 2							
			面積49.6㎡		255	216	平均			

桁行比	桁行柱比	桁行差	桁行柱差	棟持柱差
1.18	1.18	118	39	-198

○桁行換算	計算値	算出値
桁行 A	766 ≒ 30.0cm × 25.5 = 765.0	766 ≒ 29.5cm × 26.0 = 767.0
梁行 B	648 = 30.0 × 21.6	648 ≒ 29.5 × 22.0 = 649.0
棟持 a ₁	(568) ≒ 30.0 × 18.9 = 567	(568) = 29.5 × 19.5 = 575.3

棟持換算	計算値	算出値
棟持 a ₁	(568) ≒ 30.1cm × 18.9 = 568.9	(568) ≒ 29.9cm × 19.0 = 568.1
桁行 A	766 ≒ 30.1 × 25.4 = 764.5	766 ≒ 29.9 × 25.5 = 762.5
梁行 B	648 ≒ 30.1 × 21.5 = 647.2	648 = 29.9 × 21.5 = 642.9

表67 1027号A掘立柱建物跡計測表

主軸方向		欠番	桁行 A	梁行 B	桁行柱間 a ₂	梁間 b ₂	番号	標高
東-西 N-86°-W		P 4	P ₁ -P ₃ 451	P ₁ -P ₄ (284)	P ₁ -P ₂ 255	284	P ₁ P ₂	48.31 48.18
番号		検出面標高	P ₄ -P ₆ (431)	P ₃ -P ₆ 284	P ₂ -P ₃ 226		P ₃ P ₄	48.32 (48.40)
P ₁	48.88	平均	●411	●284	P ₄ -P ₅ (237)		P ₅ P ₆	(48.39) 48.20
P ₃	48.88		棟持柱間 a ₁	梁間 b ₁	P ₅ -P ₆ 194			
P ₄	48.85			P ₂ -P ₅ 286				
P ₆	48.85				221	平均		
		規 模					1間×2間	
							棟持柱 0	
							面積12.5㎡	

桁行比	桁行柱比	桁行差	桁行柱差	棟持柱差
1.56	0.78	157	-63	

桁行換算	計算値	算出値
桁行 A	441 = 30.0cm × 14.7	441 = 29.4cm × 15.0
梁行 B	284 ≒ 30.0 × 9.5 = 285.0	284 ≒ 29.4 × 9.5 = 279.3

表68 1027号B掘立柱建物跡計測表

主軸方向		欠番	桁行 A	梁行 B	桁行柱間 a ₂	梁間 b ₂	番号	標高
東-西		P11・13	P ₁₁ -P ₁₃	P ₁₁ -P ₁₄	P ₁₁ -P ₁₂	(289)	P ₁₁	欠失
N-89°-W		P15・16	(437)	(289)	189		P ₁₂	48.18
番号	検出面標高		P ₁₄ -P ₁₆	P ₁₃ -P ₁₆	P ₁₂ -P ₁₃		P ₁₃	欠失
P ₁₁	48.88	平均	(437)	(289)	248		P ₁₄	48.35
P ₁₃	48.88		棟持柱間 a ₁	梁間 b ₁	P ₁₄ -P ₁₅		P ₁₅	欠失
P ₁₄	48.85			(289)	(218)		P ₁₆	欠失
P ₁₆	48.85				P ₁₅ -P ₁₆			
					(219)	平均		
					(219)			
規	1間×2間							
模	棟持柱 0							
	面積(12.6)㎡							
桁行比	桁行柱比	桁行差	桁行柱差	棟持差				
(1.51)	(0.76)	(148)	(-70)					

	掘形桁行 (桁行繩張長) A	掘形梁行 (梁行繩張幅) B	掘形桁行 (桁行繩張) 中心 a ₂
	P ₁₁ 掘形東端-P ₁₃ 掘形東端	P ₁₁ 掘形北端-P ₁₄ 掘形北端	P ₁₁ 掘形東端-P ₁₂ 掘形東端
	437	287	237
	P ₁₄ 掘形東端-P ₁₆ 掘形東端	P ₁₃ 掘形北端-P ₁₆ 掘形北端	P ₁₂ 掘形東端-P ₁₃ 掘形東端
	430	297	200
平均	●434	●292	P ₁₄ 掘形東端-P ₁₅ 掘形東端
		掘形梁間 (梁間繩張幅) b ₁	216
		P ₁₂ 掘形北端-P ₁₅ 掘形北端	P ₁₅ 掘形東端-P ₁₆ 掘形東端
		291	214
			217
			平均

○桁行換算	計算値	算出値
桁行 A	(437) ≒ 29.9cm × 14.6 = 436.6	(437) ≒ 29.1cm × 15.0 = 436.5
梁行 B	(289) ≒ 29.9 × 9.7 = 290.0	(289) ≒ 29.1 × 10.0 = 291.0
桁行繩張長 A	434 ≒ 29.9 × 14.5 = 433.6	434 ≒ 29.1 × 15.0 = 436.5
梁行繩張幅 B	292 ≒ 29.9 × 9.8 = 293.0	292 ≒ 29.1 × 10.0 = 291.0
○桁行繩張換算	計算値	算出値
桁行繩張長 A	434 ≒ 29.9cm × 14.5 = 433.6	434 ≒ 28.9cm × 15.0 = 433.5
桁行繩張幅 B	292 ≒ 29.9 × 9.8 = 293.0	292 ≒ 28.9 × 10.0 = 289.0
桁行 A	(437) ≒ 29.9 × 14.6 = 436.5	(437) ≒ 28.9 × 15.0 = 433.5
梁行 B	(289) ≒ 29.9 × 9.7 = 290.0	(289) ≒ 28.9 × 10.0

表69 2002号掘立柱建物跡計測表

主軸方向		欠番	桁行 A	梁行 B	桁行柱間 a ₂	梁間 b ₂	番号	標高
南-北		P 6	P ₁ -P ₃	P ₁ -P ₄	P ₁ -P ₂	293	P ₁	48.44
N-6°-W			403	293	215		P ₂	47.95
番号	検出面標高		P ₄ -P ₆	P ₃ -P ₆	P ₂ -P ₃		P ₃	48.19
P ₁	48.56	平均	(386)	(293)	188		P ₄	48.22
P ₃	48.14				P ₄ -P ₅		P ₅	47.95
P ₄	48.52				192		P ₆	未検出
P ₆	未検出				P ₅ -P ₆			
					194			
					平均			
					197			
規	1間×2間							
模	主柱 6							
	棟持柱 0							
	面積11.6㎡							
桁行比	桁行柱比	桁行差	桁行柱差	棟持柱差				
1.35	0.67	102	-96					

桁行換算	計算値	算出値
桁行 A	395 ≒ 29.9cm × 13.2 = 394.7	395 ≒ 30.4cm × 13 = 395.2
梁行 B	293 ≒ 29.9 × 9.8 = 293.02	293 ≒ 30.4 × 9.5 = 288.8

表70 2003号掘立柱建物跡計測表

主軸方向		欠番		桁行 A	梁行 B	桁行柱間 a ₂	梁行柱間 b ₂		
東-西		P 5		P ₁ -P ₃	P ₁ -P ₄	P ₁ -P ₂	P ₁ -P ₇		
N-80°-E				338	324	185	158		
番号		検出面標高		P ₄ -P ₆	P ₃ -P ₆	P ₂ -P ₃	P ₇ -P ₄		
P ₁	48.44	平均		●342	●319	P ₄ -P ₅	P ₃ -P ₉		
P ₃	48.53	棟持柱間 a ₁		/		P ₅ -P ₆	P ₉ -P ₆		
P ₄	48.64	規				2間×2間	柱間 a ₃	柱間 b ₃	
P ₆	48.66	模		主柱 9	P ₇ -P ₈	P ₂ -P ₈			
		棟持 0		面積10.9m ²	183	172			
					171	160	平均		
					P ₈ -P ₉	P ₈ -P ₅			
					144	194			
					164	183	平均		
桁行比		桁行柱比		桁行差	桁行柱差	棟持柱差			
1.07		0.90		23	-19	/			

番号	標高
P ₁	48.42
P ₂	48.31
P ₃	48.44
P ₄	48.56
P ₅	48.50
P ₆	48.51
P ₇	48.40
P ₈	48.41
P ₉	48.33

桁行換算	計算値	算出値
桁行 A	342=30.0cm×11.4	342≒31.1cm×11.0=342.1
梁行 B	319=30.0 ×10.6=318.0	319≒31.1 ×10.5=326.6

表71 2004号掘立柱建物跡計測表

主軸方向		欠番		桁行 A	梁行 B	桁行柱間 a ₂	梁間 b ₂		
東-西		/		P ₁ -P ₃	P ₁ -P ₄	P ₁ -P ₂	378		
N-88°-W				531	372	283			
番号		検出面標高		P ₄ -P ₆	P ₃ -P ₆	P ₂ -P ₃			
P ₁	48.47	平均		●525	●378	P ₄ -P ₅			
P ₃	48.48	棟持柱間 a ₁		柱間 b ₁		291			
P ₄	48.15	規		P ₂ -P ₅		P ₅ -P ₆			
P ₆	48.35	模		407		227			
		1間×2間				263	平均		
		主柱 6							
		棟持柱 0							
		面積19.8m ²							
桁行比		桁行比		桁行差	桁行柱差	棟持柱差			
1.39		0.70		147	-115	/			

番号	標高
P ₁	48.39
P ₂	48.25
P ₃	48.25
P ₄	48.09
P ₅	47.09
P ₆	48.06

桁行換算	計算値	算出値
桁行 A	525=30.0cm×17.5	525≒29.2cm×18.0=525.6
梁行 B	378=30.0 ×12.6	378≒29.2 ×13.0=379.6

表72 2005号掘立柱建物跡計測表

主軸方向 南-北 N-12°-W		欠番 P 1		桁行 A P ₁ -P ₂ (222)	梁行 B P ₁ -P ₃ (292)	桁行柱間 a ₂ 222	梁間 b ₂ 275	遺構番号 住11→? 溝4→	番号 P ₁ P ₂ P ₃ P ₄ P ₂₁ P ₂₂	標高 未検出 48.01 48.18 48.20 48.02 48.26
		平均		●222	●275	柱間 b ₂ P ₁ -P ₂₁ (140)	柱間 b' ₂ P ₁ -P ₂₁ ' 115			
番号 検出面標高		棟持柱間 a ₁ P ₂₁ -P ₂₂ ●301		規 1間×1間 棟持柱 2 模 面積 6.1m ²		P ₂₁ -P ₃ 152		2号溝規模 外径 (7.42+7.68)½=●7.55m 内径 (5.39+5.37)½=●5.38m 外形 πr ² =π×(3.78) ² =44.9m ² 内形 πr ² =π×(2.69) ² =22.7m ²		
P ₁	未検出					P ₂ -P ₂₂ 119				
P ₂	48.55					P ₂₂ -P ₃ 138				
P ₃	48.62					平均 137				
P ₄	48.56									
P ₂₁	48.10									
P ₂₂	48.41									
桁行比		桁行柱比		桁行差		棟持柱差				
0.81		0.81		-53		79				
2号溝		西外壁-西内壁	西内壁-東内壁	東内壁-東外壁	北外壁-北内壁	北内壁-南内壁	南内壁-南外壁			
		105 (深29)	539	98 (深31)	102 (深39)	537	129 (深48)			
桁行換算		計算値			算出値					
桁行 A		222≒30.0cm×7.4			222≒31.7cm×7.0=221.9					
梁行 B		275≒30.0×9.2=276.0			275≒31.7×8.5=269.5					
棟持 a ₁		301≒30.0×10.0=300.0			301≒31.7×9.5=301.2					
外径		755≒30.0×25.2=756.0			755≒31.7×24.0=760.8					
内径		538≒30.0×17.9=537.0			538≒31.7×17.0=538.9					
○棟持換算		計算値			算出値					
棟持 a ₁		301≒30.0cm×10.0=300.0			301=30.1cm×10					
桁行 A		222=30.0×7.4			222≒30.1×7.5=225.8					
梁行 B		275≒30.0×9.2=276.0			275≒30.1×9.0=270.9					
外径		755≒30.0×25.2=756.0			※755=30.1×25.0=752.5			※復原外径		
内径		538≒30.0×17.9=537.0			538=30.1×18.0=541.8			30.1×27.0=812.7		

表73 2006号掘立柱建物跡計測表

主軸方向 南-北 N-14°-W		欠番 P22		桁行 A P ₁ -P ₂ 292	梁行 B P ₁ -P ₃ 235	桁行柱間 a ₂ 289	梁間 b ₂ 233	遺構番号 住11→?	番号 P ₁ P ₂ P ₃ P ₄ P ₂₁ P ₂₂	標高 48.03 48.26 48.04 48.29 48.0 未検出 48.09 未検出
		平均		●289	●233	柱間 b ₂ P ₁ -P ₂₁ 122	柱間 b' ₂ P ₁ -P ₂₁ ' 115			
番号 検出面標高		棟持柱間 a ₁ P ₂₁ -P ₂₂ ●(405)		規 1間×1間 棟持柱 2 模 面積 6.7m ²		P ₂₁ -P ₃ 113		2号溝規模 外径 {(東-西) 6.65+(北-南) 8.15}½=●7.40m 内径 {(東-西) 6.01+(北-南) 6.16}½=●6.09m 外形 πr ² =π×(3.70) ² =43.0m ² 内形 πr ² =π×(3.05) ² =29.2m ²		
P ₁	48.55					P ₂₁ '-P ₃ 120				
P ₂	48.32					P ₂ -P ₂₂ (115)				
P ₃	48.16					P ₂₂ '-P ₄ (115)				
P ₄	48.45					平均 116				
P ₂₁	48.51									
P ₂₂	未検出									
桁行比		桁行柱比		桁行差		棟持柱差				
1.24		1.24		56		116				
4号溝		西端まで	溝2西外壁まで	溝2西内壁まで	溝2東内壁まで	溝2東外壁まで	溝4東内壁まで			
		() 1444	1284	1194	665	542	127	0		
○桁行換算		計算値			算出値					
桁行 A		289≒30.1cm×9.6=288.96			289=28.9cm×10.0					
梁行 B		233≒30.1×7.7=231.8			233≒28.9×8.0=231.2					
棟持 a ₁		(405)≒30.1×13.5=406.4			(405)≒28.9×14.0=404.6					
外径		740≒30.1×24.6=740.5			※740≒28.9×25.5=737.0					
内径		609≒30.1×20.2=608.0			609≒28.9×21.0=606.9					
○棟持換算		計算値			算出値					
棟持 a ₁		(405)=30.0cm×13.5			(405)≒28.9cm×14.0=404.6					
桁行 A		289=30.0×9.6=288.0			289=28.9×10.0					
梁行 B		233≒30.0×7.8=234.0			233≒28.9×8.0=231.2					
外径		740≒30.0×24.7=741.0			※740≒28.9×25.5=737.0			※復原外径		
内径		609≒30.0×20.3			609=28.9×21.0=606.9			28.9×27.0=751.4		

表74 2007号掘立柱建物跡計測表

主軸方向		欠番		桁行 A	梁行 B	桁行柱間 a ₂	梁間 b ₂
南-北 N-19°-W		平均		P ₁ -P ₃ 555	P ₁ -P ₄ 389	P ₁ -P ₂ 272	380
				P ₄ -P ₆ 580	P ₃ -P ₆ 371	P ₂ -P ₃ 283	柱間 b ₂ P ₁ -P ₂₁ 209
番号	検出面標高			棟持柱間 a ₁	柱間 b ₁	P ₄ -P ₅ 277	P ₂₁ -P ₄ 180
P ₁	48.34			P ₂₁ -P ₂₂ ●657	P ₂ -P ₅ 405	P ₅ -P ₆ 303	P ₃ -P ₂₂ 175
P ₂	48.55			平均		284	196
P ₄	48.16					P ₂₂ -P ₆ 196	
P ₆	48.48					平均	
P ₂₁	48.54					190	
P ₂₂	48.39						
桁行比	桁行柱比	桁行差	桁行柱差	棟持柱差			
1.50	0.75	188	-96	89			

遺構番号	番号	標高
溝4 ←	P ₁	48.23
〃 ←	P ₂	48.04
〃 ←	P ₃	48.43
住11 → ?	P ₄	47.98
	P ₅	48.01
溝4 ? ←	P ₆	48.11
	P ₂₁	48.10
住137 ←	P ₂₂	48.13
新・古関係 (古→新)		

桁行換算	計算値	算出値
桁行 A	568 ≒ 30.1cm × 18.9 = 568.9	568 = 29.9cm × 19.0 = 568.1
梁行 B	380 ≒ 30.1 × 12.6 = 379.3	380 = 29.9 × 12.5 = 373.8
棟持 a ₁	657 ≒ 30.1 × 21.8 = 656.2	657 = 29.9 × 22.0 = 657.8

棟持換算	計算値	算出値
棟持 a ₁	657 = 30.0cm × 21.9	657 = 29.9cm × 22.0 = 657.8
桁行 A	568 ≒ 30.0 × 18.9 = 567.0	568 = 29.9 × 19.0 = 568.1
梁行 B	380 ≒ 30.0 × 12.7 = 381.0	380 = 29.9 × 12.5 = 373.8

規模	1間×1間
	棟持柱 2
	面積 21.6㎡

表75 2008号掘立柱建物跡計測表

主軸方向		欠番		桁行 A	梁行 B	桁行柱間 a ₂	梁行柱間 b ₂	柱間 a ₃
東-西 N-81°-E		P 3・4 P 6~8		P ₁ -P ₄ 625	P ₁ -P ₅ 579	P ₁ -P ₂ 232	P ₁ -P ₂₁ 280	P ₂₁ -西柱筋 30
		平均		P ₃ -P ₈ 638	P ₂ -P ₆ 591	P ₂ -P ₃ (180)	P ₂₁ -P ₅ 299	西柱筋-P23 324
番号	検出面標高			棟持柱間 a ₁	P ₃ -P ₇ (579)	P ₃ -P ₄ (213)	北柱筋-P23 277	P23-東柱筋 314
P ₁	48.83			P ₂₁ -P ₂₂ ●700	P ₄ -P ₈ (579)	P ₄ -P ₅ (213)	P23-南柱筋 302	東柱筋-P22 32
P ₄	未確認			平均		●582	P ₄ -P ₂₂ 282	
P ₅	48.41					P ₅ -P ₆ (213)		
P ₈	未検出					P ₆ -P ₇ (212)		
P ₂₁	48.52					P ₂₂ -P ₈ 297		
P ₂₂	48.58					平均		
P ₂₃	48.24							
桁行比	桁行柱比	桁行差	桁行柱差	棟持柱比	棟持柱差			
1.09	0.73	50	-79	1.11	68	211	290	平均

番号	標高
P ₁	48.71
P ₂	48.12
P ₃	未検出
P ₄	未確認
P ₅	48.28
P ₆	欠失
P ₇	欠失
P ₈	未検出
P ₂₁	48.12
P ₂₂	48.12
P ₂₃	48.13

桁行換算	計算値	算出値
桁行 A	632 ≒ 30.0cm × 21.1 = 633.0	632 = 30.1cm × 21.0 = 632.1
梁行 B	582 = 30.0 × 19.4	582 = 30.1 × 19.5 = 587.0
棟持 a ₁	700 ≒ 30.0 × 23.3 = 699.0	700 = 30.1 × 23.5 = 707.4

棟持換算	計算値	算出値
棟持 a ₁	700 = 30.0cm × 23.3 = 699.0	700 = 30.4cm × 23.0 = 699.2
桁行 A	632 ≒ 30.0 × 21.0 = 630.0	632 = 30.4 × 21.0 = 638.4
梁行 B	582 = 30.0 × 19.4	582 = 30.4 × 19.0 = 577.6

規模	2間×3間
	棟持柱 3
	面積 36.8㎡

表78 2011号掘立柱建物跡計測表

主軸方向	欠番	桁行 A	梁行 B	桁行柱間 a ₂	梁行柱間 b ₂	柱間	柱間	番号	標高	
東-西 N-77°-E	P ₃₋₅ ・9~11 P ₁₁₃₋₁₁₇ ・122・124 P ₁₂₆ ・128・130	P ₁ -P ₅ (636)	P ₁ -P ₆ (668)	P ₁ -P ₂ 160	P ₁ -P ₁₁ (203)	P ₁₁₁ -P ₁₁₂ 187	P ₁₁₁ -P ₁₂₃ 184	P ₁	48.20	
		P ₁₁ -P ₁₂ (636)	P ₂ -P ₇ 651	P ₂ -P ₃ (158)	P ₁₁ -P ₁₃ (202)	P ₁₁₂ -P ₁₁₃ (165)	P ₁₂₃ -P ₁₂₅ 179	P ₂ P ₆ P ₇	48.31 48.26 48.21	
番号	検出面標高	P ₁₃ -P ₁₄ (636)	P ₃ -P ₇ (668)	P ₃ -P ₄ (159)	P ₁₃ -P ₆ 263	P ₁₁₃ -P ₁₁₄ (165)	P ₁₂₅ -P ₁₂₇ 202	P ₈	48.31	
		P ₆ -P ₁₀ (636)	P ₃ -P ₈ (668)	P ₄ -P ₅ (159)	P ₅ -P ₁₂ 228	P ₁₁₄ -P ₁₁₅ (165)	P ₁₂₇ -P ₁₁₇ 96	P ₁₁ P ₁₂ P ₁₃	48.29 48.42 48.16	
		平均 ● (636)	P ₄ -P ₉ (668)	P ₆ -P ₇ 137	P ₁₂ -P ₁₄ (217)	P ₁₁₅ -P ₁₁₆ (165)	P ₁₁₆ -P ₁₂₄ 190	P ₁₄ P ₂₁	48.49 48.05	
		平均 ● 665	平均	P ₇ -P ₈ 187	P ₁₄ -P ₁₀ 223	P ₁₁₇ -P ₁₁₈ 156	P ₁₂₄ -P ₁₂₆ 189	P ₂₂	48.11	
		柱間 A'	柱間 B'	P ₁₁₁ -P ₁₁₆ (847)	P ₁₁₁ -P ₁₁₇ (848)	P ₈ -P ₉ (153)	平均	P ₁₂₆ -P ₁₂₈ 189	P ₁₁₁ P ₁₁₂ P ₁₁₈	48.82 48.52 48.10
P ₂₁ P ₂₂ P ₁₁₁ P ₁₁₆ P ₁₁₇ P ₁₂₂	48.86 未確認 48.37 未検出 48.21 48.28 48.21 48.80 未確認 未検出 未確認	P ₁₁₇ -P ₁₂₂ (876)	P ₁₁₅ -P ₁₂₂ (848)	P ₉ -P ₁₀ (159)	北身舎柱筋-P ₂₁ 302	P ₁₁₈ -P ₁₁₉ 214	P ₁₂₈ -P ₁₃₀ 190	P ₁₁₉ P ₁₂₀	48.44 48.50	
		平均 (862)	平均	159	北身舎柱筋-P ₂₂ 165	P ₁₁₉ -P ₁₂₀ 165	P ₁₃₀ -P ₁₂₂ 90	P ₁₂₁ P ₁₂₃	48.44 48.51	
		棟持柱間 a ₁ P ₂₁ -P ₂₂ ● 259	柱間	317	西身舎柱筋-P ₂₁ 165	南身舎柱筋-P ₂₁ 366	P ₁₂₀ -P ₁₂₁ 187	平均	P ₁₂₅ P ₁₂₇ P ₁₂₉	48.31 48.26
			P ₂₂ -東身舎柱筋 212	P ₂₂ -南身舎柱筋 351	172	平均				
			桁行比 0.96	桁行柱比 0.71	桁行差 -29	桁行柱比 -64	棟持柱比 0.41	棟持柱差 -377		

桁行換算	計算値	算出値
桁行 A	(636) ÷ 30.0cm × 21.2 = 636.3	(636) ÷ 30.3cm × 21.0 = 636.3
梁行 B	665 ÷ 30.0 × 22.2 = 666.0	665 ÷ 30.3 × 22.0 = 666.6
棟持 a ₁	259 ÷ 30.0 × 8.6 = 258.0	259 ÷ 30.3 × 8.5 = 257.6

棟持換算	計算値	算出値
棟持 a ₁	259 ÷ 30.1cm × 8.6 = 258.9	259 ÷ 28.8cm × 9.0 = 259.2
梁行 A	(636) ÷ 30.1 × 21.2 = 638.1	(636) ÷ 28.8 × 22.0 = 633.6
梁行 B	665 ÷ 30.1 × 22.1 = 665.2	665 ÷ 28.8 × 23.0 = 662.4

規 模	3間×4間
	棟持柱 2
	身舎面積42.3㎡ 側柱内面積73.1㎡

表79 2012号掘立柱建物跡 (案) 計測表

主軸方向	欠番	桁行 A	梁行 B	桁行柱間 a ₂	梁間 b ₂	測点 a ₃	遺構番号	番号	標高
南-北 S-25°-E	P ₅	P ₁ -P ₅ (596)	P ₁ -P ₅ 330	P ₁ -P ₂ 145	330	北柱筋-P ₂₁ 49	住4 →	P ₁	47.96
		P ₆ -P ₁₀ 596	P ₅ -P ₁₀ (330)	P ₂ -P ₃ 175	測点 b ₂ (225)	P ₂₁ -P ₈₁ 225	住4 →	P ₂	48.36
番号	検出面標高	平均 ● 596	平均 ● 330	P ₃ -P ₄ 158	東柱筋-P ₂₁ 158	P ₈₁ -P ₂₂ 265	住4 →	P ₃	48.08
		棟持柱間 a ₁ ● 490	梁間 b ₁ 162	東柱筋-P ₂₂ 155	P ₂₁ -西柱筋 172	P ₂₂ -南柱筋 57	溝2 ? ←	P ₄	48.23
		P ₁₂ -P ₂₂ ● 490	P ₂ -P ₇ 300	P ₄ -P ₅ (114)	175	測点 b ₃ 175	溝3 ←	P ₅	未検出
		平均	298	P ₃ -P ₈ 301	P ₅ -P ₇ 135	P ₂₂ -西柱筋 175	溝4 ? →	P ₆	48.31
				P ₄ -P ₉ 294	P ₇ -P ₈ 178	測点 b ₃ 175	住4 ? →	P ₇	48.33
P ₂₁ P ₂₂	48.63 48.31		P ₈ -P ₉ 143	東柱筋-P ₈₁ 147	住4 ? →	P ₈	48.17		
			P ₉ -P ₁₀ 140	P ₈₁ -西柱筋 183	住4 ? →	P ₉	48.04		
			平均 149	平均	住4 ? →	P ₁₀	48.52		
					住4 ? →	P ₂₁	48.24		
					住4 ? →	P ₂₂	48.20		
					住4 ? →	P ₈₁	48.29		
新・古関係 (古→新)									

桁行換算	計算値	算出値
桁行 A	596 ÷ 29.9cm × 19.9 = 595.0	596 ÷ 29.8cm × 20.0 = 596.7
梁行 B	330 ÷ 29.9 × 11.0 = 328.9	330 ÷ 29.8 × 11.0 = 327.8
棟持 a ₁	490 ÷ 29.9 × 16.5 = 493.4	490 ÷ 29.8 × 16.5 = 491.7

棟持換算	計算値	算出値
棟持 a ₁	490 ÷ 30.1cm × 16.3 = 490.6	490 ÷ 30.6cm × 16.0 = 489.6
梁行 A	596 ÷ 30.1 × 19.8 = 595.98	596 ÷ 30.6 × 19.5 = 596.7
梁行 B	330 ÷ 30.1 × 11.0 = 331.1	330 ÷ 30.6 × 11.0 = 336.6

規 模	1間×3間
	棟持柱 2
	床束 1 面積19.7㎡

表80 玉 類 計 測 表

(単位: mm・mg)

遺構名	番号	径	孔径	厚さ	重量	色調	材質
144号竪穴住居跡	1	5.0~6.0	1.5	1.0~3.0	100	スカイブルー	ガラス
"	2	5.0	1.5	5.5	200	"	"
"	3	5.5~6.0	1.5	4.0	150	"	"
"	4	4.0~5.0	1.5	3.0~3.5	100	"	"
"	5	4.0~5.0	1.5~2.0	3.5~4.0	50	"	"
"	6	4.0~4.5	1.0~1.5	3.5	100	"	"
"	7	4.5	2.0	2.5	50	"	"
"	8	4.0	1.0~1.5	2.5~3.0	75	"	"
"	9	4.0	2.0	3.5	100	"	"
"	10	4.0	1.5	3.0	100	"	"
"	11	4.0~4.5	2.0	3.5	75	"	"
"	12	3.5~4.0	1.5	3.0	75	"	"
"	13	4.0	1.5	2.0	150	"	"
"	14	4.0	1.5	3.0	75	"	"
"	15	4.0	1.5	3.0	75	"	"
"	16	3.5~4.0	1.5	2.5~4.0	75	"	"
"	17	4.0	1.5	3.0	75	"	"
"	18	4.0	2.0	2.5~3.5	75	"	"
"	19	3.5	1.5~2.0	3.0	75	"	"
"	20	3.5~4.0	1.0	2.0~2.5	100	"	"
"	21	4.0	2.0	2.0	50	"	"
"	22	4.0	1.5	2.5	75	"	"
"	23	3.5~4.0	1.5	3.0~3.5	75	"	"
"	24	4.0	1.5	1.5~2.0	50	"	"
"	25	4.0	2.0	1.5~2.0	50	"	"
"	26	3.5	1.5	3.5	75	"	"
"	27	3.0	1.5	4.5	75	"	"
"	28	3.5	1.5	3.0~3.5	75	"	"
"	29	3.5	1.0	3.0~3.5	100	"	"
"	30	3.5	1.5	1.5~2.5	75	"	"
"	31	4.0	1.5	3.0~3.5	100	"	"
"	32	4.0	1.5	2.5	75	"	"
"	33	3.5~4.0	1.0	2.5~3.5	75	"	"
"	34	4.0	1.5	2.5~3.0	75	"	"
"	35	3.5~4.0	1.0~1.5	3.0	100	"	"
"	36	4.0	1.5	3.0	75	"	"
"	37	3.5	1.0	3.0	50	"	"
"	38	4.0	2.0	1.5	25	"	"
"	39	3.5~4.0	1.5~2.0	2.0	25	"	"
"	40	3.0~4.0	1.5	3.0	50	"	"
"	41	3.5	2.0	2.0~2.5	25	"	"
"	42	3.5~4.0	1.0	2.0	25	"	"
"	43	3.5	1.0	2.0	50	"	"
"	44	3.5	1.0	2.0	25	"	"
"	45	3.0~3.5	1.25	2.5~3.0	50	"	"
"	46	3.0~3.5	1.25	3.0	25	"	"

表81 玉 類 計 測 表

(単位: mm・mg)

遺構名	番号	径	孔径	厚さ	重量	色調	材質
144号竪穴住居跡	47	3.0	1.25	3.0	25	スカイブルー	ガラス
"	48	3.0	1.25	3.0~4.0	25	"	"
"	49	3.0	1.5	2.5	25	"	"
"	50	3.0	1.25	3.0	50	"	"
"	51	3.0	1.25	1.5~2.0	25	"	"
"	52	3.0	1.25	2.5	50	"	"
"	53	3.0	1.25	2.0~2.5	50	"	"
"	54	3.0	1.25	3.0	50	"	"
"	55	3.0	1.5	2.0	25	"	"
"	56	3.0	1.0	2.0~3.0	50	"	"
"	57	3.0~3.5	2.0	1.0~1.5	25	"	"
"	58	3.0	1.0	1.0	25	"	"
"	59	3.0	1.5	1.5	25	"	"
"	60	3.0	1.5	1.0~1.5	25	"	"
"	61	3.0	1.5	1.0	25	"	"
"	62	2.5~3.0	1.5	1.5	25	"	"
"	63	2.5~3.0	1.5	1.5	25	"	"
"	64	3.0	1.0	1.5	25	"	"
"	65	2.5	1.0	1.5	25	"	"
"	66	2.5	1.25	1.5	25	"	"
"	67	2.5	1.0	2.0	25	"	"
"	68	2.5	1.0	1.5	20	"	"
"	69	2.5	1.25	1.5	20	"	"
"	70	2.5	1.0	1.5	20	"	"
"	71	2.5	1.0	1.5	20	"	"
"	72	2.0	1.0	1.0	10	"	"
"	73	2.0	1.0	1.0	10	"	"
"	74	3.5	1.0~1.5	1.0~3.0	50	コバルトブルー	"
"	75	3.0	1.5	1.5	25	"	"
"	76	3.0	1.5	1.5~2.0	25	"	"
"	77	3.0	1.25	3.0	50	"	"
"	78	3.0	1.0	2.0	50	"	"
"	79	3.0	1.0	3.0	50	"	"
"	80	2.5	1.0	3.0	25	"	"
"	81	2.5	1.0	2.5~3.0	25	"	"
"	82	2.0	1.0	3.0	25	"	"
"	83	5.0~6.0	2.0	3.5~4.0	100	エメラルドグリーン	"
"	84	5.0	1.5	4.0	100	"	"
"	85	4.0~4.5	2.0	3.0	50	"	"
"	86	4.5	1.5	3.0	75	"	"
"	87	4.5	1.5	3.0	50	"	"
"	88	3.5~4.0	2.0	3.0	50	"	"
"	89	3.5	1.5	4.0	75	"	"
"	90	4.0	1.0	2.0~3.0	50	"	"
"	91	4.0	2.0	3.5	50	"	"
"	92	3.5~4.0	1.0	3.0	50	"	"

表82 玉 類 計 測 表

(単位: mm・mg)

遺構名	番号	径	孔径	厚さ	重量	色調	材質
144号竪穴住居	93	3.5	1.0	1.5~2.5	25	紺	ガラス
"	94	3.0~4.0	2.0	2.5	50	"	"
"	95	2.0	0.5	1.5~2.0	25	"	"
"	96	5.0	2.0	3.0	100	"	"
"	97	4.0	1.5	3.0	75	"	"
"	98	4.0~4.5	1.5	2.5~3.0	75	"	"
"	99	3.5	1.5	2.5	50	"	"
"	100	3.5	1.5	2.5	50	"	"
"	101	2.5	1.0	1.5	25	"	"
"	102	2.5	1.0	2.0	25	"	"
"	103	2.0	1.0	1.5	計測不可	"	"
"	104	6.0	2.0~2.5	3.0	150	ブルー	"
"	105	4.5~5.0	2.0	2.0~2.5	100	"	"
"	106	4.5~5.0	2.0	2.0~2.5	100	"	"
"	107	4.5	2.0	2.0	50	"	"
"	108	4.5	1.5	2.0~3.0	75	"	"
"	109	4.0~5.0	1.0~2.0	3.5	100	"	"
"	110	4.0	2.0	2.0~2.5	75	"	"
"	111	4.0~5.0	2.0~2.5	1.5	25	"	"
"	112	4.5	1.5	2.0	75	"	"
"	113	4.0	1.5~2.0	2.0	50	"	"
"	114	4.0	1.5	1.5	50	"	"
"	115	4.0	2.0	2.0	50	"	"
"	116	4.0	1.5	2.0	25	"	"
"	117	4.0	1.5	2.0	25	"	"
"	118	3.0~4.0	2.0	2.0	25	"	"
"	119	3.5	1.5	2.0	25	"	"
"	120	3.5	1.5	1.5	50	"	"
"	121	4.0	2.0	2.0	50	"	"
"	122	3.0~4.0	1.5	2.0	50	"	"
"	123	3.5	1.5	2.0	50	"	"
"	124	3.0~3.5	1.5	2.5	50	"	"
"	125	3.0~3.5	2.0	1.5	25	"	"
"	126	3.5	1.0	2.0	25	"	"
"	127	3.5	1.5	2.0	25	"	"
"	128	3.0	1.5	2.0	25	"	"
"	129	3.5	2.0	1.5	10	"	"
"	130	3.5	1.0	2.5	50	"	"
"	131	3.5	1.0	1.5~2.0	25	"	"
"	132	3.5	1.5	1.5	25	"	"
"	133	3.0	1.0	2.5	50	"	"
"	134	3.0	1.5	2.5~3.0	50	"	"
"	135	3.0~3.5	1.0	2.0	25	"	"
"	136	3.0	1.0	2.0	25	"	"
"	137	3.0~3.5	1.5	1.5	25	"	"
"	138	3.0	1.0	2.0	50	"	"

表83 玉 類 計 測 表

(単位: mm・mg)

遺構名	番号	径	孔径	厚さ	重量	色調	材質
144号竪穴住居跡	139	3.0	1.0	2.5	50	ブルー	ガラス
"	140	3.0	1.0	2.5	50	"	"
"	141	3.0	1.5	1.5~2.0	50	"	"
"	142	2.5~3.0	1.5	2.0	25	"	"
"	143	3.0	1.5	2.0	25	"	"
"	144	3.0	1.5	1.5	25	"	"
"	145	3.0~3.5	1.0	1.5	25	"	"
"	146	3.0~3.5	1.0	2.5	50	"	"
"	147	3.5	1.0	2.0	25	"	"
"	148	3.0~3.5	1.5~2.0	1.5	25	"	"
"	149	3.0	1.5	1.5	25	"	"
"	150	3.0	1.5	1.5	25	"	"
"	151	3.0	1.5	1.5	25	"	"
"	152	3.0~3.5	1.5	1.5	25	"	"
"	153	3.0	1.0	1.5	25	"	"
"	154	3.0	1.0	1.5	25	"	"
"	155	3.0	1.5	2.0	25	"	"
"	156	3.0	1.0	2.0	25	"	"
"	157	3.0	1.5	1.0	25	"	"
"	158	2.5~3.0	1.5	1.5~2.0	25	"	"
"	159	3.0	1.5	1.5	25	"	"
"	160	3.0	1.0	1.5	25	"	"
"	161	3.0	1.0	2.0	25	"	"
"	162	3.0	1.5	1.5	25	"	"
"	163	3.0	1.0	2.0	25	"	"
"	164	3.0	1.0	1.5	計測不可	"	"
"	165	3.0	1.5	1.0	計測不可	"	"
"	166	2.5~3.0	1.0	1.5	計測不可	"	"
"	167	2.5~3.0	0.75	1.5	計測不可	"	"
"	168	3.0	1.5	1.0~1.5	計測不可	"	"
"	169	2.5	1.0	2.0~2.5	計測不可	"	"
"	170	2.5~3.0	1.0	1.5	計測不可	"	"
"	171	2.5	1.0	2.0	計測不可	"	"
"	172	2.5	1.0~1.5	1.0	計測不可	"	"
"	173	2.5	1.0	2.0~2.5	計測不可	"	"
"	174	2.5	1.0	1.5	計測不可	"	"
"	175	2.5	1.0	1.25	計測不可	"	"
"	176	2.5	1.0	1.25	計測不可	"	"
"	177	2.5	1.0	1.25	計測不可	"	"
"	178	2.5	1.0	1.25	計測不可	"	"
"	179	2.5	1.0	1.25	計測不可	"	"
"	180	2.5	1.0	1.25	計測不可	"	"
"	181	2.5	1.0	1.25	計測不可	"	"
"	182	2.5	1.0	1.25	計測不可	"	"
"	183	2.5	1.0	1.25	計測不可	"	"
"	184	2.5	1.0	1.25	計測不可	"	"

表84 玉類計測表

(単位: mm・mg)

遺構名	番号	径	孔径	厚さ	重量	色調	材質
144号竪穴住居跡	185	2.5	1.0	1.25	計測不可	ブルー	ガラス
〃	186	2.5	1.0	1.25	計測不可	〃	〃
〃	187	2.5	1.0	1.25	計測不可	〃	〃
〃	188	2.0~2.5	1.0	1.0	計測不可	〃	〃
〃	189	2.0	0.5	1.0	計測不可	〃	〃
〃	190	2.0	0.5	1.0	計測不可	濃紺	〃
〃	191	2.0	0.5	1.0	計測不可	ブルー	〃
〃	192	2.0	0.5	1.0	計測不可	ブルー	〃
〃	193	2.0	0.5	1.0	計測不可	〃	〃
〃	194	2.0	0.5	1.5	計測不可	〃	〃
〃	195	2.0	0.5	1.0	計測不可	スカイブルー	〃
〃 (土坑1)	196	3.5~4.5	2.0	2.5	50	紺	〃
〃	197	2.5	1.0	10.0	75	ブルー	〃
〃	198	2.5~3.0	1.0~1.5	8.0	100	赤	〃
P838	199	7.0	2.5	5.0	400	スカイブルー	〃
46号竪穴住居跡	200	6.5	2.5	7.0	550	スカイブルー	〃
38号竪穴住居跡	201	6.5	2.0	5.0	250	スカイブルー	〃
62号竪穴住居跡	202	6.0	1.5	3.0	150	紺	〃
84号竪穴住居跡(床面)	203	4.0~5.0	2.0	5.0	200	スカイブルー	〃
5号竪穴住居跡	204	4.5	1.5	3.5	100	スカイブルー	〃
137号竪穴住居跡	205	4.5	1.5	3.0	75	スカイブルー	〃
1024号竪穴住居跡床上	206	4.5	2.0	2.0	50	コバルトブルー	〃
1024号竪穴住居跡埋土	207	4.0	1.5	3.0	50	エメラルドグリーン	〃
包含層杭18付近	208	4.0~4.5	1.5	2.5	75	スカイブルー	〃
10号竪穴住居跡	209	4.0	1.5	2.5	75	コバルトブルー	〃
P1080	210	3.5	1.0	1.5~2.0	25	スカイブルー	〃
139号竪穴住居跡床面	211	3.0	1.0	2.0	25	紺	〃
139号竪穴住居跡床面	212	2.0~3.0	1.0	2.0	25	スカイブルー	〃
141号竪穴住居跡	213	3.0	1.0	2.0	25	スカイブルー	〃
1039号竪穴住居跡	214	3.0	1.0	2.0	75	〃 (淡色)	〃
溝4	215	3.0	1.5	2.0	50	紺	〃
36号竪穴住居跡	216	2.5	1.0	3.0	50	スカイブルー	〃
44号竪穴住居跡	217	1.5	0.5	0.75	計測不可	エメラルドグリーン	〃
106号竪穴住居跡	218	6.5~7.0	2.5	10.0	1250	スカイブルー	〃
1045号竪穴住居跡	219	2.0	1.0	6.0	25	赤	〃
88号竪穴住居跡	220				1350	スカイブルー	〃
1046号竪穴住居跡	221				2250	エメラルドグリーン	〃
84号竪穴住居跡	222				3700	スカイブルー	蛇紋岩

報告書抄録

ふりがな	いらいじゃくいせき							
書名	以来尺遺跡							
副書名	福岡県筑紫野市大字筑紫所在遺跡の調査							
巻次	I							
シリーズ名	一般国道3号 筑紫野バイパス関係埋蔵文化財調査報告							
シリーズ番号	第4集							
編著者名	[編集] 秦 憲二 [執筆] 馬田弘稔・水ノ江和同・齋部麻矢・秦 憲二・杉原敏之							
編集機関	福岡県教育委員会							
所在地	〒812-77 福岡県福岡市博多区東公園7番7号 TEL (092) 651-1111							
発行年月日	西暦1997年3月31日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 〃〃	東経 〃〃	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
		市町村	遺跡番号					
いらいじゃく 以来尺	ふくおかけんちくしのし 福岡県筑紫野市 おおあざちくしあざいらい 大字筑紫字以来 じゃく 尺 927・929・932他	402176	170142	33°27'25"	130°32'55"	19930506) 19960120	12,250	道路（一般 国道3号筑 紫野バイパ ス）建設に 伴う 事前調査
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
以来尺	集落	旧石器 縄紋 弥生 古墳 中世 近世	縦穴住居跡 掘立柱建物跡 土坑 溝 横穴式石室 縦穴住居跡 溝 掘立柱建物跡 溝		ナイフ形石器 台形石器 角錐状石器 石器・晚期土器 弥生土器 石器・鉄器 土製品 玉類 須恵器 土師器 石器・鉄器 玉類 陶磁器・土師器 石器・鉄器 陶磁器		大型掘立柱建物跡 通路状遺構 青銅製鋤先	
	山城							

福岡県行政資料

分類番号	JH	所属コード	213305
登録年度	8	登録番号	14

一般国道
3号 筑紫野バイパス関係埋蔵文化財調査報告 第4集

いらいじゃくいせき
以来尺遺跡 I

中巻

福岡県筑紫野市大字筑紫所在遺跡の調査

平成9年3月31日

発行 福岡県教育委員会
〒812 福岡市博多区東公園7番7号

印刷 株式会社昭和堂印刷
〒812 福岡市博多区榎田2-2-52 徳重ビル